

平成30年度入学生

# 授業計画書

- SYLLABUS -

【保育教育学科】



# 目 次

学修の心得	1
履修ガイド (保育教育学科の教育内容)	8
実習ガイド	25

## 学部共通基礎科目

哲学	37
心理学	37
音楽	38
文学	38
読書と豊かな人間性	39
市民社会と図書館	40
社会学	40
現代経済学	41
生涯学習概論	41
日本国憲法	42
人間と自然	42
脳科学と心	43
生物と栄養	43
環境の科学	44
しまね地域共生学入門	45
しまね文化論	46
しまねボランティア研修	47
健康スポーツ概論	47
健康スポーツⅠ	48
健康スポーツⅡ	48
健康スポーツⅢ	49
基礎中国語	49
中国語	50
基礎韓国語	50
韓国語	51
基礎タイ語	51
タイ語	52
基礎インドネシア語	52
インドネシア語	53

## 学科基礎科目

スタートアップセミナー	55
表現とコミュニケーション	55
キャリア・プランニング	56
保育教育職インターンシップ	56
英語Ⅰ	57
英語Ⅱ	57
アメリカ語学研修計画	58
アメリカ語学研修	58
情報機器の操作Ⅰ	59
情報機器の操作Ⅱ	59
情報機器の操作Ⅲ	60

## 専門基幹科目

表現研究（児童文化）Ⅰ	63
表現研究（児童文化）Ⅱ	64
言葉研究（読み聞かせ実践）	65
保育教育文献購読	66
心理・教育統計調査法Ⅰ	66
心理・教育統計調査法Ⅱ	67
卒業研究基礎演習	67
卒業研究	68
教職論（小・幼）	68
教育原理（小・幼）	69
発達心理学Ⅰ	70
発達心理学Ⅱ	71
教育心理学（小・幼）	72
障害児発達教育論	72
インクルーシブ教育論	73
教育制度論（小・幼）	74
保育原理	75
児童家庭福祉	75
社会福祉概論	76
社会的養護	76
教育課程論（小・幼）	77
保育内容 健康	77
保育内容 人間関係	78
保育内容 環境	79
保育内容 言葉	80
保育内容 表現Ⅰ	81
保育内容 表現Ⅲ	82
保育内容総論Ⅰ	83
初等国語科教育法（書写を含む）	83
初等社会科教育法	84
初等算数科教育法	84
初等理科教育法	85
初等生活科教育法	86
初等音楽科教育法	86
初等図画工作科教育法	87
初等家庭科教育法	87
初等体育科教育法	88
教育方法論（小・幼）	89
道徳の指導法（小）	90
特別活動の指導法（小）	90
幼児理解の理論と方法	91
教育相談の基礎と方法（小・幼）	91
生徒・進路指導の理論と方法（小）	92
国語（書写を含む）	92
社会	93
算数	93
理科	94
生活	94
音楽Ⅰ	95

音楽Ⅱ	96
図画工作Ⅰ	97
図画工作Ⅱ	98
家庭	99
体育Ⅰ	100
体育Ⅱ	101
教職実践演習(小・幼)	102
初等外国語教育法	103
音楽基礎Ⅰ(ピアノ)	103
音楽基礎Ⅱ(ピアノ)	104
教育実習Ⅰ(幼稚園)指導	105
教育実習Ⅰ(幼稚園)	106
教育実習Ⅱ(小学校)指導	106
教育実習Ⅱ(小学校)	107
社会的養護内容	108
相談援助演習	108
家庭支援論	109
保育相談支援	109
子どもの保健ⅠA	110
子どもの保健ⅠB	110
子どもの保健Ⅱ	111
救命救急法・応急手当法	111
子どもの食と栄養	112
乳児保育	112
障害児保育	113
音楽療法論	114
保育実習Ⅰ(保育所)指導	114
保育実習Ⅰ(保育所)	115
保育実習Ⅰ(施設)指導	115
保育実習Ⅰ(施設)	116
保育実習Ⅱ(保育所)指導	116
保育実習Ⅱ(保育所)	117
保育実習Ⅲ(施設)指導	117
保育実習Ⅲ(施設)	118

## 専 門 発 展 科 目

教育史	121
最新教育課題	122
学校教育と文化・社会	122
保育内容総論Ⅱ	123
保育内容 表現Ⅱ	124
保育内容 表現Ⅳ	125
初等国語科授業研究	125
初等算数科授業研究	126
初等理科授業研究	126
初等体育科授業研究	127
小学算数	128
小学理科	128
音楽Ⅲ	129
音楽Ⅳ	130
学校図書館論	130

学習指導と学校図書館	131
学校図書館メディアの構成	131
情報メディアの活用	132
知的障害児の心理	132
知的障害児の生理・病理	133
肢体不自由児の心理・生理・病理	133
病弱児の心理・生理・病理	134
知的障害児指導論	134
肢体不自由児指導論	135
病弱児指導論	135
知的障害児教育演習	136
重複・LD・ADHD等の心理・生理・病理	137
視覚障害児教育総論	137
聴覚障害児教育総論	138
発達障害児教育総論	139
発達障害児教育演習	140
情緒障害児教育総論	141
発達アセスメント	142
特別支援教育アセスメント	142
特別支援学校教育実習A指導	143
特別支援学校教育実習A	143
特別支援学校教育実習B指導	144
特別支援学校教育実習B	144

## 学修の心得

### 1. 大学での学修

大学に入学して最初にすべきこと。それは、入学から卒業までの大学生活全体を見通して、学びのイメージを自分なりに描いてみることです。

大学での学修は、高校までの学習スタイルとは大きく異なります。高校までの時間割は各学年、各クラスで定められていますが、大学では学生一人一人が自分の時間割を作成します。科目数も、高校までと比べて格段に多くなります。学びの関心や取得する資格、卒業後の進路などに基づいて科目を選択し、学期（春学期・秋学期）ごとに週間の時間割を作成し、それに従って大学生活を送ります。つまり、大学では、これまで以上にみずから主体的に学ぶ姿勢が必要となるのです。

各学部・学科においては、それぞれの学びの目的に従ってカリキュラム（教育課程）が編成されています。卒業や資格取得に必要な科目と履修単位数など、履修の仕方にも一定のルールがありますので、そのことをよく理解して計画を立ててください。

松江キャンパスにおける学修の大まかな流れは、学期ごとに以下の1～5のとおりとなります。以下、この順に従って、学修の流れについてポイントを説明します。

1 学修計画 → 2 履修登録 → 3 受講 → 4 期末試験 → 5 成績評価
--

### 2. 学修計画

#### (1) ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）とカリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）

各学部・学科は、大学での学修の到達目標として、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）を定めています。その目標に向けて学修の道筋を示したものがカリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）です。この2つのポリシーは学修計画の基本となるものですので、よく確認しておいてください。さらに、カリキュラム・ポリシーに基づいた授業科目の編成をわかりやすく示した「カリキュラムマップ」もありますので、参考にしてください。

※ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、カリキュラムマップは授業計画書を参照してください。

#### (2) 学期と授業

1年間を春学期・秋学期の2つの学期に分けています。

授業の実施方法は、時間割により毎週開講される「通常授業」と、時間割によらず、休業期間などを利用して特定の期間に集中して開講される「集中講義」や各種「学外実習」に区分されます。

春 学 期	秋 学 期
4月1日 ～ 9月30日	10月1日 ～ 3月31日

### (3) 授業時間

授業は、通常 1 時限 90 分を基準として行います。本学の基本的な授業時間は次のとおりですが、授業科目によっては集中講義や演習、実習などで授業時間が変動する場合があります。

時限	1 時限	2 時限	3 時限	4 時限	5 時限
時間	9:00～10:30	10:40～12:10	13:10～14:40	14:50～16:20	16:30～18:00

### (4) 単位制

単位制とは、授業科目を履修することで定められた単位数を取得し、卒業、あるいは免許・資格の取得ができる制度のことです。

通常の講義形式の授業（90 分×15 回）を履修することによって、1 科目あたり 2 単位取得できます。

ただし、講義や演習、実技などの授業の形式や授業の時間数によって、取得できる単位数は科目ごとに異なりますので、授業計画書でよく確認してください。

また、単位制の考え方の前提には、授業以外の自主学習（予習・復習）を確実に行うことが求められています。

#### (参考) 卒業に必要な単位数

学 部	学 科	卒業に必要な単位数
人間文化学部	保育教育学科	1 2 4 単位以上
	地域文化学科	1 2 4 単位以上
短期大学部	保育学科	6 2 単位以上
	総合文化学科	6 2 単位以上

### (5) 授業科目の区分

本学の授業科目には、必修科目と選択科目があります。

①必修科目：必ず履修しなければならない科目であって、履修して単位を修得しないと卒業できません。

②選択科目：自主的に適宜選択して履修する科目です。

\*免許や資格取得のためのカリキュラムも用意していますが、これらの免許・資格取得や受験資格取得のためには、各種免許・資格ごとに履修しなければならない必修科目と選択科目がありますので、必ず、各自で確認してください。

(※各学部・学科の履修規程別表を参照してください。)

### 3. 履修登録

#### (1) 授業科目の履修登録・変更

授業科目を履修するにあたっては、「履修登録」が必要です。履修登録・変更の時期は、各学期始めの「履修登録期間」に行います。各学年始めには学科別履修ガイダンスで説明を受けますが、履修登録・詳細については、「情報ネットワークシステム利用の手引き」等を確認してください。不明な点は、担任または教務学生課に相談してください。

履修登録は、学生の自己責任で行うものです。入力ミスや履修登録漏れ等があった場合は、その学期での履修ができず、単位の修得も認められません。入力の際に十分確認を行ってください。

#### (2) 履修登録上の留意事項

- ① 必修科目は、翌年度以降、他の必修科目と開講時限が重なり履修できない場合がありますので、指定された年次に、必ず履修しましょう。
- ② 次の授業科目は履修することができません。
  - ・既に単位を修得した授業科目
  - ・授業時間が重複する授業科目（集中講義、実習などは除きます）

#### (3) 履修登録の変更

登録した科目を受講した際、「自分の受講目的と合致しない」などの理由により履修登録を変更したい場合は、履修登録変更期間内に教務学生課に「履修登録変更依頼書」を提出してください。未提出のまま履修を取りやめた場合（放棄）は、「不可」評価となり、不合格となります。

履修変更期間は学期開始後の3週目を目安とし、具体的な期日は教務日程に記載します。

（※人間文化学部履修規程第2条、短期大学部履修規程第3条を確認してください）

#### (4) 再履修

当該年次で単位の修得ができなかった場合は、翌年次以降、再度、当該科目を履修することができます。なお、必修科目は、卒業要件となりますので、必ず、再履修の登録を行ってください。



## 4. 受講

### (1) 時間割

時間割は、春学期、秋学期の始めに教務学生課から開示します。教室等も表示されていますので確認してください。また変更がある場合がありますので、学生情報システム等で最新版を確認してください。

### (2) 出席

履修登録をしている授業には出席しなければなりません。原則として、その授業科目の授業実施時間数の3分の2以上の出席を満たしていなければ試験を受けることができず、単位を修得することもできません。

### (3) 欠席

やむを得ず病気等の理由により1週間以上欠席する場合は欠席届を提出してください。次のいずれかに該当する欠席は、願い出によって公欠として扱うことができます。

- ① 法令の規定による出席停止
- ② 本学が定める限度日数の範囲内の忌引
- ③ 風水震火災その他の非常火災及び交通機関の事故等の不可抗力による欠席
- ④ その他学長が認める欠席

(※詳しくは、学生通則第15条を確認してください)

なお、次の①～⑥のいずれかに該当する欠席は公欠とはなりませんが、届け出によって教員による措置が講じられます。

- ① 教職課程の履修登録を行っている学生が教育実習を行う場合（人間文化学部のみ）
- ② 海外渡航を伴う授業の受講者が査証手続きを行う場合
- ③ 学則の規定に基づき留学を許可した学生が査証手続きを行う場合
- ④ 就職活動を行う場合
- ⑤ 進学のために受験する場合
- ⑥ 上記に掲げるもののほか、担当教員が必要と認めた場合

(※詳しくは、授業運営細則第4条を確認してください)

### (4) 休講

授業担当教員がやむを得ない理由により授業を休講する場合があります。その場合は担当教員からの連絡または学生情報システム等に掲示しますので、各自で確認をしてください。

なお、授業開始時間10分を過ぎても授業が開始されない場合は教務学生課まで連絡してください。

また、非常変災（異常気象）その他急迫の事情があるときは授業を休講することがあります。

## (5) 補講

休講等の理由で、授業時間が不足する場合に補講が行われます。その場合は学生情報システム等に掲示しますので、各自で確認してください。

## (6) 集中講義

授業科目によっては、短期的に集中して授業を行う場合があります。土・日、あるいは休業期間を利用して開講するケースが多いので、スケジュール確認をしっかりとってください。

# 5. 成績評価及び単位認定

登録した授業科目を履修し、試験その他の審査に合格した学生には、所定の単位が与えられます。

## (1) 試験等の受験資格

- ① 履修登録を行っていること。
- ② 当該授業科目の授業時間数の3分の2以上出席していること。

## (2) 試験等の時期

試験等は、学期末に期間を定めて行うことを基本としますが、授業科目によっては随時行う場合もあります。

(※教務日程を確認してください)

## (3) 試験等の方法

試験等は、筆記、実技その他の方法により行われます。また、レポート提出や作品提出などによる方法もありますので、担当教員の指示に従ってください。

## (4) 試験等の種類と手続き

### ① 定期試験

原則として各学期末の指定期間に行います。

なお、病気その他やむを得ない理由で受験できないときは、事前に教務学生課に連絡してください。

### ② 追試験

病気その他やむを得ない理由で定期試験を受験できず、追試験を希望する者は「追試験願」に診断書など欠席理由を証明する書面を添えて、教務学生課に提出しなければなりません。提出された願に対し、大学が追試験を実施するか否かを決定し結果を通知します。試験方法などは授業の担当教員の指示に従ってください。

### ③ 再試験

試験等の結果が不合格となったときは、再試験は行いません。ただし、当該授業科目の担当教員の判断に基づき、再試験を行う場合もあります。再試験を実施する授業科目において、再

試験を受けようとする者は、「再試験願」を教務学生課に提出しなければなりません。提出された願に対し、大学が再試験を実施するか否かを決定し結果を通知します。

#### (5) 不正行為

試験の代理受験や試験実施中のカンニング、監督者の注意等に従わない等の不正行為が認められた場合、受験を継続することができず、次の措置がとられます。

- ・当該学期の授業科目の履修が全て無効になります。
- ・学則（人間文化学部 49 条、短期大学部 44 条）の規定に基づき懲戒の対象となります。

また、論文、レポートにおける剽窃行為（他人の作品や論文の成果を、自分のものとして発表すること）についても不正行為となり、同様の措置がとられます。

#### (6) 成績評価及び単位認定

授業科目ごとに、学修の成果を「秀」、「優」、「良」、「可」および「不可」に区分して評価し、「秀」、「優」、「良」、および「可」を合格として所定の単位を認定します。

「秀」、「優」、「良」、「可」および「不可」の評価基準は、100 点満点とする点数で、次のとおりとします。

- ①「秀」 90 点以上
- ②「優」 80 点以上 90 点未満
- ③「良」 70 点以上 80 点未満
- ④「可」 60 点以上 70 点未満
- ⑤「不可」 60 点未満

#### GPA (Grade Point Average) について

学生の学修意欲を高めるとともに、適切な修学指導に資することを目的とし GPA によるスコアを算出します。GPA は下記に利用します。

- ・成績通知書
- ・編入する大学へ開示する成績情報
- ・成績優秀者奨学金の選定指標
- ・保育教育学科の免許状・資格の追加履修可否基準
- ・地域文化学科の免許状・資格の履修可否基準
- ・その他各種推薦に関する資料として

成績評価	秀	優	良	可	不可
判定基準	90 点以上	80 点以上 90 点未満	70 点以上 80 点未満	60 点以上 70 点未満	60 点未満
G P	4 . 0	3 . 0	2 . 0	1 . 0	0 . 0

(1) 学期G P Aの計算式

$$\frac{\text{当該学期の「秀」の単位数} \times 4 + \text{「優」の単位数} \times 3 + \text{「良」の単位数} \times 2 + \text{「可」の単位数} \times 1}{\text{当該学期の総履修登録単位数}}$$

(2) 累積G P Aの計算式

$$\frac{\text{全期間の「秀」の単位数} \times 4 + \text{「優」の単位数} \times 3 + \text{「良」の単位数} \times 2 + \text{「可」の単位数} \times 1}{\text{全期間の総履修登録単位数}}$$

なお、GPAの対象となる科目については以下のような留意事項があります。

- ・「履修登録の取消」により取り消された科目はGPAの対象外となります。
- ・放棄された科目は、GPAに算定に含めるものとし、当該科目の成績は「不可」とみなします。
- ・累積GPAの算定に当たり再履修科目が含まれている場合は、当初の履修登録による修得単位数及び取得GPを算定から除外します。

この他、認定科目についても対象外となります。

不明な点がある場合は、教務学生課まで確認してください。

●詳しい内容は下記の諸規程で確認してください。

【島根県立大学人間文化学部】

- ・島根県立大学学則
- ・島根県立大学人間文化学部学生通則
- ・島根県立大学人間文化学部履修規程
- ・島根県立大学人間文化学部他の大学等における履修等に関する規程
- ・島根県立大学人間文化学部入学前既修得単位数の認定に関する規程
- ・島根県立大学学位規程

※その他、各種資格取得に関する諸規程

【島根県立大学短期大学部】

- ・島根県立大学短期大学部学則
- ・島根県立大学短期大学部学生通則
- ・島根県立大学短期大学部履修規程
- ・島根県立大学短期大学部学修・修得単位等の単位認定に関する規程
- ・島根県立大学短期大学部学位規程







科目区分	授業科目	担当教員	必修	選択	業時間数	卒業単位								備考					
						春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期						
専門基幹科目	内容福祉と養護の科目に関する科目	子どもの保健ⅠA	前林英貴		2	30			2						◎				
		子どもの保健ⅠB	前林英貴		2	30				2					◎				
		子どもの保健Ⅱ	前林英貴		1	30					2				◎				
		救命救急法・応急手当法	前林英貴		1	30						2			△				
		子どもの食と栄養	[長島英保子]		2	30							2		◎				
		乳児保育	前林英貴		2	30				2					◎				
		障害児保育	園山繁樹, 西村健一		2	30						2			◎				
		音楽療法論	[武田千代美]		1	15						1				△			
	保育実習	保育実習Ⅰ(保育所)指導	山田洋平, [青山啓子]		1	15			1						◎				
		保育実習Ⅰ(保育所)	山田洋平, [青山啓子]		2	90		(90)							◎	実習			
		保育実習Ⅰ(施設)指導	藤原映久, [宮下裕一]		1	15				1					◎				
		保育実習Ⅰ(施設)	藤原映久, [宮下裕一]		2	90		(90)							◎	実習			
		保育実習Ⅱ(保育所)指導	矢島毅昌, [青山啓子]		1	15					1				▲				
		保育実習Ⅱ(保育所)	矢島毅昌, [青山啓子]		2	90					(90)				▲	実習			
保育実習Ⅲ(施設)指導		藤原映久, [宮下裕一]		1	15							1		▲					
保育実習Ⅲ(施設)	藤原映久, [宮下裕一]		2	90							(90)		▲	実習					
専門発展科目	教育の基礎理論	教育の理念・歴史・思想	廣田佳彦		2	30					2			△	△		△		
		教育の社会的、制度的、経営的事項	最新教育課題	廣田佳彦, [渡辺一弘]		1	15						1		△	△			
		学校教育と文化・社会	矢島毅昌		2	30								2	△	△			
	教育指導法及び各教科の指導法	保育内容の指導法	保育内容総論Ⅱ	小山優子		1	15					1			▲			△	
			保育内容 表現Ⅱ	福井一尊		1	30					2			▲			△	
			保育内容 表現Ⅳ	梶間奈保, [渡邊寛智]		1	30						2		▲			△	
		各教科の指導法	初等国語科授業研究	中井悠加		2	30				2					●			
			初等算数科授業研究	齊藤一弥		2	30						2			●			
	教科に関する科目	初等理科授業研究	高橋泰道		2	30						2			●				
		初等体育科授業研究	[梶谷朱美]		2	30						2			●				
		小学算数	齊藤一弥		2	30						2			▲				
		小学理科	高橋泰道		2	30						2			▲				
		音楽Ⅲ	梶間奈保, [代香織], [渡邊寛智]		1	30				(15)	(15)				△	△		△	
	音楽Ⅳ	[渡邊寛智]		1	30							2		△	△				
	司書教諭に関する科目	学校図書館論	[木内公一郎]		2	30												◎	
		学習指導と学校図書館	[木内公一郎]		2	30						2						◎	
		学校図書館メディアの構成	[木内公一郎]		2	30				2								◎	
		情報メディアの活用	[石井大輔]		2	30							2					◎	
	特別支援教育に関する科目	特別支援教育領域に関する科目	知的障害児の心理	園山繁樹, 内山仁志		2	30				2					◎			
			知的障害児の生理・病理	[石井尚吾]		2	30				2					◎			
			肢体不自由児の心理・生理・病理	[平岩里佳]		2	30			2						◎			
			病弱児の心理・生理・病理	[瀬島奇]		2	30			2						◎			
			知的障害児指導論	西村健一		2	30				2					◎			
			肢体不自由児指導論	西村健一		2	30			2						◎			
病弱児指導論			園山繁樹, 前林英貴, [高田哲], [佐々木章友]		2	30			2						◎		集中		
知的障害児教育演習			西村健一		2	30					2				◎				
免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目		重複・LD・ADHD等の心理・生理・病理	西村健一, 内山仁志, [石井尚吾]		2	30			2						◎				
		視覚障害児教育総論	内山仁志		2	30			2						◎				
		聴覚障害児教育総論	[原島恒夫], [福島朗博]		2	30			2						◎		集中		
		発達障害児教育総論	園山繁樹, 西村健一, 内山仁志		2	30					2				◎				
		発達障害児教育演習	内山仁志		2	30						2							
		情緒障害児教育総論	園山繁樹		2	30						2							
		発達アセスメント	園山繁樹, [菊野雄一郎]		1	30				2									
		特別支援教育アセスメント	園山繁樹, 西村健一, 内山仁志		1	30				2									
心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育実習	特別支援学校教育実習A指導	西村健一, 内山仁志		1	15						1			◎					
	特別支援学校教育実習A	西村健一, 内山仁志		2	90						(90)			◎		実習			
	特別支援学校教育実習B指導	西村健一, 内山仁志		1	15							1		◎					
	特別支援学校教育実習B	西村健一, 内山仁志		2	90							(90)		◎		実習			



#### 【備考】

卒業要件を満たすためには、「卒業単位」の項に定める科目区分ごとの単位数を満たし、合計124単位以上を履修しなければならない。

(1) 幼稚園教諭一種免許状を得ようとする者は、教育職員免許法(昭和24年法律第147号)及び教育職員免許法施行規則(昭和29年文部省令第26号)の規定に基づき、卒業要件を満たし、かつ、「資格等の要件」の項に掲げる「幼稚園教諭一種免許状」区分に定める◎印を付した指定科目を履修しなければならない。加えて、▲印を付した授業科目から1単位以上を履修しなければならない。また、※印を付した授業科目から1単位以上を履修しなければならない。1単位を超えて履修した※印の授業科目と△印を付した授業科目を併せて10単位以上を履修しなければならない。

(2) 小学校教諭一種免許状を得ようとする者は、教育職員免許法(昭和24年法律第147号)及び教育職員免許法施行規則(昭和29年文部省令第26号)の規定に基づき、卒業要件を満たし、かつ、「資格等の要件」の項に掲げる「小学校教諭一種免許状」区分に定める◎印を付した指定科目を履修しなければならない。加えて、※印を付した授業科目と▲印を付した科目から、3単位以上を履修しなければならない(▲印を付した科目2単位以上を含む)。ただし「理科」を履修したものが「小学理科」を選択履修できる。また、●印を付した科目から4単位以上を履修しなければならない。3単位を超えて履修した※印および▲印を付した授業科目と、4単位を超えて履修した●印を付した授業科目と、△印を付した授業科目から、併せて10単位以上を履修しなければならない。

(3) 特別支援学校教諭一種免許状を得ようとする者は、教育職員免許法(昭和24年法律第147号)及び教育職員免許法施行規則(昭和29年文部省令第26号)の規定に基づき、卒業要件を満たし、かつ、「資格等の要件」の項に掲げる「特別支援学校教諭一種免許状」区分に定める◎印を付した指定科目を履修しなければならない。

(4) 司書教諭免許状を取得できる者は、卒業要件を満たし、かつ小学校教諭一種免許状を取得する者とする。司書教諭免許状を得ようとする者は、教育職員免許法(昭和24年法律第147号)及び教育職員免許法施行規則(昭和29年文部省令第26号)の規定に基づき、卒業要件を満たし、かつ、「資格等の要件」の項に掲げる「司書教諭免許状」区分に定める◎印を付した指定科目を履修しなければならない。

(5) 保育士資格を得ようとする者は、児童福祉法施行規則(昭和23年厚生省令第11号)の規定に基づき、卒業要件を満たし、かつ、「資格等の要件」の項に掲げる「保育士資格」区分に定める◎印を付した指定科目を履修しなければならない。ただし、△印を付した授業科目群から6単位以上を、▲印を付した授業科目群から実習指導1単位とその実習指導に対応した実習2単位を含めて3単位以上を履修しなければならない。

【教育部  
教育基础  
教育学科】  
基础科目

授業科目	哲学						
担当教員	倉田隆						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M1010010
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい] 人間と世界との関わり方という問題を、「私が世界について知る」とはどういうことか、そもそも世界について知ることは可能なのか、という問題として探究することによって、哲学的に思索する姿勢を養う。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 「知るとはどういうことか」という問題を検討することにより、当たり前だと思っていることに疑問の眼差しを向けるという哲学の原点にある姿勢を養うことを目標とする。講義では、この「知る」ということの本質について、日常的な出来事を例に取り上げながらできるだけ平明に解説し、ある知識が「正しい」と言えるための基準を検討する。知識に関する哲学史上の理論もいくつか簡単に紹介しながら、なるべく身近な具体例に関連させて「知る」ということの意味を学生一人ひとりに考えさせる。</p>
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「知る」という極めて日常的な営みを、哲学的な問題として論理的に分析することができる。</li> <li>2. 身近な事柄を哲学的に論じることの意味を理解できる。</li> <li>3. 当然のことと見なされてきた事柄に、疑問の目を向ける姿勢を身につける。</li> </ol>
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 知識とは何か1：知識と世界</p> <p>第3回 知識とは何か2：像と記憶</p> <p>第4回 知識とは何か3：信念(1)</p> <p>第5回 知識とは何か4：信念(2)</p> <p>第6回 知識の2つのあり方1：知識の標準的な定義</p> <p>第7回 知識の2つの在り方2：ア・プリオリとア・ポステリオリ(1)</p> <p>第8回 知識の2つの在り方3：ア・プリオリとア・ポステリオリ(2)</p> <p>第9回 ア・プリオリな知識の「正しさ」1：プラトニズム</p> <p>第10回 ア・プリオリな知識の「正しさ」2：心理主義</p> <p>第11回 ア・プリオリな知識の「正しさ」3：規約主義</p> <p>第12回 ア・ポステリオリな知識の「正しさ」1：素朴实在論</p> <p>第13回 ア・ポステリオリな知識の「正しさ」2：表象主義的实在論</p> <p>第14回 ア・ポステリオリな知識の「正しさ」3：観念論</p> <p>第15回 ア・ポステリオリな知識の「正しさ」4：科学的实在論</p>
テキスト	テキストは使用しない。
参考文献	『現代哲学』 門脇俊介(著) 産業図書 『哲学の謎』 野矢茂樹(著) 講談社
評価方法	定期試験(100%)
自己学習に関する指針	講義内容を要約したプリントを配付して、それに沿って講義を進めていきますが、プリントには何箇所か空白があります。講義を聴きながら空白を埋め、授業後に通読するなどの復習をしてください。
履修上の指導・留意点	受講者は前から詰めて着席してください。なお、参考文献の欄で紹介した文献は、必読図書というものではありません。授業で学んだことをさらに深めたい人のために紹介しました。

授業科目	心理学						
担当教員	飯塚由美						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M1010020
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい] 「心理学」について学び、人の心理や行動の実証的研究の基礎を理解し、人間や日常社会についての洞察力や考える姿勢を養うことを目的とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 個人の心の特性と社会における人間行動を理解し、その基本理論や知識の修得を目標とする。(1)多様な心理学の分野とその歴史や基本理念の理解(2)感覚・知覚、学習、記憶、感情・動機づけ、発達、臨床などの分野(3)性格・パーソナリティ、社会と人間行動・心理、また、地域や社会との関わりなど応用的な心理学の分野についての基礎理論を修得する。自分たちが日常的に考え、行ったりしていることを、こころの科学として実証的に考察した主要な研究や実験を紹介し、人間への理解を深める。</p>
授業の到達目標	(1)「心理学」に関する基本的な理論・方法について理解し、わかりやすく説明することができる。(2)心理学の基礎知識(専門的な用語や概念等)を習得した上で、自ら考え、人間理解や社会での応用実践の方法を探る視点を持つことができる。
授業計画	<p>第1回 心理学とは(オリエンテーション)</p> <p>第2回 感覚・知覚(1) 感覚器官、図と地、反転図形</p> <p>第3回 感覚・知覚(2) 錯視、奥行き知覚など</p> <p>第4回 学習 古典的学習、オペラント学習、社会的学習</p> <p>第5回 記憶 感覚記憶、短期記憶、長期記憶、自伝的記憶</p> <p>第6回 感情・動機づけ 感情、帰属、欲求</p> <p>第7回 発達 ピアジェの理論、認知発達、分離不安など</p> <p>第8回 臨床 フロイトとユングの理論、心理療法など</p> <p>第9回 性格・パーソナリティ(1) 基礎理論</p> <p>第10回 性格・パーソナリティ(2) 評価と検査法</p> <p>第11回 社会と応用 社会問題と人間行動</p> <p>第12回 自己と対人の心理(1) 社会的認知、対人魅力、対人関係</p> <p>第13回 自己と対人の心理(2) コミュニケーション、社会的スキル、援助</p> <p>第14回 社会と集団・組織の心理 集団の特性、社会的影響過程</p> <p>第15回 応用の心理学と最新の心理学動向</p>
テキスト	必要に応じ、資料やプリントを配布する。
参考文献	『心理学概論ー基礎から臨床心理学までー』 第4版 宇津木成介・橋本由里(編)ふくろう出版
評価方法	成績は、授業内で実施する小テスト(70%)や課題(20%)、質問やコメントなどの授業への参加姿勢(10%)で評価する。
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	

授業科目	音楽						
担当教員	新倉健						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M1010030
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい] 授業の目的・ねらい：音楽芸術の受容に関する主体的な思考力を培う</p> <p>[授業全体の内容の概要] 音楽を聴く、音楽を楽しむことは日常的な行為であり、音楽は、身近な存在として位置づけられているが、私たちは音楽の何に気持ちが揺さぶられ、音楽の何に魅力を感じているのかを問い直す必要がある。この科目では、音楽と情動の関係性に触れながら、自身の音楽の聴き方について考えていくことを目標とする。また様々なジャンルやスタイルの音楽鑑賞をし、音楽の新しい魅力の発見につなげることを目的とする。音楽を聞き流すのではなく、改めて「聴く」ことの重要性を考える。</p>
授業の到達目標	<p>(1) さまざまな音楽の魅力を発見し、その音楽の芸術的な価値と社会的な意味について、主体的に思考できる</p> <p>(2) 文学と音楽、美術と音楽、さらには人間の営みと音楽といった、他の分野と音楽がどのように融合され表現されるのかについて、音楽的要素を意識しながら聴くことができる</p> <p>(3) 作曲者の視点を通して、音楽の可能性や音楽の新しい表現について知る</p>
授業計画	<p>第1回 ガイダンス：物語から聴こえてくる音たち～作曲家の仕事について考える</p> <p>第2回 音楽の起源：呪術と音楽～ケチャ、春の祭典</p> <p>第3回 神話と音楽：ギリシア神話、古事記、ホピ族（アメリカインディアン）～シュリンクス、HOPI</p> <p>第4回 物語と音楽1：宮沢賢治と音楽①音の絵本～よだかの星、注文の多い料理店</p> <p>第5回 物語と音楽2：宮沢賢治と音楽②鳥の劇場との出会い～セロ弾きのゴーシュ</p> <p>第6回 物語と音楽3：宮沢賢治と音楽③～農民芸術概論の理想と現実、宮沢賢治の作曲と音楽活動</p> <p>第7回 物語と音楽4：音楽と舞踊～バレエ・リュス、火の鳥、兵士の物語、歌の祭り</p> <p>第8回 物語と音楽5：オペラ①オペラの誕生～バロック音楽、インテルメディオ、オルフェオ</p> <p>第9回 物語と音楽6：オペラ②モーツァルト「フィガロの結婚」第1幕</p> <p>第10回 物語と音楽7：オペラ③モーツァルト「フィガロの結婚」第2幕</p> <p>第11回 物語と音楽8：オペラ④モーツァルト「フィガロの結婚」第3幕、第4幕</p> <p>第12回 物語と音楽9：オペラ⑤総合芸術としてのオペラ～演出、美術、衣装、照明、合唱、オーケストラ</p> <p>第13回 物語と音楽10：オペラ⑥オリジナルオペラの夢～ポラーノの広場、窓、魔法のカクテル</p> <p>第14回 音楽と現代：戦争と音楽、平和と音楽～海ゆかば、ワルシャワの生き残り、広島が言わせる言葉</p> <p>第15回 まとめ：これまでの授業をふりかえり、音楽を主体的に聴くことの重要性について考える 定期試験</p>
テキスト	作曲家のお仕事～新倉健 2008-2016 (新倉健 2016)
参考文献	
評価方法	論理的思考力（40%）、感性に裏打ちされた独自の視点・問題意識（40%）、文章力（20%）
自己学習に関する指針	授業中に鑑賞した作品や配布した資料の内容に関連する事項について、興味・関心を持って自主的に学習すること
履修上の指導・留意点	

授業科目	文学						
担当教員	武田信明						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M1010040
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>小説作品を読解するための考え方を基礎から教授する授業である。授業は、小説作品を具体的に読み進めていくことを中心とする。小説のあらすじや一部を読むのではなく、作品全体を通読することで初めて理解できることがたくさんあるからである。さらに、時代やジャンルも異なる多様な小説作品を選んでいるので、文学作品に対する幅広い知識と読み方が習得できるはずである。また2回の記述試験(レポート)によって、その力の修得の程度を問う。</p>
授業の到達目標	<p>1) 文学作品についてさまざまな観点から読み解くことができる。 2) 対象とする作品について、作家や文学史的知識を理解している。 3) 作品について読み取った内容を、論理的な文書で記述することができる。</p>
授業計画	<p>第1回 ガイダンス(授業の進め方・授業の目的と評価方法) 第2回 ジブリから文学へ1 ー二項関係と反復 第3回 ジブリから文学へ2 ー空間を読む 第4回 江戸川乱歩概説 第5回 「屋根裏の散歩者」ー空間という観点 第6回 「屋根裏の散歩者」ー近代的都市の形成 第7回 吉本ばなな概説 第8回 「キッチン」ー台所の文化史 第9回 「キッチン」ーモチーフという概念 第10回 「キッチン」ー死と再生 第11回 宮沢賢治概説 第12回 「風の又三郎」ー異稿問題 第13回 「風の又三郎」ー子どもと異人 第14回 「風の又三郎」ー四大元素の空間 第15回 「キッチン」「風の又三郎」総括</p>
テキスト	<p>・「風の又三郎」「キッチン」(角川文庫)を基本テキストとする。</p>
参考文献	<p>・授業時に作品読解のための参考プリントを毎回配布する。</p>
評価方法	<p>第6回終了時に「中間レポート」(配点40)を課す。中間レポートと「授業終了後の期末レポート(60点)」の合計で評価する。</p>
自己学習に関する指針	<p>・該当の小説作品をあらかじめ読んでおく必要がある。</p>
履修上の指導・留意点	<p>・特になし</p>

授業科目	読書と豊かな人間性						
担当教員	天野佳代子						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M1010050
免許資格 関連事項	○司書教諭免許状						

授業の概要	<p>児童・生徒にとって読書とは本を楽しく読むばかりではなく、情報社会の中で必要な情報を取捨選択するための情報を読みとるための手段でもある。司書教諭は読書センター、情報センターの機能を持つ学校図書館の読書活動を理解し、教育課程の展開に寄与するための読書活動も考えていかなければならない。本講座では、学校図書館を活用したさまざまな読書活動をおこない、児童・生徒の読書への関心や読む力を高めるためのさまざまなスキルを習得する。また、豊かな人間性の育成とはどのようなことなのかディスカッションを通して学びを深める。</p>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書の意義と発達段階に応じた読書のあり方や指導方法の重要性を理解する。</li> <li>・豊かな人間性を育成するための読書材を知り、読書指導、教育課程の展開に導くための読書指導についても考える。</li> <li>・学校教育の中での読書指導のあり方を考え、司書教諭としての役割を考察する。</li> <li>・読書活動における司書教諭と学校図書館司書の協働について考える。</li> </ul>
授業計画	<p>第1回 読書の意義と目的 第2回 読書指導と読書教育 第3回 子どもの読書推進に関する法と施策 第4回 子どもの読書と現状 第5回 子どもの成長と読書 第6回 学校図書館の読書材 第7回 学校図書館の読書環境の整備と利用 第8回 教科、特別活動における読書 第9回 特別支援の必要な児童・生徒の読書 第10回 学校図書館における司書と司書教諭の役割と協働 第11回 読書へ導く方法① 読みきかせ 第12回 読書へ導く方法② ブックトーク 第13回 読書へ導く方法③ 読書へのアニメーション 第14回 読書へ導く方法④ リテラチャーサークル 第15回 家庭、地域、公共図書館との連携と協力 まとめ 講義のまとめとテスト 定期試験</p>
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配布資料</li> </ul>
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シリーズ学校図書館学第4巻 『読書と豊かな人間性』 全校学校図書館協議会 2011年</li> <li>・JLA 学校図書館実践シリーズ『学校図書館の教育力を生かす 学校を変える可能性』 塩見昇 2016年</li> <li>・『読むチカラは生きる力』 協明子 岩崎書店 2006年</li> <li>・『鍛えよう！読むチカラ 学校図書館で育てる25の方法』 桑田てるみ監修 「読むチカラ」プロジェクト編著 明治書院 2012年</li> <li>・『読書へのアニメーション-75の作戦』 サルト, マリア・モンセラット【著】/宇野和美【訳】/新田恵子【監修】 柏書房 2001年</li> <li>・シリーズ・ワークショップで学ぶ『読書家の時間:自立した読み手を育てる教え方・学び方』【実践編】プロジェクト・ワークショップ(編) 新評論 2014年</li> </ul>
評価方法	<p>授業への積極的な参加姿勢を評価する(出席状況、授業態度、グループワーク、本の紹介、レポートの提出など) 平常点(80)・試験(20%)</p>

自己学習に 関する指針	・公共図書館の児童室や書店の児童書コーナーの読書材や配架の工夫などを観察して下さい。
履修上の 指導・留意点	・『夏の庭—The Friends』湯本香樹実(著)徳間書店 2001 年を読んでおいてください。



授業科目	市民社会と図書館						
担当教員	石井大輔						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M1010060
免許資格 関連事項							

授業の概要	市民社会における知識情報の蓄積、保存、流通の観点から、民主主義を下支えする社会的なシステムとしての図書館の機能や社会における意義や役割について理解することを目的とする。「図書館の歴史と現状」「図書館の構成要素」「民主主義と図書館」「知識基盤社会と図書館」「生涯学習社会と図書館」「公共図書館の成立と発展」「館種別図書館と利用者のニーズ」「図書館職員の役割と資格」「類縁機関との関係」「知的自由と図書館」「今後の課題と展望」等について解説する。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民社会における図書館の機能や役割について基礎的な知識を習得する。</li> <li>「図書館とは何か」という問いに対して、自分なりの解を導き出す。</li> <li>他人に「図書館とは何か」について説明できるようになる。</li> </ul>
授業計画	<p>第1回 「図書館」を学ぶとは</p> <p>第2回 図書館の基礎①：図書館の構成要素と機能</p> <p>第3回 図書館の基礎②：図書館の制度（憲法、教育基本法、社会教育法、図書館法）</p> <p>第4回 図書館の社会的意義①：民主主義と図書館</p> <p>第5回 図書館の社会的意義②：知識基盤社会と図書館</p> <p>第6回 図書館の社会的意義③：生涯学習社会と図書館</p> <p>第7回 図書館の社会的意義④：知的創造と図書館</p> <p>第8回 公共図書館の成立と展開</p> <p>第9回 日本の公共図書館①：明治～戦前の図書館</p> <p>第10回 日本の公共図書館②：戦後の図書館</p> <p>第11回 図書館の種類と利用者①（国立図書館、公共図書館）</p> <p>第12回 図書館の種類と利用者②（大学図書館、学校図書館、専門図書館）</p> <p>第13回 図書館員とライブラリアンシップ</p> <p>第14回 知的自由と図書館、図書館の自由</p> <p>第15回 図書館の課題と展望</p>
テキスト	なし
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二村健『図書館の基礎と展望』学文社、2011年 1,800円+税</li> <li>・『図書館情報学用語辞典 第4版』丸善、2013年 3,800円+税</li> <li>・『図書館ハンドブック 第6版補訂2版』日本図書館協会、2016年 5,500円+税</li> </ul>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平常点（50%）、レポート（20%）、試験（30%）</li> <li>・平常点では①オピニオンペーパーの記述、②授業への参加を評価する。授業への参加とは授業内での教員からの問いかけに対する発言のほか、挙手による回答の回数をカウントする。</li> </ul>
自己学習に関する指針	本学の図書館ばかりでなく、あらゆる図書館を自主見学して図書館に親しむことが大切です。
履修上の指導・留意点	

授業科目	社会学						
担当教員	片岡佳美						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M1010070
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい] 私たちが日常生活を営んでいる、この社会について知るために、社会学はさまざまな見方を示してきている。この授業では、そうした「社会学の見方」について「家族」「地域」を切り口に学ぶことを目的とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 社会学をはじめて学ぶ人に、社会学とはどのような学問かを理解してもらうために、そのユニークな視点について講義する。家族や地域といった身近なトピックについて、これまで社会学者たちが論じてきたことをやさしく説く。</p>
授業の到達目標	日常生活、社会現象について、社会学的な視点から見つめることができ、説明することができる。
授業計画	<p>第1回 イン트로ダクション—問題の所在— 第2回 近代家族の成立とゆらぎ(1)—近代家族の特徴— 第3回 近代家族の成立とゆらぎ(2)—近代家族成立の背景— 第4回 近代家族の成立とゆらぎ(3)—日本の家族変容— 第5回 近代家族の成立とゆらぎ(4)—ライフスタイルとしての家族— 第6回 近代家族の成立とゆらぎ(5)—家族の個人化— 第7回 近代家族の成立とゆらぎ(6)—民主的家族という目標— 第8回 地域コミュニティの変容(1)—近代化とコミュニティ— 第9回 地域コミュニティの変容(2)—一心同体のつながりと「契約」のつながり— 第10回 地域コミュニティの変容(3)—地域ケアへの注目— 第11回 地域コミュニティの変容(4)—共助の視点— 第12回 地域コミュニティの変容(5)—個人の自由と地域ケア— 第13回 「第二の近代」 第14回 日本人と「第二の近代」 第15回 まとめ 定期試験</p>
テキスト	
参考文献	参考文献は、アンソニー・ギデンズ『親密性の変容』而立書房ほか（他の文献については授業中に提示する）。
評価方法	中間レポート（30%）、期末試験（70%）
自己学習に関する指針	日頃から、新聞記事やテレビのニュースなどで、家族や地域コミュニティの最近の動向についてチェックしておこう。国や地方自治体の家族や地域コミュニティに関する政策についても、インターネットなどで見ておくとよい。
履修上の指導・留意点	質問などあれば、email (kataoka@soc.shimane-u.ac.jp) に送ってください。

授業科目	現代経済学						
担当教員	大塚茂						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M1010080
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい] 現代の経済状況を理解するために必要な基礎的知識を蓄えながら、経済諸問題を自らの問題として根本から問い直す分析力を身につける。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 日本及び世界の国々が直面する具体的な経済の諸問題の考察を通して、現代の経済の基本的な特徴と趨勢を理解するとともに、現代に生きる私たちに突きつけられている歴史的課題とその解決策に対する洞察力を養うことを目標とする。同時に、基礎的な経済の仕組みと経済用語についての知識を深めていく。授業で取り上げるテーマは、「経済循環」「景気変動」「株式会社の特質」「会社の変容」「格差問題」「雇用問題」「資本主義の構造」「物価と価格」「グローバリゼーション」「財政の役割」「税の原理」「税制改革」などである。</p>
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 主な経済ニュースが概ね理解できるようになる。</li> <li>2. さまざまな経済問題について関心と疑問が持てるようになる。</li> <li>3. 主な経済政策について、その当否を判断できるようになる。</li> </ol>
授業計画	<p>第1回 価格と物価 第2回 経済循環 第3回 景気変動 第4回 株式会社 第5回 会社の変容 第6回 格差と貧困 第7回 雇用問題 第8回 資本主義 第9回 グローバリゼーション 第10回 規制と自由 第11回 財政の役割 第12回 所得税 第13回 消費税 第14回 税の原理 第15回 まとめ(現代の課題) 定期試験</p>
テキスト	<p>テキストは使用しません。毎回、プリントを配布します。 プリントは試験のときに持ち込み可としますので大切に保管してください。</p>
参考文献	神野直彦『「分かち合い」の経済学』岩波新書、2010年
評価方法	定期試験(100%)
自己学習に関する指針	授業で配布したプリントは、次の授業までにもう一度目を通すこと。
履修上の指導・留意点	<p>疑問に思ったことは積極的に質問してください。 逆に、質問されたら積極的に答えてください。</p>

授業科目	生涯学習概論						
担当教員	仲野寛						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M1010090
免許資格 関連事項							

授業の概要	生涯学習及び社会教育の理念と意義及び特質を理解し、生涯学習社会における家庭教育・学校教育・社会教育の役割と連携、生涯各期の学習課題と学習ニーズ、現代的課題と社会の要請、生涯学習支援の教育システムと学習成果の評価と活用、社会教育施設や生涯学習関連施設等の役割などについて理解する。
授業の到達目標	①生涯学習の理念と意義、社会教育の意義と役割及び特質を理解する。 ②生涯学習支援の教育システムと学習成果の評価と活用を理解する。 ③社会教育施設(公民館、図書館、博物館等)と指導者(社会教育主事、公民館主事、司書、学芸員等)の役割や職務を理解し、説明できる基礎的能力を養う。
授業計画	第1回 授業のガイダンス。生涯学習の理念と意義、生涯教育社会の考え方 第2回 諸外国における生涯学習の歴史と発展、ユネスコ、OECDの生涯教育論等 第3回 人生の修養としての学びも含めて、我が国における生涯学習の歴史と発展 第4回 我が国の教育改革と生涯学習社会の構築の動き、近年の教育施策の動向 第5回 生涯学習社会への移行、伝統的な教育システムからの転換と開かれた学校 第6回 生涯各期の学習課題の意義と学習の必要性、及びそのための学習機会のあり方 第7回 社会教育施設である公民館、図書館、博物館、青少年教育施設等の機能と役割 第8回 社会教育主事、公民館主事、司書、学芸員等の社会教育指導者の役割、職務 第9回 地域資源(指導者、施設、学習事業、地域環境等)活用した生涯学習支援事業 第10回 個人学習、集合学習の種類と方法、学習機会と提供方法、学習評価の概説 第11回 生涯学習と社会教育行政、生涯学習振興行政などの役割 第12回 生涯学習振興計画と社会教育事業計画の役割と意義、事業評価とPDCAの意義 第13回 学習プログラムの種類と特徴、構造、企画、及び立案する際の視点と手順 第14回 公的教育事業、企業・民間教育事業の果たす役割と今後の連携・協力のあり方 第15回 学習成果の評価と活用、まちづくり、ボランティア活動等との関係 講義のまとめ、及び評価試験
テキスト	・テキストは使用しない。毎回、講義レジメ・資料を配付する。
参考文献	・授業中に、適宜、参考文献・資料等を紹介する。
評価方法	・評価は、小レポート・試験(70%)、受講態度(30%)で、総合的に評価する。
自己学習に関する指針	毎回の講義に配布する講義レジメ・資料で、復習すること。疑問点は、自ら、図書館の関係文献で調べるか、担当教員へ下記のメールで問い合わせ理解、解決すること。
履修上の指導・留意点	授業中の疑問点や授業資料で不明な点の質問や相談は、授業終了後の時間、及びオフィスアワーの時間を設定できないので次のメールで対応する。nakano@edu.shimane-u.ac.jp

授業科目	日本国憲法						
担当教員	黒澤修一郎						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	必修	単位数	2	授業コード	M1010100
免許資格 関連事項	<p>○幼稚園教諭一種免許状《教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目》 ・日本国憲法</p> <p>○小学校教諭一種免許状《教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目》 ・日本国憲法</p> <p>○特別支援学校教諭一種免許状《教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目》 ・日本国憲法</p>						

授業の概要	「基本的人権」「法の下での平等」「平和主義」など、日本国憲法にかかわる基本事項について具体的な事例を取り上げながら、学生が身近な問題として憲法を受け止め主体的に認識を深めることができるように講義を行なう。
授業の到達目標	基本的人権の意義や統治の仕組みなど、憲法の基本的な事柄について理解し、憲法を手掛かりとしながら社会の諸問題について広く関心を持ち、考えを深めることを目標とする。
授業計画	<p>第1回 イン트로ダクション</p> <p>第2回 基本的人権</p> <p>第3回 個人の尊重と幸福追求権</p> <p>第4回 法の下での平等</p> <p>第5回 一票の較差</p> <p>第6回 精神的自由権</p> <p>第7回 経済的自由権</p> <p>第8回 社会権</p> <p>第9回 基本的人権の重要問題</p> <p>第10回 立法権と国会</p> <p>第11回 行政権と内閣</p> <p>第12回 司法権・裁判所・違憲審査制</p> <p>第13回 平和主義</p> <p>第14回 統治機構論の重要問題</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>定期試験</p>
テキスト	君塚正臣編『大学生のための憲法』(2018年刊行予定)
参考文献	適宜紹介する。
評価方法	学期末の試験の成績によって評価する。
自己学習に関する指針	授業前に、テキストの該当箇所を読んでおくこと。
履修上の指導・留意点	欠席する場合は、できるかぎり事前に欠席届を提出すること。

授業科目	人間と自然						
担当教員	鹿野一厚						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M1010110
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい] 人間と自然との関係について基礎的な事項を幅広く学び、人間と自然との共生について考えることを目的とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] まず、人口の爆発と生物の絶滅・地球温暖化など、地球の自然の現状を知る。次に3,000万種ともいわれる生物の進化、そして我々人類の進化を学び、地球そして人間はどのようにして現在の姿に至ったのかを知る。以上の事柄を踏まえた上で、最後に、人間はなぜ自然を破壊するのか、自然と共生する文化はいかにすれば可能かについて考察する。</p>
授業の到達目標	<p>①現代生物学について基礎的な知識を習得している。 ②人類の進化について基礎的な知識を習得し、人間の特性について説明することができる。 ③自然と共生する文化について自ら考え、その内容を自己の言葉で表現することができる。</p>
授業計画	<p>第1回 生命の多様性と連続性 [原核生物、真核生物、多細胞生物。動物、植物、菌類] 第2回 現代生物学の基本原則(1) [細胞説、セントラルドグマ] 第3回 現代生物学の基本原則(2) [生態系、進化論] 第4回 第六の大量絶滅の時代 [人口爆発、地球温暖化、現代文明、自然嫌い] 第5回 生物進化の概要 [原生代、古生代、中生代、新生代] 第6回 生物進化のメカニズム [遺伝子の変異と自然選択、細胞内共生説] 第7回 生物の絶滅と進化 [五回の大量絶滅、大量絶滅後の飛躍的進化] 第8回 前半のまとめと補足 第9回 人類進化の概要(1) [類人猿、猿人、原人、旧人、新人] 第10回 人類進化の概要(2) [直立二足歩行、脳の大型化、咀嚼器の退化、文化の獲得] 第11回 人類進化の謎への挑戦(1) [遺伝子と文化の共進化：社会的学習能力と文化の進化] 第12回 人類進化の謎への挑戦(2) [遺伝子と文化の共進化：協力・利他的行動の進化] 第13回 自然と共生する文化を考える(1) [狩猟採集民の文化から学ぶ] 第14回 自然と共生する文化を考える(2) [日本の里山の文化から学ぶ] 第15回 自然と共生する文化は可能か [文化進化論に学ぶ：人間はなぜ自然を壊すのか] 定期試験 ●パワーポイントを用いた講義形式の授業を行うが、ビデオや新聞記事などの資料も交えて、できるだけ分かりやすい授業を目指す。</p>
テキスト	とくに使用しない。
参考文献	<p>・『池上彰が聞いてわかった生命のしくみ』池上・岩崎・田口ら 2016年 朝日新聞出版 ・『アフリカで誕生した人類が日本人になるまで』溝口優司 2011年 SB新書 ・『文化進化論』A. メスーディ 2016年 NTT出版</p>
評価方法	<p>●単位認定は、定期試験(50%)、課題レポート(50%)によって総合的に評価する。 ●到達目標①および②は定期試験によって、到達目標③は授業参加と課題レポートによって、それぞれ評価する。 ●試験(記述問題)やレポートは、どこまで自己の言葉で書かれているかを評価する。</p>
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	

授業科目	脳科学と心						
担当教員	内山仁志						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M1010120
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい] ヒトの神経系（脳）の構造と機能の概略を理解し、脳の構造や機能を可視化できる測定法を学修する。それを踏まえて「心」とは何かについて考える。また脳に関する迷信についてその現状を知り、問題点を見つけてわかりやすく説明できることを目的とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 思考、認知、記憶、情動、意思、行動などに関連する脳科学の知見を通じて、人間理解の可能性と脳科学が果たす役割について学ぶ。ヒトの神経系（脳）の構造と脳の機能局在について理解を深めることを目標とする。歴史的経緯を踏まえつつ臨床症例や研究知見を神経科学的手法（脳波・fMRI・TMS・PET など）とともに紹介する。また神経神話（脳に関する迷信）問題について、課題発見解決型学習（PBL）を通じて、その理論的根拠や妥当性を論理的に検討していき、巷に氾濫する誤った脳科学情報にきちんと対処できる知識を修得する。</p>
授業の到達目標	<p>(1) ヒトの神経系（脳）の構造と脳の機能の概略を説明できる (2) 神経科学的手法について説明できる (3) 神経神話（脳に関する迷信）問題について自身で課題を見つけて解決できる</p>
授業計画	<p>第1回 心の発達と脳科学 第2回 神経系の構造 第3回 神経系の発達 第4回 神経科学的手法と研究法 第5回 脳研究の最新トピックと神経神話問題、PBL のための課題の設定と振り分け 第6回 脳と嗅覚・視覚 第7回 脳と聴覚・味覚 第8回 脳と体性感覚・運動 第9回 脳と思考・意思・情動 第10回 脳と学習・記憶 第11回 脳と言語 第12回 脳と病気 第13回 PBL 発表と討議 1 第14回 PBL 発表と討議 2 第15回 PBL 発表と討議 3 定期試験</p>
テキスト	・テキストは使用せず、適宜プリント資料等を配布する。
参考文献	<p>・「発達科学ハンドブック 8 脳の発達科学」、榊原洋一他編、新曜社 ・「病気が見える vol.7 脳・神経」、医療情報科学研究所編、メディックメディア ・「脳ブームの迷信」、藤田一郎著、飛鳥新社</p>
評価方法	定期試験 60%、レポート（発表時のプレゼンテーション力を含む）40%
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	

授業科目	生物と栄養						
担当教員	安藤彰朗						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M1010130
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい] 私たちヒトも哺乳動物も「食べる」ことなしに生命・生活は成り立ちません。この講義では、哺乳類の一員としてのヒトにおける、食べ物とからだ、栄養素の役割、食べもと健康について理解を深めることを目的とします。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 生物（特にヒトを含む哺乳動物）のからだのつくりを中心に、生物個体から出発して、その内部構造（器官や細胞）へと展開するからだのしくみの基盤となる内容を学ぶ。引き続き、生物・生命のもう一つの特性である「栄養」や「代謝」について理解を進め、からだの構成成分と栄養素、生命維持や活動のエネルギー代謝と栄養素等、からだのしくみと栄養の視点から、食べ物が栄養に変わる旅（過程）を知るとともに、生物と栄養について理解を深める。そして、応用編として「人間（ヒト）と健康」に関わる諸課題についても考察する。</p>
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>ヒトや他の哺乳動物の基本的な内臓の構成、特に消化器系の臓器の名称と働きを説明できる。</li> <li>栄養素の特徴および、からだの中での役割を説明できる。</li> <li>ヒトについて食べ物とからだの関係、食べ物と健康の係りについて認識し、自身の生活を踏まえて、自分の考えを述べることができる。</li> </ol>
授業計画	<p>第1回 「生物と栄養」の講義について、ヒトのからだの概要 第2回 ヒトの消化器系の全体像、口腔の話（口から始まる消化作用） 第3回 胃の話（主役は3つの細胞）・腸の話（絨毯のような内面） 第4回 胃と腸のビデオ視聴 第5回 いろいろな哺乳動物の歯について 第6回 食性が異なる哺乳動物は、どのような消化管を持っているか 第7回 糖質の消化・吸収、糖質の栄養 第8回 タンパク質の消化・吸収、タンパク質の栄養 第9回 脂質の消化・吸収、脂質の栄養 第10回 カルシウムの役割、骨と筋肉のビデオ視聴 第11回 エネルギー代謝について 第12回 あなた自身はどんな食事をしていますか 第13回 食事バランスガイドについて 第14回 食べ物と健康について 第15回 全体のまとめ 定期試験（試験あり）</p>
テキスト	テキストは特に用いません。必要に応じて毎回プリントを配布します。
参考文献	<ol style="list-style-type: none"> <li>「イラスト栄養学総論」城田知子ほか著、東京教学社、</li> <li>「新版ヒトと自然」荒井秋晴ほか著、東京教学社、</li> </ol>
評価方法	<p>試験は、消化器系や栄養素などについての知識を問う問題と講義で取り上げたテーマについての記述問題を課します。</p> <p>評価基準は、質問感想カードの提出 20%、課題レポートの提出 30%、試験 50%を考慮して総合的に評価します。</p>
自己学習に関する指針	特定のテキストは用いないので、授業中に適宜ノートを取る、配布資料の余白などにメモを取ることを勧めます。復習する際にそれらを役立てて欲しいと考えています。



履修上の 指導・留意点	科目名の通り、主として解剖生理学、生物学、化学、栄養学などに関連するいわゆる理系の内容や計算を含みます。また、臓器名、元素記号や化学式、馴染みのないカタカナの物質名なども沢山出てきます。

授業科目	環境の科学						
担当教員	高橋泰道						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M1010140
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい] 地球の誕生から、生命の誕生、生物の進化など、地球の自然環境の歴史について理解すると共に、地球環境問題の現状を理解し、持続可能な社会の構築に向けて、どのように行動すべきかを考え、実践的態度を培うことをねらいとする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 地球環境問題を理解するために必要な基礎知識として、地球の誕生から、生命の誕生、生物の進化が地球の自然環境とどのようにかかわってきたか、地球がどのように現在の自然環境を作り上げてきたかについて学ぶ。そして、身近な環境汚染から差しせまった地球温暖化の問題に至るさまざまな問題の本質と現状を理解した上で、環境問題を自らの課題としてとらえ、主体的に向き合い、持続可能な社会の構築に向けて、どのように行動すべきかを考え、実践的態度を培う。</p>
授業の到達目標	<p>①地球の誕生から、生命の誕生、生物の進化など、地球の自然環境の歴史について説明できる。</p> <p>②地球環境問題の現状について説明できる。</p> <p>③持続可能な社会の構築に向けて、どのように行動すべきかを考えることができる。</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、月面で遭難したら テーマ問題について予想し、グループで話し合い、問題を解決する。</p> <p>第2回 太陽と地球、月 テーマ問題について予想し、グループで話し合い、問題を解決する。</p> <p>第3回 地球の誕生 テーマ問題について予想し、グループで話し合い、問題を解決する。</p> <p>第4回 地球の変動 テーマ問題について予想し、グループで話し合い、問題を解決する。</p> <p>第5回 生物の繁殖戦略 テーマ問題について予想し、グループで話し合い、問題を解決する。</p> <p>第6回 地球の大気 テーマ問題について予想し、グループで話し合い、問題を解決する。</p> <p>第7回 いま地球で何が起きているか テーマ問題についてグループで調べ、まとめる。</p> <p>第8回 環境問題の実態 ① 地球温暖化 テーマ問題についてグループで調べ、まとめる。</p> <p>第9回 環境問題の実態 ② エネルギー問題 テーマ問題についてグループで調べ、まとめる。</p> <p>第10回 環境問題の実態 ③ 生物多様性・自然共生社会 テーマ問題についてグループで調べ、まとめる。</p> <p>第11回 環境問題の実態 ④ 地球環境問題 テーマ問題についてグループで調べ、まとめる。</p> <p>第12回 環境問題の実態 ⑤ 循環型社会 エネルギー・廃棄物 テーマ問題についてグループで調べ、まとめる。</p> <p>第13回 環境問題の実態 ⑥ 地域の環境問題 テーマ問題についてグループで調べ、まとめる。</p> <p>第14回 環境問題の実態 ⑦ 化学物質・震災関連・放射性物質 テーマ問題についてグループで調べ、まとめる。</p> <p>第15回 持続可能な社会に向けたアプローチ、まとめ テーマ問題についてグループで調べ、まとめる。</p>
テキスト	特になし。適宜プリントを配布する。
参考文献	授業中に随時紹介する。
評価方法	<p>授業レポート等提出物 (30%)</p> <p>発表資料・発表内容 (30%)</p> <p>期末レポート (40%)</p>
自己学習に関する指針	配布資料、およびレジュメに記載された参考文献を読み、事前学修・事後学修に役立てる。

履修上の 指導・留意点	質問は、その内容に応じて、授業時間中・オフィスアワー・e-mail に対応します。
----------------	---

授業科目	しまね地域共生学入門						
担当教員	オムニバス 教員						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	必修	単位数	2	授業コード	M1010150
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>この講義は、各キャンパスにおける専門分野を学習する前の段階において、島根県が数十年来直面している人口減少・少子高齢化・過疎化という地域の諸課題を様々な角度から講義する。そうした課題は、今後のわが国における多くの地域において予期されるが、それぞれの主体の強みを生かした連携と協力を継続させるという、「共生」により解決しなければならない。本講義を通じて、地域課題への対応がいかに困難で複雑なものであるかの再認識を促し、複合的対応の重要性についての理解を深める。</p> <p>また、学問的見地においてもひとつの学問領域から得られる知見のみで解決できるものではない。本講義では、特定の学問領域にとどまらず、複眼的に物事をとらえ分析することの重要性も学ぶ。</p> <p>これらの目的に照らし、さしあたり本講義では3キャンパスの教員がそれぞれの専門分野から島根地域にかかわる諸課題についての解説を平易に行う。また、オムニバス講義ゆえに全体としての体系性が失われぬよう、本講義では人々の人生における代表的なライフステージ(3段階)を共通で用いる。このことを通じて、学生は島根県内の地域課題に関する基礎知識・周辺知識を習得する。</p> <p>本講義を履修したのち、自らの関心あるテーマについて仮説を立てて実証をしたり、地域に出て「実践する」ことが求められるが、その際に関心のあるテーマを自ら発見できるよう積極的な姿勢で受講してもらいたい。</p> <p>※本講義は、原則的に、講義中継システムを活用して3キャンパス同時の遠隔講義形式にて実施する。</p>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 島根県内の課題について理解し、わが国全体の課題のなかでの位置づけを説明できる。</li> <li>・ 地域社会の諸課題の解決に向けて各主体が連携・協力する「共生」により解決にあたることや、自らも複数の学問領域の考え方を学ぶことの重要性について理解できる。</li> <li>・ 以降の学生生活を通じて自ら実践的に地域の諸課題に取り組むことの重要性を理解し、そのテーマを設定できる。</li> </ul>
授業計画	<p>第1回 島根県立大学へようこそ—開講にあたって (担当: 学長・清原正義、浜田C・林秀司)</p> <p>第2回 島根県の姿を統計データを元に語る (担当: 浜田C・藤原真砂)</p> <p>第3回 子どもを産み育てる家族とその支援 (担当: 出雲C・井上千晶)</p> <p>第4回 子育て世帯の時間構造 (担当: 浜田C・藤原真砂)</p> <p>第5回 絵本をめぐる冒険—読み聞かせでつながる地域社会— (担当: 松江C・岩田英作)</p> <p>第6回 社会的養護と島根県の里親 (担当: 松江C・藤原映久)</p> <p>第7回 離島における成人期の健康課題／中山間地域活性化への取り組み (担当: 出雲C・松本玄智江)</p> <p>第8回 島根県の景観—文化的地域資源としてのその魅力と可能性を考える— (担当: 浜田C・八田典子)</p> <p>第9回 中小企業における事業承継問題の現状と対策 (担当: 浜田C・久保田典男)</p> <p>第10回 高齢者における地域子育て支援 (担当: 松江C・前林英貴)</p> <p>第11回 老年期のメンタルヘルス—認知症および地域の課題に焦点を当てて— (担当: 出雲C・大森真澄)</p> <p>第12回 島根県の政策展開 (仮題) (担当: 外部講師)</p> <p>第13回 地域課題への実践的取組 (仮題) (担当: 外部講師)</p> <p>第14回 しまねの地域課題・日本の課題—まとめて代えて— (担当: 浜田C・林秀司)</p> <p>第15回 松江キャンパスでの学びに向けて (担当: 松江C副学長・岸本強)</p>
テキスト	各回の担当教員が指定することがある。
参考文献	各回の担当教員が紹介する。
評価方法	各回の授業で実施する小テスト合計得点 (100%)
自己学習に関する指針	配布資料、およびレジュメに記載された参考文献を読み、復習に役立てる。島根県モデルで学んだ地域課題を他の都道府県でも検討してみる。

履修上の 指導・留意点	本講義は地域の抱える課題について包括的に概論する講義ではあるが、本講義のみでは大学生が学ぶべき内容を完全にマスターできるわけではない。本講義は1年生を履修基準年次としており、どちらかといえば、これからの修学期間で地域課題への対応に取り組むにあたり、必要となる予備知識や一般知識の習得を目指す、いわば入門科目としての位置づけである。したがって、受講したのち、より専門的な見地から詳細な議論を行う諸科目の履修により補完することが望ましい。
----------------	---

授業科目	しまね文化論						
担当教員	工藤泰子						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M1010160
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>本科目は、松江城、出雲大社、石見銀山など、島根県が有する豊かな特色ある地域文化・地域資源について、基礎的な知識を修得し、しまねの地域資源の価値と、それらに誇りを持って未来へ継承することの意義を理解することを目的とする。授業はオムニバス形式で行い、各テーマにふさわしい専門家や実践者による講義を通して、島根県における伝統文化の歴史的背景や文化的価値、文化を伝承する上での課題や未来へ向けた取組みなどを学習する。さらに、学外見学会を実施することで学習内容の理解を深める。</p>
授業の到達目標	<p>出雲、石見、隠岐が有する様々な文化について理解し、それぞれの特徴や歴史的背景を説明できるようになる。</p>
授業計画	<p>第1回 ガイダンス (人間文化学部教員)  第2回 神々の国しまね(1) (出雲大社) 外部講師：千家和比古氏 (出雲大社権宮司)  第3回 神々の国しまね(2) (神話) 外部講師：錦田剛志氏 (万九千神社宮司)  第4回 しまねの日本遺産 (たたら製鉄) 外部講師：田部長右衛門氏 (田部家25代当主)  第5回 しまねの地質資源 (隠岐世界ジオパーク) 外部講師：野辺一寛氏 (隠岐の島町役場 課長) 卜部吉博氏 (松江市松江城調査研究室長)  第6回 しまねの世界遺産 (石見銀山) 外部講師：仲野義文氏 (石見銀山資料館館長)  第7回 しまねの自然 外部講師：中村唯史氏 (島根県立三瓶自然館)  第8回 フィールドワーク事前学習 (人間文化学部教員)  第9回 フィールドワーク (石見銀山) [11月23日(金)実施予定]  第10回 しまねの国宝 (松江城) 外部講師：卜部吉博氏 (松江市松江城調査研究室長)  第11回 しまねの伝統芸能 (神楽) 外部講師：藤原宏夫 (古代出雲歴史博物館専門学芸員)  第12回 しまねの食文化(1) (松江の茶文化) 外部講師：中村寿男氏 (中村茶舗代表取締役)  第13回 しまねの食文化(2) (出雲風土記と島根の食文化) 外部講師：吉野勝美氏 (大阪大学名誉教授)  第14～15回 しまねの文化の魅力を考える—学生発表  ※外部講師招聘のため、順番が入れ替わる場合がある。</p>
テキスト	<p>適宜プリントを配布する。</p>
参考文献	
評価方法	<p>各回の小テストの結果、コメントシート、発表など、授業への取組み状況を総合的に判断して評価を行う。</p>
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	<p>11月23日(金)にフィールドワーク実施予定。</p>

授業科目	しまねボランティア研修						
担当教員	加藤泰寛						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1又は2	配当期	通年
授業形態	講義・演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M1010170
免許資格 関連事項							

授業の概要	ボランティア活動を始めようとする学生に、県立青少年の家における体験学習プログラムを提供することにより、ボランティアの役割を体得し、他者と関わりながら主体的に活動することのできる人間になることを目指す。そのためにボランティア活動を体験し、ボランティア活動の意義及びボランティアの役割を理解したり、体験活動をしながら場に応じて必要な支援について学修したりする。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ボランティア活動の意義及びボランティアの役割を理解できる。</li> <li>2. 他者との関わり方を考え、協力して活動できる。</li> <li>3. 体験学習について理解し、場に応じて適切な支援ができる。</li> </ol>
授業計画	<p>第1回 事前学習…&lt;4月25日(水)18:00~19:00 1コマ: 県立大学松江キャンパス&gt; (青少年の家と主催事業についての理解・授業スケジュールの理解)</p> <p>第2回 実習①「ボランティア養成講座」…&lt;6月16日~17日(土・日): 県立青少年の家&gt; ・講義(ボランティア活動について・アイスブレイク・グループワーク・安全講習) ・演習(青少年の家のプログラム体験・振り返り)</p> <p>第3回 実習②「ボランティア実習」(8月~1月で1つを選択: 県立青少年の家&gt; 選択事業の例 ・サマーチャレンジ(小5~中3対象)…8月 ・キッズチャレンジ(小3~小4対象)…9月 ・にんにんチャレンジ(年長~小2対象)…11月 ※選択可能な事業の詳細については事前学習において発表する。</p> <p>第4回 事後学習&lt;1月19日(土)AM 3コマ: 県立青少年の家&gt; ・グループワークによるシェア及びグループ発表</p>
テキスト	上記1~3については、参加者ノート、スタッフノート等を配布する。
参考文献	
評価方法	・実習における積極性(20%)、レポート・ルーブリック(80%)
自己学習に関する指針	第2回の養成講座受講後、第3回のボランティア実習に向けて、青少年の家ホームページから前年度や本年度実施された主催事業の様子について関心をもって、予習をしておくことが望ましい。
履修上の指導・留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習①での施設使用料、食費は各自負担をする。</li> <li>・定員は35名とする。</li> </ul>

授業科目	健康スポーツ概論						
担当教員	岸本強						
科目分類	基礎科目	授業時間	15	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	必修	単位数	1	授業コード	M1010180
免許資格 関連事項	<p>○幼稚園教諭一種免許状《教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目》 ・ 体育</p> <p>○小学校教諭一種免許状《教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目》 ・ 体育</p> <p>○特別支援学校教諭一種免許状《教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目》 ・ 体育</p> <p>○保育士資格</p>						

授業の概要	<p>競技スポーツや健康の保持・増進のためのスポーツ，スポーツを活用した健康生活について学ぶとともに，大学生として心得ておくべきスポーツ政策についての概要や現代的諸問題について学修する。また，スポーツ活動を通じたパーソナリティ形成や社会性の発達についての知識を修得し，スポーツ活動によってもたらされるプラス面の効果や留意すべきことについて正しく理解し，競技スポーツ・健康スポーツ・生涯スポーツの見方・考え方についての学修を深める。</p>
授業の到達目標	<p>(1) 健康スポーツについて基礎的な知識を修得することができる。</p> <p>(2) 現代的スポーツ事情，スポーツ諸課題について論述することができる。</p>
授業計画	<p>第1回 日本のスポーツ政策と現状（国，地方自治体のスポーツ推進計画）</p> <p>第2回 スポーツとは？ スポーツの高度化，大衆化について</p> <p>第3回 競技スポーツと健康志向スポーツについて</p> <p>第4回 スポーツのパーソナリティ形成と二面性について</p> <p>第5回 スポーツ集団への関わり方，チームワークのメカニズムと形成の考え方</p> <p>第6回 スポーツのための食と液体補給</p> <p>第7回 運動・休養・栄養と生活リズム</p> <p>第8回 救急処置と救急蘇生法，まとめ 定期試験</p>
テキスト	なし
参考文献	毎回，プリント資料を配付する。
評価方法	毎回クイズ（小テスト）＝30% 筆記試験＝70%
自己学習に関する指針	配付資料を再読し，復習に役立てる。
履修上の指導・留意点	毎回，授業終わりに小テストを行う。



授業科目	健康スポーツ I						
担当教員	岸本強						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	実技	選択/必修	必修	単位数	1	授業コード	M1010190
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭一種免許状《教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目》 ・ 体育 ○小学校教諭一種免許状《教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目》 ・ 体育 ○特別支援学校教諭一種免許状《教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目》 ・ 体育 ○保育士資格						

授業の概要	健康スポーツ I では、各種身体運動の方法を実践学習し、健康の保持増進と体力の向上、運動の意味や効果の理解を図りながら、運動することへの自覚を一層促進する。また、スポーツ活動を通して、運動や運動技術のみにとどまらず、集団のなかの一員としての役割等から協調性や社会性を身に付ける。内容については、準備運動（ストレッチングを含む）の仕方、集団スポーツの学習、個人スポーツの学習からルール・技術・ゲームの仕方を学修し、生涯スポーツの取り組みを見据えた授業とする。
授業の到達目標	(1) 生涯スポーツの観点から個人種目やチームスポーツに取り組み、多種目の技術・技能を身につけることができる。 (2) 主体的に学ぶ姿勢を身につけ、受講者で協力してゲームを運営することができる。
授業計画	第1回 オリエンテーション、準備運動の方法及びストレッチング、リズム運動 第2回 スポーツ種別特性の理解と実践・ソフトバレーボールの基礎・基本 第3回 スポーツ種別特性の理解と実践・ソフトバレーボールの応用とミニゲーム 第4回 スポーツ種別特性の理解と実践・ソフトバレーボールのゲーム（リンク式） 第5回 スポーツ種別特性の理解と実践・ソフトバレーボールのゲーム（トーナメント式） 第6回 スポーツ種別特性の理解と実践・バドミントンの基礎・基本 第7回 スポーツ種別特性の理解と実践・バドミントンの応用とミニゲーム 第8回 スポーツ種別特性の理解と実践・バドミントンのゲーム（シングルス） 第9回 スポーツ種別特性の理解と実践・バドミントンのゲーム（ダブルス） 第10回 スポーツ種別特性の理解と実践・卓球の基礎・基本 第11回 スポーツ種別特性の理解と実践・卓球の応用とミニゲーム 第12回 スポーツ種別特性の理解と実践・卓球のゲーム（シングルス） 第13回 スポーツ種別特性の理解と実践・卓球のゲーム（ダブルス） 第14回 スポーツ種別特性の理解と実践・種目選択でのゲーム（リンク式） 第15回 スポーツ種別特性の理解と実践・種目選択でのゲーム（トーナメント式）
テキスト	なし
参考文献	必要に応じて資料を配付する。
評価方法	技術・技能 30%、実践記録 20%、まとめレポート 50%
自己学習に関する指針	授業外においても取り込むことが好ましい。
履修上の指導・留意点	運動服の指定はないが、運動に適した服装・靴を着用すること。

授業科目	健康スポーツⅡ						
担当教員	岸本強						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	実技	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M1010200
免許資格 関連事項							

授業の概要	健康スポーツⅡでは、身体組成測定器や血圧・脈拍測定器、エアロバイク（体力・最大酸素摂取量測定可能）など、各種身体及び身体機能測定機器で受講者が自ら計測した各々のデータを蓄積管理し、一人ひとりがこのデータを活用して自らに合った運動（機器を用いたトレーニング・エクササイズ・各種スポーツ）をプログラムしていく方法を学修する。授業ではスムーズな展開を図るため、取り組む内容毎にグループで活動を展開する。このグループ化は2回行い、複数（異種）の取り組みを経験する。
授業の到達目標	(1) 主体的・計画的に測定機器を使いデータを管理することができる。 (2) 測定データを活用し、機器を用いたトレーニング、エクササイズ、スポーツに取り組むことのできる運動プログラムを確立することができる。
授業計画	第1回 オリエンテーション及び各種測定 第2回 測定と運動実践（機器を用いたトレーニング・エクササイズ・各種スポーツ）試行 第3回 測定と運動実践（機器を用いたトレーニング・エクササイズ・各種スポーツ）定着 第4回 測定とグループ化①、運動実践（機器を用いたトレーニング・エクササイズ・各種スポーツ） 第5回 測定と運動実践（機器を用いたトレーニング・エクササイズ・チームスポーツ）グループ試行 第6回 測定と運動実践（機器を用いたトレーニング・エクササイズ・チームスポーツ）グループ定着 第7回 測定と運動実践（機器を用いたトレーニング・エクササイズ・チームスポーツ）グループ応用 第8回 測定と運動実践（機器を用いたトレーニング・エクササイズ・チームスポーツ）グループ発展 第9回 これまでのデータ処理と中間評価 第10回 測定とグループ化②、運動実践（機器を用いたトレーニング・エクササイズ・各種スポーツ） 第11回 測定と運動実践（機器を用いたトレーニング・エクササイズ・個人スポーツ）グループ試行 第12回 測定と運動実践（機器を用いたトレーニング・エクササイズ・個人スポーツ）グループ定着 第13回 測定と運動実践（機器を用いたトレーニング・エクササイズ・個人スポーツ）グループ応用 第14回 測定と運動実践（機器を用いたトレーニング・エクササイズ・個人スポーツ）グループ発展 第15回 データのまとめ、授業のまとめ
テキスト	なし
参考文献	必要に応じて資料を配付する
評価方法	実践記録50%、まとめレポート50%
自己学習に関する指針	授業外においても取り込むことが好ましい。
履修上の指導・留意点	運動服の指定はないが、運動に適した服装・靴を着用すること。

授業科目	健康スポーツⅢ						
担当教員	山本ユミ						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	実技	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M1010210
免許資格 関連事項							

授業の概要	ダンスの基礎的な身体の使い方を学び、思いきり身体を動かすこと、動きを創作する楽しさ、表現を追求する面白さ、人に伝える喜びなどダンスの醍醐味を身体で経験する。発表を通して、踊る・創る・観るという総合的な視点でダンスを学習する。
授業の到達目標	(1)ダンスの基礎的な身体の使い方を学び、創る、踊る、観るという総合的な視点でダンスの技能を身に付けることができる。 (2)共同作業を通して、互いの表現を認め合い、自己表現力を高め、積極的に取り組む姿勢を身に付けることができる。
授業計画	第1回 ガイダンス、ダンスの種類と特徴 第2回 ダンスの実践レベル1・リズム 第3回 ダンスの実践レベル1・ステップ 第4回 ダンスの実践レベル1・コンビネーション(簡単な振付) 第5回 ダンスの実践レベル1・レベル1のまとめのダンス 第6回 ダンスの実践レベル2・リズム&ステップ 第7回 ダンスの実践レベル2・コンビネーション(振付基礎) 第8回 ダンスの実践レベル2・コンビネーション(振付応用) 第9回 ダンスの実践レベル2・レベル2のまとめのダンス 第10回 ダンスの実践レベル3・リズム&ステップ 第11回 ダンスの実践レベル3・リズム&ステップ&コンビネーション(振付基礎) 第12回 ダンスの実践レベル3・リズム&ステップ&コンビネーション(振付応用) 第13回 ダンスの実践レベル3・フォーメーション(グループ創作ダンス基礎パターン) 第14回 ダンスの実践レベル3・フォーメーション(グループ創作ダンス応用パターン) 第15回 まとめダンス発表会
テキスト	なし
参考文献	必要に応じて資料を配布する。
評価方法	技術・技能30%、実践記録20%、まとめレポート50%
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	

授業科目	基礎中国語						
担当教員	鳥谷聡子						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M1010220
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>中国には56の民族があり、広東語や上海語など、実際には多種の言語が使われている中で、現在“普通話”として中国の標準語になっている“汉语”を学ぶ。ピンイン、四声、発音から始まり、テキストの会話や作文の練習を通して中国語の基礎を学習する。中国語は漢字を使う言語のため、同じく漢字を使う日本人には親しみを感じる言語ではあるが、文化が違えばその発想も違うため、日本語との違いを通してその文化の違いを感じ取ってもらう。また、中国の音楽や中国人から見た日本の文化に対するエッセイなどに触れて、中国語を通して中国への理解を深めることを目的とする。</p>
授業の到達目標	<p>①ピンイン表記の中国語が読める。 ②テキスト内の単語と文法を覚え、それを使って作文ができる。 ③中国語検定試験準4級レベルを目指す。</p>
授業計画	<p>第1回 中国語ウォーミングアップ、発音・声調・簡体字 第2回 人称代名詞、“是”の文 第3回 指示代名詞(1)、疑問詞疑問文 第4回 “的”の用法(1)、副詞 第5回 動詞の文 第6回 「所有」を表す“有”、省略疑問の“呢” 第7回 量詞、指示代名詞(2) 第8回 形容詞の文、“几”と“多少” 第9回 数字 第10回 日付・時刻を表す語、「動作の時点」を言う表現 第11回 「完了」を表す“了” 第12回 「所在」を表す“在”、助動詞(1)“想” 第13回 介詞(1)“在”・“离”、「存在」を表す“有” 第14回 反復疑問文 第15回 総まとめ、会話テスト 定期試験</p>
テキスト	最新2訂版「中国語はじめの一步」白水社
参考文献	適宜プリント配布 中日辞典と日中辞典(電子辞書だと便利)
評価方法	期末試験(60点)会話テスト(30点)、残り10点は授業への取り組みと出席状況を総合して評価します。
自己学習に関する指針	テキストを何度も繰り返し音読すること。その際、発音と四声に注意して、大きな声で読むことが大事。文字や文章も書いてみることを。
履修上の指導・留意点	<p>質問は授業時間中と授業の前後で対応します。 受講者は、前から詰めて着席してください。</p>

授業科目	中国語						
担当教員	鳥谷聡子						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M1010230
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>「基礎中国語」に引き続き、中国語(汉语)の基礎を学ぶ。テキストの会話や作文の練習を通して、中国語の文法を学習する。また、中国の音楽や文化に触れるだけでなく、日本の文化を中国語で説明することにもチャレンジする。今後中国人に限らず、台湾やシンガポールなど、多くの中華圏の観光客が日本に来ることが期待されるので、中国語を使って日本、特に島根県や山陰地域の観光地の説明を、観光パンフレット等を利用して学び、その学習で得た中国語で日本や山陰地域の魅力を伝え、相互理解を深めることを目的とする。</p>
授業の到達目標	<p>①ピンイン表記無しで、簡単な中国語が読める。 ②テキスト内の単語と文法を覚え、それを使って作文ができる。 ③中国語で自己紹介ができる。 ④中国語検定試験準4級以上のレベルを目指す。</p>
授業計画	<p>第1回 中国語で自己紹介、前期の復習、中国語検定試験準4級の説明 第2回 「時間量」を表す語、試験対策(1) 第3回 助動詞(2) “得”、試験対策(2) 第4回 介詞(2) “从”、試験対策(3) 第5回 「過去の経験」を表す“过”、試験対策(4) 第6回 “是…的”の文、試験対策(5) 第7回 介詞(3) “跟”・“给”、試験対策(6) 第8回 試験対策まとめ 第9回 助動詞(3) “能”・“会” 第10回 「動作の様態」を言う表現、動詞の重ね型 第11回 「動作の進行」を表す“在…呢”、“…しに来る・…しに行く”の表し方 第12回 選択疑問の“还是”、目的語を文頭に出す表現 第13回 「比較」の表現、“的”の用法(2) 第14回 2つの目的語をとる動詞、目的語が主述句のとき 第15回 総まとめ、会話テスト 定期試験</p>
テキスト	最新2訂版「中国語はじめの一步」白水社
参考文献	適宜プリント配布 中日辞典と日中辞典(電子辞書だと便利)
評価方法	期末試験(60点)会話テスト(30点)、残り10点は授業への取り組みと出席状況を総合して評価します。
自己学習に関する指針	テキストを何度も繰り返し音読すること。その際、発音と四声に注意して、大きな声で読むことが大事。文字や文章も書いてみること。
履修上の指導・留意点	質問は授業時間中と授業の前後で対応します。 受講者は、前から詰めて着席してください。

授業科目	基礎韓国語						
担当教員	崔貞美						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M1010240
免許資格 関連事項							

授業の概要	基礎的な韓国語を「読む」「聴く」「話す」というバランスを考えながら身に付けていきます。また、言語を学ぶということは、その背景にある文化を理解することも必要です。そこで歴史、風習にも折々触れていきます。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハングル（母音、子音、パッチム）を読めるようにします。</li> <li>・簡単な日常会話を韓国語で表現できるようにします。</li> </ul>
授業計画	<p>第1回 ハングルの特徴、文字の仕組み、基本母音（1）</p> <p>第2回 基本母音（2）、基本子音（平音9こ）</p> <p>第3回 基本子音（激音5こ、濃音5こ）</p> <p>第4回 パッチム</p> <p>第5回 ハングルの読み書き（1）、小テスト（母音、子音）</p> <p>第6回 ハングルの読み書き（2）、小テスト（パッチム）</p> <p>第7回 挨拶、日常表現</p> <p>第8回 語彙と表現のまとめ、教室用語</p> <p>第9回 第1課 アンニョンハセヨ（～です。～ですか。）</p> <p>第10回 第1課アンニョンハセヨ、文化（韓国の基本情報）</p> <p>第11回 第2課この人は誰ですか？（指示詞、数詞）</p> <p>第12回 第2課この人は誰ですか？文化（韓国の交通）</p> <p>第13回 第3課これは何ですか？（助数詞）</p> <p>第14回 第3課これは何ですか？（助数詞）2</p> <p>第15回 自己紹介の練習、復習</p> <p>定期試験（筆記試験、会話テスト）</p>
テキスト	いよいよ韓国語（朝日出版社）定価2,400円
参考文献	授業において適宜紹介します。※プリント配布
評価方法	前期試験60点、会話テスト30点、小テスト、課題提出、出席状況で10点、総合100点満点で評価します。
自己学習に関する指針	復習することが上達の近道です。特に発音の練習は、声をしっかり出して繰り返しやるのが大切です。
履修上の指導・留意点	欠席が6回になると原則試験は受けられません（但し、公欠の場合は事前に公欠届を提出すること）。

授業科目	韓国語						
担当教員	崔貞美						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M1010250
免許資格 関連事項							

授業の概要	基礎韓国語の授業を終了していることを前提に授業を行います。「語彙と表現」「文型練習」「会話練習」の3つの学習内容で授業を進めます。
授業の 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハンゲル（文章）を読めるようにします。</li> <li>・様々な場面での日常会話ができるようにします。</li> </ul>
授業計画	<p>第1回 前期の復習</p> <p>第2回 第4課 今どこに行きますか？（動詞）</p> <p>第3回 第4課 今どこに行きますか？（文型練習、会話練習）</p> <p>第4回 第4課 今どこに行きますか？（読む、書く、聴く）</p> <p>第5回 まとめ、小テスト、文化（韓国の食べ物①）</p> <p>第6回 第5課 趣味は何ですか？（～ます、～ますか）</p> <p>第7回 第5課 趣味は何ですか？（文型練習、会話練習）</p> <p>第8回 第5課 趣味は何ですか？（読む、書く、聴く）</p> <p>第9回 まとめ、小テスト、文化（韓国の食べ物②）</p> <p>第10回 第6課 運動靴を買いたいです（形容詞）</p> <p>第11回 第6課 運動靴を買いたいです（文型練習、会話練習）</p> <p>第12回 第6課 運動靴を買いたいです（読む、書く、聴く）</p> <p>第13回 まとめ、小テスト、年賀状提出</p> <p>第14回 グループで会話</p> <p>第15回 総まとめ、会話の練習</p> <p>定期試験（筆記試験、会話テスト）</p>
テキスト	いよいよ韓国語（朝日出版社）定価2,400円
参考文献	授業において適宜紹介します。※プリント配布
評価方法	期末試験60点、会話テスト30点、小テスト、課題提出、出席状況等で10点、総合100点満点で評価します。
自己学習に 関する指針	学習内容をチェックして、未修のところは復習を通して自律的に学習していくことが大切です。
履修上の 指導・留意点	欠席が6回になると原則試験を受けられません（但し、公欠の場合は事前に公欠届を提出すること）。

授業科目	基礎タイ語						
担当教員	増原善之						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M1010260
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>初学者を対象として、タイ語の基礎を身に付けることを目標とする。タイ語特有の文字とイントネーションは日本人にはなじみがなく難しく感じられるが、子音字と母音符号の発音と書き方、声調規則を段階的・体系的に学び、繰り返し練習をすれば、誰にでも習得が可能である。授業では、可能な限り発音と書き方の練習に時間を割き、知識の定着を図りたい。ただし、文字と発音の練習ばかりでは飽きてしまうので、これらと並行して日常会話で使われる平易な表現や基本単語も学習する予定である。</p>
授業の到達目標	<p>(1) 子音字と母音符号のしくみを理解し、正しく発音できる。  (2) 基本的な単語を読んだり書いたりできる。  (3) 声調規則にしたがって、正しいイントネーションで発音できる。</p>
授業計画	<p>第1回 ガイダンス  第2回 子音字と高・中・低子音字の区別  第3回 高子音字と低子音字 (1) 基本的な子音字  第4回 高子音字と低子音字 (2) 基本的な子音字 (続き)  第5回 高子音字と低子音字 (3) 低子音字の高子音字化  第6回 中子音字と無気音・有気音の区別  第7回 母音符号 (1) 基本的な母音  第8回 母音符号 (2) 基本的な母音 (続き)  第9回 母音符号 (3) 二重母音とその他の母音  第10回 末子音  第11回 声調規則 (1) 高子音字と声調記号  第12回 声調規則 (2) 低子音字と声調記号  第13回 声調規則 (3) 中子音字と声調記号  第14回 声調規則 (4) 末子音による声調の変化  第15回 まとめ</p>
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考文献	必要に応じて紹介する。
評価方法	期末試験 (40%)、小テスト (40%)、出席状況および授業への取り組み (20%) に基づいて総合的に評価する。
自己学習に関する指針	・ 毎回、宿題を出すので、しっかり復習をしてほしい。
履修上の指導・留意点	



授業科目	タイ語						
担当教員	増原善之						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M1010270
免許資格 関連事項							

授業の概要	「基礎タイ語」の既履修者を対象として、会話・コミュニケーション力の向上を目標とする。授業では基礎的な文法や単語の意味を理解するだけでなく、音声教材を利用しながら会話練習を繰り返すことにより「使えるタイ語」が身につくようにしたい。平易な内容であればタイの人びとと何とか意思疎通ができるというレベルを目指している。語学の学習に加え、動画等の視聴を通してタイ語の生きた表現に触れながら、タイの社会や文化に対する関心を高めていきたい。
授業の到達目標	(1) 基礎的な文法が理解できる。 (2) 平易な文を読んだり書いたりできるようになる。 (3) 簡単な日常会話レベルのタイ語が身につく。
授業計画	第1回 「基礎タイ語」の復習 第2回 こんにちは 第3回 お名前は何か？ 第4回 あなたは大学生ですか？ 第5回 お仕事は何か？ 第6回 タイ語がとても上手ですね 第7回 これは何か？ 第8回 どのように行けばいいですか？ 第9回 この電車はチャトゥチャックに行きますか？ 第10回 どこにいます（あります）か？ 第11回 どこに行って来ましたか？ 第12回 どのように売りますか？ 第13回 何時ですか？ 第14回 何曜日に生まれましたか？ 第15回 まとめ
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考文献	宮本マラシー・村上忠良『世界の言語シリーズ9 タイ語』大阪大学出版会
評価方法	期末試験（40%）、小テスト（40%）、出席状況および授業への取り組み（20%）に基づいて総合的に評価する。
自己学習に関する指針	・ 毎回、宿題を出すので、しっかり復習をしてほしい。
履修上の指導・留意点	・ 本科目は「基礎タイ語」の既履修者または初歩的なタイ語（文字の読み書きができる程度）を学んだ経験のある者を対象としている。

授業科目	基礎インドネシア語						
担当教員	塩谷もも						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M1010280
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>インドネシア語の初学者を対象とし、インドネシア語の基礎を身に付けることを目標とする。教科書に基づいて段階的に文法を学習しながら基本的な単語を修得していく。特に、日常会話について、インドネシア語でコミュニケーションがとれるようになることを目指し、発音練習や会話練習を積極的に行う。また、語学にあわせて、インドネシアの生活習慣などについても映像資料等を用いながら解説し、その内容を会話表現等に結びつけて解説を行なう。</p>
授業の到達目標	<p>(1) インドネシア語の発音を学び、文章を見て音読できるようになる。 (2) 基礎となる単語・文法を身につけ、自己紹介や簡単な会話をできるようになる。 (3) 語学とあわせて、インドネシアの文化や生活習慣について、理解できるようになる。</p>
授業計画	<p>第1回 インドネシア語の特徴と発音 第2回 1. 指示代名詞 第3回 2. あいさつ・3. 名詞の否定詞 第4回 4. 人称代名詞 第5回 5. 場所を示す前置詞 第6回 6. 動詞・形容詞の否定詞 第7回 1-6課の復習・まとめ 第8回 7. 疑問詞のつかない疑問文 第9回 8. 限定形容詞・所有格 第10回 9. 助動詞・語順 第11回 10. 時制 第12回 7-10課の復習・まとめ 第13回 11. 数字 第14回 12. 日付・曜日 第15回 13. 時間</p>
テキスト	舟田京子 2004 『やさしい初歩のインドネシア語』 南雲堂
参考文献	降幡正志 2014 『インドネシア語のしくみ』 白水社 村井 吉敬・佐伯 奈津子 (編) 2013 『現代インドネシアを知るための60章』 明石書店
評価方法	小テスト 40% 期末試験 60%
自己学習に関する指針	<p>(1) 基礎となる単語をしっかりと覚える。 (2) 新しい文法事項については、練習問題などを通じて身に付くよう努力する。</p>
履修上の指導・留意点	<p>(1) 積み上げが大事なので、単語と文法について、毎週しっかりと授業時間外にも復習すること。 (2) 出された課題は、必ず済ませてくること。</p>

授業科目	インドネシア語						
担当教員	塩谷もも						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M1010290
免許資格 関連事項							

授業の概要	「インドネシア語基礎」の受講者を対象とし、インドネシア語で簡単な会話ができるようになることを目標とする。教科書に基づき文法を学習しながら、接辞についても学んでいく。インドネシア語でコミュニケーションできるようになるため、「読む」「書く」「聞く」「話す」力を総合的に身に付けていく。また、語学にあわせてインドネシアの生活習慣などについても、映像資料等を用いながら解説し、語学への関心を深めつつ日常会話で使える表現を学習する。
授業の到達目標	(1) 接辞を身に付けることで辞書が引けて、簡単な文章を読むことができるようになる。 (2) 旅行の際に必要な基本的な表現を身につけ、活用できるようになる。 (3) 簡単な会話がインドネシア語でできるようになる。
授業計画	第1回 14. 疑問詞 第2回 15. 関係代名詞 第3回 16. 所有を表す語 第4回 14-16 課の復習・まとめ 第5回 21. 複数形・22. 副詞 第6回 23. 原級・比較級・最上級 第7回 24. 単純動詞・ber 動詞 第8回 25. me 動詞 第9回 21-25 課の復習・まとめ 第10回 26. 命令形 第11回 27. 受動態 第12回 28. me-kan 動詞 第13回 29. me-i 動詞 第14回 member 動詞 第15回 接頭辞・接尾辞
テキスト	舟田京子 2004 『やさしい初歩のインドネシア語』 南雲堂
参考文献	降幡正志 2014 『インドネシア語のしくみ』 白水社 村井 吉敬・佐伯 奈津子 (編) 2013 『現代インドネシアを知るための60章』 明石書店
評価方法	小テスト 40% 期末試験 60%
自己学習に関する指針	(1) 基礎となる単語をしっかりと覚える。 (2) 新しい文法事項については、練習問題などを通じて身に付くよう努力する。
履修上の指導・留意点	(1) 積み上げが大事なので、単語と文法について、毎週しっかりと授業時間外にも復習すること。 (2) 出された課題は、必ず済ませてくること。

# 【保 育 教 育 学 科】 学 科 目 录

授業科目	スタートアップセミナー						
担当教員	保育教育学科専任教員						
科目分類	学科基礎	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	必修	単位数	1	授業コード	M2010010
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい] 入学後の1年春学期に初年次教育としてのガイダンスを受け、保育教育学科学生としての学修姿勢、社会人基礎力を養う。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 4年間の学習に向かうために必要な保育教育学科学習課程について、カリキュラムと卒業までの道程、履修規程及び細則についてのガイダンス、学習案内、大学生活とキャリアなどの“基礎知識の習得”を目指す。また、情報倫理、書く技術等の基本的な知識と技能の獲得を通して本学における4年間（編入生は2年間）の学習意欲を高める。さらには卒業時に目指すべき取得免許・資格を検討し、専門職カリキュラムの全体を理解した上で履修モデルを選択する。また、キャンパス講習会によって、安全安心のための危機管理等の学習、人権学習を行い、社会人基礎力を養う。</p>
授業の到達目標	<p>(1) 履修規程及び履修細則を理解し、1年次秋学期に履修モデルを選択できる。</p> <p>(2) 情報倫理を身に付け、インターネットを含む多様な媒体の情報を正しく利用できる。</p> <p>(3) 学生としての危機管理、人権学習を行い、社会人基礎力を身に付ける。</p>
授業計画	<p>次の【講習】は、松江キャンパス全体で合同で行われる。日程は、過去の実績に基づくモデルである。全学講習の計画決定後、次の内容の日程・順序を変更することがある。</p> <p>第1回 学則・履修規程・履修細則と履修モデルの理解 1年春学期の履修登録（担任）</p> <p>第2回 保育教育学科の4年間の学びと実習・インターンシップのステップ（学科実習担当者）</p> <p>第3回 キャンパス講習会1：心と身体の健康（小村講師、手島主任看護師） 大講義室</p> <p>第4回 インターネット利用・メールマナー・コンプライアンス研修（学科教員）</p> <p>第5回 キャンパス講習会2：ネット被害・マルチ商法対策（島根県消費者センター） 大講義室</p> <p>第6回 松江キャンパス進路相談の進め方（合同※）（担任・教職センター・キャリアセンター）</p> <p>第7回 キャンパス講習会3：交通安全（松江警察署） 大講義室</p> <p>第8回 図書館利用の方法（合同※）（松江キャンパス図書館）</p> <p>第9回 キャンパス講習会4：防犯の心構えと護身術（松江警察署） 体育館アリーナ</p> <p>第10回 情報検索・レポートの書き方（学科教員）</p> <p>第11回 キャンパス講習会5：ブラックバイト対策（島根労働局） 大講義室</p> <p>第12回 情報検索・研究倫理・コンプライアンス研修（学科教員）</p> <p>第13回 キャンパス講習会6：人権セミナー（人権啓発推進センター） 大講義室</p> <p>第14回 情報検索の方法（松江キャンパス図書館） マルチメディア演習室</p> <p>第15回 4年間の学びと学生生活の設計（レポート課題）（担任）</p> <p>（「キャンパス講習会」は、松江キャンパス全1年生合同講習、「合同※」は、保育教育学科・保育学科1年生合同講習を示す。）</p>
テキスト	「学生便覧」「授業計画書」を参考資料として使用し、適宜、プリント資料を配布する。
参考文献	山田剛史・林創著『大学生のためのリサーチリテラシー入門』ミネルヴァ書房
評価方法	毎回の小テスト（30%）レポート課題（70%）
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	

授業科目	表現とコミュニケーション						
担当教員	園山土筆 有田幸 前村晴奈						
科目分類	専門科目	授業時間	15	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2010020
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p><b>【授業の目的】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会での「就業力」育成の準備段階として、対人関係を自ら構築するための土台をつくる。</li> </ul> <p><b>【授業概要】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・即興的な要素を含んだゲーム（インプロ）の体験によるワークショップ形式で行う。</li> <li>・少人数のグループに分かれ活動するため、個人個人の力に沿った学びができる。</li> </ul>
授業の到達目標	<p><b>【達成目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えや気持ちを言語化して伝えることができる。</li> <li>・自他の言動の「違い」について、なぜなのか、疑問に思い、更によく観察し考えることができる。</li> <li>・相手の言動を認め自らの問題点に気づくことのできる「批判的思考力」を身につける。</li> <li>・他者に指示されなくても、自ら状況判断し、まわりの人と協力して行動できる。</li> </ul>
授業計画	<p>「表現とコミュニケーション」力の育成 毎回の授業時間：月曜日 9：45～12：10（3時間）（体育館アリーナ） 各学生は上記授業を5回（3時間×5回＝15時間）体験する。 ゲーム（インプロ）の体験は、以下の6段階のステップで進められる。毎回、学びを言語化する。</p> <p>ステージⅠ：コミュニケーションについて理論学習と体験（ゲーム）学習を行う ステージⅡ：体の表現、声の表情などゲームを通して、実際にやってみる ステージⅢ：即興的なゲームを体験し、くりかえすことで自ら気づく機会をもつ ステージⅣ：まわりの仲間と協働できるゲームの体験を行う ステージⅤ：仲間と協力しあって、表現活動に挑戦してみる ステージⅥ：互いに「観ること」、「聴くこと」から学べたことを共有する</p> <p>第1回：履修生全員でオリエンテーション（3時間）ステージⅠⅡの体験 グループ分け（AとB）をして、第2回からは隔週の木曜日に受講する。</p> <p>第2回：Aグループ（1.5コマ）第2回目～ステージⅠⅡ 第3回：Bグループ（1.5コマ）第2回目～ステージⅠⅡ 第4回：Aグループ（1.5コマ）第3回目～ステージⅢⅣ 第5回：Bグループ（1.5コマ）第3回目～ステージⅢⅣ 第6回：Aグループ（1.5コマ）第4回目～ステージⅢⅣ 第7回：Bグループ（1.5コマ）第4回目～ステージⅢⅣ 第8回：Aグループ（1.5コマ）第5回目～ステージⅤⅥ 第9回：Bグループ（1.5コマ）第5回目～ステージⅤⅥ</p>
テキスト	必要に応じてプリントを配付する。
参考文献	特になし
評価方法	<p>日常の授業での体験・取組み（100%）。</p> <p>ただし、提出されたレポートを、評価の参考資料として考慮する。</p> <p>3名の担当講師により採点、評価する。</p>
自己学習に関する指針	生活体験の少なさと語彙の乏しさ等を自覚し、考えていることを言語化し、自ら問題点に気づくこと、まわりの人から学ぶ重要性を知ってほしい。
履修上の指導・留意点	<p>欠席なく参加してほしい。</p> <p>ポケットに入る小さなメモ帳と筆記具を毎回持参し、気づきを記載できるようにしてほしい。</p>

授業科目	キャリア・プランニング						
担当教員	保育教育学科専任教員・教職センター						
科目分類	学科基礎	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2010030
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい] 卒業後、社会の一員として生活していくための進路指導およびキャリア形成支援を目的とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 専門職・一般職に就職するために、職場に求められる人材や職業別の職務内容を理解し、就職試験に向けての対策ができるように講義・演習を通じて学生が主体的に学ぶ。また、自己のキャリア形成についての長期的視点も持ちつつ、卒業後、自分にとってよりよい進路を決定できるための準備をする。</p>
授業の到達目標	<p>(1) 社会人になることや働くことを自分のこととして認識できるようになる。</p> <p>(2) 自分の向き・不向きを自覚し、自分に合った職業を選ぶことができる。</p> <p>(3) 保育・教育の職場が求める人材や、社会・企業が求める人材について理解する。</p> <p>(4) 履歴書の書き方や面接の受け方など、就職活動に必要なスキルを身につける。</p>
授業計画	<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 毎回、以下のテーマによる講義、学生のグループ討議による演習、模擬面接などを行う。</p> <p>第1回 ガイダンス、さまざまな就職先の種類・特徴と就職試験について (学科教員・教職センター)</p> <p>第2回 保育・教育職の種類・特徴と就職試験について (学科教員・教職センター)</p> <p>第3回 保育士・幼稚園教諭の職務や採用試験とは(先輩・教職職員に聞く) (学科教員・教職センター)</p> <p>第4回 児童福祉施設職員の職務や採用試験とは(先輩・教職職員に聞く) (学科教員・教職センター)</p> <p>第5回 小学校教諭・特別支援学校教諭の職務や採用試験とは(先輩・教職職員に聞く) (学科教員・教職センター)</p> <p>第6回 就職試験対策1 (SPI 対策講座) (教職センター)</p> <p>第7回 就活アプローチ1 (マナー、電話・メール・手紙、敬語・身だしなみなど) (教職センター)</p> <p>第8回 就活アプローチ2 (自己分析と自己理解) (教職センター)</p> <p>第9回 就活アプローチ3 (履歴書の書き方、志望動機の書き方) (教職センター)</p> <p>第10回 就活アプローチ4 (面接対策) (教職センター)</p> <p>第11回 就職試験対策2 (模擬面接1) (教職センター)</p> <p>第12回 就職試験対策3 (模擬面接2) (教職センター)</p> <p>第13回 就職試験対策4 (集団討論1) (教職センター)</p> <p>第14回 就職試験対策5 (集団討論2) (教職センター)</p> <p>第15回 就職活動の方法、まとめ (学科教員・教職センター)</p>
テキスト	『就職活動の手引き』『Placement Support Book』などを使用する。適宜、参考資料などを紹介、配布する。
参考文献	
評価方法	成績は、小テスト評価(発表をよく聞き、積極的に参加できたか)50%、レポートおよび模擬面接(レポートの記述内容、模擬面接の準備や態度)50%をもとに評価する。なお選択科目となっているが、就職・進学いずれを希望する場合でも、2年生は全員履修する。
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	

授業科目	保育教育職インターンシップ						
担当教員	保育教育学科専任教員 教職センター						
科目分類	学科基礎	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2010040
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>保育や教育及び児童家庭福祉関連の職場となる保育所、幼稚園、認定こども園、小学校、特別支援学校、児童館、放課後児童クラブ、乳児院、児童養護施設、障害児入所施設、指定発達支援医療機関等において、学生が自ら就職したい職種での自主的なインターンシップ実習に取り組む機会を通して、保育者・教育者・ケアワーカー等としての基本的な資質や能力を高めることを目的とする。</p> <p>学生が自己の進路や就職先を見据えたインターンシップ実習を体験できるように実習計画を立案し、実習を行うための事務手続きを学生が主体となって進める。単独または複数の保育・教育・福祉（医療的現場も含む）の職場での90時間の実習を実施し、実習を通じて自己の成長を認識するとともに、その体験を通じて保育教育職に就く者及び児童福祉施設等でケアワーク等に従事する者としての自覚と態度を育成する。</p>
授業の到達目標	<p>(1) 自己の進路や就職先を視野に入れながら、保育所、幼稚園、認定こども園、小学校、特別支援学校、児童館、放課後児童クラブ、乳児院、児童養護施設、障害児入所施設、指定発達支援医療機関等において学生が自ら就職したい場所での自主的な実習を計画する。</p> <p>(2) 実習を行うための事務手続きを主体的に進め、インターンシップ実習の事前準備をする。</p> <p>(3) インターンシップ実習を行い、日々の実習について反省・省察する過程を通して自己の成長を認識し、保育者・教育者としての基本的な資質や</p>
授業計画	<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>90時間のインターンシップ実習の実施前後に実習指導を行うため、必ず出席する。</p> <p>授業のコマ数・実習計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>履修ガイダンス、インターンシップの手続きの説明</li> <li>実習事前指導(実習の心構えと実施上の注意、実習計画の作成)</li> <li>90時間の実習の実施、出勤簿の押印と提出</li> <li>実習事後指導(実習のまとめと実習を終えてのレポート課題の作成)</li> </ol>
テキスト	『実習の手引き』『保育教育職インターンシップ実施要領』を参考資料として使用し、適宜、プリント資料を配布する。
参考文献	
評価方法	成績は、90時間の実習の実施を証明する出勤簿、実習を終えてのレポート等を考慮して、総合的に評価する。
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	



授業科目	英語 I						
担当教員	小玉容子						
科目分類	学科基礎	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	必修	単位数	1	授業コード	M2010050
免許資格 関連事項	<p>○幼稚園教諭一種免許状《教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目》 ・外国語コミュニケーション</p> <p>○小学校教諭一種免許状《教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目》 ・外国語コミュニケーション</p> <p>○特別支援学校教諭一種免許状《教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目》 ・外国語コミュニケーション</p>						

授業の概要	<p>小学校教育・幼児教育の教員養成課程における英語コミュニケーション能力の養成を図る科目である。言語の学習を通し、異文化に対する理解を深めるとともに、積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。簡単な英語の情報を理解する力を育てる。</p>
授業の 到達目標	<p>(1) 子どもと日常的なコミュニケーションができる程度の英語力を習得する。 (2) 英語の歌を覚えて、振り付きで歌えるようになる。 (3) 簡単な英語絵本の読み聞かせができるようになる。</p>
授業計画	<p>第1回 ガイダンス、英語の歌、英語絵本などの紹介 第2回 保育の英語、保育英語検定試験3級レベルの英語「起きてから登園まで」 第3回 保育の英語、保育英語検定試験3級レベルの英語「絵本を読もう」、英語の歌 第4回 保育の英語、保育英語検定試験3級レベルの英語「お絵かき」、英語の歌 第5回 保育の英語、保育英語検定試験3級レベルの英語「ブランコと滑り台」、英語の歌 第6回 保育の英語、保育英語検定試験3級レベルの英語「砂場での遊び」、英語の歌 第7回 保育の英語、保育英語検定試験3級レベルの英語「お昼ごはん」、英語の歌 第8回 英語絵本の読み聞かせ練習 Brown Bear, Excuse me、英語の歌 第9回 英語絵本の読み聞かせ練習 Spot can Count, Where is Spot?、英語の歌 第10回 英語絵本の読み聞かせ練習 The Very Hungry Caterpillar、英語の歌 第11回 保育の英語、保育英語検定試験3級レベルの英語「トイレ・昼寝」、絵本 第12回 保育の英語、保育英語検定試験3級レベルの英語「体の部分の呼び方」、絵本 第13回 保育の英語、保育英語検定試験3級レベルの英語「楽器のなまえ」、絵本 第14回 保育の英語、保育英語検定試験3級レベルの英語「お昼ね、歯磨き」、絵本 第15回 保育の英語、保育英語検定試験3級レベルの英語「お帰りの時間」、絵本と歌 定期試験</p>
テキスト	なし
参考文献	授業中適宜紹介する
評価方法	<p>英語の歌の発表と絵本読み聞かせ発表 30%</p> <p>口頭試験 30%</p> <p>筆記試験 40%</p>
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	

授業科目	英語Ⅱ						
担当教員	小玉容子						
科目分類	学科基礎	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	必修	単位数	1	授業コード	M2010060
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭一種免許状《教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目》 ・外国語コミュニケーション ○小学校教諭一種免許状《教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目》 ・外国語コミュニケーション ○特別支援学校教諭一種免許状《教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目》 ・外国語コミュニケーション						

授業の概要	基礎的な英語力の定着を図り、4技能のバランスがとれた総合的な英語力を身に付け、日常的に必要な英語を使用することができるようになる。さらに、保育現場で必要とされる語彙や表現の基礎の習得を目指す。基本的な英会話力を身に付け、実践的な英語の歌や手遊びを通して、英語のリズムや発音を習得し、英語に親しむ。
授業の到達目標	(1) 小学校教育・幼児教育の現場で用いられる基本用語を理解できる。 (2) 英語を用いて児童生徒・幼児に適切な指示を与えることができる。 (3) 英語を用いて保護者への連絡を行うことができる。
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 園までの道順を教えよう、電話対応の仕方 第3回 園の説明と入園申込書の作成 第4回 自己紹介と持ち物チェック、持ち物を使ってチャンツ 第5回 天気と注意事項、天気の用語、注意事項の英語を使ってチャンツ 第6回 室内遊び：折り紙 第7回 室内遊び：絵本(Ten Little Monkeys, Guess Who?) 第8回 室内遊び：絵本(From Head to Toe, Mother Goose) 第9回 室内遊び：Hokey Pokey(歌とダンス) 第10回 室内遊び：The Itsy Bitsy Spider, Rock Paper Scissors(歌と手遊び) 第11回 屋外遊び：Hide and Seek, Game of Tag 第12回 屋外遊び：Field Trip (To the Zoo) 第13回 昼食の献立、様子を保護者に報告 第14回 病気や怪我の英語、体調について、 第15回 保護者への連絡帳の書き方例 定期試験
テキスト	なし
参考文献	授業中適宜紹介する
評価方法	口頭での表現試験 25% 歌、絵本の発表 25% 筆記試験 50%
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	

授業科目	アメリカ語学研修計画						
担当教員	ダスティン・キッド						
科目分類	学科基礎	授業時間	30	配当年次	1・2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M1030010
免許資格 関連事項							

授業の概要	アメリカ合衆国ワシントン州にあるセントラルワシントン大学で行われる語学研修の事前研修を行い、参加する学生に十分な準備ができる機会を与える。アメリカで元気で過ごすために必要な情報を伝え、学生が研修中で交流できるようにプレゼンテーションの準備もさせる。
授業の到達目標	授業テーマ：語学研修に参加する学生が一人ひとり、アメリカで有意義な時間を過ごせるため、そしてできる限りの英語学習と異文化交流ができるための準備。 到達目標：①自己紹介及びに個人の目標を英語で伝えるようになる、②グループに分かれてアメリカで発表するプレゼンテーションを完成させる、③研修に必要な知識を身に付ける。
授業計画	第1回 オリエンテーション、グループ分け、役割決定 第2回 グループプレゼンテーションの内容決定 第3回 研修プログラム歴史と狙い 第4回 出国・入国審査、税関について 第5回 荷物について(預かり荷物、持ち込み荷物など) 第6回 一回目のプレゼンテーション練習 第7回 旅行代理店の説明 第8回 アメリカのお金(特に硬貨)、チップのルール 第9回 アメリカの日常生活やマナーについて 第10回 ワシントン州とエレンズバーグ市の概要 第11回 二回目のプレゼンテーション練習 第12回 セントラルワシントン大学の概要、寮の生活 第13回 アンダーソン・ヘイ(企業訪問先)の紹介 第14回 行先の気候、体調管理 第15回 グループプレゼンテーション、結団式
テキスト	なし
参考文献	別途プリント配布
評価方法	・自己紹介と個人の目標の発表 - 40% ・グループプレゼンテーション - 40% ・取り組む態度 - 20%
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	

授業科目	アメリカ語学研修						
担当教員	ダスティン・キッド						
科目分類	学科基礎	授業時間	30	配当年次	1・2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M1030020
免許資格 関連事項							

授業の概要	Language & Culture の授業(3時間/平日)受講、現地大学生との交流、地元主要産業の牧草会社訪問、学長・副学長などとの交流会、日本や島根、大学等を紹介するプレゼンテーションの実施など。その他、地元の美術館・博物館訪問、ドイツ村観光、牧場での乗馬、大リーグ観戦等を通して、アメリカ文化を体験する。
授業の 到達目標	<p>・セントラルワシントン大学で、UESL が提供する約3週間の研修に参加する。語学・文化講座の受講、現地大学生との交流、企業訪問、文化体験などを通して、多文化社会アメリカについての理解を深めるとともに、英語でのコミュニケーション力の向上、および国際的視野の醸成を目的とする。</p> <p>[到達目標]</p> <p>①英語でのコミュニケーション能力を、授業の受講、現地での生活に十分なレベルまで向上させる。 ②アメリカでの学びや体験を説明できる。 ③主体的に英語学習に取り組み、異文化理解を深めようとする姿勢を身に付ける。</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、自己紹介 第2回 英会話(好き嫌い、やってみたいこと)、ワシントン州の地理 第3回 英会話(買い物)、開拓時代のアメリカ 第4回 英会話(道の訪ね方)、エレンズバーグ市の歴史 第5回 英会話(趣味)、エレンズバーグ市の散策、歴史館訪問 第6回 英会話(スポーツ)、シアトル市の名所と歴史 第7回 英会話(将来の夢)、レーニア山の自然 第8回 英会話(家族について)、アメリカの原住民の歴史と文化 第9回 英会話(応援の仕方)、アメリカの野球 第10回 英会話(故郷紹介)、乗馬の必要知識 第11回 英会話(大学生の生活)、ロズリン市の歴史と文化 第12回 英会話(アメリカの礼儀)、キティタスバレーの現在企業、地元の企業訪問 第13回 英会話(理想の生活)、レヴェンワース市の歴史とドイツとの関係 第14回 英会話(アメリカの思い出)、ギンコ化石森の歴史 第15回 英会話(別れのスピーチ)、川下りの注意点 課題レポート提出・研修報告発表</p>
テキスト	なし
参考文献	別途プリント配布
評価方法	事前研修への出席および事後のレポート提出と報告会実施：30% (大学での担当者が評価) 現地での研修：70% (UESL プログラム担当者・授業担当教員が、授業での学びやその他の研修への参加姿勢などを評価)
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	「アメリカ語学研修計画」の受講も必要

授業科目	情報機器の操作 I						
担当教員	飯塚由美						
科目分類	学科基礎	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	必修	単位数	1	授業コード	M2010070
免許資格 関連事項	<p>○幼稚園教諭一種免許状《教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目》 ・情報機器の操作</p> <p>○小学校教諭一種免許状《教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目》 ・情報機器の操作</p> <p>○特別支援学校教諭一種免許状《教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目》 ・情報機器の操作</p>						

授業の概要	情報機器を利用する能力と情報を扱う力（情報活用能力）の基礎を身につける。情報処理および情報通信技術の基礎を理解した上で、文章作成や表計算などの基本のアプリケーションの活用法やインターネットや電子メールの活用法、OSや周辺機器などの理解を深め、教育に必要な技術を実際に自分で操作しながら学ぶ。
授業の到達目標	教師や保育者に必要なコンピュータを含む情報社会に関する知識や技術の習得、ならびに教育の情報化（情報活用能力の育成の指導と授業や校務などへの情報機器活用）に対応するための情報リテラシーを習得することを到達目標とする。さまざまな情報の中から自分に必要な情報を主体的に選択・収集、処理・加工を行い、新たな情報として創造・発信できる能力の基礎を習得する。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション：大学の情報機器の使い方、システムの理解、授業概要</p> <p>第2回 情報セキュリティと情報倫理：情報モラル、社会への影響、教育における配慮</p> <p>第3回 情報検索と電子メール：Webの利用とメール操作、情報機器のしくみ</p> <p>第4回 基本のアプリケーションの利用：イラストや地図作成</p> <p>第5回 基本のアプリケーションの利用：写真入力と加工、デジタルカメラ、スキャナーの利用</p> <p>第6回 ワードプロソフトの利用：Wordの基本操作1（画面構成、ツールバー、文字入力の基本）</p> <p>第7回 ワードプロソフトの利用：Wordの基本操作2（簡単な文書作成、書式設定、図表挿入の基本）</p> <p>第8回 ワードプロソフトの利用：学年だよりを作ろう</p> <p>第9回 ワードプロソフトの利用：文集や新聞を作ろう</p> <p>第10回 表計算ソフトの利用：基本の表とグラフ（Excel）</p> <p>第11回 表計算ソフトの利用：関数と計算式</p> <p>第12回 表計算ソフトの利用：住所録、データベース作成</p> <p>第13回 プレゼンテーションソフトの理解：PowerPointの基本操作</p> <p>第14回 プレゼンテーションソフトの理解：発表と提示の仕方</p> <p>第15回 総括</p>
テキスト	なし
参考文献	島根県立大学情報ネットワークシステムの手引き
評価方法	成績は、課題レポートの提出（90%）、取り組む姿勢（10%、質問や発表など）を考慮し、総合的に評価する。
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	

授業科目	情報機器の操作Ⅱ						
担当教員	飯塚由美						
科目分類	学科基礎	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	必修	単位数	1	授業コード	M2010080
免許資格 関連事項	<p>○幼稚園教諭一種免許状≪教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目≫ ・情報機器の操作</p> <p>○小学校教諭一種免許状≪教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目≫ ・情報機器の操作</p> <p>○特別支援学校教諭一種免許状≪教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目≫ ・情報機器の操作</p>						

授業の概要	情報機器の操作Ⅰを踏まえ、情報機器を利用する能力と情報を扱う力(情報活用能力)をさらに高める。教育に必要なファイル管理、データベース作成、成績評価、集計方法、データの分析や加工、基本的アンケート調査の処理方法などの理解を深め、プレゼンテーションも含めた技術を実際に自分で操作しながら学ぶ。
授業の 到達目標	教師や保育者として必要なコンピュータを含む情報社会に関する知識や技術の習得、ならびに教育の情報化(情報活用能力の育成の指導と授業や校務などへの情報機器活用)に対応するための情報リテラシーを応用的に展開することを到達目標とする。成績評価、アンケート集計、データの整理と分析といった教育場で必要な情報処理を理解し、その技術を習得する。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション：情報機器の使い方とシステムの理解、授業概要</p> <p>第2回 ファイルについての知識と管理の方法：様々な保存形式と整理の仕方</p> <p>第3回 ファイルについての知識と管理の方法：文章や資料データの管理、データベース作成法</p> <p>第4回 教育に必要な基本統計の理解：統計の基礎理論、成績評価、集計方法</p> <p>第5回 データ分析と加工の方法：データ入力、加工(Excel および IBMSPSS 使用)</p> <p>第6回 データ分析と加工の方法：データの集計と整理、図表の作成方法</p> <p>第7回 データ分析と加工の方法：テキストや質的データの処理方法</p> <p>第8回 基本的なアンケートや質問紙調査法の理解：理論と方法</p> <p>第9回 基本的なアンケートや質問紙調査の実際：アンケートや質問紙の作成</p> <p>第10回 基本的なアンケートや質問紙調査の実際：データ入力、集計、整理</p> <p>第11回 基本的なアンケートや質問紙調査の実際：図表の作成</p> <p>第12回 報告書の作成 (Word)</p> <p>第13回 プレゼンテーションの実際：必要な資料の選定と加工、使用する情報機器の準備</p> <p>第14回 プレゼンテーションの実際：プレゼンテーションの作成</p> <p>第15回 プレゼンテーションの実際：自分でプレゼンしてみよう(発表)、総括</p>
テキスト	なし
参考文献	<p>すぐわかる統計用語の基礎知識 石村 貞夫著 東京図書</p> <p>SPSSによるアンケート分析 寺島拓幸・廣瀬毅士著 東京図書</p> <p>島根県立大学情報ネットワークシステムの手引き</p>
評価方法	成績は、課題レポートの提出(90%)、取り組む姿勢(10%、質問や発表など)を考慮し、総合的に評価する。
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	

授業科目	情報機器の操作Ⅲ						
担当教員	小倉佳代子						
科目分類	学科基礎	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2010090
免許資格 関連事項							

授業の概要	3年次春学期卒業研究準備段階の科目として、より高度な情報機器の操作による、課題研究・分析・プレゼンテーションの技法を学ぶ。具体的には、Microsoft Word を用い、DTP (Desk Top Publishing) に関する基礎的な知識と技術を修得し、効果的な研究企画書や報告書などが編集・制作できる力を、実習を通して身につける。またフィールド研究での動画収録と編集、web 上での情報共有・発信等、研究成果を上げるための効果的な ICT を修得する。
授業の到達目標	この授業では Microsoft Word での DTP の作成、プレゼンテーションに必要な動画編集や画像のデータ処理、Web サイトの利用と作成 (HTML) について学ぶ。研究成果の発表や、情報の作成・発信に必要な技能を修得することを目標とする。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション：情報機器の使い方、授業概要</p> <p>第2回 Microsoft Word：基本的な操作の確認</p> <p>第3回 Microsoft Word：レイアウト、ビジュアル表現</p> <p>第4回 Microsoft Word：データ作成の準備</p> <p>第5回 Microsoft Word：データ作成</p> <p>第6回 画像処理</p> <p>第7回 動画編集</p> <p>第8回 Microsoft PowerPoint：プレゼンテーションツール</p> <p>第9回 Microsoft PowerPoint：プレゼンテーション資料の活用</p> <p>第10回 Microsoft PowerPoint：資料作成、発表方法について</p> <p>第11回 Microsoft PowerPoint：資料作成</p> <p>第12回 インターネットコミュニケーション</p> <p>第13回 Web サイトの構成、HTML について</p> <p>第14回 Web サイトの作成</p> <p>第15回 総合演習</p>
テキスト	特になし
参考文献	「考える 伝える 分かちあう 情報活用力」 noa 出版 noa 出版著
評価方法	成績は、課題レポートの提出 (90%)、質問・発表の内容 (10%) を考慮し、総合的に評価する。
自己学習に関する指針	・ 修得した技術を授業外のレポートやデータ作成等で積極的に活用すること。
履修上の指導・留意点	・ ワードプロソフト、プレゼンテーションソフトの基本的な操作ができることを前提とする。

【保 育 教 育 學 科】  
專 門 基 幹 學 科 目



授業科目	表現研究(児童文化) I						
担当教員	福井一尊 矢島毅昌 梶間奈保						
科目分類	専門基幹	授業時間	60	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	必修	単位数	2	授業コード	M2020010
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭一種免許状《教科又は教職に関する科目》 ○保育士資格						

授業の概要	<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>保育内容「表現」「言葉」等の内容の体験的・総合的学修により、子ども向けの表現活動を理解するとともに、幼児への適切な指導方法を習得することを目的とする。保育内容の学修につながる「子どものための表現活動」について、具体的な創造活動を通して学ぶ。発表に向けて6回行う学内リハーサルで教員からの指導を受けるとともに、学生相互に改善点を伝え合うことを通して表現指導の方法を習得する。</p> <p>また学生の主体的な研究活動を取り入れ、その成果は、県下最大のホールを会場に、児童及びその保護者、教育関係者を対象に発表する。その結果を精緻に省察し表現指導の望ましいあり方について学修する。</p>
授業の到達目標	<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>(1) 保育内容「表現」「言葉」等の内容の体験的・総合的学修により、視覚的、聴覚的、身体感覚的な伝え方を理解する。</p> <p>(2) 児童文化財の種類について理解する</p> <p>(3) 学生相互に表現発表を見合うことを通して、子どもの表現を見る目を育む。</p> <p>(4) 幼児への表現指導の方法を考察する力を身に付ける。</p> <p>(5) 各種の集団活動を通して、教育・保育者としての自覚や態度を身につけ、求められるパートナーシップとフォロアーシップについて理解し、習得する。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>[授業の目的]</p>
授業計画	<p>第1回 子どもの表現活動の世界</p> <p>第2回 表現にかかわる資料収集・調査の方法</p> <p>第3回 表現にかかわる製作実技の方法</p> <p>第4回 幼児の表現遊び(物語、歌、言葉とともに)</p> <p>第5回 歌唱、演劇の発表と指導法</p> <p>第6回 影絵劇、手遊びの発表と指導法</p> <p>第7回 舞台表現の指導と省察</p> <p>第8回 児童文化財の現状について</p> <p>第9回 舞台表現と舞台製作の統合</p> <p>第10回 舞台発表のために</p> <p>第11回 一般公開による表現実践</p> <p>第12回 表現活動における集団としての総括的省察</p> <p>第13回 表現活動における保育者としての総括的省察</p> <p>第14回 子どもと児童文化財(指導法・言語表現、造形表現)</p> <p>第15回 子どもと児童文化財(指導法・身体表現、舞台表現)</p>
テキスト	無し 適宜資料を配布する。
参考文献	<p>文部科学省『幼稚園教育要領』 (<a href="http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/you/index.htm">http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/you/index.htm</a>)</p> <p>厚生労働省『保育所保育指針』 (<a href="http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/hoiku04/pdf/hoiku04a.pdf">http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/hoiku04/pdf/hoiku04a.pdf</a>)</p> <p>内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 (<a href="http://www8.cao.go.jp/shoushi/shinseido/law/kodomo3houan/pdf/seisyousei/h260430/c1-2-honbun.pdf">http://www8.cao.go.jp/shoushi/shinseido/law/kodomo3houan/pdf/seisyousei/h260430/c1-2-honbun.pdf</a>)</p> <p>小川清美編著『児童文化』 萌文書林</p>

	他授業中に適宜紹介する。
評価方法	授業レポートおよび提出物の内容、発表の内容から総合的に評価する。
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	

授業科目	表現研究(児童文化)Ⅱ						
担当教員	福井一尊 矢島毅昌 梶間奈保						
科目分類	専門基幹	授業時間	60	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	必修	単位数	2	授業コード	M2020020
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭一種免許状《教科又は教職に関する科目》 ○保育士資格						

授業の概要	<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>保育内容「表現」「言葉」等の内容の体験的・総合的学修により、子ども向けの表現活動を理解するとともに、幼児への適切な指導方法を習得することを目的とする。保育内容の学修につながる「子どものための表現活動」について、具体的な創造活動を通して学ぶ。発表に向けて6回行う学内リハーサルで教員からの指導を受けるとともに、学生相互に改善点を伝え合うことを通して表現指導の方法を習得する。</p> <p>「表現研究(児童文化)Ⅰ」の学修を踏まえて、2年次には集団の中でのリーダーシップを体験的に習得し、教育・保育者に必要な集団を統括し統率する力を養う。表現指導の望ましいあり方について企画の段階から学修する。</p>
授業の到達目標	<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>(1) 保育内容「表現」「言葉」等の内容の体験的・総合的学修により、視覚的、聴覚的、身体感覚的な伝え方を理解する。</p> <p>(2) 児童文化財の伝え方について理解する。</p> <p>(3) 学生相互に表現発表を見合い、意見を交わすことで幼児への表現指導の望ましいあり方を考察する力を身に付ける。</p> <p>(4) 上級生として学外公演活動を進めることで、集団の中でのリーダーシップを体験的に習得し、教育・保育者に必要な集団を統括し統率する力を養う。</p> <p>(5) 段階的な総括活動によって、自らの学びを省察する力を付ける。</p>
授業計画	<p>第1回 保育内容における領域「表現」とこの授業について</p> <p>第2回 表現にかかわる資料収集・調査の方法</p> <p>第3回 表現にかかわる製作実技の方法</p> <p>第4回 幼児の表現遊び(物語、歌、言葉とともに)</p> <p>第5回 歌唱、演劇の発表と指導法</p> <p>第6回 影絵劇、手遊びの発表と指導法</p> <p>第7回 舞台表現の指導と省察</p> <p>第8回 児童文化財を用いた子どもための表現活動</p> <p>第9回 舞台表現と舞台製作の統合</p> <p>第10回 子どものための舞台発表について</p> <p>第11回 一般公開による表現実践</p> <p>第12回 表現活動における集団としての総括的省察</p> <p>第13回 表現活動における保育者としての総括的省察</p> <p>第14回 幼児への表現指導のあり方(言語表現、造形表現)</p> <p>第15回 幼児への表現指導のあり方(身体表現、舞台表現)</p>
テキスト	無し 適宜資料を配布する。
参考文献	<p>文部科学省『幼稚園教育要領』 (<a href="http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/you/index.htm">http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/you/index.htm</a>)</p> <p>厚生労働省『保育所保育指針』 (<a href="http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/hoiku04/pdf/hoiku04a.pdf">http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/hoiku04/pdf/hoiku04a.pdf</a>)</p> <p>内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 (<a href="http://www8.cao.go.jp/shoushi/shinseido/law/kodomo3houan/pdf/seisyousei/h260430/c1-2-honbun.pdf">http://www8.cao.go.jp/shoushi/shinseido/law/kodomo3houan/pdf/seisyousei/h260430/c1-2-honbun.pdf</a>)</p> <p>川美恵子他編著『児童文化』皆 ならみ書房</p>

	他授業中に適宜紹介する。
評価方法	授業レポートおよび提出物の内容、発表の内容から総合的に評価する。
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	

授業科目	言葉研究（読み聞かせ実践）						
担当教員	中井悠加 岡本千佳子 尾崎智子 内田絢子						
科目分類	専門基幹	授業時間	60	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	演習	選択/必修	必修	単位数	2	授業コード	M2020030
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭一種免許状≪教職に関する科目≫ ・教育課程及び指導法に関する科目 [保育内容の指導法] ○保育士資格						

授業の概要	幼稚園教育要領及び保育所保育指針の「保育内容 言葉」、および小学校国語科における基礎的知識・態度を養う科目として、絵本の読み聞かせを通して、子どもと向き合いながら豊かに表現する力を養い、言葉の力に気づくことを目的とする。また、地域社会における児童文化の担い手として、地域の子どもたちに豊かな感性と想像力を養う言葉の世界と文化環境の場を提供していくため、学外での活動で子どもをはじめ様々な人との関わりを通して、一人の市民として立ち振る舞う自覚をもち、社会性とコミュニケーション能力の向上を図る。
授業の到達目標	(1) 子どもの言葉理解、絵本の読み聞かせにおけるコミュニケーションの発達段階について理解する。 (2) 保育環境と絵本による活動を結びつけて捉え、絵本を選定し保育に生かす力を身に付ける。 (3) 絵本の読み聞かせの技術を身に付け、発達段階にあわせた読み聞かせを体験的に修得する。 (4) 幼児期から小学校までの子どもの言葉の獲得を観る目を育てる。
授業計画	第1回 ガイダンス、「おはなしレストラン10カ条」による授業の目標と課題意識の明確化 第2回 班編成、読み聞かせの前提：絵本の分類と配架から学ぶ選定方法・提示方法 第3回 教材研究（国語科の視点に学ぶ作品解釈）：絵とことばの相互関係から読み解く 第4回 グループ練習：読み聞かせの技術（1）話法と表現技術 第5回 グループ練習：読み聞かせの技術（2）ページめくりと視線 第6回 読み聞かせ実践の指導計画立案と事前練習（1）：話法 第7回 話法に関する読み聞かせ実践 第8回 話法に関する読み聞かせの振り返り 第9回 読み聞かせ実践の指導計画立案と事前練習（2）：ページめくり 第10回 ページめくりに関する読み聞かせ実践 第11回 ページめくりに関する読み聞かせの振り返り 第12回 読み聞かせの指導計画立案と事前練習（3）：発達段階の違い-乳幼児期と学童期 第13回 発達段階の違いに着目した読み聞かせ実践 第14回 発達段階の違いに着目した読み聞かせの振り返り 第15回 グループディスカッション：読み聞かせ知識・技術の相互評価 定期試験
テキスト	「おはなしレストラン10カ条」「作品解釈ノート」「実践記録ノート」を適宜配付する。 絵本はおはなしレストランライブラリーの絵本を利用する。
参考文献	文部科学省『幼稚園教育要領』 ( <a href="http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/you/index.htm">http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/you/index.htm</a> ) 厚生労働省『保育所保育指針』 ( <a href="http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/hoiku04/pdf/hoiku04a.pdf">http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/hoiku04/pdf/hoiku04a.pdf</a> ) 内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 ( <a href="http://www8.cao.go.jp/shoushi/shinseido/law/kodomo3houan/pdf/seisyousei/h260430/c1-2-honbun.pdf">http://www8.cao.go.jp/shoushi/shinseido/law/kodomo3houan/pdf/seisyousei/h260430/c1-2-honbun.pdf</a> ) 文部科学省『小学校学習指導要領』第1節国語 ( <a href="http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/syo/koku.htm">http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/syo/koku.htm</a> )

人間文化学部・保育教育学科  
(平成 30 年入学生用)

評価方法	授業概要に関するコメントカードの内容(30%)、実践活動記録(自己評価シート)(40%)、期末課題(読み聞かせの基礎理論とよりよい読み聞かせ実践について:30%)とする。
自己学習に関する指針	「おはなしレストランライブラリー」に積極的に足を運び、絵本とともに過ごす時間を楽しんでください。
履修上の指導・留意点	◇授業時間以外の実践活動が入ります。 ◇活動用のおはなしレストラン専用ポロシャツ、絵本バッグの代金 3,000 円程度を徴収します。

授業科目	保育教育文献講読						
担当教員	山田洋平 牧瀬翔麻						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020040
免許資格 関連事項							

授業の概要	本授業では、保育・教育に関する文献の講読を通して、4年次の卒業研究での研究活動に不可欠な文献講読の基礎的なスキルを身につけることを目指す。具体的には、文献の検索・収集および選択、文献の内容理解と要約、文献講読に基づく発表資料の作成、討論の仕方について学習する。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究活動に不可欠な文献講読の仕方について理解する。</li> <li>・保育・教育に関する文献講読を主体的に取り組み、成果発表する。</li> <li>・卒業研究につながる研究課題を具体的に見出す。</li> </ul>
授業計画	第1回 授業の概要 第2回 文献の読み方、資料の収集方法、発表資料の作成方法について 第3回 文献講読、口頭発表および討論(1) 第4回 文献講読、口頭発表および討論(2) 第5回 文献講読、口頭発表および討論(3) 第6回 文献講読、口頭発表および討論(4) 第7回 文献講読、口頭発表および討論(5) 第8回 文献講読、口頭発表および討論(6) 第9回 文献講読、口頭発表および討論(7) 第10回 文献講読、口頭発表および討論(8) 第11回 文献講読、口頭発表および討論(9) 第12回 文献講読、口頭発表および討論(10) 第13回 文献講読、口頭発表および討論(11) 第14回 文献講読、口頭発表および討論(12) 第15回 授業のまとめ
テキスト	指定しない。適宜資料を配布する。
参考文献	指定しない。適宜紹介する。
評価方法	提出物(50%)、討論での積極性(50%)
自己学習に関する指針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業前に、必ず課題の文献を読んできてください。</li> <li>・発表担当者は、発表に向けた準備を積極的に行ってください。</li> </ul>
履修上の指導・留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・討論の質疑は積極的に参加してください。</li> <li>・質問は、授業時間内・研究室・e-mailで対応します。</li> </ul>

授業科目	心理・教育統計調査法 I						
担当教員	山田洋平						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020050
免許資格 関連事項							

授業の概要	本授業では、教育場面で活用できる心理統計の考え方を理解し、基礎的な統計手法を習得することを目指す。具体的には、データの種類、代表値、散布度、相関係数などの記述統計についての理解、および統計ソフトを用いた分析方法を学習する。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心理統計の考え方を理解することができる。</li> <li>・記述統計に関する基礎的な統計手法を理解することができる。</li> <li>・記述統計について統計ソフトを用いて分析することができる。</li> </ul>
授業計画	<p>第1回 授業の概要説明, 心理統計の必要性</p> <p>第2回 データの種類と度数分布 (1) データの種類について</p> <p>第3回 データの種類と度数分布 (2) 質的変数の度数分布について</p> <p>第4回 データの種類と度数分布 (3) 量的変数の度数分布について</p> <p>第5回 データの種類と度数分布 (4) まとめ</p> <p>第6回 代表値と散布度 (1) 代表値について</p> <p>第7回 代表値と散布度 (2) 標準偏差について</p> <p>第8回 代表値と散布度 (3) 範囲について</p> <p>第9回 代表値と散布度 (4) 変数の変換について</p> <p>第10回 代表値と散布度 (5) 偏差値について</p> <p>第11回 代表値と散布度 (6) まとめ</p> <p>第12回 相関係数と連関係数 (1) 共分散について</p> <p>第13回 相関係数と連関係数 (2) 相関係数について</p> <p>第14回 相関係数と連関係数 (3) 連関係数について</p> <p>第15回 まとめ</p>
テキスト	指定しない。適宜資料を配布する。
参考文献	指定しない。適宜紹介する。
評価方法	提出物 (50%), レポート (50%)
自己学習に関する指針	・配布資料および記載された参考文献を読み、復習に役立てる。
履修上の指導・留意点	・質問は、その内容に応じて、研究室・e-mail に対応する。



授業科目	心理・教育統計調査法Ⅱ						
担当教員	山田洋平						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020060
免許資格 関連事項							

授業の概要	「心理・教育統計調査法Ⅰ」に引き続き、教育場面で活用できる心理統計の考え方を理解し、基礎的な統計手法を習得することを目指す。本授業では、特に推定統計について取り上げる。具体的には、母集団と標本、推定と検定、t検定、分散分析についての理解、および統計ソフトを用いた分析方法を学習する。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・推定統計の考え方を理解することができる。</li> <li>・推定統計に関する基礎的な統計手法を理解することができる。</li> <li>・推定統計について統計ソフトを用いて分析することができる。</li> </ul>
授業計画	<p>第1回 授業の概要説明、推測統計の必要性</p> <p>第2回 母集団と標本(1) 母集団と標本について</p> <p>第3回 母集団と標本(2) 標本分布について</p> <p>第4回 母集団と標本(3) 確率変数について</p> <p>第5回 推定と検定(1) 帰無仮説と対立仮説について</p> <p>第6回 推定と検定(2) 検定の実際について</p> <p>第7回 推定と検定(3) カイ2乗検定について</p> <p>第8回 t検定(1) 対応のない場合のt検定について</p> <p>第9回 t検定(2) 対応のある場合のt検定について</p> <p>第10回 分散分析(1) 分散分析の考え方について</p> <p>第11回 分散分析(2) 一元配置の分散分析について</p> <p>第12回 分散分析(3) 2要因分散分析(被験者間計画)について</p> <p>第13回 分散分析(4) 2要因分散分析(被験者内計画)について</p> <p>第14回 分散分析(5) その他の分散分析について</p> <p>第15回 まとめ</p>
テキスト	指定しない。適宜資料を配布する。
参考文献	指定しない。適宜紹介する。
評価方法	提出物(50%)、レポート(50%)
自己学習に関する指針	・配布資料および記載された参考文献を読み、復習に役立てる。
履修上の指導・留意点	・「心理・教育統計調査法Ⅱ」(3年春学期)を履修していることが望ましい。

授業科目	卒業研究基礎演習						
担当教員	保育教育学科専任教員						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	演習	選択/必修	必修	単位数	2	授業コード	M2020070
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい] 4年次の卒業研究を目的として3年次からの研究室ごとの研究に参加し、研究の手法、理論、成果発表までを補助的に体験して、4年次卒業研究に活かすとともに、研究への課題意識を持つ。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 卒業時に現代の社会事象や諸課題を分析し、多面的に判断・考察して、課題解決に向けた論理的考察を卒業論文としてまとめ、言葉、文章、図表、身体表現等の的確な表現形式で、その成果を発表することができるように、4年次の研究室ごとの卒業研究指導に3年次から参加し、研究の手法、理論、成果発表までを補助的に体験して、4年次卒業研究に活かす。研究テーマごとにゼミに配属され、卒業研究グループの一員として研究手法とプロセスを体験的に学ぶ。</p>
授業の到達目標	<p>(1) 現代の社会事象や諸課題を分析し、多面的に判断・考察する姿勢を身に付ける。</p> <p>(2) 研究発表までの卒業研究に補助的に関わり、研究手法とプロセスを身に付ける。</p> <p>(3) 言葉、文章、図表、身体表現等の的確な表現形式による発表のあり方を身に付ける。</p>
授業計画	<p>4年次の卒業研究の秋学期の演習のうち、週1回分に参加するためコマ数は15回となる。配属決定後の毎回の進行は、参加する卒業研究の進行課程により異なる。</p> <p>第1回 保育教育学科4年学生の卒業研究、各研究室の取り組み発表（中間発表）</p> <p>第2回 保育教育学科3年学生の研究室配属、各研究テーマと進め方の紹介（各研究室）</p> <p>第3～14回 研究テーマの決定と各研究テーマ別の秋学期活動参加 配属決定後の毎回の進行は、参加する卒業研究の進行課程により異なる。</p> <p>第15回 研究のまとめ（レポート課題）</p>
テキスト	適宜プリント資料等を配布する。
参考文献	
評価方法	レポート課題（100%）
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	

授業科目	卒業研究						
担当教員	保育教育学科専任教員						
科目分類	専門基幹	授業時間	120	配当年次	4	配当期	通年
授業形態	演習	選択/必修	必修	単位数	4	授業コード	M2020080
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい] 3年次に卒業研究基礎演習で関わった卒業研究グループの研究の進展を目指し、ゼミ担当教員の指導の下、4年間の学修成果をとりまとめる。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 卒業時に現代の社会事象や諸課題を分析し、多面的に判断・考察して、課題解決に向けた論理的考察を卒業論文としてまとめ、言葉、文章、図表、身体表現等の的確な表現形式で、その成果を発表することができるように、各研究室ごとの少人数指導により、4年間の学修成果をとりまとめる。3年次に卒業研究基礎演習で関わった卒業研究グループの研究の進展を目指し、ゼミ担当教員の指導の下、研究テーマごとの専門研究に触れつつ研究の完成を目指す。</p>
授業の到達目標	<p>(1) 現代の社会事象や諸課題を分析し、多面的に判断・考察する。</p> <p>(2) 研究発表までの卒業研究を完成させ、研究手法とプロセスを身に付ける。</p> <p>(3) 課題解決に向けた論理的な思考により論文を完成させる。</p>
授業計画	<p>4年次の卒業研究は通年で週2回行われるためコマ数は春学期30回・秋学期30回となる。毎回の進行は、配属された研究室の卒業研究の進行課程により異なる。</p> <p>(春学期30回) 第1回 保育教育学科卒業研究、各研究テーマ別の年度活動計画 第2～30回 保育教育学科卒業研究 各研究テーマ別の春学期活動 毎回の進行は、参加する研究室の卒業研究グループにより異なる。</p> <p>(秋学期30回) 第1回 保育教育学科卒業研究、各研究室の取り組み発表(中間発表) 第2回 保育教育学科卒業研究、各研究室の取り組み発表のふりかえり 第3～30回 保育教育学科卒業研究 各研究テーマ別の秋学期活動 毎回の進行は、参加する研究室の卒業研究グループにより異なる。</p>
テキスト	適宜プリント資料等を配布する。
参考文献	
評価方法	卒業論文(発表を含む)(100%)
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	

授業科目	教職論(小・幼)						
担当教員	廣田佳彦 渡辺一弘						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	必修	単位数	2	授業コード	M2020090
免許資格 関連事項	<p>○幼稚園教諭一種免許状《教職に関する科目》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職の意義等に関する科目</li> <li>〔教職の意義及び教員の役割〕</li> <li>〔教員の職務内容(研修、服務及び身分保障等を含む)〕</li> <li>〔進路選択に資する各種の機会の提供等〕</li> </ul> <p>○小学校教諭一種免許状《教職に関する科目》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職の意義等に関する科目</li> <li>〔教職の意義及び教員の役割〕</li> <li>〔教員の職務内容(研修、服務及び身分保障等を含む)〕</li> <li>〔進路選択に資する各種の機会の提供等〕</li> </ul> <p>○保育士資格</p>						

授業の概要	教職の意義と教師・保育者の職務内容を理解し、小学校教諭・幼稚園教諭・保育士などに求められる資質や役割を知るための入門的授業である。教職の制度的位置づけを理解し、教師等の職務内容を講義やDVD視聴を通して学ぶことを目的とする。
授業の到達目標	<p>小学校・幼稚園の教員免許取得に必要な「教職の意義等に関する科目」及び保育士資格の取得に必要な「保育の本質・目的に関する科目」に対応する科目である。</p> <p>(1) 教職の意義や教師の身分、服務、研修などの教職制度を知り、教師や保育者として児童・幼児を指導・支援するための教員の役割や職務内容を理解する。</p> <p>(2) 小学校・幼稚園・保育所などで教師・保育者として家庭や地域と協働する視点を持ち、今日的な教育課題に対して自分なりの考えを持つ。</p>
授業計画	<p>【第1回～第8回：総論・小学校教諭】</p> <p>第1回 教職の制度的位置づけ、教諭の身分と服務 (担当：廣田)</p> <p>第2回 日本の教育制度等の変遷(小・幼・保) (担当：廣田)</p> <p>第3回 学校教育と幼児教育の教育目標・教育方法 (担当：廣田)</p> <p>第4回 小学校学習指導要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針の特色 (担当：廣田)</p> <p>第5回 小学校教諭の職務①教科指導・学習指導 (担当：廣田)</p> <p>第6回 小学校教諭の職務②教科外活動 (担当：廣田)</p> <p>第7回 小学校教諭の職務③学級経営、学校経営 (担当：廣田)</p> <p>第8回 小学校教諭の職務④生徒指導、保護者・地域との協働 (担当：廣田)</p> <p>【第9回～第15回：幼稚園教諭・保育士・総論】</p> <p>第9回 幼稚園教諭・保育士の職務①子ども理解、保護者支援 (担当：渡辺)</p> <p>第10回 幼稚園教諭・保育士の職務②遊びと生活 (担当：渡辺)</p> <p>第11回 幼稚園教諭・保育士の職務③環境による教育 (担当：渡辺)</p> <p>第12回 幼稚園教諭・保育士の職務④個別理解と集団理解 (担当：渡辺)</p> <p>第13回 教師・保育者の資質と適性、教職の専門性 (担当：渡辺)</p> <p>第14回 研修と教員評価・自己評価(目指す教師像・保育者像) (担当：渡辺)</p> <p>第15回 多様化する保育ニーズ、現代の教育課題 (担当：渡辺)</p> <p>定期試験</p>
テキスト	小学校学習指導要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針を参照する。
参考文献	授業の中で必要に応じてプリントなどを配布する。
評価方法	成績は、学期末試験(60%)演習課題(40%)から総合的に判断する。

自己学習に 関する指針	配布プリントを復習し、次の講義に備える。
履修上の 指導・留意点	毎回配布するプリントについて、自らの考えを整理する。

授業科目	教育原理 (小・幼)						
担当教員	廣田佳彦						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	必修	単位数	2	授業コード	M2020100
免許資格 関連事項	<p>○幼稚園教諭一種免許状《教職に関する科目》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育の基礎理論に関する科目</li> <li>〔教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想〕</li> </ul> <p>○小学校教諭一種免許状《教職に関する科目》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育の基礎理論に関する科目</li> <li>〔教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想〕</li> </ul> <p>○保育士資格</p>						

授業の概要	<p>そもそも教育とは何かについて、学生諸氏とともに考えていきたい。具体的には、西洋教育思想の歴史的展開をふまえて、人間観・子ども観・教育観そして教育の理念・目的について講述する。特に、現場におけるさまざまな問題を具体的に取り上げ、そしてその本質探究を契機に、幼児・児童・生徒へのわかりやすさについて考えを深めていく。</p>	
授業の到達目標	<p>小学校・幼稚園の教員免許取得に必要な「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」に対応する科目である。</p> <p>(1) 教育の理念ならびに意義、そして教育思想のながれをふまえて、発達、社会・文化・幼稚園教育・小学校教育、幼児・児童・生徒、学び、など教育に関する基本的事項を理解する。</p> <p>(2) 教育基本法、小学校学習指導要領および幼稚園教育要領をふまえて、現在の日本の教育・幼児教育のさまざまなことごとについて、関心・理解を深める。</p>	
授業計画	<p>第1回 教育の意義と目的</p> <p>第2回 西洋の人間観と教育1</p> <p>第3回 西洋の人間観と教育2</p> <p>第4回 西洋の人間観と教育3</p> <p>第5回 日本の人間観と教育1</p> <p>第6回 日本の人間観と教育2</p> <p>第7回 日本の人間観と教育3</p> <p>第8回 公教育としての学校教育1</p> <p>第9回 公教育としての学校教育2</p> <p>第10回 公教育としての学校教育3</p> <p>第11回 子どもの発達と理解</p> <p>第12回 子どもの権利と教育1</p> <p>第13回 子どもの権利と教育2</p> <p>第14回 教育と価値の問題1</p> <p>第15回 教育と価値の問題2</p> <p>定期試験</p>	<p>現代社会における教育・幼児教育の問題</p> <p>古代、中世、ルネッサンス</p> <p>近代社会の形成と公教育</p> <p>自然主義教育、功利主義教育、新教育運動</p> <p>近代日本の教育思想</p> <p>国家主義と公教育</p> <p>教育基本法</p> <p>成立と展開</p> <p>機能と可能性</p> <p>幼稚園教育と小学校教育</p> <p>特徴と課題</p> <p>子どもの権利条約</p> <p>教育権</p> <p>教育における日常の再考</p> <p>教育における自明の再考</p>
テキスト	<p>廣田佳彦、『教育の基本』、関西学院大学出版会、平成29年、およびプリント資料</p> <p>文部科学省『学習指導要領』</p>	文
参考文献	<p>ルソー『エミール』(今野一雄訳) 岩波文庫 など、その他は授業内にて紹介する。</p>	
評価方法	<p>学期末試験 (60%)、レポート (30%)、小作文 (10%)</p>	
自己学習に関する指針	<p>毎週テキストを復習し、次の講義に備える。</p>	
履修上の指導・留意点	<p>毎回配布するプリントについて、自らの考えを整理する。</p>	

授業科目	発達心理学 I						
担当教員	山下由紀恵						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	必修	単位数	2	授業コード	M2020110
免許資格 関連事項	<p>○幼稚園教諭一種免許状&lt;&lt;教職に関する科目&gt;&gt;</p> <p>・教育の基礎理論に関する科目 〔幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む）〕</p> <p>○小学校教諭一種免許状&lt;&lt;教職に関する科目&gt;&gt;</p> <p>・教育の基礎理論に関する科目 〔幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む）〕</p> <p>○保育士資格</p>						

授業の概要	<p>保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、および小学校学習指導要領に関わる子どもの発達の理解を目標として、(1) 児童期までの発達の規則性と里程標、(2) 情動と認知の発達メカニズムと発達段階、(3) 児童期以降の発達を支える乳幼児の遊び・生活体験、(4) 親子関係の発達と社会化の支援、について基本的な事項を講義する。生涯発達心理学の観点から発達段階の役割を理解し、初期経験による人間発達の可塑性、発達心理学の基礎を学ぶ。</p>
授業の到達目標	<p>(1) 胎児期から児童期までの発達心理学の基礎的研究を説明することができる。</p> <p>(2) 運動・手操作・社会性・生活習慣・言語の発達の規則性と里程標を説明することができる。</p> <p>(3) 情動と認知の発達段階理論を生涯発達心理学の観点で説明することができる。</p>
授業計画	<p>第1回 胎児期—遺伝と子宮内環境での発達</p> <p>第2回 新生児—新生児の認知能力</p> <p>第3回 乳児期の感覚・知覚の発達</p> <p>第4回 乳児期の認知発達—適応活動と発達</p> <p>第5回 運動の発達—運動の発達と認知発達の関係性</p> <p>第6回 気質—気質の発達と脳</p> <p>第7回 人間関係と自己—初期経験と予後</p> <p>第8回 幼児期の認知発達—模倣と象徴機能、遊び</p> <p>第9回 言語の発達—前言語期と言語の発達段階</p> <p>第10回 人間関係の発達—社会性の発達と生涯発達</p> <p>第11回 遊び・集団生活から学校生活へ</p> <p>第12回 児童期の認知発達—概念発達と記憶の発達</p> <p>第13回 児童期から青年期へ—社会認識の発達</p> <p>第14回 乳幼児期から児童期までの発達の障害</p> <p>第15回 発達スクリーニング法の基礎</p> <p>定期試験</p>
テキスト	高橋恵子・湯川良三・安藤寿康・秋山弘子編『発達科学入門2 胎児期～児童期』東京大学出版会
参考文献	<p>高橋恵子・湯川良三・安藤寿康・秋山弘子編『発達科学入門1 理論と方法』東京大学出版会</p> <p>高橋恵子・湯川良三・安藤寿康・秋山弘子編『発達科学入門3 青年期～後期高齢期』東京大学出版会</p> <p>バターワース&amp;ハリス著、村井潤一監訳『発達心理学の基本を学ぶ—人間発達の生物学的・文化的基盤—』ミネルヴァ書房</p> <p>その他、授業中に随時紹介する。</p>
評価方法	<p>達成目標(1)の評価：期末試験(30点)</p> <p>達成目標(2)の評価：期末試験(20点)</p> <p>達成目標(3)の評価：期末試験(20点)</p>

	授業内容理解の評価：授業レポート 10 回 (3 点×10=30 点)
自己学習に関する指針	参考文献等、合わせて積極的に読むことが望ましい。
履修上の指導・留意点	毎回の授業レポートで理解を確認する。



授業科目	発達心理学Ⅱ						
担当教員	山下由紀恵						
科目分類	専門基幹	授業時間	15	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2020120
免許資格 関連事項	<p>○幼稚園教諭一種免許状&lt;&lt;教職に関する科目&gt;&gt;</p> <p>・教育の基礎理論に関する科目 〔幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む）〕</p> <p>○小学校教諭一種免許状&lt;&lt;教職に関する科目&gt;&gt;</p> <p>・教育の基礎理論に関する科目 〔幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む）〕</p> <p>○保育士資格</p>						

授業の概要	<p>「発達心理学Ⅰ」で学んだ基礎的知識を踏まえて、家庭・地域社会と、保育所・幼稚園および小学校で、日々成長を遂げる子どもの発達について、保育教育専門職として正しく理解することを目標として、発達支援・発達臨床の基本を学ぶ。発達心理学および臨床発達心理学の理論から、子どもの発達の行動分析の基本を学び、生活と遊びを中心に見た子どもの発達における保育教育実践の意義と、専門職の実施する発達支援プログラムの役割を理解する。</p>
授業の到達目標	<p>(1) 子どもの発達に関わる要因を機能的に考察することができる。</p> <p>(2) 子どもの発達の障害の症状から、医学的・教育的分類名称をあげることができる。</p> <p>(3) 保育教育実践の中での個別の発達支援プログラムの意義を、発達の心理学的に説明することができる。</p>
授業計画	<p>第1回 発達を規定する要因（遺伝と環境）</p> <p>第2回 子どもの発達と初期経験</p> <p>第3回 早期発達における行動的適応・調整と学習の過程</p> <p>第4回 早期発達における模倣の機能・共感と社会的学習</p> <p>第5回 子どもの障害の医学的分類と教育的分類</p> <p>第6回 子どもの発達への早期介入の成果</p> <p>第7回 子どもの発達の行動分析と支援</p> <p>第8回 子どもの発達の支援と家庭・地域社会の役割</p> <p>定期試験</p>
テキスト	<p>テキストは使用せず、適宜プリント資料等を配布する。</p>
参考文献	<p>内山伊知郎・青山謙二郎・田中あゆみ編著『子どものこころを育む発達科学—発達の理解。問題解決・支援のために—』北大路書房</p> <p>ビジュー著、園山繁樹・根ヶ山俊介・山口薫訳『子どもの発達の行動分析（新訂訳）』二瓶社</p> <p>本郷一夫編『子どもの理解と支援のための発達アセスメント』有斐閣</p> <p>厚生労働省「疾病、傷害及び死因の統計分類」ICD-10（2013年版）準拠の内容例示表第5章 （<a href="http://www.mhlw.go.jp/toukei/sippe/">http://www.mhlw.go.jp/toukei/sippe/</a>）</p> <p>国立特別支援教育総合研究所「障害のある子どもの教育の広場」特別支援教育の基本的な考え方 （<a href="http://www.nise.go.jp/cms/13.html">http://www.nise.go.jp/cms/13.html</a>）</p>
評価方法	<p>達成目標(1)の評価：期末試験(30点)</p> <p>達成目標(2)の評価：期末試験(20点)</p> <p>達成目標(3)の評価：期末試験(20点)</p> <p>授業内容理解の評価：授業レポート5回(6点×5=30点)</p>

自己学習に 関する指針	参考文献を、合わせて積極的に読むことが望ましい。
履修上の 指導・留意点	毎回の授業レポートで理解を確認する。

授業科目	教育心理学 (小・幼)						
担当教員	山田洋平						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	必修	単位数	2	授業コード	M2020130
免許資格 関連事項	<p>○幼稚園教諭一種免許状&lt;&lt;教職に関する科目&gt;&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育の基礎理論に関する科目</li> <li>〔幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 (障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む)〕</li> </ul> <p>○小学校教諭一種免許状&lt;&lt;教職に関する科目&gt;&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育の基礎理論に関する科目</li> <li>〔幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 (障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む)〕</li> </ul>						

授業の概要	<p>本授業では、教育現場に限らない幅広い教育活動での活用が期待される心理的知見について紹介する。具体的には、学習や記憶のメカニズム、動機づけに関する学習および認知心理学、学級内での人間関係やリーダーシップ、集団の特性や学級経営に関する社会心理学、パーソナリティや知性、社会性を含む発達心理学などに関連する内容を扱う。そして、授業を通して獲得した知見から、教育現場での活用方法について考え、教育心理学の理解を深める。</p>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で取り上げた教育心理学の知識を理解することができる。</li> <li>・教育心理学の知識と教育現場での実践とのつながりを理解することができる。</li> <li>・教育心理学の知識を教育現場でどのように活用できるか、自分の考えを提案することができる。</li> </ul>
授業計画	<p>第1回 授業の概要説明、教育心理学とは何か、心身の発達と学習の過程について</p> <p>第2回 動機づけ (1) 動機づけについて</p> <p>第3回 動機づけ (2) 達成動機、学習性無力感について</p> <p>第4回 学習 (1) 条件づけ、観察学習、洞察学習について</p> <p>第5回 学習 (2) 記憶について</p> <p>第6回 知能 知能、思考、創造性について</p> <p>第7回 学習方法 様々な学習方法について</p> <p>第8回 学級集団 (1) 教師生徒関係、友人関係、学級雰囲気について</p> <p>第9回 学級集団 (2) いじめ、不登校、引きこもりについて</p> <p>第10回 パーソナリティ パーソナリティの形成と理論について</p> <p>第11回 社会性 (1) 向社会性、道徳性について</p> <p>第12回 社会性 (2) 自己概念、自尊感情、社会性の育成について</p> <p>第13回 教育評価 教育活動における評価の意味と方法について</p> <p>第14回 障害について (1) 障害のある幼児、児童及び生徒の心理教育アセスメントについて</p> <p>第15回 障害について (2) 障害のある幼児、児童及び生徒の支援の方法について</p> <p>定期試験</p>
テキスト	指定しない。適宜資料を配布する。
参考文献	指定しない。適宜紹介する。
評価方法	定期試験 (50%)、提出物 (50%)
自己学習に関する指針	・配布資料および記載された参考文献を読み、復習に役立てる。
履修上の指導・留意点	・授業中のグループワークには積極的に参加すること。

授業科目	障害児発達教育論						
担当教員	園山繁樹 山下由紀恵						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	必修	単位数	2	授業コード	M2020140
免許資格 関連事項	○特別支援学校教諭一種免許状《特別支援教育に関する科目》 ・特別支援教育の基礎理論に関する科目						

授業の概要	障害児の教育や発達支援についての理解を深めるために、まず障害児の教育の歴史、障害児の発達支援・教育に関する基礎理論、わが国の特別支援教育の制度と現状について解説する。次に、特別支援学校における教育や通常学級における特別支援教育について解説する。最後に、障害児者の権利や教育に関する主要な理念、条約、法律、関係機関との連携について解説する。
授業の 到達目標	(1) 障害児教育の歴史的変遷と現在の特別支援教育の制度について説明できる。 (2) 障害児の発達支援・教育に関する基礎理論を説明できる。 (3) 特別支援学校における教育の概要を説明できる。 (4) 障害者に関連する主な理念、条約、法律について理解する。
授業計画	第1回 特別支援教育の歴史的変遷 (担当：園山) 第2回 障害児の発達・教育に関する基礎理論1 (環境と学習) (担当：園山) 第3回 障害児の発達・教育に関する基礎理論2 (学習の理論と経験) (担当：園山) 第4回 日本の特別支援教育の制度と現状 (担当：園山) 第5回 特別支援学校における教育1 (知的障害教育、肢体不自由教育、病弱教育) (担当：園山) 第6回 特別支援学校における教育2 (視覚障害教育、聴覚障害教育) (担当：園山) 第7回 特別支援学校における教育3 (交流・共同教育、センター的機能) (担当：園山) 第8回 日本の特別支援教育と特別支援学校の役割 (担当：園山) 第9回 日本の特別支援教育と特別支援教室・通級指導教室の役割 (担当：園山) 第10回 特別支援教育とノーマリゼーションの展開 (担当：園山) 第11回 障害者に関連する条約と法律1 (障害者権利条約、障害者基本法) (担当：園山) 第12回 障害者に関連する条約と法律2 (障害者差別解消法、発達障害者支援法) (担当：園山) 第13回 特別支援教育と地域相談支援体制1 (関係機関との連携と早期介入) (担当：山下) 第14回 特別支援教育と地域相談支援体制2 (就学前相談と移行支援) (担当：山下) 第15回 総括討論 (障害児の発達支援・教育にとって大切なことは何か) (担当：園山) 定期試験
テキスト	・「特別支援教育の基礎理論〔第2版〕(講座 特別支援教育1)、斎藤佐和・四日市章編、教育出版
参考文献	・「特別支援学校学習指導要領解説 総則等編(幼稚園・小学部・中学部)」文部科学省、教育出版 ・「特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編(幼稚園・小学部・中学部・高等部)」文部科学省、海文堂出版 ・「改定第2版 通級による指導の手引 解説とQ&A」文部科学省、佐伯印刷 ・「ヘレン・ケラーはどうか教育されたか—サリバン先生の記録」、サリバン著、榎恭子訳、明治図書 ・「奇跡の人 ヘレン・ケラー自伝」、ヘレン・ケラー著、小倉慶郎訳、新潮文庫 ・「子どもの発達の行動分析(新訂訳)」、ビジュー著、園山繁樹・根ヶ山俊介・山口薫訳、二瓶社 ・「特別支援教育を創造するための教育学」、安藤隆男・中村満紀男編著、明石書店 ・「特別支援教育資料」、文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 ・「ノーマリゼーションの展開」、スミス,H.&ブラウン,H.著、中園康夫・小田兼三監訳、学苑社
評価方法	・レポート(3回分)=30% ・小テスト(2回分)=10% ・定期試験=60%

自己学習に 関する指針	・参考文献に記載した図書・資料を積極的に読むこと。 ・特別支援教育に関連する新聞記事等に目を通しておくこと。
履修上の 指導・留意点	・テキストを中心に授業を進め、随時、資料を配布します。 ・質問は受講生全員で共有するために、できるだけ授業中にしてください。

授業科目	インクルーシブ教育論						
担当教員	園山繁樹 宮崎英憲 小脇洋 Lamichhane Kamal						
科目分類	専門基幹	授業時間	15	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	必修	単位数	2	授業コード	M2020150
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい] インクルーシブ教育の理論・制度・方法・教育の実際について学び、就学前からのインクルーシブな保育・教育への課題意識を醸成する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 「障害児発達教育論」を踏まえて、インクルーシブ教育の理論・制度・方法・教育の実際について、オムニバスでの集中講義により、先駆的な取り組みについて学習する。通常学級、特別支援学級と通級指導教室、特別支援学校、地域医療・保健・福祉機関等の地域ネットワークを学び、就学前からのインクルーシブな保育・教育への課題意識を醸成する。また幅広い視野を持つことができるように、世界のインクルーシブ教育の状況や、障害当事者の視点からの解説も行う。それぞれの講義は地域専門職への公開授業とする。</p>
授業の到達目標	<p>(1) インクルーシブ教育の理念を理解する。 (2) インクルーシブ教育を推進する体制やネットワーク形成について理解する。 (3) 世界的な動向の中での日本の特別支援教育の推進について理解する。 (4) インクルーシブ教育に関する障害当事者の視点についての理解を深める。</p>
授業計画	<p>第1回 インクルーシブ教育の理念と歴史的変遷 (担当：園山) 第2回 特別支援教育とインクルーシブ教育 (担当：宮崎) 第3回 わが国のインクルーシブ教育の取り組み (担当：宮崎) 第4回 幼児期におけるインクルーシブ教育：統合保育の理念と実践 (担当：園山) 第5回 地域ネットワークに基づくインクルーシブ教育の基盤形成 (担当：小脇) 第6回 視覚障害当事者の体験から考えるインクルーシブ教育 (担当：カマル) 第7回 世界のインクルーシブ教育の現状と課題 (担当：カマル) 第8回 総括－インクルーシブ教育の課題について討論する (担当：カマル・園山) 定期試験</p>
テキスト	適宜プリント資料等を配布する。
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園山繁樹著『統合保育の方法論』相川書房</li> <li>・宮崎英憲著『特別支援教育への誘い』ジヤース教育新社</li> <li>・文部科学省「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）」</li> <li>・国立特別支援教育総合研究所『共に学び合うインクルーシブ教育構築に向けた児童生徒への配慮・指導事例－小・中学校で学修している障害のある児童生徒の12事例－』ジヤース教育新社</li> <li>・国立特別支援教育総合研究所「インクルーシブ教育システム構築支援データベース（インクルDB）」</li> <li>・宮本信也・園山繁樹・下泉秀夫・三隅輝見子著『発達障害のある子の理解と支援：子育て支援に今日から役立つ豊富な事例：ありのままの一人ひとりに向きあうために（第3版）』母子保健事業団</li> </ul>
評価方法	レポート3回分（30%） 定期試験（70%）
自己学習に関する指針	・参考文献に記載した図書・資料、並びに授業中に紹介した資料について、積極的に読むことが望ましい。
履修上の指導・留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・質問は受講生全員で共有するために、授業中に行うことを原則とする。</li> <li>・本授業は地域の専門職にも公開する予定である。</li> </ul>

授業科目	教育制度論(小・幼)						
担当教員	牧瀬翔麻						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	必修	単位数	2	授業コード	M2020160
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭一種免許状《教職に関する科目》 ・教育の基礎理論に関する科目(教育に関する社会的、制度的又は経営的事項) ○小学校教諭一種免許状《教職に関する科目》 ・教育の基礎理論に関する科目(教育に関する社会的、制度的又は経営的事項)						

授業の概要	1. 教育制度の基本原則を理解する。 2. 乳幼児期、児童期の教育制度を理解する。 3. 特別支援教育について理解する。 4. 教員制度を理解する。 5. 学校教育制度の課題を把握する。 教育制度は社会的に公認された体系として組織されている。教育制度の体系には、学校教育制度・社会教育制度・教育行政制度などが含まれるが、本授業では学校教育制度を中心に現状と課題を把握する。
授業の 到達目標	<b>【目的】</b> ・子どもの豊かな育ちや学びを支える現行の教育制度がどうなっているのかを知る ・なぜそうした制度が必要とされたのかその背景を理解する <b>【目標】</b> ・現行制度に至るまでどのように変化してきたのか、その影響はどうだったのかがわかる ・制度と保育者・教育者、保育・教育実践との関わりを理解し、制度改革について考えを深めることができる
授業計画	第1回 教育制度とは何か：公教育制度の成立、原理、改革について学ぶ 第2回 教育制度の目的：教育制度が保障する教育を受ける権利について学ぶ 第3回 学校制度：日本を中心に学校制度の成立および体系について学ぶ、海外の制度を知る 第4回 就学前教育に関する基本的な仕組み：幼稚園・保育所の制度について学ぶ 第5回 義務教育制度：義務教育段階の学校の目的・目標・制度改革について学ぶ 第6回 特別支援教育：特別支援教育の制度および近年の障害者支援の動向、制度変更を学ぶ 第7回 教員に関する制度：教員に関わる基本制度と教員をめぐる課題について学ぶ 第8回 学校経営と制度：学校の組織特性、学級、学年、自律的学校経営、学校改善等を学ぶ 第9回 児童生徒の問題行動と学校制度①：不登校と義務教育制度、教育機会確保法を学ぶ 第10回 児童生徒の問題行動と学校制度②：いじめと学校について考える 第11回 子どもの保護と学校制度：貧困や虐待など家庭の問題と学校教育について考える 第12回 幼児教育制度改革：近年の改革および今後の幼児教育の方向性について知る 第13回 教育行政と制度：教育行政の作用や教育委員会制度について学ぶ 第14回 学校・家庭・地域の連携：学校教育への保護者、地域住民のかかわりについて考える 第15回 学校教育の新しい動向：学校教育をめぐる制度・政策の最新動向について学ぶ
テキスト	内山絵美子・山田知代・坂田仰編『保育者・小学校教員のための教育制度論—この一冊で基礎から学ぶ』 教育開発研究所、2017。その他適宜資料等を配布する。
参考文献	・『教育小六法』(平成28年版)学陽書房などの教育法規集(出版社は問わない) ・小島弘道・勝野正章・平井貴美代著『学校づくりと学校経営』学文社、2016年
評価方法	授業内課題(40%)、レポート(60%)の結果をもとに評価する。
自己学習に 関する指針	授業中に紹介した参考文献を積極的に読むことが望ましい。

履修上の 指導・留意点	授業内でグループワーク等の活動を行います。積極的な発言を期待します。
----------------	------------------------------------



授業科目	保育原理						
担当教員	小山優子						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	必修	単位数	2	授業コード	M2020170
免許資格 関連事項	○保育士資格						

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい] 保育所保育指針に示されている保育の意義や保育の基本を踏まえ、保育の目的や目標、保育の内容と方法を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 保育の基礎・基本を学ぶ入門科目として、保育に必要な基本理念や考え方、方法を学ぶ。特に、保育の本質の理解と保育の内容・方法などの基本的視点を習得するとともに、子ども・家庭・地域をとりまく現状や保育者に求められる保育の現代的課題の理解を目指す。</p>
授業の到達目標	<p>(1) 乳幼児期の保育の目的や目標、保育者の役割や子ども理解の意義を説明できる。</p> <p>(2) 環境の意味や保育形態、保育の計画など、保育方法の基本を理解する。</p> <p>(3) 保育の歴史と 子ども・家庭・地域をとりまく現状や保育の現代的課題を理解する。</p>
授業計画	<p>毎回、以下のテーマに沿って講義形式により授業を進行する。</p> <p>第1回 保育を学ぶための基本的事項</p> <p>第2回 乳幼児期の教育とは</p> <p>第3回 保育施設（保育所・幼稚園・認定こども園）の種類と特徴</p> <p>第4回 日本の幼児教育の理念的・教育方法的特徴（遊びと生活）</p> <p>第5回 保育の思想と歴史の変遷（倉橋惣三の児童中心主義、欧米の教育思想など）</p> <p>第6回 基盤となる保育者の役割</p> <p>第7回 子ども理解とその方法</p> <p>第8回 環境の意味と環境構成</p> <p>第9回 保育の基本（保育所保育指針第1章総則の理解）</p> <p>第10回 保育の目的と目標</p> <p>第11回 「保育」の本質的な意味</p> <p>第12回 保護者支援と地域における子育て支援</p> <p>第13回 保育方法と保育形態</p> <p>第14回 保育の計画と実践・保育の評価（PDCAサイクルの理解）</p> <p>第15回 求められる様々な保育ニーズ、保育の現代的問題</p> <p>定期試験</p>
テキスト	<p>北野幸子・小山優子『乳幼児の教育保育課程論』建帛社, 1995 円</p> <p>厚生労働省『保育所保育指針〈平成 29 年告示〉』フレーベル館, 160 円</p> <p>文部科学省『幼稚園教育要領〈平成 29 年告示〉』フレーベル館, 160 円</p> <p>内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈平成 29 年告示〉』フレーベル館, 160 円</p>
参考文献	参考文献などは授業の中で適宜提示するとともに、必要に応じてプリントなどを配布する。
評価方法	成績は、学期末試験(55%)、レポート（演習シートと課題レポート）(45%)等を考慮して総合的に評価する。
自己学習に関する指針	保育所・幼稚園・認定こども園などの集団保育の場における基本原理を踏まえ、自分なりに理解を深めるためのレポートであるため、レポート課題にもしっかりと取り組むこと。
履修上の指導・留意点	授業時間内に仕上がらない課題は次の授業までに宿題として仕上げてくること。

授業科目	児童家庭福祉						
担当教員	藤原映久 宮下裕一						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	必修	単位数	2	授業コード	M2020180
免許資格 関連事項	○保育士資格						

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい] 児童と家庭の福祉を考える上で必要とされる基本的知識を習得するとともに、子どもと家庭に関わる各種の課題への支援のあり方を理解し、子どもの立場に立った支援を考えることができるようになる。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 児童家庭福祉の理念や歴史、関連する法体系、関連する機関や施設などの基礎的知識に加え、児童とその家庭を取り巻く現状、被虐待児を含む要保護児童の理解と支援、非行少年や障がい児の理解と支援等、現代社会が抱える児童家庭福祉の課題と支援について幅広く学ぶ。また、児童家庭福祉の根底に流れる児童の権利についても映像等を利用して考える。</p>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童と家庭の福祉を考える上で必要となる基礎的知識（理念、歴史、児童の人権等）について理解している。</li> <li>・児童家庭福祉の実際の実施体制について、法律や行財政、専門機関等と関連付けて理解している。</li> <li>・児童と家庭に関する課題（健全育成、障がい、非行、児童虐待等）の支援のあり方を理解した上で、子どもの立場に立った支援とは何かを考え、その内容を説明できる。</li> </ul>
授業計画	<p>第1回 現代の児童と家庭をめぐる状況（担当：宮下） 第2回 児童家庭福祉の理念と概念（担当：宮下） 第3回 児童家庭福祉の歴史の変遷（担当：宮下） 第4回 児童の人権擁護と家庭福祉（担当：宮下） 第5回 児童家庭福祉の制度と法体系（担当：宮下） 第6回 児童家庭福祉の行財政と実施機関（担当：宮下） 第7回 児童福祉施設及び児童家庭福祉の専門職（担当：宮下） 第8回 少子化と子育て支援（担当：藤原） 第9回 保育と子どもの健全育成（担当：藤原） 第10回 子どもの貧困とひとり親家庭への支援（担当：藤原） 第11回 障がいのある児童への支援（担当：藤原） 第12回 少年非行への支援（担当：藤原） 第13回 社会的養護について（担当：藤原） 第14回 児童虐待について（担当：藤原） 第15回 児童家庭福祉における相談援助（担当：藤原） 定期試験</p>
テキスト	松本園子・堀口美智子・森和子（2016）『子どもと家庭の福祉を学ぶ』、ななみ書房【2,400+税】
参考文献	必要に応じて紹介する。
評価方法	成績は、学期末試験（70%）、毎回の小テスト等（30%）により判断する。
自己学習に関する指針	テキストと配布資料で予習・復習を行うとともに、理解を深めるため、積極的に授業中に紹介する参考文献を読むこと。
履修上の指導・留意点	

授業科目	社会福祉概論						
担当教員	宮下裕一						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	必修	単位数	2	授業コード	M2020190
免許資格 関連事項	○保育士資格						

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい] 私たちの生活を支える社会福祉に関する基本的知識を得るとともに、日常生活を不安定化させる要因とその対処のありかたについて考察できるようになることを目的とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 社会福祉の概念・理念、歴史など、社会福祉の基礎的な学習から始まり、社会福祉の制度や児童家庭福祉、障害児(者)福祉、高齢者福祉といった分野別の福祉について学ぶ。これらの学習を通じて、社会福祉に関する基礎的な知識の理解と実践技術を習得する。社会福祉の歴史をたどりながら、理念や価値が社会の成熟や人間観の深まりと相まって発展し、制度として成立してきたことを学習しつつ、今後の社会福祉の動向と課題を考察する。少子高齢社会の進展から、社会保障・社会福祉制度に対するニーズが高まっているものの、制度上の矛盾や限界もあることをあわせ理解する。</p>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉の意義を歴史の変遷との関わりで説明できるようになる。</li> <li>・対象・分野別の社会福祉制度や実施体制等、また相談援助や利用者保護の仕組みについて説明できるようになる。</li> <li>・社会福祉の動向と課題について理解し、考察できるようになる。</li> </ul>
授業計画	<p>第1回 社会福祉をめぐる状況 第2回 社会福祉の理念と概念 第3回 社会福祉の歴史の変遷 第4回 社会福祉の仕組み(制度と法体系) 第5回 社会福祉の仕組み(行財政と実施機関、施設) 第6回 社会福祉と社会保障の関係 第7回 社会保障と関連制度 第8回 低所得者の福祉について 第9回 児童家庭福祉について 第10回 障害者福祉について 第11回 高齢者福祉について 第12回 地域福祉について 第13回 社会福祉における相談援助 第14回 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組み 第15回 社会福祉の動向と課題 定期試験</p>
テキスト	相澤譲治編『保育士を目指す人の社会福祉』、みらい(2,000円+税)
参考文献	必要に応じて紹介する。
評価方法	レポート提出(30%)、期末筆記試験(70%)で評価を行う。
自己学習に関する指針	<p>授業前に、テキストの該当箇所を読んでおくこと。 授業後は、テキストや配布資料等を用いて復習をすること。</p>
履修上の指導・留意点	質問は、その内容に応じて、授業時間中・研究室・e-mailで対応します。

授業科目	社会的養護						
担当教員	藤原映久						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	必修	単位数	2	授業コード	M2020200
免許資格 関連事項	○保育士資格						

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい] 社会的養護に関する基礎的知識とその実態、社会的養護が生じる主な要因である児童虐待、要保護児童の支援に関する理念と技術、社会的養護の今日的課題について理解するとともに、それぞれを関連付け、社会的養護に関する知識体系の骨格を作る。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 社会的養護の理念、歴史、児童の権利など社会的養護の概念を理解するために必要な基礎的知識を学んだうえで、社会的養護を支える制度、法律、体系、専門職について取り上げる。また、社会的養護が必要となる主因の一つである児童虐待について、基礎的知識からその発生予防及び再発防止と治療的関わりまでを学んだうえで、要保護児童全般に対する養育・支援に関して、ソーシャルワークの原理と実践技術について学ぶ。さらに、社会的養護における今日的な課題として、被措置児童等虐待の防止及び地域福祉についても考える。</p>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的養護の概念を理解するための基礎的知識（理念、歴史など）及び社会的養護を支える実態（制度、法律など）に関する知識を習得する。</li> <li>・児童虐待について、定義などの基礎的知識から予防・介入などの実践方法までの概要を理解し、説明できる。</li> <li>・要保護児童に対する養育・支援の原理及び実践技術（ソーシャルワーク）の概要を理解し、説明できる。</li> <li>・社会的養護における今日的課題である「被措置児童等虐待の防止」と「地域福祉による関わり」について、問題意識をもって考えることができる。</li> </ul>
授業計画	<p>第1回 社会的養護とは何か（その理念）</p> <p>第2回 社会的養護の歴史</p> <p>第3回 社会的養護の背景</p> <p>第4回 社会的養護と児童の権利</p> <p>第5回 社会的養護を支える制度と法律</p> <p>第6回 社会的養護と施設養護</p> <p>第7回 社会的養護と家庭養護</p> <p>第8回 社会的養護を担う専門職とその実践</p> <p>第9回 児童虐待に関する基礎的知識（定義、現状、背景、影響）</p> <p>第10回 児童虐待の発生予防</p> <p>第11回 児童虐待への介入、治療的関わり</p> <p>第12回 社会的養護における子どもの養育・支援の原理と実際</p> <p>第13回 社会的養護におけるソーシャルワーク</p> <p>第14回 被措置児童等虐待とその防止</p> <p>第15回 社会的養護と地域福祉（現状と課題）</p> <p>定期試験</p>
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>●相澤仁・林裕康 編集『基本保育シリーズ 社会的養護』、中央法規【2000円+税】</li> <li>●毎回の授業に用いる資料を別途配布する。</li> </ul>
参考文献	必要に応じて授業の中で紹介する。
評価方法	期末試験またはレポート（70%）、各回における課題及び提出物（30%）
自己学習に関する指針	テキストと配布資料で予習・復習を行うとともに、理解を深めるため、積極的に授業中に紹介する参考文献を読むこと。
履修上の指導・留意点	

授業科目	教育課程論(小・幼)						
担当教員	小山優子						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	必修	単位数	2	授業コード	M2020210
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭一種免許状<<教職に関する科目>> ・教育課程及び指導法に関する科目(教育課程の意義及び編成の方法) ○小学校教諭一種免許状<<教職に関する科目>> ・教育課程及び指導法に関する科目(教育課程の意義及び編成の方法) ○保育士資格						

授業の概要	<p>小学校・幼稚園の教員免許取得に必要な「教育課程及び指導法に関する科目」及び保育士資格の取得に必要な「保育の内容・方法に関する科目」に対応する科目である。教職の基礎となる教育課程の基本的な考え方や編成の原理を理解し、小学校・幼稚園・保育所で編成される教育課程・保育課程や実際の指導計画を踏まえ、教育課程や指導計画の編成・作成方法を学ぶことを目的とする。また記録の取り方、子どもの評価や保育者自身の自己評価の方法について学び、保育実践の質向上のプロセスを学ぶ。</p>
授業の到達目標	<p>(1) 教育課程の意義及び編成方法に関する理解を深め、小学校学習指導要領・幼稚園教育要領・保育所保育指針の位置づけや変遷、特徴を理解する。          (2) 小学校や幼稚園・保育所における教育課程・保育課程の具体的展開を知り、授業開発や保育の展開を想定した学習指導案・指導計画の作成の視点を身につける。</p>
授業計画	<p>第1回：教育課程・保育課程とは、教育課程編成の意義          第2回：教育目的・教育目標と教育課程編成          第3回：教育方法・学習形態と教育課程編成          第4回：教育課程とカリキュラム          第5回：小学校学習指導要領の性格と変遷          第6回：幼稚園教育要領・保育所保育指針の性格と変遷          第7回：小学校における教育課程の実際          第8回：小学校における「総合的な学習の時間」の教育課程          第9回：幼稚園・保育所における教育課程・保育課程の実際          第10回：小学校における単元指導計画          第11回：小学校における学習指導案          第12回：幼稚園・保育所における短期的な指導計画(部分指導案、日案、週案)          第13回：幼稚園・保育所における長期的な指導計画(月案・期間計画・年間計画)          第14回：小学校学習指導要領改定の要点と教育課程実施上の配慮事項          第15回：教育課程の経営と評価          定期試験</p>
テキスト	<p>原清治『学校教育課程論(第二版)』学文社、2005年          北野幸子・小山優子『乳幼児の教育保育課程論』建帛社、1995円          小学校学習指導要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針を参照する。</p>
参考文献	<p>参考文献などは授業の中で適宜提示するとともに、必要に応じてプリントなどを配布する。</p>
評価方法	<p>成績は、学期末試験(55%)、演習レポート(45%)等を考慮して総合的に評価する。</p>
自己学習に関する指針	<p>小学校教諭・幼稚園教諭・保育士に求められるカリキュラムを編成する力を身につけることが目標となるため、レポート課題などにも意欲的に取り組むこと。</p>
履修上の指導・留意点	<p>授業時間内に仕上がらない課題は次の授業までに宿題として仕上げてくること。</p>

授業科目	保育内容 健康						
担当教員	岸本強 高橋恵美子						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020220
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭一種免許状《教職に関する科目》 ・教育課程及び指導法に関する科目 [保育内容の指導法] ○保育士資格						

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい]          保育所保育指針や幼稚園教育要領、教育・保育要領の「健康」領域を理解し、子どもの健康な心と体を育てるために、子ども自ら多様な活動に意欲的に取り組み、健康で安全な生活をつくり出し、生活を営む力を身につけていく保育・教育のあり方を学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要]          運動遊びの実践的学習では、模擬保育を実践し、指導や援助の方法について理解を深める。また、健康・安全に関する内容では、子どもの基本的な生活習慣や安全への配慮、子どもの事故の対応について適切に指導・援助・処置ができるように学修する。</p>
授業の到達目標	<p>(1) 子どもの運動発達や基本的な生活習慣について理解する。</p> <p>(2) 多様な運動遊びの知識や技能を有し、年齢にあった運動遊びの援助や指導法を実践することができる。</p> <p>(3) 幼児への健康安全教育を理解する。</p>
授業計画	<p>第1回 保育指針・教育要領にみる、領域「健康」のねらいと内容(担当:岸本)</p> <p>第2回 子どもの体と運動の発達(担当:岸本)</p> <p>第3回 運動遊びの理論と指導法(指導案作成含む)(1) 運動遊び内容を中心として(担当:岸本)</p> <p>第4回 運動遊びの理論と指導法(指導案作成含む)(2) 保育者の観点を中心として(担当:岸本)</p> <p>第5回 運動遊びの実践と指導援助の検討(1) 走・リレー・鬼あそび(担当:岸本)</p> <p>第6回 運動遊びの実践と指導援助の検討(2) マット・跳び箱・平均台(担当:岸本)</p> <p>第7回 運動遊びの実践と指導援助の検討(3) ボール・フープ・棒(担当:岸本)</p> <p>第8回 運動遊びの実践と指導援助の検討(4) 縄や身近なものを使った運動あそび(担当:岸本)</p> <p>第9回 運動遊びの実践と指導援助の検討(5) 固定遊具、自然を利用した運動あそび(担当:岸本)</p> <p>第10回 子どもの基本的な生活習慣の形成 生活リズムと睡眠、食、排泄など(担当:高橋)</p> <p>第11回 子どもの健康(1) 子どもの健康とは(担当:高橋)</p> <p>第12回 子どもの健康(2) 歯磨き、感染症予防、紫外線対策など(担当:高橋)</p> <p>第13回 子どもの安全(1) 子どもの事故、事故とその処置(担当:高橋)</p> <p>第14回 子どもの安全(2) 安全への配慮と指導・援助(担当:高橋)</p> <p>第15回 子どもの健康に関する課題と展望 まとめ(担当:岸本)</p> <p>定期試験</p>
テキスト	<p>幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領          池田裕恵編『子どもの元気を取り戻す 保育内容「健康」』杏林書院、2011年、2000円 予定</p>
参考文献	必要に応じてプリントなどを配付
評価方法	演習課題(50%)、定期筆記試験(50%)
自己学習に関する指針	テキストや配付資料を参考にし、予習・復習を行うこと。
履修上の指導・留意点	実技授業では、運動に適した服装・靴を着用すること。

授業科目	保育内容 人間関係						
担当教員	矢島毅昌						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020230
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭一種免許状《教職に関する科目》 ・教育課程及び指導法に関する科目 [保育内容の指導法] ○保育士資格						

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい]          保育所保育指針や幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「人間関係」の内容を理解し、乳幼児期の人間関係の発達に必要な保育の指導法を身に付ける。</p> <p>[授業全体の内容の概要]          保育所保育指針や幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「人間関係」の内容に基づき、「環境を通して行われる保育」の原理をふまえ、乳幼児期の人間関係の発達についての知識を学び、人間関係の発達のために実践される保育内容の指導法を理論や実践事例から学ぶ。また、子どもの家庭や地域での生活をめぐる社会的な問題を考察することを通じて、子どもの人間関係の発達のために保育者が家庭や地域で担う役割とは何かを学ぶ。そして、授業で学んだ知識を総合して、子どもの人間関係を育む活動や保育指導案を考案する。</p>
授業の到達目標	<p>(1) 領域「人間関係」の内容に基づき、子どもの人間関係を育む保育のあり方を考え、そこでの保育者の役割や子どもへの援助・指導の方法を具体的に考えられるようになる。</p> <p>(2) 子どもの人間関係を踏まえた活動の考案や保育指導案の検討／作成ができるようになる。</p> <p>(3) 家庭や地域における子どもの人間関係をめぐる課題についての理解を深め、社会の子育て支援者としての保育者に求められる視点を身につける。</p>
授業計画	<p>第1回 領域「人間関係」について</p> <p>第2回 乳幼児期の自己と人間関係の発達</p> <p>第3回 保育における個の育ちと集団の育ち</p> <p>第4回 “気になる子ども”の人間関係</p> <p>第5回 大人—子ども間の人間関係と保育者の役割</p> <p>第6回 集団生活の中で育つ人間関係と保育者の役割</p> <p>第7回 遊びの中で育つ人間関係と保育者の役割</p> <p>第8回 人間関係を育む活動の考案：教材研究</p> <p>第9回 人間関係を育む活動の実践と評価</p> <p>第10回 発達過程に応じた保育の方法</p> <p>第11回 人間関係を育む保育指導案の作成</p> <p>第12回 模擬授業を通じた人間関係を育む保育の実践と検討</p> <p>第13回 家庭や地域における人間関係</p> <p>第14回 子どもの人間関係をめぐる社会問題</p> <p>第15回 授業のまとめ</p>
テキスト	<p>文部科学省・厚生労働省・内閣府編 2017, 『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』チャイルド本社。</p>
参考文献	<p>小田豊・奥野正義編著 2009, 『新 保育ライブラリ 保育の内容・方法を知る 保育内容 人間関係』北大路書房。</p> <p>無藤隆監修 2017, 『イラストたっぷり やさしく読み解く 幼保連携型認定こども園教育・保育要領ハンドブック』学研。</p> <p>無藤隆監修 2017, 『イラストたっぷり やさしく読み解く 幼稚園教育要領ハンドブック』学研。</p> <p>汐見幸幸監修 2017, 『イラストたっぷり やさしく読み解く 保育所保育指針ハンドブック』学研。</p> <p>その他、授業中に随時紹介する。</p>

評価方法	到達目標(1)の評価：期末課題(15%)、演習課題・小レポート(20%) 到達目標(2)の評価：期末課題(15%)、演習課題・小レポート(20%) 到達目標(3)の評価：期末課題(20%)、演習課題・小レポート(10%)
自己学習に関する指針	授業中に紹介した参考文献を適宜読んでおくことが望ましい。
履修上の指導・留意点	



授業科目	保育内容 環境						
担当教員	高橋泰道 山尾淳子						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020240
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭一種免許状《教職に関する科目》 ・教育課程及び指導法に関する科目 [保育内容の指導法] ○保育士資格						

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい] 「環境」にかかわる保育内容を理解すると共に、各年齢段階の設定保育や自由遊びの中での「環境」に関わる指導計画を立案したり、小学校教育への連続性をふまえた「環境」に関わる指導計画を立案したりすることができることをねらいとする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 幼稚園教育要領・保育所保育指針に記載されている領域「環境」をもとに、子どもと人・自然とのかわりを理解し、「探索意欲と好奇心を育てる」ための保育内容のあり方を学ぶ。子どもの興味・関心をひきつけ発達をうながす指導の工夫、小学校教育への連続性を学ぶ。 具体的には、自然素材を活用した遊びの指導案作成をグループごとに計画作成し、振り返り、改善案を考えるとというPDCA一連の学修過程を通して、保育における実践的能力を身につける授業を構想する。また、実際に自然素材を活用したものづくりや遊びを通して、素材研究を行う。</p>
授業の到達目標	<p>(1) 日課での「環境」にかかわる保育内容を説明することができる。</p> <p>(2) 各年齢段階の設定保育や自由遊びの中での「環境」に関わる指導計画を立案できる。</p> <p>(3) 小学校教育への連続性をふまえた「環境」に関わる指導計画を立案できる。</p>
授業計画	<p>第1回 乳幼児の遊びと領域「環境」 (担当：山尾)</p> <p>第2回 乳幼児期の探索意欲と好奇心を促す保育 (担当：山尾)</p> <p>第3回 身近な自然と身近な素材，原体験 (担当：高橋)</p> <p>第4回 身近な自然や素材を使った遊び①(空気や風) (担当：高橋)</p> <p>第5回 身近な自然や素材を使った遊び②(木の実や落ち葉，土) (担当：高橋)</p> <p>第6回 身近な自然や素材を使った遊び③(ゴムやおもりを使ったおもちゃ) (担当：高橋)</p> <p>第7回 身近な自然や素材を使った遊びづくり①(計画，製作) (担当：高橋)</p> <p>第8回 身近な自然や素材を使った遊びづくり②(製作，発表準備) (担当：高橋)</p> <p>第9回 製作課題の振り返り(グループ協議とまとめ) (担当：高橋)</p> <p>第10回 子どもと自然遊び(1) 実際の様子 (担当：山尾)</p> <p>第11回 子どもと自然遊び(2) 教材研究と指導案作り (担当：山尾)</p> <p>第12回 子どもの数量理解と保育教材研究と指導案作り (担当：山尾)</p> <p>第13回 指導案の発表：グループで指導案修正と授業プランの話し合い (担当：山尾)</p> <p>第14回 模擬授業(期末課題提出) (担当：山尾)</p> <p>第15回 期末課題の振り返り(グループ協議とまとめ) (担当：山尾)</p>
テキスト	上中 修編(2015)『保育実践に生かす保育内容「環境」』教育情報出版
参考文献	<p>文部科学省『幼稚園教育要領』，厚生労働省『保育所保育指針』，内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』</p> <p>武藤 隆監修 『事例で学ぶ保育内容 領域 環境』萌文書林出版社</p> <p>秋田喜代美・増田時枝・安見克夫 編 『新時代の保育双書 保育内容 「環境」』(株)みらい発行</p> <p>その他，授業中に随時紹介する。</p>
評価方法	<p>到達目標(1)(2)の評価：製作課題(40点)</p> <p>到達目標(1)(2)(3)の評価：期末課題(40点)</p> <p>授業内容理解の評価：授業レポート(高橋担当7回=10点・山尾担当8回=10点)</p>

自己学習に 関する指針	テキストや配布資料、およびレジメに記載された参考文献を読み、事前学修・事後学修に役立てる。
履修上の 指導・留意点	配布された資料はファイルして毎回持参すること。

授業科目	保育内容 言葉						
担当教員	中井悠加						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020250
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭一種免許状《教職に関する科目》 ・教育課程及び指導法に関する科目 [保育内容の指導法] ○保育士資格						

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい]                  保育所保育指針や幼稚園教育要領に記載される領域「言葉」をもとに、乳幼児期の言葉の発達についての知識、集団生活や遊びを通じて言葉を育む上での保育者の役割、児童文化財の特徴や活用方法をはじめとした、保育における子どもの言葉の育ちについて学ぶ。                  保育実践事例の考察を通じて、言葉の発達が様々な人や環境と関わる生活の中で達成されるという特徴を理解する。また、言葉への興味・関心を高める保育環境の活用および構成方法について学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要]                  幼稚園教育要領と保育所保育指針における領域「言葉」の内容に基づき、「環境を通して行われる保育」の原理をふまえ、乳幼児期の言葉の発達についての知識、集団生活や遊びを通じて言葉を育むうえでの保育者の役割、小学校の国語教育との接続のあり方、児童文化財の特徴や活用方法など、子どもの言葉を育むために実践される保育内容の指導法を理論や実践事例から学ぶ。                  そして、授業で学んだ知識を総合して、子どもの言葉を育む活動や保育指導案を考案する。</p>
授業の到達目標	<p>(1) 領域「言葉」の内容に基づき、子どもの言葉を育む保育のあり方を考え、そこでの保育者の役割や子どもへの援助・指導の方法を具体的に考えられるようになる。</p> <p>(2) 子どもの言葉を育む活動の考案や保育指導案の検討/作成ができるようになる。</p> <p>(3) 小学校「国語」への接続のあり方など、子どもの言葉の育ちをめぐる課題についての理解を深め、保育者に求められる視点を身につける。</p>
授業計画	<p>第1回 領域「言葉」について                  第2回 乳幼児期の言葉の発達と保育                  第3回 子どもの言葉をどのように見るか                  第4回 言葉を「話すこと・聞くこと」と保育                  第5回 言葉を「読むこと・書くこと」と保育                  第6回 保育における絵本の活用：教材研究①                  第7回 保育における児童文化財の活用：教材研究②                  第8回 領域「言葉」と小学校「国語」との接続                  第9回 言葉を育む保育者の役割と保育環境                  第10回 言葉を育む活動の考案：保育指導案の作成①                  第11回 言葉を育む活動の検討：保育指導案の作成②                  第12回 言葉を育む活動の実践：模擬授業①                  第13回 言葉を育む活動の評価：模擬授業②                  第14回 言葉の育ちに関わる諸問題                  第15回 授業のまとめ</p>
テキスト	<p>内閣府・文部科学省・厚生労働省編 2014, 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針 (原本)』 チャイルド本社。                  小田豊・芦田宏編著 2009, 『新 保育ライブラリ 保育の内容・方法を知る 保育内容 言葉』 北大路書房。</p>
参考文献	<p>文部科学省編 2008, 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館。                  厚生労働省編 2008, 『保育所保育指針解説書』 フレーベル館。                  内閣府・文部科学省・厚生労働省編 2015, 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル</p>

	館。 その他、授業中に随時紹介する。
評価方法	到達目標(1)の評価：期末課題(15%)、演習課題・小レポート(20%) 到達目標(2)の評価：期末課題(15%)、演習課題・小レポート(20%) 到達目標(3)の評価：期末課題(20%)、演習課題・小レポート(10%)
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	

授業科目	保育内容 表現 I						
担当教員	福井一尊						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2020260
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭一種免許状《教職に関する科目》 ・教育課程及び指導法に関する科目 [保育内容の指導法] ○保育士資格						

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>(1) 子どもの立体造形活動の発達段階について理解する。          (2) 保育環境と造形表現活動を結びつけて捉え、制作する力をつける。          (3) 絵の具や筆などの正しい扱い方、与え方を体験的に修得する。          (4) 子どもの立体造形表現を観る目を育てる。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>これまでの「図画工作 I、II」における学びを基礎として、さらに幼児造形表現及びその指導についての考察を深めていく。「造形遊び」・「造形表現」の範囲、幼稚園教育要領及び保育所保育指針の中の「造形」の位置と意義及び歴史的経緯、造形表現指導の実際と課題、発達に即した援助の具体的な方法、子供の造形への発達の・特質的・心理的・造形(美)的アプローチなど、現場における指導に直結する内容を扱う。その際、常に制作を通して体験的に学んでいくことを重視し、豊かな人間性の基盤となる創造する喜び、造形(美術)を愛好する心情を養う。</p>
授業の到達目標	「授業の目的・ねらい」の(1)から(4)について全てを習得することを到達目標とする。
授業計画	第1回 保育内容表現(造形)について 第2回 立体造形表現について 第3回 画材実習 第4回 壁面装飾について 第5回 版画の版制作(ハサミを使って) 第6回 版画の版制作(のりを使って) 第7回 版画の刷り(インクを使って) 第8回 多種の紙素材について(教材研究) 第9回 生活空間と造形活動(教材研究) 第10回 教材としての粘土素材(教材研究) 第11回 粘土による立体造形表現(教材研究) 第12回 絵の具、ニス、筆の扱い方、与え方(指導案作成) 第13回 廃材の種類と造形活動について(指導案作成) 第14回 廃材による造形活動(模擬授業) 第15回 子どもの表現へのアプローチ 定期試験
テキスト	特になし(適宜資料を配布するので、保存用A4クリアファイルを準備すること。)
参考文献	文部科学省『幼稚園教育要領』 厚生労働省『保育所保育指針』 内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 『平田智久他編著 保育内容「表現」』ミネルヴァ書房 他授業の中で適宜紹介する。
評価方法	到達目標について、授業レポート40%、提出作品40%、定期試験20%を総合して評価する。

自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	

授業科目	保育内容 表現Ⅲ						
担当教員	梶間奈保 秦昌子						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2020270
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭一種免許状《教職に関する科目》 ・教育課程及び指導法に関する科目 [保育内容の指導法] ○保育士資格						

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい] この授業では、保育内「表現」の内容の理解を深めるとともに、表現に関する子どもの事例を通して子どもの表現の多様性を理解していく。また、音楽や身体表現に関わる事例を取り上げたり、保育現場での見学を踏まえて、子どもの表現について理解を深めていく。</p> <p>[授業全体の内容の概要] この授業では、保育内「表現」の内容の理解を深めるとともに、表現に関する子どもの事例を通して子どもの表現の多様性を理解していく。また、受講者自身が表現することの楽しさや面白さを実践的に学ぶために、表現あそびに取り組み現場実践へとつなげていく。子どもの事例では、日常生活から感じたりかんがえたりする中で生まれた表現に着目することを念頭におきながら、音楽や身体表現に関わる事例を取り上げたり、保育現場での見学を踏まえて、子どもの表現について理解を深めていく。授業の後半では、全半での学びを活かしてグループでの実践内容を考え教材研究をしていく。</p>
授業の到達目標	<p>保育内容「表現」の内容に基づき、子どもの音楽表現及び身体表現について事例や実践を通して理解することを目的とした科目である。</p> <p>(1) 様々な表現活動や他者の表現を通して表現の多様性を知り、自己表現力を高める (2) 子どもの多様な音楽表現について理解を深めることができる (3) 子どもの音楽的発達に沿った、表現活動の教材研究を考えることができる</p>
授業計画	<p>第1回 表現とは何か ― 領域「表現」の理解と位置づけ (担当：梶間)</p> <p>第2回 リズムを意識した音楽あそびと身体あそび (担当：梶間)</p> <p>第3回 身体表現を中心にした音楽あそびと子どもの事例 (担当：梶間)</p> <p>第4回 わらべうたであそぶ音楽あそびと子どもの事例 (担当：梶間)</p> <p>第5回 いろいろな音(自然や生活の中の音)を意識した遊びと子どもの事例 (担当：梶間)</p> <p>第6回 季節を意識した音楽遊びと子どもの事例(春・夏) (担当：秦)</p> <p>第7回 季節を意識した音楽遊びと子どもの事例(秋・冬) (担当：秦)</p> <p>第8回 手遊び・指遊び・遊び歌を中心とした音楽遊びの教材研究 (担当：秦)</p> <p>第9回 自分の音楽環境を考え、保育に生かす教材研究 (担当：秦)</p> <p>第10回 即興を楽しむ音楽遊びの教材研究 (担当：秦)</p> <p>第11回 音で伝えられるもの、音楽で伝えられることを考える (担当：秦)</p> <p>第12回 保育の中での歌遊び(保育の見学) (担当：秦)</p> <p>第13回 表現あそびの指導案の作成 (担当：梶間)</p> <p>第14回 表現あそびの指導案の作成と活動内容の模擬発表 (担当：梶間)</p> <p>第15回 まとめ (担当：梶間)</p> <p>定期試験</p>
テキスト	テキストは使用せず、適宜資料プリントを配布
参考文献	『音楽する子どもをつかまえない―実験研究者とフィールドワーカーの対話』小川容子, 今川恭子 共著 ふくろう出版 文部科学省『幼稚園教育要領』、厚生労働省『保育所保育指針』、内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』
評価方法	授業課題の取り組み状況や課題提出 (50%)、試験成績 (50%) により評価する

自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	



授業科目	保育内容総論 I						
担当教員	小山優子						
科目分類	専門基幹	授業時間	15	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2020280
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭一種免許状《教職に関する科目》 ・教育課程及び指導法に関する科目 [保育内容の指導法] ○保育士資格						

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい]          幼稚園の教員免許取得に必要な「教育課程及び指導法に関する科目」及び保育士資格の取得に必要な「保育の内容・方法に関する科目」に対応する科目である。幼稚園・保育所における5領域の保育内容を総合的に理解し、それを実際の保育に反映させるための原理を理解することを目的とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要]          保育内容について各領域を総合的に捉え、遊びや生活を基本とする保育の基本的な考え方を理解する。また、実際の保育実践に結びつく保育方法や保育計画との関連から保育内容を捉えるなど、保育内容の考え方を深める。</p>
授業の到達目標	<p>(1) 保育内容を総合的に捉え、遊びと生活を基盤とする保育のあり方について理解する。</p> <p>(2) 幼稚園教育要領や保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の全体を把握し、教育の5領域や養護のねらい・内容を総合的に理解する。</p> <p>(3) 保育内容と教育課程・保育課程と指導計画との関連を理解し、日々の保育の中で保育内容を深める方法を知る。</p>
授業計画	<p>毎回、以下のテーマに沿って講義、または学生のグループ討議による演習により授業を進行する。</p> <p>第1回 保育の目的・目標と保育内容、保育観と保育内容の歴史的変遷          第2回 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の総合的理解          第3回 子どもの遊びと生活、保育内容と子ども理解          第4回 保育における「ねらい」と「内容」の考え方、ねらいのたて方と教材研究          第5回 環境と保育内容、集まりの場を想定した部分指導案の作成          第6回 保育内容と「領域」の捉え方、教育の5領域と養護の理解、集まりの場を想定した模擬保育案の発表          第7回 家庭・地域・小学校との連携を考慮した保育内容、多様な保育ニーズ          第8回 保育内容とカリキュラム、教育課程・保育課程と指導計画（週案・月案）、設定保育の部分指導案の作成</p>
テキスト	<p>厚生労働省『保育所保育指針〈平成29年告示〉』フレーベル館, 160円          文部科学省『幼稚園教育要領〈平成29年告示〉』フレーベル館, 160円          内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈平成29年告示〉』フレーベル館, 160円</p>
参考文献	参考文献などは授業の中で適宜提示するとともに、必要に応じてプリントなどを配布する。
評価方法	成績は期末試験を実施せず、ワークシート(20%)と課題レポート(80%)を考慮して、総合的に評価する。
自己学習に関する指針	1年春学期の「保育原理」を踏まえ、保育内容を総合的に捉えた上での指導計画の立案につながる演習も含むため、レポート課題にしっかり取り組むこと。
履修上の指導・留意点	授業時間内に仕上がらない課題は次の授業までに宿題として仕上げてくること。

授業科目	初等国語科教育法（書写を含む）						
担当教員	中井悠加 福田哲之						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020290
免許資格 関連事項	○小学校教諭一種免許状≪教職に関する科目≫ ・教育課程及び指導法に関する科目 〔各教科の指導法〕						

授業の概要	国語科学習指導の目標と内容、方法、授業の構造、授業過程、指導計画など、小学校における国語科学習指導の全領域にわたってグループワーク、ディスカッションや最新の理論を取り入れた講義を行う。また、いくつかの教材を選んで、その教材を教えることを想定し、学習指導要領を踏まえて指導計画・指導案を作成し、模擬授業を行う。
授業の 到達目標	(1) 小学校における国語科学習指導の目標と内容、指導計画、学習指導法を理論的に理解する。 (2) 文部科学省の告示する学習指導要領をはじめ国語科教育に関する基礎的知識を身につける。 (3) 小学校教員に必要な国語力を身につけ、各学習活動の特色と指導法を体験的に修得する。
授業計画	第1回 国語科教育の前提(1)意義：小学校国語科教育の意義と目標（担当：中井） 第2回 国語科教育の前提(2)ねらい：小学校国語科教育のねらい（担当：中井） 第3回 学習指導要領の構成と内容：指導案作成・模擬授業に向けて（担当：中井） 第4回 「話すこと・聞くこと」の教材研究(1)基本：コミュニケーション能力の育成（担当：中井） 第5回 「話すこと・聞くこと」の教材研究(2)応用：自立した話し手・聞き手の育成（担当：中井） 第6回 「書くこと」の教材研究(1)再現的認識力：日記指導と評価（担当：中井） 第7回 「書くこと」の教材研究(2)論理的認識力：意見文指導と評価（担当：中井） 第8回 「書くこと」の教材研究(3)文学的認識力：創作指導と評価（担当：中井） 第9回 「読むこと」の教材研究(1)：音読・朗読の指導および学習指導案の構成（担当：中井） 第10回 「読むこと」の教材研究(2)：「説明的文章を読むこと」の指導（担当：中井） 第11回 「読むこと」の教材研究(3)：「文学的文章を読むこと」の指導（担当：中井） 第12回 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の教材研究(1)：言語文化と文字指導（担当：中井） 第13回 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の教材研究(2)：書写の基本構造（担当：福田） 第14回 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の教材研究(3)：書写の指導過程（担当：福田） 第15回 模擬授業実践と模擬授業の省察：学びのまとめ（担当：中井） 定期試験
テキスト	文部科学省『小学校学習指導要領解説 国語編』東洋館出版社
参考文献	全国大学国語教育学会『新たな時代を拓く小学校国語科教育研究』学芸図書株式会社
評価方法	各回で取り組む課題（グループワークやディスカッションおよびそれらの活動の省察）定期試験（学習指導要領の基礎知識、国語科における各学習内容の意義、学習指導要領を踏まえた指導計画作成）および授業態度等で総合的に評価する。割合は、定期試験50%、各課題30%、毎回の授業に関するコメントカードの内容10%である。
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	

授業科目	初等社会科教育法						
担当教員	加藤寿朗						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	4	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020300
免許資格 関連事項	○小学校教諭一種免許状《教職に関する科目》 ・教育課程及び指導法に関する科目 〔各教科の指導法〕						

授業の概要	社会科教育の理論と実践の考察を通して、すぐれた小学校社会科の授業を構想していく力量の育成を目指す。具体的には、社会認識と市民的資質の育成をはかる社会科授業理論について、多様な授業実践の分析・検討をもとに体系的かつ具体的に解説するとともに、受講生による学習指導案の作成を行い、その成果を模擬授業として発表・協議する。
授業の 到達目標	・社会認識と市民的資質の育成を目指す小学校社会科教育の代表的な社会科授業理論を理解する。 ・子ども理解にもとづく教材研究、単元構成、授業設計を行う社会科授業構想力を習得する。
授業計画	第1回 オリエンテーションー社会科は暗記教科かー 第2回 小学校社会科の目標と内容ー学習指導要領を読むー 第3回 小学校社会科のカリキュラムー生活科と社会科の接続・発展ー 第4回 小学校社会科の教材と授業ー社会科教科書を読み比べるー 第5回 問題解決学習としての社会科授業の理論と実際 第6回 探究学習としての社会科授業の理論と実際 第7回 意思決定学習としての社会科授業の理論と実際 第8回 社会参加学習としての社会科授業の理論と実際 第9回 社会科授業分析の技法 第10回 社会科授業づくりの4つの視点 第11回 社会科の指導内容と教材研究 第12回 社会科の発問と評価 第13回 社会科学習指導案の作成 第14回 社会科学習指導案の発表ー模擬授業①ー 第15回 社会科学習指導案の発表ー模擬授業②ー
テキスト	社会認識教育学会『小学校社会科教育』学術図書出版社 (ISBN978-4-7806-0177-0)
参考文献	文部科学省『小学校学習指導要領解説 社会編』東洋館出版 その他、授業中に適宜紹介する。
評価方法	提出物(報告書・ノート・学習指導案)で上記の到達目標をそれぞれ5段階で評価し、それを総合評価したものを60%、平常点を40%として評価する。
自己学習に 関する指針	配付資料及び授業中に紹介した文献等を活用し、復習に役立てる。
履修上の 指導・留意点	学習指導案作成に関わるフィールドワークは授業時間外に実施することがあります。

授業科目	初等算数科教育法						
担当教員	齊藤一弥						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020310
免許資格 関連事項	○小学校教諭一種免許状《教職に関する科目》 ・教育課程及び指導法に関する科目 〔各教科の指導法〕						

授業の概要	<p>教員として必要な小学校算数科の内容について、目標論・内容論・方法論・評価論という観点から、授業実践を基に考察する。そのため、我が国の算数教育の史的変遷及び諸外国の算数・数学教育の動向を基に、「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」領域に関する算数科の内容を理解すると共に、算数科の授業実践の在り方を考察・検討する。</p>
授業の到達目標	<p>授業のテーマ：「小学校算数科の内容と授業実践の在り方の理解」</p> <p>(1) 小学校算数科における「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」領域に関する算数科の内容を理解する。</p> <p>(2) 算数科の各領域における資質・能力の育成に向けた具体的授業実践を考察・検討する。</p>
授業計画	<p>第1回 算数教育の目標と変遷</p> <p>第2回 学習指導要領改訂の趣旨と算数教育</p> <p>第3回 数学的活動の意義と活動性</p> <p>第4回 数学的に考える資質・能力と数学的な見方・考え方</p> <p>第5回 学習指導要領における算数的活動の具体例と授業構成</p> <p>第6回 教材研究－「数と計算」領域の指導の背景①—整数と計算</p> <p>第7回 教材研究－「数と計算」領域の指導の背景②—小数・分数と計算</p> <p>第8回 教材研究－「図形」領域と「測定」領域の指導の背景</p> <p>第9回 教材研究－「変化と関係」領域と「データの活用」領域の指導の背景</p> <p>第10回 指導案作成－「数と計算」領域の指導の実際①—整数と計算</p> <p>第11回 指導案作成－「数と計算」領域の指導の実際②—小数・分数と計算</p> <p>第12回 指導案作成－「図形」領域と「測定」領域の指導の実際</p> <p>第13回 指導案作成－「変化と関係」領域と「データの活用」領域の指導の実際</p> <p>第14回 模擬授業－これからの算数教育—新学習指導要領のねらいと授業実践—</p> <p>第15回 模擬授業－算数教育における評価</p> <p>定期試験</p>
テキスト	「小学校学習指導要領解説 算数編」文部科学省
参考文献	授業中、随時、適切な資料を配布したり、紹介したりする。
評価方法	小テスト・定期試験：80%、レポート等：20%
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	

授業科目	初等理科教育法						
担当教員	高橋泰道						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020320
免許資格 関連事項	○小学校教諭一種免許状《教職に関する科目》 ・教育課程及び指導法に関する科目 〔各教科の指導法〕						

授業の概要	<p>小学校理科における学習内容について、自然科学の体系である物理・化学・生物・地学の内容系統に即した具体的な事物・現象を理解した上で、観察や実験などの自然科学的方法を通じた理科の授業を展開できる実践的な力を獲得する。また、実験器具の操作方法の習熟とその指導の方法、教材研究の方法、授業の設計や評価のために必要な理論と方法についても、模擬授業などにより実践的に理解を深める。具体的には、学習指導要領の変遷や理科の目標、内容の系統性について、また、学習指導要領改訂の背景や基本方針について学修する。また、理科の授業づくりに関わってのポイントを押さえる共に、それに基づいた学習指導案の作成及び、模擬授業を通して具体的な授業づくりについて学修する。</p>
授業の到達目標	<p>①小学校理科教育の目的、目標について理解することができる。 ②小学校理科教育の現状と課題、変遷、内容、方法、評価、理科授業を構成する条件等、理科学習指導に必要な基礎知識や指導技法について理解することができる。 ③理科学習指導に必要な基礎知識や指導技法を活用し、授業計画を構想することができる。 ④指導案作成に必要な情報を収集・分析・整理し、友だちのアドバイスを参考にしながら、指導案を作成することができる。</p>
授業計画	<p>第1回 小学校理科授業の現状（教師や子どもの実態） 第2回 小学校理科の学習指導要領の変遷 第3回 小学校理科教育の目標と見方・考え方 第4回 小学校理科教育で求める資質・能力 第5回 小学校理科の内容と系統性 第6回 小学校理科の内容と問題解決力 第7回 理科授業の指導法（問題解決過程） 第8回 理科授業の指導法（多様な学習形態、学習方法、ICT教育） 第9回 理科教育と環境教育、防災教育、ESD教育 第10回 学習指導案の書き方と作成 第11回 教材研究のあり方（地域素材の活用など） 第12回 学習指導案の発表と協議 第13回 模擬授業と協議の仕方 第14回 模擬授業と協議による振り返り 第15回 まとめ 定期試験</p>
テキスト	<p>文部科学省（2017）『小学校学習指導要領解説 理科編』 (<a href="http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/10/13/1387017_5.pdf">http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/10/13/1387017_5.pdf</a>) 左巻健男編（2018）『理科教育法』学文社 適宜プリントも配布する。</p>
参考文献	<p>和泉浩行・島根理科授業研究会編著（2015）『活用問題事例集』今井出版 その他、必要に応じて授業の中で紹介する</p>
評価方法	<p>授業レポート・提出物（40%）、指導案（10%）、期末試験（50%）などで総合的に評価する。</p>
自己学習に関する指針	<p>テキストや配布資料、およびレジュメに記載された参考文献を読み、事前学修・事後学修に役立てる。</p>

履修上の 指導・留意点	質問は、その内容に応じて、授業時間中・オフィスアワー・e-mail に対応します。
----------------	---

授業科目	初等生活科教育法						
担当教員	木村吉彦						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020330
免許資格 関連事項	○小学校教諭一種免許状《教職に関する科目》 ・教育課程及び指導法に関する科目 〔各教科の指導法〕						

授業の概要	小学校の教科「生活」について、実際の指導をどう考え、どう進めればよいのか、このことに迫ることを目標として講義と演習が展開される。実際の授業映像参観を経た後、学習指導案作りに取りかかる。生活科では、子ども理解の手法を大切に、単元や授業構想を具体化して学習指導案として実践できることを到達目標とする。
授業の 到達目標	・生活科の教材研究に基づく教科特性理解（体験及び学習に基づく） ・指導案作成に基づく模擬授業実践実現<人数によっては、教師役&子ども役になる可能性がある。時間設定も考える>
授業計画	第1回 イン트로ダクション・各自紹介<「生活科のめざすもの・生活科の思い出」記述> 第2回 教材研究：知ってますか？生活科の教科特性<NHK映像> 第3回 教材研究：生活科「体験」<大学生の学校探検> 第4回 教材研究：「体験」を通して学ぶ意味を考える<グループディスカッションⅠ> 第5回 生活科の実際Ⅰ<高志小の映像から学ぶ生活科の実践的教科特性> 第6回 生活科の実際Ⅱ<高志小学校の実践の意味付け> 第7回 生活科の実際Ⅲ<茅野市のスタートカリキュラムから学ぶ生活科の教科特性> 第8回 生活科の実際Ⅳ<大手町小のスタートカリキュラムから学ぶ生活科の教科特性> 第9回 私の生活科指導案づくり(1)<指導案作成への説明と単元設定> 第10回 私の生活科指導案づくり(2)<各自の指導案づくり> 第11回 私の生活科指導案づくり(3)<各自の指導案づくり・次回の模擬授業設定> 第12回 生活科模擬授業実施(1)<探検単元・遊び単元> 第13回 生活科模擬授業実施(2)<季節単元・飼育栽培単元> 第14回 生活科模擬授業実施(3)<家族単元・成長単元> 第15回 生活科模擬授業の意味付け<グループディスカッションⅡ>
テキスト	木村吉彦『生活科の理論と実践-「生きる力」をはぐくむ教育のあり方-』（日本文教出版）
参考文献	文部科学省『小学校学習指導要領解説 生活編』（日本文教出版） 木村吉彦監修・茅野市教育委員会編『実践 接続期カリキュラム』（ぎょうせい）
評価方法	レポート（生活科の教科特性理解）（60%）、模擬授業実践指導案（40%）
自己学習に 関する指針	・テキストや参考文献を読み、直接自己学習及び復習に役立てる。 ・グループディスカッションや模擬授業に向けての対応によって他者との関わりを重視し、「学び合い」を大切にする。
履修上の 指導・留意点	・毎回、授業の最後にミニレポート記述を行う。自分自身への振り返りも大切にする。

授業科目	初等音楽科教育法						
担当教員	梶間奈保 岡田正樹						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020340
免許資格 関連事項	○小学校教諭一種免許状《教職に関する科目》 ・教育課程及び指導法に関する科目 〔各教科の指導法〕						

授業の概要	この授業では、小学校学習指導要領音楽科の内容を理解するために、主に4つに分けた音楽授業（歌唱・器楽・鑑賞・創作）について教材研究を踏まえた上で実践検討をしていく。実践検討では、教材についての理解を始め、歌唱、鑑賞および演奏の実演も行った上で、教科の目標や観点についても学びを深めていく。授業の後半では、前半の学びを活かしながら授業実践発表に向けて指導案の作成をグループワークを通して検討していく。それらを模擬授業として発表し、授業のねらいや観点、評価などについて理解を深め、現場実践へとつなげていく。
授業の 到達目標	小学校学習指導要領音楽科の目標及び内容の理解を深め、音楽活動の実践を踏まえた上で音楽教育の基本的な姿勢を学ぶことを目的とする科目である。 (1) 初等音楽教育に関する目標、内容の理解 (2) 音楽活動の計画を立て実践性の高い指導案の作成および検討を行う (3) 音楽技能の向上および音楽表現や楽曲分析に対する視点を深める
授業計画	第1回 初等音楽科教育の概観と共通教材の理解 (担当：梶間) 第2回 歌唱教材研究「春の小川」「ふるさと」「わらべうた」など (担当：梶間) 第3回 歌唱教材研究の実践検討 (担当：梶間) 第4回 器楽教材研究 (担当：梶間) 第5回 器楽合奏のための編曲 (担当：梶間) 第6回 器楽合奏の実演 (担当：梶間) 第7回 鑑賞法教材研究 (担当：梶間) 第8回 鑑賞法の実践検討 (担当：梶間) 第9回 創造的音楽学習の概観及び教材研究 (担当：岡田) 第10回 創造的音楽学習の事例検討 (担当：岡田) 第11回 グループワーク①学習指導案の作成 (担当：岡田) 第12回 グループワーク②準備と練習 (担当：岡田) 第13回 各学年に応じた歌唱・鑑賞を中心とした模擬授業（学習指導案の発表）と評価 ①指導案について (担当：岡田) 第14回 各学年に応じた器楽・音楽づくりを中心とした模擬授業（学習指導案の発表）と評価②評価の観点について (担当：岡田) 第15回 まとめ (担当：岡田・梶間) 定期試験
テキスト	テキストは使用せず、適宜資料プリントを配布
参考文献	文部科学省『小学校学習指導要領』第6節音楽、文部科学省『小学校学習指導要領解説』音楽編
評価方法	授業課題の取り組み状況や課題提出（50%）、試験成績（50%）により評価する
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	



授業科目	初等図画工作科教育法						
担当教員	福井一尊 妻藤純子						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020350
免許資格 関連事項	○小学校教諭一種免許状《教職に関する科目》 ・教育課程及び指導法に関する科目 〔各教科の指導法〕						

授業の概要	小学校学習指導要領図画工作科の目標および内容について理解し、児童の主体性や個性を引き出す学習指導の方法や評価のあり方を学ぶ。図画工作科固有の性格や意義、内包する諸課題について理解するとともに、指導展開する力を身に付ける。また、「共通事項」についての考え方を理解することと、鑑賞学習の意義と具体的な指導展開の技術を身につける。さらに学習指導案を作成し、模擬授業を行ったり受けたりすることを通して授業の分析や実践力を養う。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職に就いたときに、自ら図画工作科の学習指導計画を立てる力を養う。</li> <li>・小学校における図画工作科の授業を実践していく力を身に付ける。</li> </ul>
授業計画	<p>第1回 図画工作教育の意義と目標 (担当：妻藤)</p> <p>第2回 図画工作科の内容と構成 (担当：妻藤)</p> <p>第3回 領域「A表現」(1)材料を基にした造形遊び 領域の特性と各学年の学習内容 (担当：福井)</p> <p>第4回 領域「A表現」(2)絵に表す 版に表す (担当：福井)</p> <p>第5回 領域「A表現」(3)立体に表す (担当：福井)</p> <p>第6回 領域「A表現」(4)工作に表す デザインに表す (担当：福井)</p> <p>第7回 領域「B鑑賞」領域の特性と各学年の学習内容 (担当：妻藤)</p> <p>第8回 子供の発達や学びの連続性 (担当：福井)</p> <p>第9回 図画工作科の評価 (担当：妻藤)</p> <p>第10回 「教材研究」図画工作科の材料、用具、技法について (担当：福井)</p> <p>第11回 学習指導計画および学習指導案の作成 (担当：妻藤)</p> <p>第12回 学習指導案の作成 題材と指導、支援 (担当：妻藤)</p> <p>第13回 模擬授業①「低学年の『造形遊び』、『絵や立体に表す』、『鑑賞』および授業分析 (担当：妻藤)</p> <p>第14回 模擬授業②「中学年の『造形遊び』、『絵や立体に表す』、『鑑賞』および授業分析 (担当：妻藤)</p> <p>第15回 模擬授業③「高学年の『造形遊び』、『絵や立体に表す』、『鑑賞』および授業分析 (担当：妻藤)</p>
テキスト	文部科学省『小学校学習指導要領』第7節図画工作、文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編』日本文教出版
参考文献	文部科学省『幼稚園教育要領』、厚生労働省『保育所保育指針』、内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 藤江充・岩崎由紀夫・水島尚樹『「図画工作科」指導法 理論と実践』日本文教出版 『図画工作科教科書』1年～6年 日本文教出版
評価方法	課題とする提出物(40%) 受講レポート(40%) 模擬授業および発表(20%)
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	

授業科目	初等家庭科教育法						
担当教員	多々納道子						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	4	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020360
免許資格 関連事項	○小学校教諭一種免許状《教職に関する科目》 ・教育課程及び指導法に関する科目 〔各教科の指導法〕						

授業の概要	この授業では、小学校家庭科授業を組み立てる知識・技術・方法を確実に習得するため、教員の説明だけでなく実践的・体験的活動を重視する。模擬授業を実施し、特に小学校教員に必要とされるコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力についても育成を図る。
授業の 到達目標	小学校家庭科教育の理論の理解と体験的活動を通して、小学校教員としての資質・能力の基礎を養う。次の3点の達成を目標とする。 1. 小学校家庭科の基礎理解：小学校家庭科の目標や内容、方法等についての基礎を理解することができる。 2. 基礎的授業構成力：小学校家庭科の教材研究を踏まえて、学習指導案の作成並びに評価計画を作成することを通して、授業を組み立てる基礎的能力を身につける。 3. 模擬授業の体験：模擬授業を実施し、小学校家庭科の実践的指導力の育成を図る。
授業計画	第1回 家庭科教育の意義 第2回 家庭科のあゆみ（1）家事・裁縫教育 第3回 家庭科のあゆみ（2）家庭科の誕生と変革 第4回 子どもの生活実態と家庭科（1）生活の変化と子どもの実態 第5回 子どもの生活実態と家庭科（2）生活者としての子どもの発達と家庭科 第6回 家庭科の指導目標と評価（1）家庭科における学習指導の特徴 第7回 家庭科の指導目標と評価（2）家庭科における評価のあり方 第8回 家庭科とアクティブ・ラーニング（1）家庭科における学びの構造 第9回 家庭科とアクティブ・ラーニング（2）アクティブ・ラーニングの具体例 第10回 学習環境の整備と家庭科 第11回 特別支援教育およびキャリア教育の動向と家庭科 第12回 教材研究と指導案作成（1）物と事に係る内容 第13回 教材研究と指導案作成（2）人に係る内容 第14回 模擬授業（1）物と事に係る内容 第15回 模擬授業（2）人に係る内容 定期試験
テキスト	教育実践力をつける家庭科教育法（第3版）、多々納道子・福田公子編著、大学教育出版
参考文献	文部科学省「学習指導要領」第2章 各教科 第8節 家庭 文部科学省「小学校学習指導要領解説」 その他必要に応じて適宜紹介したり、配布したりする。
評価方法	試験50%、提出物20%、小テスト30%で総合的に評価する。
自己学習に 関する指針	・ 配付資料、およびレジュメに記載された参考文献を読み、復習に役立てる。 ・ 課題意識を持って受講してください。
履修上の 指導・留意点	・ 受講者は前から詰めて着席してください。 ・ 質問は、その内容に応じて、授業中・e-mail に対応します。

授業科目	初等体育科教育法						
担当教員	梶谷朱美						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020370
免許資格 関連事項	○小学校教諭一種免許状《教職に関する科目》 ・教育課程及び指導法に関する科目 〔各教科の指導法〕						

授業の概要	小学校での体育科の授業づくりに焦点を当て、体育科の目標、内容及び各運動領域(保健領域も含む)の指導内容・方法等の基本的な考え方を理解することを目的とする。加えて、小学校での各学年に応じた具体的な体育の授業づくりの進め方(学習過程の考え方や学習計画、学習評価の方法)についても検討し、実際に教材研究、指導案作成、模擬授業を行っていく。
授業の 到達目標	(1)小学校における体育科の位置づけ、目的を理解する。 (2)小学校体育科の目標、内容、指導法を理解する。 (3)運動の特性と小学校体育科の学習過程・学習計画・学習評価の考え方を理解する。 (4)児童の発達段階や運動の特性に応じた授業づくりや教材研究を検討するとともに、体育科の学習指導案を作成し、模擬授業を行うことができる。
授業計画	第1回 オリエンテーション 小学校における体育科の位置づけ(とらえ方) 第2回 学習指導要領における体育科の目標と内容 第3回 小学校児童の発達と体育科 第4回 体育科の内容と運動の特性 第5回 体育科の学習内容と系統性、指導法(体づくり運動・ゲーム・ボール運動) 第6回 体育科の学習内容と系統性、指導法(表現運動・器械運動) 第7回 体育科の学習内容と系統性、指導法(陸上運動・水泳) 第8回 保健の学習内容と系統性、指導法 第9回 体育の指導計画(年間計画・単元計画・一単位時間の計画) 第10回 体育の学習形態と学習環境 第11回 体育の学習評価 第12回 教材研究、学習指導案の作成 第13回 学習指導案の発表、討議 第14回 模擬授業、討議 第15回 模擬授業のまとめ 定期試験
テキスト	・文部科学省『小学校学習指導要領』第9節体育 ( <a href="http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/syo/tai.htm">http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/syo/tai.htm</a> ) ・文部科学省『小学校学習指導要領解説 体育編』 ( <a href="http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/syokaisetsu/index.htm">http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/syokaisetsu/index.htm</a> )
参考文献	・文部科学省「中学校学習指導要領解説-保健体育編-」 ・文部科学省「高等学校学習指導要領解説-保健体育編-」 ・「幼稚園教育要領解説」 ・「保育所保育指針」
評価方法	・平常点：毎回授業時に課す課題への回答(40%) ・課題レポート：小学校体育科の目標や内容などを概観する課題への評価(20%) ・試験：講義内容に関する理解度を論述にて評価(40%)

自己学習に 関する指針	1回の授業ごとに予め課題をだし、課題解決型の授業を行う。
履修上の 指導・留意点	運動のできる服装、シューズを準備すること。

授業科目	教育方法論(小・幼)						
担当教員	廣田佳彦 加藤明						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	必修	単位数	2	授業コード	M2020380
免許資格 関連事項	<p>○幼稚園教諭一種免許状&lt;&lt;教職に関する科目&gt;&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程及び指導法に関する科目</li> <li>[教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む)]</li> </ul> <p>○小学校教諭一種免許状&lt;&lt;教職に関する科目&gt;&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程及び指導法に関する科目</li> <li>[教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む)]</li> </ul>						

授業の概要	<p>教職の基礎となる幼稚園や小学校における教育方法の特色を理解し、小学校や幼稚園で行われる教育実践を具体的に知り、指導と評価の方法を理解することを目的とする。</p>
授業の 到達目標	<p>小学校・幼稚園の教員免許取得に必要な「教育課程及び指導法に関する科目」に対応する科目である。</p> <p>(1) 幼稚園における幼児を主体とした教育方法の視点と、個別理解や学級経営などの子どもの育ちを支える指導方法と評価方法を具体的に理解する。</p> <p>(2) 小学校における教育方法の具体的内容を知り、授業開発や教材研究、教育方法の工夫や教育評価の視点を身につける。</p>
授業計画	<p>第1回 小学校教育における学習指導の原理・学習指導の形態 (担当: 廣田)</p> <p>第2回 教育方法と学校・学級の経営 (担当: 廣田)</p> <p>第3回 授業の設計と学習指導の方法・技術 (担当: 廣田)</p> <p>第4回 授業の計画—単元計画と学習指導案の実際 (担当: 廣田)</p> <p>第5回 情報機器の活用とマルチメディア教育 (担当: 廣田)</p> <p>第6回 情報機器の活用とコンピュータを利用した学習 (担当: 廣田)</p> <p>第7回 授業分析の意義と方法 (担当: 廣田)</p> <p>第8回 小学校における教育評価 (担当: 廣田)</p> <p>第9回 教育方法を支える原理としての「目標と指導と評価の一体化」からみた小学校教育及び保育の指導のあり方 (担当: 加藤)</p> <p>第10回 教育方法と教育課程・カリキュラムの関係及び、小学校教育と保育の教育課程の構造について (担当: 加藤)</p> <p>第11回 小学校教育及び保育のカリキュラムマネジメントと形成的評価 (担当: 加藤)</p> <p>第12回 授業及び保育の指導に求められるコンピテンシー —教材研究から誤答分析まで— (担当: 加藤)</p> <p>第13回 アクティブ・ラーニングからディープ・ラーニングへ —学力の3要素によるアクティブ・ラーニング型と講義型の単元による統合— (担当: 加藤)</p> <p>第14回 保育・生活科から総合的な学習へと発展する「自らの学びの力」をストレートに育むカリキュラム開発及び指導と評価のあり方 (担当: 加藤)</p> <p>第15回 総括 (担当: 加藤)</p>
テキスト	<p>小学校学習指導要領、幼稚園教育要領を参照する。</p> <p>廣田佳彦、『教育方法の本質』、関西学院大学出版会、平成24年</p> <p>加藤明、『「開く」授業の創造による授業改革からカリキュラム・マネジメントによる学校改革へ』 文溪堂、平成28年</p>
参考文献	<p>参考文献などは、授業の中で適宜提示するとともに、必要に応じてプリントなどを配布する。</p>
評価方法	<p>成績は、課題・演習レポートから総合的に判断する。</p>

自己学習に 関する指針	毎週テキストを復習し、次の講義に備える。
履修上の 指導・留意点	毎回配布プリントについて、自らの考えを整理する。

授業科目	道徳の指導法 (小)						
担当教員	廣田佳彦						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	4	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020390
免許資格 関連事項	○小学校教諭一種免許状《教職に関する科目》 ・教育課程及び指導法に関する科目 〔道徳の指導法〕						

授業の概要	このたびの道徳教育の位置付けの変更、「特設道徳の時間」から「特別の教科道徳」への意味するところを考えていく。具体的には、そもそも道徳とは何か、また道徳教育とは何か、その本質に立ち返り検討していくために、近代日本の道徳教育の歴史を検証する。そして、道徳教育の意義を学生諸氏とともに考え、具体的な実践指導について検討を重ねていく。
授業の 到達目標	小学校・幼稚園の教員免許取得に必要な「教育課程及び指導法に関する科目」に対応する科目である。 (1) このたびの新たな特別の教科道徳設置に際して、今一度学校教育における道徳教育の本質についての理解をすすめる。 (2) 特別の教科道徳の基本方針、内容と指導法、評価についての理解を深め、さらに現代社会のありようと道徳教育の課題を考えていく。
授業計画	第1回 道徳とは 道徳・倫理と人間 第2回 道徳教育とは 道徳性の育成 第3回 道徳教育の歴史1 近代日本における道徳教育のはじまり 第4回 道徳教育の歴史2 第2次世界大戦終結後の道徳教育 第5回 特別の教科道徳の基本方針1 道徳教育課程の編成と実施 第6回 特別の教科道徳の基本方針2 道徳教育をすすめる際の留意事項 第7回 特別の教科道徳の内容と指導1 道徳教育推進上の配慮事項 第8回 特別の教科道徳の内容と指導2 指導内容の重点化 第9回 特別の教科道徳の内容と指導3 教材に求められる内容の観点 第10回 特別の教科道徳の評価1 評価の意義 第11回 特別の教科道徳の評価2 道徳性の理解と評価 第12回 特別の教科道徳の実践指導1 教材研究(現代の課題をふまえて) 第13回 特別の教科道徳の実践指導2 指導案の作成(現代の課題をふまえて) 第14回 特別の教科道徳の実践指導3 模擬授業研究 第15回 特別の教科道徳の実践指導4 模擬授業まとめ
テキスト	廣田佳彦、『道徳教育の本質』、関西学院大学出版会、平成29年、およびプリント資料 小学校学習指導要領道徳編、幼稚園教育要領
参考文献	プラトン『メノン』、デュルケム『道徳教育論』、などその他授業内にて紹介する。
評価方法	レポート(70%)、小作文(30%)
自己学習に 関する指針	毎週テキストを復習し、次の講義に備える。
履修上の 指導・留意点	毎回配布するプリントについて、自らの考えを整理する。

授業科目	特別活動の指導法 (小)						
担当教員	一盛真						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020400
免許資格 関連事項	○小学校教諭一種免許状《教職に関する科目》 ・教育課程及び指導法に関する科目 〔特別活動の指導法〕						

授業の概要	望ましい集団活動を通して、心身の調和をとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う。
授業の 到達目標	・特別活動の目的と授業を構成する力を養う。
授業計画	第1回 授業の目標と特別活動の概要 第2回 初等教育における特別活動の教育的意義 第3回 初等教育における内容相互、他教科等との関連 第4回 初等教育における学級活動の目標と内容 第5回 初等教育における学級活動の指導計画と実際 第6回 児童会活動の目標と内容 第7回 児童会活動の指導計画と実際 第8回 クラブ活動の目標と内容 第9回 クラブ活動の指導計画と実際 第10回 初等教育における学校行事の目標と内容 第11回 初等教育における学校行事の指導計画と実際 第12回 指導計画作成に当たっての配慮と指導案作成 (教材研究を含む) 第13回 模擬授業 第14回 初等教育における入学式・卒業式 (国旗・国歌) 第15回 初等教育における特別活動における評価 定期試験
テキスト	一盛真『特別活動論』(講義初日に配布する。)
参考文献	『小学校学習指導要領解説 特別活動編』
評価方法	平常点 30 点、定期試験 70 点
自己学習に 関する指針	・配布資料、およびレジュメに記載された参考文献を読み、復習に役立てる。
履修上の 指導・留意点	・毎回、感想と質問を取ります。



授業科目	幼児理解の理論と方法						
担当教員	園山繁樹 菊野雄一郎						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020410
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭一種免許状《教職に関する科目》 ・生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 [幼児理解の理論及び方法] ○保育士資格						

授業の概要	<p>幼児理解の基盤となる発達心理学、臨床発達心理学等の理論を学修し、幼稚園教諭の専門性としての幼児理解のあり方を、行動科学的に学ぶ。保育現場での臨床的な対象理解の具体的な技法として、行動観察法、質問紙法、検査法、面接のあり方、を理解し、教育相談のためのカウンセリングマインドの基礎を学ぶ。さらに、幼児理解の事例検討を通して教育的支援のあり方を学修する。また、特別支援教育、幼小接続における幼児理解のあり方についても検討する。</p>
授業の 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼児期の行動を客観的にとらえて理解するための手法を学ぶ。</li> <li>2. 幼児期の困った行動の理解を通して、教育的支援のあり方を学ぶ。</li> <li>3. 幼小接続期の幼児理解と支援のあり方を学ぶ。</li> </ol>
授業計画	<p>第1回 幼児期の発達の標準と個人差 (担当：菊野)          第2回 幼児期の心の世界－他者の感情の理解 (担当：菊野)          第3回 幼児期の心の世界－うそやだまし (担当：菊野)          第4回 幼児期の心の世界－幼児の性格特性 (担当：菊野)          第5回 行動からの子ども理解－行動観察の手法 (担当：菊野)          第6回 行動からの子ども理解－保育者の質問紙法 (担当：菊野)          第7回 行動からの子ども理解－発達検査法の理解 (担当：菊野)          第8回 幼児の行動観察と発達検査法の実例 (担当：菊野)          第9回 幼児理解と保護者支援－カウンセリングマインド (担当：園山)          第10回 幼児期の困った行動のとらえ方 (担当：園山)          第11回 困った行動の事例分析－自閉症スペクトラム (担当：園山)          第12回 困った行動の事例分析－多動・暴力 (担当：園山)          第13回 困った行動の事例分析－場面緘黙 (担当：園山)          第14回 幼児期の個別的教育支援計画と指導計画 (担当：園山)          第15回 小学校と連携した移行支援教育 (担当：園山)          定期試験</p>
テキスト	適宜プリント資料等を配布する。
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文部科学省『幼稚園教育指導資料第3集 幼児理解と評価』 ぎょうせい</li> <li>・文部科学省『幼稚園教育指導資料第5集 指導と評価に生かす記録』 チャイルド本社</li> <li>・宮本信也監修、園山繁樹、下泉秀夫、三角輝見子、宮本信也著、『発達障害のある子の理解と支援 DSM-5改訂対応版』 母子保健事業団</li> </ul>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート(2回分)＝20%</li> <li>・定期試験＝80%</li> </ul>
自己学習に 関する指針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児の発達、育児、保育、教育等に関する新聞記事等を積極的に読むことが望ましい。</li> </ul>
履修上の 指導・留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・質問は受講生全員で共有するために、できるだけ授業中にしてください。</li> </ul>

授業科目	教育相談の基礎と方法 (小・幼)						
担当教員	山田洋平						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	必修	単位数	2	授業コード	M2020420
免許資格 関連事項	<p>○幼稚園教諭一種免許状&lt;&lt;教職に関する科目&gt;&gt; ・生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 〔教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法〕</p> <p>○小学校教諭一種免許状&lt;&lt;教職に関する科目&gt;&gt; ・生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 〔教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法〕</p> <p>○保育士資格</p>						

授業の概要	<p>教育相談とは、カウンセリングの考えや技法を活用した教師による教育活動である。本授業では、教育活動や教育現場に関連する心理的知見を幅広く紹介する。具体的には、学校におけるいじめや不登校などの問題行動についての理解と対応、主な発達障害の理解と対応および特別支援教育の在り方について、およびカウンセリングの基礎、保護者支援のあり方について学習する。そして、教育現場で実践される様々な教育活動の意味や背景を理解する。</p>
授業の 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談に関する教育現場の現状を理解することができる。</li> <li>・授業で取り上げた発達および教育相談の知識を理解することができる。</li> <li>・学習した発達および教育相談の知識と教育現場での実践とのつながりを理解することができる。</li> </ul>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 授業の概要説明, 教育相談とは</p> <p>第2回 問題行動の理解 問題行動の基準</p> <p>第3回 いじめの理解と対応(1) いじめの様相</p> <p>第4回 いじめの理解と対応(2) いじめの対応</p> <p>第5回 不登校の理解と対応(1) 不登校の様子とメカニズム</p> <p>第6回 不登校の理解と対応(2) 不登校の対応</p> <p>第7回 発達障害の理解(1) 主な発達障害について</p> <p>第8回 発達障害の理解(2) 特別支援教育について</p> <p>第9回 カウンセリングの基礎 カウンセリングの諸理論について</p> <p>第10回 カウンセリングの実際(1) カウンセリング・マインドについて</p> <p>第11回 カウンセリングの実際(2) カウンセリングの進め方</p> <p>第12回 カウンセリングの基礎的演習(1) 基本的な応答技法</p> <p>第13回 カウンセリングの基礎的演習(2) 非言語情報を用いた演習</p> <p>第14回 保護者支援 保護者に対する援助</p> <p>第15回 まとめ 授業の振り返りとまとめ</p> <p>定期試験</p>
テキスト	指定しない。適宜資料を配布する。
参考文献	指定しない。適宜紹介する。
評価方法	定期試験(50%)、提出物(50%)
自己学習に 関する指針	・配布資料および記載された参考文献を読み、復習に役立てる。
履修上の 指導・留意点	・授業中のグループワークには積極的に参加すること。

授業科目	生徒・進路指導の理論と方法 (小)						
担当教員	山田洋平						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020430
免許資格 関連事項	○小学校教諭一種免許状《教職に関する科目》 ・生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目 [生徒指導の理論及び方法] [進路指導の理論及び方法]						

授業の概要	<p>生徒指導・進路指導に関する知識の習得と意義の理解をする。生徒指導については、教育現場で問題化しているいじめ、不登校、暴力行為などの生徒指導上の課題について、実態や背景、原因などの理解を深める。そして、現在の生徒指導における様々な課題に対する解決方法を考える。進路指導については、職業選択に関する基礎的知識の理解とともに、学校のガイダンス機能と指導方法について理解する。これらを通して、教師に求められる役割を理解するとともに、教師としての態度や価値観などの資質向上をめざす。</p>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導・進路指導に関する教育現場の現状を理解することができる。</li> <li>・授業で取り上げた生徒指導・進路指導の知識を理解することができる。</li> <li>・生徒指導・進路指導に関する知識を教育現場でどのように活用できるか、自分の考えを提案することができる。</li> </ul>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 授業の概要説明          第2回 生徒指導とは 生徒指導とは何か          第3回 生徒指導と教育課程 生徒指導と教育課程との関連について          第4回 児童・生徒理解の基本と方法 生徒指導における児童・生徒理解について          第5回 生徒指導と学級経営 生徒指導における学級経営について          第6回 進路指導・キャリア教育(1) 生徒指導と進路指導・キャリア教育との関連について          第7回 進路指導・キャリア教育(2) 生徒指導における進路指導について          第8回 進路指導・キャリア教育(3) 生徒指導におけるキャリア教育について          第9回 学校における生徒指導体制 学校における生徒指導体制について          第10回 生徒指導の進め方(1) 全体に対する生徒指導について          第11回 生徒指導の進め方(2) 少年非行等への個別の生徒指導について          第12回 生徒指導の進め方(3) 様々なトラブルへの個別の生徒指導について          第13回 生徒指導に関する法制度等 生徒指導に関する法制度や近年の動向について          第14回 生徒指導における学校・家庭・地域の連携 生徒指導における学校内外の連携について          第15回 まとめ 授業の振り返りとまとめ          定期試験</p>
テキスト	生徒指導提要(文部科学省)
参考文献	指定しない。適宜紹介する。
評価方法	定期試験(50%)、提出物(50%)
自己学習に関する指針	・配布資料および記載された参考文献を読み、復習に役立てる。
履修上の指導・留意点	・授業中のグループワークには積極的に参加すること。

授業科目	国語（書写を含む）						
担当教員	中井悠加 福田哲之						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	必修	単位数	2	授業コード	M2020440
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭一種免許状《教科に関する科目》 ・国語 ○小学校教諭一種免許状《教科に関する科目》 ・国語（書写を含む）						

授業の概要	「読む・聞く・話す」領域について、幼児教育および初等教育の国語科において扱う絵本、童話、昔ばなし、紙芝居などの児童文学に対する興味と理解を深めた上で、実践することで絵本選定および読み聞かせの方法や昔ばなしの語り方を学ぶ。また「書く」領域について、わらべうた・口頭詩・詩創作を通じて幼児期から学童期への接続を意識した児童言語文化および書写活動を通じた日本の豊かな文字文化・書表現の広がりを学ぶ。
授業の到達目標	(1) 「読む・聞く・話す・書く」という言語活動を成立させる国語の要素を理解する。 (2) 幼児教育および初等教育で扱う児童文学や書写文化への理解と興味を深める。 (3) 言葉と言語文化を媒介とした豊かな感性と他者への想像力を培う。
授業計画	第1回 オリエンテーション：言語活動と国語力（担当：中井） 第2回 「話すこと・聞くこと」(1)：絵本の選定と読み聞かせ（担当：中井） 第3回 「話すこと・聞くこと」(2)：本との出会いを促すブックトーク（担当：中井） 第4回 「話すこと・聞くこと」(3)：文学をともに味わうリテラチャー・サークル（担当：中井） 第5回 「話すこと・聞くこと」(4)：耳で聞くお話：昔話とストーリーテリング（担当：中井） 第6回 「話すこと・聞くこと」(5)：わらべうたとマザーグース：ナンセンスとあそび（担当：中井） 第7回 「書くこと」(1)口頭詩と詩創作(1)：幼児期の呼吸律（担当：中井） 第8回 「書くこと」(2)口頭詩と詩創作(2)：話しことばから書きことばへの発達（担当：中井） 第9回 「書くこと」(3)口頭詩と詩創作(3)：ことばあそびと詩的機能（担当：中井） 第10回 「読むこと」(1)：絵本の構造を科学する：ポストモダン絵本（担当：中井） 第11回 「読むこと」(2)：読書と表現：創作ペープサート（担当：中井） 第12回 「読むこと」(3)：音読と朗読（担当：中井） 第13回 「書くこと」(4)：文字書写の歴史と文化（担当：福田） 第14回 「書くこと」(5)：書写教育の変遷（担当：福田） 第15回 「書くこと」(6)：入門期の書写指導（担当：福田） 定期試験
テキスト	テキストは用いず、必要に応じてプリントを配付する
参考文献	文部科学省『小学校学習指導要領』第1節国語 ( <a href="http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/syo/koku.htm">http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/syo/koku.htm</a> )
評価方法	授業概要に関するコメントカード20%、発表に関する自己評価シート30%、定期試験（児童文学についての基礎理論）50%である。
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	

授業科目	社会						
担当教員	加藤寿朗						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020450
免許資格 関連事項	○小学校教諭一種免許状《教科に関する科目》 ・社会						

授業の概要	<p>小学校社会科の目標、内容、教材を多面的に考察しながら、社会科の基礎的理解をはかるとともに、教材研究の基礎的技能の習得を目指す。具体的には、小学校社会科の教科目標、教科内容、教材について、複数の授業事例を取り上げながら考察する。また、小学校社会科の基本概念である「地域」を分析・検討するとともに、受講生がテーマを設定しながら身近な地域を対象とする地域教材の開発を行い、その成果を発表する。</p>
授業の 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校社会科の教科目標、教科内容、教材、及び子どもの社会認識の発達とそれをふまえた社会科授業について理解する。</li> <li>・社会科教材研究の基礎的技能を習得する。</li> </ul>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション (小学校社会科のイメージ)          第2回 小学校社会科の目標と内容          第3回 小学校地域学習の教育内容          第4回 小学校地域学習の教材研究          第5回 小学校国土学習の教育内容と教材研究          第6回 小学校産業学習の教育内容と教材研究          第7回 小学校歴史学習の教育内容と教材研究          第8回 小学校政治学習・国際理解学習の教育内容と教材研究          第9回 児童期の社会認識と子ども理解          第10回 児童期・青年期の社会認識の発達と子ども理解          第11回 地域教材の開発の視点          第12回 地域教材開発の構想          第13回 地域素材の調査・分析          第14回 地域教材の開発          第15回 地域教材開発のプレゼンテーション</p>
テキスト	文部科学省『小学校学習指導要領解説 社会編』東洋館出版
参考文献	北俊夫・加藤寿朗編著『小学校新学習指導要領の展開 社会編』明治図書出版社 (ISBN978-4-18-327919-4) その他、授業中に適宜紹介する。
評価方法	提出物(カード・プリント・レポート他)で上記の到達目標をそれぞれ5段階で評価し、それを総合評価したものを60%、平常点を40%として評価します。
自己学習に 関する指針	配付資料及び授業中に紹介した文献等を活用し、復習に役立てる。
履修上の 指導・留意点	地域調査に関わるフィールドワークは授業時間外に実施することがあります。

授業科目	算数						
担当教員	齊藤一弥						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020460
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭一種免許状《教科に関する科目》 ・算数 ○小学校教諭一種免許状《教科に関する科目》 ・算数						

授業の概要	<p>これまでに学習してきた数学を基にして、小学校算数科の5つの領域（数と計算・図形・測定・変化と関係・データの活用）に関連した数学的内容を講義すると共に、数学的な話題を幅広く採り入れる。講義と演習において、知識だけでなく、実際に演習問題を解くことによって、算数科の背景となる数学をより深く理解できるように配慮する。</p>
授業の 到達目標	<p>授業のテーマ：「小学校算数科の背景となる数学的内容の理解」</p> <p>(1) 小学校算数科の内容について理解を深め、さらに、基礎となる数学的背景を理解する。</p> <p>(2) 小学校算数科と中学校数学科及び高等学校数学科との関連を理解する。</p>
授業計画	<p>第1回 数の概念と表記</p> <p>第2回 自然数（1）「集合数」</p> <p>第3回 自然数（2）「ペアノの公理系」</p> <p>第4回 数えること（数の把握）と数の表記（記数法）</p> <p>第5回 式</p> <p>第6回 加法に関する交換法則・結合法則・分配法則</p> <p>第7回 乗法に関する交換法則・結合法則</p> <p>第8回 量と測定の指導原則</p> <p>第9回 面積・体積</p> <p>第10回 平面図形・空間図形</p> <p>第11回 関数の考え</p> <p>第12回 集合の考え</p> <p>第13回 異種の量の割合と同種の量の割合</p> <p>第14回 確率と統計</p> <p>第15回 問題解決</p> <p>定期試験</p>
テキスト	「小学校学習指導要領解説 算数編」東洋館出版社、文部科学省、238円
参考文献	授業中、随時、適切な資料を配布したり、紹介したりする。
評価方法	小テスト・定期試験：80%、レポート等：20%
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	

授業科目	理科						
担当教員	高橋泰道						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020470
免許資格 関連事項	○小学校教諭一種免許状《教科に関する科目》 ・理科						

授業の概要	<p>小学校の「理科」を体系的に理解するために、人間を取り巻く身近な自然に関心を持ち、現在の多様な生物の特性、自然界の生物の存在の独自性、生物と環境といった生態系等の生物の世界について学び、基礎的な理解を図る。また、電磁気、力、エネルギー等の物理的な世界や、物質の性質、状態変化、水溶液等の化学的な世界についてもさまざまな体験を通して学び、基礎的な理解を図り、自然を理解するための方法を探る。</p> <p>具体的には、物理、化学、生物の3分野の各領域において、小学校で理科を教えるために必要な内容（自然科学の基礎的、基本的な内容）の実験や観察を通して、初等理科教育に必要な基礎的・基本的な知識と技能を養う。</p>
授業の到達目標	<p>①小学校で必要な学習内容に関わる実験・観察について理解し、安全に配慮して行うことができる。</p> <p>②科学的に自然の事物・現象を認識できる。</p> <p>③科学的思考、方法を習得し、自然の事物・現象について説明できる。</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、春の植物観察</p> <p>第2回 植物の分類、植物の増え方</p> <p>第3回 植物の成長と体のつくり</p> <p>第4回 植物の働き</p> <p>第5回 電気の働き</p> <p>第6回 磁力の働き</p> <p>第7回 光の働き</p> <p>第8回 物の重さと体積</p> <p>第9回 物の体積と力</p> <p>第10回 物の体積と温度①（空気の体積変化）</p> <p>第11回 物の体積と温度②（水や金属の体積変化）</p> <p>第12回 物の温まり方①（金属の温まり方）</p> <p>第13回 物の温まり方②（水や空気の温まり方）</p> <p>第14回 水の三態変化①（沸騰、水蒸気）</p> <p>第15回 水の三態変化②（冷却、氷）</p>
テキスト	<p>和泉浩行・島根理科授業研究会編著（2016）第4学年『活用問題事例集』今井出版</p> <p>文部科学省（2017）『小学校学習指導要領 理科編』</p> <p>(<a href="http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/10/13/1387017_5.pdf">http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/10/13/1387017_5.pdf</a>)</p> <p>プリントも随時配布する。</p>
参考文献	必要に応じて授業の中で紹介する。
評価方法	授業レポート（40%）、提出物（スケッチやレポート）（60%）などで総合的に判断して全体評価を決める。
自己学習に関する指針	テキストや配布資料、およびレジュメに記載された参考文献を読み、事前学修・事後学修に役立てる。
履修上の指導・留意点	質問は、その内容に応じて、授業時間中・オフィスアワー・e-mail に対応します。

授業科目	生活						
担当教員	矢島毅昌 高橋泰道						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020480
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭一種免許状《教科に関する科目》 ・生活 ○小学校教諭一種免許状《教科に関する科目》 ・生活						

授業の概要	<p>小学校生活科という教科の理論的・歴史的な背景を教育学の立場から理解し、生活科の授業を構想・実践するために必要な知識を学ぶ。その際、一般性・汎用性の高い生活の知識だけでなく、地域資源などの地域性の高い生活の知識を活用するために必要な視点を身につけることも目指す。また、生活科が保幼小接続を担う重要な科目であることをふまえ、幼児期と児童期をつなぐ教育に関する近年の実践や研究の成果からも学びながら、生活科の内容・方法とその意義の理解を深める。</p>
授業の 到達目標	<p>(1) 小学校生活科の教育目標および具体的な教育内容を理解する。          (2) 保幼小接続や小学3年以降の学びを考慮した生活科の展開を考えることができる。          (3) 生活環境の情報をポスター・地図・冊子等の形式に整理して理解を深め、それを人にわかりやすく伝える力を身につける。</p>
授業計画	<p>第1回 ガイダンス：小学校生活科のめざすもの（担当：矢島・高橋）          第2回 保育所・幼稚園の生活から小学校の生活へ（担当：矢島）          第3回 身の周りの物と生活（担当：矢島）          第4回 家族／地域の人々の暮らし（担当：矢島）          第5回 街の人工物と自然物の理解（担当：矢島）          第6回 地域社会の探索（担当：矢島）          第7回 身近な動植物（担当：高橋）          第8回 自然の中での遊び（担当：高橋）          第9回 遊び道具と科学（担当：高橋）          第10回 健康・安全・生命について考える（担当：高橋）          第11回 地域の環境案内を作る① 情報の収集と整理（担当：矢島・高橋）          第12回 地域の環境案内を作る② 情報の可視化（担当：矢島・高橋）          第13回 地域の環境案内を作る③ 情報の伝え方（担当：矢島・高橋）          第14回 生活教育の理論と歴史（担当：矢島）          第15回 総括／生活科を土台としたさらなる学び（担当：矢島・高橋）</p>
テキスト	<p>小原 友行・朝倉 淳 編著（2010）『生活科教育 改訂新版 -21世紀のための教育創造-』学術図書出版社</p>
参考文献	<p>文部科学省『小学校学習指導要領解説 生活編』          (<a href="http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/10/19/1387017_6_1.pdf">http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/10/19/1387017_6_1.pdf</a>)          鹿毛雅治・清水一豊編著（2009）『平成20年版 小学校新学習指導要領 ポイントと授業づくり 生活』東洋館出版社。關浩和（2015）『生活科授業デザイン論』ふくろう出版。          原田信之・須本良夫・友田靖雄編著（2011）『気づきの質を高める生活科指導法』東洋館出版社。          その他、授業中に随時紹介する。</p>
評価方法	<p>到達目標(1)の評価：期末課題(20%)、演習課題・小レポート(10%)          到達目標(2)の評価：期末課題(20%)、演習課題・小レポート(10%)          到達目標(3)の評価：授業での制作物(30%)、演習課題・小レポート(10%)</p>



自己学習に関する指針	テキストや配布資料、およびレジюмеに記載された参考文献を読み、事前学修・事後学修に役立てる。
履修上の指導・留意点	質問は、その内容に応じて、授業時間中・オフィスアワー・e-mail に対応します。

授業科目	音楽Ⅰ						
担当教員	梶間奈保						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	必修	単位数	1	授業コード	M2020490
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭一種免許状《教科に関する科目》 ・音楽 ○小学校教諭一種免許状《教科に関する科目》 ・音楽 ○保育士資格						

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい] この授業では、楽典を中心とした音楽の基礎知識の理解を講義および実践を踏まえながら深め、ピアノ技能の習得にもつなげていく。また、音楽表現の多様性を身に付けるために、音楽の楽しさを自身で体験し実践的な場面にも活かすことを目指す。</p> <p>[授業全体の内容の概要] この授業では、楽典を中心とした音楽の基礎知識の理解を講義および実践を踏まえながら深めていく。毎回の授業では講義で音楽理論について学び、その理論について鍵盤を使って理解を深めていくため、音楽理論をより実践的に学ぶことができる。さらに、鍵盤楽器を使いながら授業を進めていくため、ピアノ技能の習得にもつなげていく。この他にも、教育の実践的な場面にも活かすことができるよう、毎回、歌遊びや手遊び、子どもの歌を取り上げ学生自身が音楽活動を繰り返し体験し音楽の楽しさを味わっていく。</p>
授業の到達目標	<p>音楽表現及び音楽指導に必要な音楽的基礎知識の習得を目指す科目である。</p> <p>(1) 基本的な音楽理論の理解について深める (2) 子どもを取り巻く音楽環境、保育で扱われる音楽に関心を深める (3) 音楽の楽しさを体験し、音楽に親しみを持つことができる</p>
授業計画	<p>第1回 楽譜の読み方、音名、音符の種類 第2回 リズムと拍子 第3回 音楽記号、音楽標語 第4回 楽譜の基礎まとめ 第5回 長音階、長調系 第6回 短音階、短調系 第7回 日本音階、わらべうた、まとめ 第8回 度数、類別、種類(幹音)、長短系 第9回 増減系、種類(派生音、複音程) 第10回 音程の理解まとめ 第11回 和音の基本構造、コードネーム、三和音 第12回 属七和音、その他の和音 第13回 和音の理解まとめ 第14回 簡易楽曲を題材とした音楽理論の理解(保育教材) 第15回 簡易楽曲を題材とした音楽理論の理解(小学校音楽教材) 定期試験 ※毎回、保育及び音楽教育と関連した歌唱教材、音楽遊びに親しむ</p>
テキスト	<p>『最新 学生の音楽通論』伴田武嘉津著 その他、適宜資料プリントを配布</p>
参考文献	<p>『楽典—理論と実践』石桁真礼生、末木氏保雄ほか著 音楽之友社 文部科学省『小学校学習指導要領』第6節音楽 (<a href="http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/syo/on.htm">http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/syo/on.htm</a>) 文部科学省『幼稚園教育要領』厚生労働省『保育所保育指針』内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』</p>

評価方法	授業課題の取り組み状況や課題提出 (50%), 試験成績 (50%) により評価する
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	

授業科目	音楽Ⅱ						
担当教員	梶間奈保						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2020500
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭一種免許状《教科に関する科目》 ・音楽 ○小学校教諭一種免許状《教科に関する科目》 ・音楽 ○保育士資格						

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい] この授業では、コードの理解とコード伴奏の実践踏まえながらコード伴奏を習得していく。また、子どもの音楽的発達について理解をしながら、子どもが楽しく音遊びや音楽表現に親しむことができるよう計画を立てて、グループで実践をしていく。</p> <p>[授業全体の内容の概要] この授業では、コードの仕組みの理解とコード伴奏の実践を高めるために、様々な伴奏法について実践を踏まえながらコード伴奏を習得していく。毎回、グループごとに課題を与えて、全員がコード伴奏できるような個人の演奏レベルに合わせた伴奏法に取り組んでもらう。また、子どもの音楽的発達について子どもの事例を取り上げながらグループで意見交換をし、子どもの音楽表現の多様性について考察していく。それらを踏まえ、子どもが楽しく音遊びや音楽表現に親しむことができるよう計画を立てて、グループで実践をしていく。</p>
授業の到達目標	<p>音楽表現及び音楽指導に必要な音楽的基礎知識の習得を目指した上で、様々な子どもの音楽表現に対応するため、即興的な音楽技能であるコード伴奏法の習得を目的とする科目である。</p> <p>(1) コード伴奏やアンサンブル楽譜の作成など音楽理論を実践的に応用できる (2) 音遊び、様々な音楽活動を体験し、音楽表現を養う (3) 子どもの音楽的発達について理解を深める</p>
授業計画	<p>第1回 コード伴奏法について ― 基本形の理解 第2回 コード伴奏の転回 第3回 様々なコード伴奏法（ベース弾き、両手伴奏） 第4回 コード伴奏法のまとめ 第5回 子どもの音楽的発達について ― 胎児期～乳幼児期 第6回 子どもの音楽的発達モデルとケースワーク 第7回 子どもの音楽的発達のまとめ 第8回 音楽あそびの計画 第9回 音楽あそびの検討①（個人→グループワーク） 第10回 音楽あそびの検討②（グループで音楽あそびの計画をまとめる） 第11回 音楽あそびの検討③（グループでの準備・道具の製作） 第12回 音楽あそびの実践④（グループでの練習） 第13回 音楽あそびの実践①（Aグループ～Dグループの発表 ※1グループ約15分） 第14回 音楽あそびの実践②（Eグループ～Hグループの発表 ※1グループ約15分） 第15回 音楽あそびのまとめ 定期試験</p>
テキスト	『最新 学生の音楽通論』伴田武嘉津著 その他、適宜資料プリントを配布。
参考文献	<p>文部科学省『小学校学習指導要領』第6節音楽 (<a href="http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/syo/on.htm">http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/syo/on.htm</a>) 文部科学省『幼稚園教育要領』、厚生労働省『保育所保育指針』、内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』</p>
評価方法	授業課題の取り組み状況や課題提出（50%）、試験成績（50%）により評価する

自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	

授業科目	図画工作 I						
担当教員	福井一尊						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	必修	単位数	1	授業コード	M2020510
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭一種免許状《教科に関する科目》 ・ 図画工作 ○小学校教諭一種免許状《教科に関する科目》 ・ 図画工作 ○保育士資格						

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>(1) 子どもの生活における造形活動について理解する。          (2) のりやハサミなどの基礎的な用具の正しい扱い方について理解し、習得する。          (3) 子どもの描画表現の発達を理解する。          (4) 自然などの身近なものや美術作品を見る目を育てる。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>子どもの造形表現について発達の側面及び特徴(特質)的側面からアプローチすることで子ども理解を深めるとともに、その指導の目標と内容及び方法についての基礎的な知識と理論を身につける。また実技面では、様々な表現方法、材料に触れること及び互いの作品・制作鑑賞によって、造形表現指導に生かすことのできる知識と表現能力を高めることに主眼をおき、自ら創造する喜びを味わい、豊かな感性を自己の中に育てていくことを目指す。</p>
授業の到達目標	「授業の目的・ねらい」の(1)から(4)について全てを習得することを到達目標とする。
授業計画	第1回 図画工作、美術工芸について 第2回 色紙を使って 第3回 ハサミを使って 第4回 子どもの描画活動の段階 第5回 描画体験 第6回 パスを使って 第7回 フロッタージュ 第8回 デカルコマニー 第9回 フォトコラージュ 第10回 変化する絵 制作 第11回 変化する絵 発表 第12回 鉛筆デッサン 第13回 フィンガーペインティング 第14回 作品発表・鑑賞 第15回 美しいとは何か 定期試験
テキスト	適宜資料を配布するので、保存用A4クリアファイルを準備すること。
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文部科学省『小学校学習指導要領』第7節図画工作</li> <li>・ 文部科学省『幼稚園教育要領』</li> <li>・ 厚生労働省『保育所保育針』</li> <li>・ 内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』</li> <li>・ 平田智久他編著『乳幼児の造形表現』保育出版社</li> </ul>
評価方法	到達目標について、授業レポート40%、提出作品40%、定期試験20%を総合して評価する。
自己学習に関する指針	

履修上の 指導・留意点	
----------------	--

授業科目	図画工作Ⅱ						
担当教員	福井一尊						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2020520
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭一種免許状《教科に関する科目》 ・ 図画工作 ○小学校教諭一種免許状《教科に関する科目》 ・ 図画工作 ○保育士資格						

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>(1) 美術・造形表現について、様々な角度から捉える力をつける。          (2) 色彩について理解し、絵の具を適切に扱い、意図的な混色ができる力をつける。          (3) 子どもと大人の造形表現方法の違いを理解する。          (4) 子どもの造形表現作品を観る目を育てる。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>「図画工作Ⅰ」の内容を土台として、さらに子どもの造形表現について様々な側面からアプローチすることで子ども理解を深めるとともに、その指導の目標と内容及び方法についての基礎的な知識と理論を身につけることを目標とする。実技面では、教材研究を兼ねた造形遊びを豊富に体験することを通して、保育教育者として必要な基礎的な表現技術を習得する。また、受講者が美術による表現の楽しさや、鑑賞する喜びについて体験を通して学ぶ。</p>
授業の到達目標	「授業の目的・ねらい」の(1)から(4)について全てを習得することを到達目標とする。
授業計画	第1回 美術作品鑑賞 第2回 見える色彩について 第3回 色の種類について 第4回 絵の具による混色 第5回 子どもと造形活動 第6回 廃材を使った制作（立体表現） 第7回 廃材を使った制作（色彩表現） 第8回 フィンガーペイントからの展開 第9回 作品発表、鑑賞 第10回 子どもと粘土教材 第11回 季節の装飾 第12回 濃淡で表す 第13回 水墨画 第14回 篆刻 第15回 彩色技法、光と影 定期試験
テキスト	無し 適宜資料を配布するので、保存用A4クリアファイルを準備すること。
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文部科学省『小学校学習指導要領』第7節図画工作</li> <li>・ 文部科学省『幼稚園教育要領』</li> <li>・ 厚生労働省『保育所保育指針』</li> <li>・ 内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』</li> <li>・ 平田智久他編著 『乳幼児の造形表現』保育出版社</li> </ul>
評価方法	到達目標について、授業レポート40%、提出作品40%、定期試験20%を総合して評価する。



自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	

授業科目	家庭						
担当教員	多々納道子						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020530
免許資格 関連事項	○小学校教諭一種免許状《教科に関する科目》 ・家庭						

授業の概要	この授業では、小学校家庭科の教育内容（家庭生活と家族、日常の食事と調理の基礎、快適な衣服と住まい、身近な消費生活と環境）についての理解を深め、それらをふまえて小学校家庭科の内容構成の基礎的な視点・方法を学ぶ。
授業の到達目標	子どもを取り巻く衣食住などの身近な家庭生活や家族についての理解を深める。また、現在の生活における課題を解決できるような学習内容について、アクティブ・ラーニングによる学習を通して、初等家庭科の指導に求められる知識や技術を身につけることをできることを目標とする。 具体的には、(1) 小学校家庭科の内容についての基礎知識を理解することが出来る。 (2) 小学校家庭科のカリキュラムと子どもに付けたい力を理解する。
授業計画	第1回 小学校家庭科のカリキュラム (1) 小学校家庭科教育課程の編成原理 第2回 小学校家庭科のカリキュラム (2) 小中の連携からみた子どもに付けたい能力 第3回 小学校家庭科のカリキュラム (3) 学習指導要領の理解と改訂の仕組み 第4回 家庭生活と家族の理解 第5回 家庭生活と家族 (1) 子どもの家庭生活の現状と付けたい力 第6回 家庭生活と家族 (2) 学習指導のための基礎知識 第7回 食生活の基礎 (1) 子どもの食生活の現状と付けたい力 第8回 食生活の基礎 (2) 学習指導のための基礎知識 第9回 食生活の基礎 (3) ビデオによる授業観察 第10回 衣生活の基礎 (1) 子どもの衣生活の現状と付けたい力 第11回 衣生活の基礎 (2) 学習指導のための基礎知識 第12回 住生活の基礎 (1) 子どもの住生活の現状と付けたい力 第13回 住生活の基礎 (2) 学習指導のための基礎知識 第14回 身近な消費生活と環境の基礎 (1) 子どもの身近な消費生活と環境についての現状と付けたい力 第15回 身近な消費生活と環境の基礎 (2) 学習指導のための基礎知識 定期試験
テキスト	教育実践力をつける家庭科教育法 (第3版)、多々納道子・福田公子編著、大学教育出版
参考文献	文部科学省「学習指導要領」第2章 各教科 第8節 家庭 ( <a href="http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/syo/katei.htm">http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/syo/katei.htm</a> ) その他授業の中で適宜紹介します。
評価方法	試験50%、提出物20%、小テスト30%で、総合的に評価します。
自己学習に関する指針	・ 授業前に、テキストの該当箇所を読んでおくこと。 ・ 配布資料、およびレジュメに記された参考文献を読み、復習に役立てる。
履修上の指導・留意点	・ 質問は、その内容に応じて、授業時間中・e-mail で対応します。 ・ 受講者は前から詰めて着席してください。

授業科目	体育 I						
担当教員	岸本強						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	演習	選択/必修	必修	単位数	1	授業コード	M2020540
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭一種免許状《教科に関する科目》 ・体育 ○小学校教諭一種免許状《教科に関する科目》 ・体育 ○保育士資格						

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい]          児童の発育・発達を理解し、小学校学習指導要領体育編の内容について学年、年齢に沿った授業を適切かつ豊かに展開するために必要な知識や技術を修得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]          児童の運動機能の特徴や年齢的特徴を知り、体づくり運動、器械・器具を使う運動（遊び）、ルールのある運動（ゲーム）、走・跳の運動など、学習指導要領に定められる全領域について環境構成及び具体的展開のために必要な知識や指導技術を修得し、体育の授業が運営できるようにする。</p>
授業の到達目標	<p>(1) 子どもの体力・運動能力について知るとともに、現代的課題についても理解する。</p> <p>(2) 体育科指導に必要な知識と技術を修得し、自ら実践・指導することができる。</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション（授業計画、進め方、評価方法等の説明）、小学校学習指導要領及び同解説 体育編、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領についての解説</p> <p>第2回 体づくり運動①（体ほぐしの運動）</p> <p>第3回 体づくり運動②（多様な動きをつくる運動、体力を高める運動）</p> <p>第4回 器械・器具を使つての運動あそび</p> <p>第5回 器械運動</p> <p>第6回 走・跳の運動あそび</p> <p>第7回 走・跳の運動</p> <p>第8回 陸上運動</p> <p>第9回 水遊び、浮く・泳ぐ運動、水泳</p> <p>第10回 ボールゲーム、鬼遊び</p> <p>第11回 ゴール型ゲーム</p> <p>第12回 ネット型ゲーム</p> <p>第13回 ベースボール型ゲーム</p> <p>第14回 表現リズム遊び、表現運動、集団行動</p> <p>第15回 保健（心身の発育発達、健康と生活、けが防止、病気の予防）</p> <p>定期試験</p>
テキスト	<p>文部科学省『小学校学習指導要領』第9節体育  <a href="http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/syo/tai.htm">http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/syo/tai.htm</a></p> <p>文部科学省『小学校学習指導要領解説 体育編』  <a href="http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/syokaisetsu/index.htm">http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/syokaisetsu/index.htm</a></p> <p>文部科学省『幼稚園教育要領』厚生労働省『保育所保育指針』内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』</p>
参考文献	必要に応じてプリントなどを配付
評価方法	<p>1) 毎時の授業ノート（振り返り）50%</p> <p>2) 定期試験 50%</p>

自己学習に 関する指針	テキストや配付資料を参考にし、授業ノート（振り返り）を作成する。
履修上の 指導・留意点	実技授業では、運動に適した服装・靴を着用すること。

授業科目	体育Ⅱ						
担当教員	岸本強						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2020550
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭一種免許状《教科に関する科目》 ・体育 ○小学校教諭一種免許状《教科に関する科目》 ・体育 ○保育士資格						

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい] 体育科内容について、年齢や発育・発達に応じて、系統的・段階的に漸進性の原則に沿った指導・援助が適切にできるよう学修する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 大型器具を使う遊び、手具を使う遊び、固定遊具での遊び、ルールのある遊び、鬼遊び、伝承的遊び等の子どもの運動遊びについて、幼児期から児童期への接続を考慮しながらその具体的内容について自ら実践し、体験をもとに運動（あそび）の環境設定や構成及び具体的展開のために必要な知識や指導技術を修得する。</p>
授業の到達目標	<p>(1) 子どもの運動における連続性について理解する。</p> <p>(2) 楽しく取り組むことができる運動を考え、自ら実践・指導することができる。</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション（授業計画、進め方、評価方法等の説明）、小学校学習指導要領及び同解説 体育編、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領についての解説</p> <p>第2回 年齢による運動発達の特徴及びコーディネーション運動の紹介</p> <p>第3回 遊具・マットあそび</p> <p>第4回 遊具・平均台あそび</p> <p>第5回 遊具・功技台・跳び箱あそび</p> <p>第6回 遊具・鉄棒あそび①ぶら下がる、上がる</p> <p>第7回 遊具・鉄棒あそび②まわる</p> <p>第8回 遊具・縄あそび①短縄</p> <p>第9回 遊具・縄あそび②長縄</p> <p>第10回 遊具・フープ・棒あそび</p> <p>第11回 遊具・ボールあそび①個人・少人数でのボール遊び</p> <p>第12回 遊具・ボールあそび②ボールを使ったゲーム</p> <p>第13回 遊具・トランポリンあそび</p> <p>第14回 リレーあそび、鬼あそび、伝統的なあそび</p> <p>第15回 遊具の組み合わせによる環境構成、及び有効な室内・屋外の環境設定、まとめ 定期試験</p>
テキスト	<p>文部科学省『小学校学習指導要領』第9節体育 (<a href="http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/syo/tai.htm">http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/syo/tai.htm</a>)</p> <p>文部科学省『小学校学習指導要領解説 体育編』 (<a href="http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/syokaisetsu/index.htm">http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/syokaisetsu/index.htm</a>)</p> <p>文部科学省『幼稚園教育要領』厚生労働省『保育所保育指針』内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』</p>
参考文献	必要に応じてプリントなどを配付
評価方法	<p>1) 毎時の授業ノート（振り返り）50%</p> <p>2) 定期試験50%</p>

自己学習に 関する指針	テキストや配付資料を参考にし、授業ノート（振り返り）を作成する。
履修上の 指導・留意点	実技授業では、運動に適した服装・靴を着用すること。

授業科目	教職実践演習(小・幼)						
担当教員	高橋泰道 小山優子 齊藤一弥 矢島毅昌 梶間奈保						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	4	配当期	秋学期
授業形態	演習	選択/必修	必修	単位数	2	授業コード	M2020560
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭一種免許状 ○小学校教諭一種免許状 ○保育士資格						

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい]                  保育者や教員として必要な知識・技能・態度を身に付けているかを、大学での4年間の学修を評価することを通じて確認する。そして、養成課程の全課程を統合的に理解し、保育士及び幼稚園教諭としての確かな教育実践力を身に付ける。</p> <p>[授業全体の内容の概要]                  大学での様々な学修や実習を通じた4年間の課程をふり返り、知識・態度・技能などの自らの学びの過程と学修内容を自覚すると同時に、小学校教諭や幼稚園教諭に求められる「使命感や責任感、教育的愛情」「児童理解や学級経営力」等が修得されているかどうかを確認し、対人関係力や教科の指導法に関する実践力をさらに高める。</p> <p>この授業では、教科の内容及び指導法の学修を踏まえた実践力を重視し、すべての授業を教職の担当教員と教科の担当教員との連携のもとで実施する。また、模擬授業の準備・実施・講評の段階では、学校管理職経験者との連携のもとで授業を実施する。</p>
授業の到達目標	<p>(1) 履修カルテをもとに教師としての自己の特徴や長所を確認するとともに、自己課題を発見できる。</p> <p>(2) グループで話し合い、役割分担をしながら、協力して活動に取り組むことができる。</p> <p>(3) 学習ポートフォリオを活用しながら、自らの探求による教材研究を行い、教師としての表現力や児童への指導方法に配慮した指導計画を立案したうえで模擬授業を実施し、その授業を学生同士で評価することができる。</p> <p>(4) 地域の理解や地域との連携を通じた教育を計画・実践することができる。</p>
授業計画	<p>第1回 教師としての学びの過程と学修内容の確認(履修カルテを活用したグループ討議)</p> <p>第2回 教師に求められる資質・能力の理解(履修カルテを活用したグループ討議)</p> <p>第3回 教師としての自己課題の発見(グループ発表+講評)</p> <p>第4回 地域理解・地域資源の活用と小学校教育/幼稚園教育</p> <p>第5回 学校管理職(小学校/幼稚園)経験者による講話</p> <p>第6回 教材研究と指導計画作成①(教材と指導法の研究)</p> <p>第7回 教材研究と指導計画作成②(教材研究とその活用例)</p> <p>第8回 教材研究と指導計画作成③(授業実践事例の研究)</p> <p>第9回 教材研究と指導計画作成④(模擬授業の準備)</p> <p>第10回 模擬授業(各教科の/各領域を中心とした低学年の学習)の発表と評価</p> <p>第11回 模擬授業(各教科の/各領域を中心とした高学年の学習)の発表と評価</p> <p>第12回 模擬授業(合科的/領域横断的な学習)の発表と評価</p> <p>第13回 模擬授業(地域理解を深める学習)の発表と評価</p> <p>第14回 模擬授業(地域資源を活用した学習)の発表と評価</p> <p>第15回 模擬授業への各学校管理職経験者の講評、講評を踏まえた反省と教職実践力の自己評価</p>
テキスト	テキストは使用しない。授業中に資料を配付する。
参考文献	授業中に随時紹介する。
評価方法	演習・実技への積極的な参加姿勢と小レポートの提出(20%)、課題レポートの提出(40%)、模擬授業の計画と実践(40%)から、総合的に評価する。
自己学習に関する指針	

履修上の 指導・留意点	
----------------	--



授業科目	初等外国語教育法						
担当教員	小玉容子						
科目分類	専門基幹	授業時間	15	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2020570
免許資格 関連事項	○小学校教諭一種免許状《教科又は教職に関する科目》						

授業の概要	<p>2020年から、小学校5,6年生では「外国語(英語)」が、3,4年生では「外国語活動」が導入される。授業では、「外国語(英語)」と「外国語活動」の目標や内容を理解し、児童の積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢を育み、コミュニケーションの楽しさを、児童が体験できる指導ができるように、知識や実践力を身に付ける。具体的には、英語教育指導法や幅広い教材について学び、英語力を測る基準ともなるCEFRやCAN DO LISTなどの理解に基づいた教案を作成し、その教案に基づいた指導ができる能力を身に付ける。特に5,6年対象の活動では、「聞く」「話す」に加え、「読む」「書く」も含めた指導法を学ぶ。</p>
授業の到達目標	<p>(1) 小学校の「外国語(英語)」、「外国語活動」の教育課程と教材を理解し、指導案を作成できる。 (2) 各学年別の学習者の学びの違いを理解し、児童の到達度や反応に対応し、活動内容を調整できる。 (3) (1)の指導案に沿った実践を試み、コミュニケーション能力の素地を育てる指導ができる。</p>
授業計画	<p>第1回 小学校の外国語教育の実際 第2回 CEFRやCAN DO LISTなどの理解 (聞く、話す、読む、書く、の内容理解) 第3回 外国語補助教材に関する理解、利用方法など(高学年対象) 第4回 外国語補助教材に関する理解、利用方法など(中学年対象) 第5回 その他の教材研究、利用方法 第6回 目的、教材を理解した上での授業の組み立て(教案作成) 第7回 教案に沿った実践(模擬授業:第1グループの実践、第2グループの参観・評価) 第8回 教案に沿った実践(模擬授業:第2グループの実践、第1グループの参観・評価) 定期試験 模擬授業を終えての小論文課題</p>
テキスト	印刷教材を適宜配布
参考文献	<p>『英語到達度指標 CEFR-J ガイドブック』大修館書店 文部科学省「外国語教育」(<a href="http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/">http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/</a>) えいごネット-英語教員のためのポータルサイト ( <a href="http://www.eigo-net.jp/">http://www.eigo-net.jp/</a> )</p>
評価方法	<p>毎回の小テスト・・・40点 教案および模擬授業の内容と小論文課題・・・・・・60点</p>
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	

授業科目	音楽基礎Ⅰ（ピアノ）						
担当教員	白川浩 白川千春 代香織						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	1	配当期	通年
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2020580
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭一種免許状《教科又は教職に関する科目》 ○小学校教諭一種免許状《教科又は教職に関する科目》 ○保育士資格						

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい]                  本科目は小学校、幼稚園、認定こども園及び保育所における音楽活動を具体的に想定しながら、教育音楽と音楽表現に関する基礎的なピアノ演奏技能の修得を目的とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要]                  本科目はピアノ実技習得を目的としており、学生の習熟度に応じた個別指導が主となる。下記のとおり平均的な習熟度のモデルでバイエル第100番までを修得することを目標とし、加えて基本的なコード奏法を学修する。</p> <p>授業は習熟度が同程度の3~4人を1グループとして編成し、個別指導並びにグループ指導を受ける。週1回各グループ1時間ずつ、担当教員3名により3部屋で同時に行う。なお、ピアノ既習者には到達目標を踏まえた上、習熟度に応じて上位の課題を行う。</p>
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「バイエルピアノ教則本」（以下、バイエルと記す）の第1番から第100番までの曲目が演奏できる。</li> <li>2. 指定する唱歌及び童謡について簡易なコード奏法により10曲程度演奏できる。</li> <li>3. 表情豊かなピアノ演奏ができる。</li> <li>4. 幼児教育及び小学校教育におけるピアノ演奏上の留意点が説明できる。</li> </ol>
授業計画	<p>【春学期（15回：15時間）】</p> <p>第1回 “授業のテーマ・目標・実施方法の説明                  習熟度調査の実施及びグループ編成の発表と課題曲の指示”</p> <p>第2回 バイエル7 8 10 16                  第3回 バイエル19 20 22 「メリーさんのひつじ」旋律奏                  第4回 バイエル23 24 29 「ちょうちょう」旋律奏                  第5回 バイエル30 31 36 「ぶんぶんぶん」旋律奏                  第6回 ピアノの弾き方の基本Ⅰ「姿勢 手指と腕の準備運動 指の運動 打鍵 基礎練習方法」                  第7回 バイエル37 39 40                  第8回 バイエル46 47 48                  第9回 バイエル49 50 52 「メリーさんのひつじ」コード奏                  第10回 バイエル53 55                  第11回 バイエル56 57 58                  第12回 バイエル59 60 「ちょうちょう」コード奏                  第13回 バイエル61 62                  第14回 バイエル65 66 「ぶんぶんぶん」コード奏                  第15回 総合復習 バイエルno.55~66から5曲を演奏し、コード奏で1曲演奏する                  期末実技試験</p> <p>【秋学期（15回：15時間）】</p> <p>第1回 ピアノの弾き方の基本Ⅱ「児童・幼児の音楽活動におけるピアノの役割」                  第2回 バイエル72 73                  第3回 バイエル74 75                  第4回 バイエル76 77 「小犬のマーチ」コード奏                  第5回 バイエル78 79 「山の音楽家」コード奏                  第6回 バイエル80 「かっこう」コード奏                  第7回 バイエル81 「かたつむり」コード奏                  第8回 バイエル82 「日の丸」コード奏                  第9回 バイエル88 90 91                  第10回 バイエル93 94                  第11回 バイエル96 「むすんでひらいて」コード奏</p>

	第12回 バイエル 97 「きらきら星」コード奏 第13回 バイエル 98 「たなばたさま」コード奏 第14回 バイエル 100 「うみ」コード奏 第15回 バイエル no. 80~100 を演奏し、指定する唱歌・童謡をコード奏する 期末実技試験
テキスト	○標準バイエルピアノ教則本 (全音楽譜出版社) ○やさしく弾ける/ピアノ・ソロ文部省唱歌・童謡集 新装版 松原 美子 ケイ・エム・ピー ○幼児のための音楽教育 神原雅之 教育芸術社 ○個々の能力に応じて担当教員が編曲した楽譜を渡すことがある
参考文献	
評価方法	期末実技試験及び習熟度の伸び等を総合して評価する。
自己学習に関する指針	自身で練習時間を設定し、毎日弾くことを勧めます。
履修上の指導・留意点	

授業科目	音楽基礎Ⅱ（ピアノ）						
担当教員	白川浩 白川千春 代香織						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	2	配当期	通年
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2020590
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭一種免許状《教科又は教職に関する科目》 ○小学校教諭一種免許状《教科又は教職に関する科目》 ○保育士資格						

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい] 本科目は小学校、幼稚園、認定こども園及び保育所における音楽活動でのピアノ演奏・ピアノ伴奏及び弾き歌いの適切なあり方について説明できると共に、教育の実際に即応することのできるピアノと歌唱についての技能および豊かな音楽表現の修得を目的とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 本科目は実技習得を目的としており学生個々の習熟度に応じた個別指導を主とする。授業は音楽基礎Ⅰ（ピアノ）と同じく、習熟度が同程度の3～4人を1グループとして編成し、個別指導を受けると共に他者の受講を聴講する形態とし、週1回各グループ1時間ずつ、担当教員3名により3部屋で同時に行う。なお、ピアノ独奏曲課題は、学生個々の習熟度に応じた楽曲とする。以下は平均的な習熟度のモデルによる授業計画である。</p>
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前期末に課題とする弾き歌い楽曲および行進曲の全てを演奏する事ができる。</li> <li>2. 小学校教育におけるピアノによる弾き歌いに関する留意点について説明できる。</li> <li>3. 唱歌・童謡をピアノ伴奏する際の留意点について説明できる。</li> <li>4. 前期末には1曲のピアノ独奏曲を表情豊かに演奏することができる。</li> <li>5. 後期末にダンパーペダルを用いた歌曲伴奏とピアノ独奏曲を演奏することができる。</li> </ol>
授業計画	<p>【前期（15回：15時間）】</p> <p>第1回 授業テーマと目標のガイダンス及び課題曲の概説</p> <p>第2回 「うみ」「とんぼのめがね」フレーズの理解とスラー技術</p> <p>第3回 「春がきた」「春の小川」フレーズの理解とスラー技術</p> <p>第4回 「さくらさくら」「ひらいたひらいた」日本旋法の理解と演奏法</p> <p>第5回 「かくれんぼ」「やきいもグーチャーパー」遊び歌の演奏法と歌唱法</p> <p>第6回 「茶つみ」「バスごっこ」遊び歌の演奏法と歌唱法</p> <p>第7回 「かたつむり」「おつかいありさん」2種類の付点音符の演奏技術</p> <p>第8回 「虫のこえ」「たきび」曲調の違いを弾き分ける技術</p> <p>第9回 「タヤケコヤケ」「ふしぎなポケット」ダンパーペダルの使用法1</p> <p>第10回 「タヤケコヤケ」「ふしぎなポケット」ダンパーペダルの使用法2</p> <p>第11回 「線路は続くよどこまでも」「小犬のマーチ」行進曲の演奏法</p> <p>第12回 「線路は続くよどこまでも」「小犬のマーチ」行進曲の演奏法と応用Ⅰ</p> <p>第13回 第2回～第12回の総合復習（1）</p> <p>第14回 第2回～第12回の総合復習（2）</p> <p>第15回 第2回～第12回の総合復習（3）</p> <p>期末実技試験</p> <p>【後期（15回：15時間）】</p> <p>第1回 前期学習の確認と後期授業テーマ及び目標のガイダンス</p> <p>第2回 「ふじ山」「どんぐりころころ」スタカートの技術 詩情の演奏表現法</p> <p>第3回 「日のまる」「子もり歌」「うさぎ」日本旋法の演奏上の理解と表現法</p> <p>第4回 「とんび」「こいのぼり」3拍子と4拍子の拍子感覚</p> <p>第5回 「まきばの朝」「もみじ」豊かなイメージ力を伴う演奏 ダンパーペダルの使用法3</p> <p>第6回 「子どもの世界」「線路は続くよどこまでも」「小犬のマーチ」行進曲の演奏法と応用Ⅱ</p> <p>第7回 「スキーの歌」「冬げしき」3拍子と4拍子の拍子感覚 表現力豊かな演奏</p> <p>第8回 「われは海の子」楽曲理解と演奏1 ピアノ独奏曲（1回目）</p> <p>第9回 「おぼろ月夜」楽曲理解と演奏2 ピアノ独奏曲（2回目）</p> <p>第10回 「ふるさと」楽曲理解と演奏3 ピアノ独奏曲（3回目）</p> <p>第11回 唱歌・童謡復習（1）ピアノ独奏曲（4回目）</p>

	第 12 回 唱歌・童謡復習 (2) ピアノ独奏曲 (5 回目) 第 13 回 唱歌・童謡復習 (3) ピアノ独奏曲 (6 回目) 第 14 回 唱歌・童謡復習 (4) ピアノ独奏曲 (7 回目) 第 15 回 幼稚園から小学校第 6 学年までの音楽教材楽曲のピアノ演奏に関する総括 期末実技試験
テキスト	1. やさしく弾ける/ピアノ・ソロ文部省唱歌・童謡集 新装版 松原 美子 ケイ・エム・ピー 2. 幼児のための音楽教育 神原雅之 教育芸術社 3. 適宜、個別に課題楽曲を提示する。
参考文献	個々の能力に応じて担当教員が編曲した楽譜を渡すことがある。
評価方法	期末実技試験及び習熟度の伸び等を総合して評価する。
自己学習に関する指針	自身で練習時間を設定し、毎日弾くことを勧めます。
履修上の指導・留意点	

授業科目	教育実習Ⅰ(幼稚園)指導						
担当教員	小山優子 青山啓子						
科目分類	専門基幹	授業時間	15	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2020600
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭一種免許状《教職に関する科目》 ・教育実習						

授業の概要	<p>・実習前の指導では、「教育実習Ⅰ(幼稚園)指導」「教育実習Ⅰ(幼稚園)」を担当する専任教員と教職課程に係る人材育成に実績を有する兼任教員(以下、合わせて「実習担当教員」)により、幼稚園の教育実習に向け、実習生としての心構えを確認するとともに、幼稚園の活動を具体的に知るなどの事前指導を行う。また、実習日誌の書き方や指導計画の作成などの保育文書の実際についても、講義や指導計画の立案課題を通して学ぶ。</p> <p>・実習終了後は、実習担当教員により実習の反省や自己評価などの事後指導を行う。</p>
授業の到達目標	<p>(1) 教育実習を行うための心構えや実習内容を理解し、責任感と行動力を身につける。</p> <p>(2) 実習日誌などの文書の書き方を理解する。</p> <p>(3) 部分指導案や日案などの書き方を理解し、指導計画を立案する力を身につける。</p>
授業計画	<p>(事前指導)</p> <p>第1回 幼稚園教育実習の概要 第2回 実習に向けての心構え、実習での文書の取り扱い 第3回 実習日誌の書き方 第4回 部分指導案の書き方 第5回 日案の書き方 第6回 実習への取り組み(ビデオ視聴) 第7回 実習に向けての最終指導</p> <p>(事後指導)</p> <p>第8回 実習の報告と事後指導</p>
テキスト	<p>島根県立大学保育教育学科 編『実習の手引き』と『教育実習実施要領』に基づき、実習指導を行う。</p> <p>また「実習日程表」「出勤簿」「実習日誌」「指導案用紙」などを配布する。</p>
参考文献	<p>参考文献などは授業の中で適宜提示するとともに、必要に応じてプリントなどを配布する。</p>
評価方法	<p>成績は、出席状況、課題レポート、実習に対する意欲なども含め、総合的に評価する。</p> <p>教育実習指導の講義に1回でも欠席した場合は教育実習を受けさせないため、必ず、教育実習指導の欠席した回の補講を受ける。また課題レポートの提出が、単位認定の最低条件となる(提出物の遅れやレポートの未提出については、総合点から減点する。未提出の場合は、単位を認定しない)。</p>
自己学習に関する指針	<p>幼稚園教諭になるための教育実習を行う前の事前・事後指導である。実習中に活かせる知識技能を身につけることを目的とするため、実習に対する意欲を高めるつもりで履修すること。</p>
履修上の指導・留意点	<p>履修対象は、保育教育学科の幼稚園教諭一種免許取得者のみ。</p>

授業科目	教育実習 I (幼稚園)						
担当教員	小山優子 青山啓子						
科目分類	専門基幹	授業時間	180	配当年次	3	配当期	通年
授業形態	実習	選択/必修	選択	単位数	4	授業コード	M2020610
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭一種免許状《教職に関する科目》 ・教育実習						

授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前半に実施する実習は、見学・観察・参加実習が主となるが、指導的立場で保育を部分的に担う責任実習も行う。</li> <li>・後半に実施する実習では、前半の実習体験と幼児の発達的变化の理解を踏まえ、幼稚園の指導教員の指導の下でより指導的立場での責任実習を行う。</li> <li>・実習担当教員が中心となり、実習期間中に実習先を巡回し、実習生の様子を観察するとともに、幼稚園の指導教員と情報交換を行い実習生に対し必要な助言・指導を行う。</li> </ul>
授業の到達目標	<p>実習の目標は、実習園の保育方針の理解、物的環境や人的環境の把握、保育の一日の流れの理解、クラスや幼児の理解、生活や遊びなどの活動の内容や保育形態の理解、保育者の役割や指導・援助の方法の理解、指導計画の立案、部分指導や全日指導の実際、実習の省察と評価である。</p>
授業計画	<p>前半（2週間） 幼稚園の組織、運営、活動の実際を理解する。子ども理解や保育者の援助の方法など、専門科目で学んだ知識や理論を実践する。幼児の把握・理解と具体的な人間関係の中で、指導技術を習得する。</p> <p>後半（2週間） 前半の実習体験から明確な課題意識を持って実習に取り組む。また、2ヶ月間の幼児の発達的变化を理解することによって、幼児の把握・理解を深める。</p>
テキスト	<p>島根県立大学保育教育学科 編『実習の手引き』と『教育実習実施要領』に基づき、実習指導を行う。 また「実習日程表」「出勤簿」「実習日誌」「指導案用紙」などを配布する。</p>
参考文献	<p>授業で配布した資料等を参考にすること。</p>
評価方法	<p>大学の実習担当教員が、以下の観点などについて、実習日誌等の文書、巡回指導時の状況、学生による実習の省察、実習協力園の指導教諭・教頭・園長などの評価を踏まえ、総合的に成績評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習を通じた職務内容・専門性の理解</li> <li>・幼児への理解や指導</li> <li>・教材の研究や作成</li> <li>・保育指導案の立案と環境設定</li> <li>・実習に対する意欲・態度</li> <li>・実習中の出勤状況や勤務態度</li> </ul> <p>最終的には、保育教育学科会議で協議の上、実習担当教員が成績評価を確定する。</p>
自己学習に関する指針	<p>実習の受け入れ条件として、幼稚園教諭になる強い意志がある、または保育者に必要な知識技能を積極的に学ぶつもりのある学生となっているため、実習に対する意欲や態度も重要になる。</p>
履修上の指導・留意点	<p>履修対象は、保育教育学科の幼稚園教諭一種免許取得者のみ。</p>

授業科目	教育実習Ⅱ（小学校）指導						
担当教員	高橋泰道 齊藤一弥 川上洋子						
科目分類	専門基幹	授業時間	15	配当年次	4	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2020620
免許資格 関連事項	○小学校教諭一種免許状《教職に関する科目》 ・教育実習						

授業の概要	<p>・実習前の指導では、「教育実習Ⅱ（小学校）指導」「教育実習Ⅱ（小学校）」を担当する専任教員と教職課程に係る人材育成に実績を有する兼任教員（以下、合わせて「実習担当教員」）により、実習の心構え（実習の始まる前の準備、一日の流れ、期間中の流れ）、児童指導（児童指導・児童理解）、学習（授業実践の心構え、発問・板書・机間巡視／指導の方法）を学ばせる。</p> <p>・実習終了後は、報告書を作成し、報告会を行う。実習担当教員により実習の反省や自己評価などの事後指導を行う。</p>
授業の到達目標	<p>① 学校と教師の仕事、子ども、基本的な指導技術について理解できる。</p> <p>② 各教科・領域の学習指導案について理解し、自分で書くことができる。</p> <p>④ 学習したことを活かして、授業者・学習者として模擬授業に取り組むことができる。</p> <p>④ 実習報告会等を通して、自己課題の明確化を図る。</p>
授業計画	<p>（事前指導）</p> <p>第1回 小学校教育実習の概要</p> <p>第2回 小学校教育の現状と教師の役割</p> <p>第3回 子ども理解と学級経営</p> <p>第4回 教材研究の方法と学習指導案の作成</p> <p>第5回 模擬授業の実践</p> <p>第6回 模擬授業の検討と学習指導案の修正</p> <p>第7回 実習に向けての最終指導</p> <p>（事後指導）</p> <p>第8回 実習報告会と事後指導</p>
テキスト	教育実習日誌、教育実習の手引き
参考文献	各教科・領域の学習指導要領解説書。その他、必要に応じて、適宜指示する。
評価方法	毎回の授業レポート・提出物（40%）、レポート課題（30%）実習報告書（30%）
自己学習に関する指針	配布資料を読み、事前学修・事後学修に役立てる。
履修上の指導・留意点	質問は、その内容に応じて、授業時間中・オフィスアワー・e-mail に対応します。



授業科目	教育実習Ⅱ（小学校）						
担当教員	高橋泰道 齊藤一弥 川上洋子						
科目分類	専門基幹	授業時間	180	配当年次	4	配当期	春学期
授業形態	実習	選択/必修	選択	単位数	4	授業コード	M2020630
免許資格 関連事項	○小学校教諭一種免許状《教職に関する科目》 ・教育実習						

授業の概要	<p>・前半に実施する実習では、現職教師の援助を受けながら、小学校教諭をめざすものとして必要な、知識・技能、意欲・態度、問題解決能力等の指導力を身につける。また、実習担当教員が中心となり、期間中に1回巡回指導を行う。</p> <p>・後半に実施する実習では、前半の実習体験と児童の発達的变化の理解を踏まえて児童と直接ふれ合い、小学校の指導教員の指導を受けながら教育者に求められる知識、技能、態度を修得し、教科指導や生徒指導などの教育実践を通して、児童理解、人間尊重の精神及び教育者としての使命感を養う。</p> <p>・実習担当教員が中心となり、実習期間中に実習先を巡回し、実習生の様子を観察するとともに、小学校の指導教員と情報交換を行い実習生に対し必要な助言・指導を行う。</p>
授業の 到達目標	<p>小学校教諭に必要な、以下の実践的知識・技能・態度の基礎を身につけることができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 実習を通じた職務内容・専門性の理解</li> <li>② 児童への理解や指導</li> <li>③ 教材の研究や単元指導計画の作成</li> <li>④ 学習指導案の立案と実践的な指導技術（発問、板書、説明等）</li> <li>⑤ 実習に対する意欲・態度</li> <li>⑥ 実習中の出勤状況や勤務態度</li> </ol>
授業計画	<p>前半（2週間） 小学校の組織、運営、活動の実際を理解する。教育者に求められる知識、技能、態度を修得し、教科指導や生徒指導などの実践を通して、児童理解、人間尊重の精神及び教育者としての使命感を養う。</p> <p>後半（2週間） 前半の実習体験から明確な課題意識を持って実習に取り組む。また、2ヶ月間の児童の発達的变化を理解することによって、児童の把握・理解を深める。</p>
テキスト	特になし
参考文献	特になし
評価方法	<p>大学の実習担当教員が、以下の観点などについて、実習日誌等の文書、巡回指導時の状況、学生による実習の省察、実習協力校の指導教諭・教頭・校長などの評価を踏まえ、総合的に成績評価を行う。・実習を通じた職務内容・専門性の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童への理解や指導</li> <li>・教材の研究や単元指導計画の作成</li> <li>・学習指導案の立案と実践的な指導技術（発問、板書、説明等）</li> <li>・実習に対する意欲・態度</li> <li>・実習中の出勤状況や勤務態度</li> </ul> <p>最終的には、保育教育学科会議で協議の上、実習担当教員が成績評価を確定する。</p>
自己学習に 関する指針	計画的に実習日誌の記録、教材研究、指導案等の作成を行うこと。

履修上の 指導・留意点	学外での貴重な学びの経験となる。実習体験の場を提供して下さる現場の教職員・児童・保護者・関係者等への感謝の念を忘れず、自分でできる最大限の取り組みをする。体調を整え、周知な準備をして、実習に臨むこと。
----------------	--

授業科目	社会的養護内容						
担当教員	藤原映久						
科目分類	専門基幹	授業時間	15	配当年次	4	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2020640
免許資格 関連事項	○保育士資格						

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい] 社会的養護の場における子どもたちの安心・安全の確保に必要な考え、知識、技術を理解することを目的とする。具体的には、権利擁護の考えや養護の専門的な知識、技術を学び、社会的養護の現場で生じている実際的な課題とその対処法に関して理解することをねらう。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 社会的養護の実際は、児童福祉施設に勤務する職員や里親が提供する具体的な援助方法に支えられている。本科目では、愛着、子どもとのコミュニケーション、暴力の防止などをキーワードとしながら、社会的養護の現場における児童の安心・安全の確保を重要な視点とする。そして、その視点に立つうえで、社会的養護を実践する上で必要とされるケアワーク、ソーシャルワークの知識・技術について学び、その理解と認識を深めることを目的とする。また、児童福祉施設職員または里親からの話を聞く機会を設けることにより、学びを深める。</p>
授業の到達目標	<p>(1) 社会的養護における子どもたちの権利擁護について理解する (2) 社会的養護に必要なとされる専門的な知識や技術について理解する (3) 社会的養護の現場における具体的な課題やその対処法について理解する</p>
授業計画	<p>第1回 社会的養護の実施体系と子どもの権利擁護 第2回 専門性に関する知識1：愛着について 第3回 専門性に関する知識2：被措置児童等虐待 第3回 専門性に関する知識3：施設内暴力の防止について 第5回 専門性に関する技術1：乳幼児とのコミュニケーション技法（声かけ、言語心理学的技法） 第6回 専門性に関する技術2：暴力を用いないしつけの方法1（子育て支援プログラムの技法） 第7回 専門性に関する技術3：暴力を用いないしつけの方法2（子育て支援プログラムの技法） 第8回 社会的養護の実際を学ぶ（社会的養護における課題とその対処） 定期試験</p>
テキスト	テキストは使用しない。授業に必要な資料はその都度配布する。
参考文献	必要に応じて授業の中で紹介する。
評価方法	成績は、期末試験（70%）、毎回の小テスト等（30%）を基本として総合的に判断する。
自己学習に関する指針	配布資料を用いて予習・復習を行うとともに、理解を深めるため、積極的に授業中に紹介する参考文献を読むこと。
履修上の指導・留意点	

授業科目	相談援助演習						
担当教員	藤原映久						
科目分類	専門基幹	授業時間	15	配当年次	4	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2020650
免許資格 関連事項	○保育士資格						

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい] 保育者等として、子どもとその家庭を支援するために必要となる相談援助の基礎的な知識、技術の理解と修得を目的とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] まずは、保育実践において必要とされる社会福祉援助技術の概要と歴史について概説する。そのうえで、社会福祉の援助者として求められる、個人の尊厳と人権の尊重、自立支援、秘密保持等の基本的姿勢について確認する。さらに、具体的な演習を通して、実際の現場で使用する社会福祉援助技術の方法と内容を修得する。演習では、ケースワークやグループワークを中心に学ぶとともに、コミュニティワークやケアマネジメントについても理解を深める。</p>
授業の到達目標	<p>(1) 相談援助の概要について理解する。</p> <p>(2) 相談援助の方法と技術について理解する。</p> <p>(3) アセスメントから支援の展開までの流れを理解する。</p> <p>(4) 相談援助を支える理論の基礎を理解する。</p>
授業計画	<p>第1回 社会福祉援助技術の概要と歴史</p> <p>第2回 社会福祉援助技術の共通基盤</p> <p>第3回 相談援助の基本（自己知覚と他者理解）</p> <p>第4回 ケースワーク（個別援助技術）の基礎</p> <p>第5回 グループワーク（集団援助技術）とコミュニティワーク（地域援助技術）の基礎</p> <p>第6回 アセスメントと相談援助</p> <p>第7回 相談援助を支える理論の基礎（行動理論、クライアント中心アプローチ）</p> <p>第8回 相談援助を支える理論の基礎（システムズアプローチ、生態学的アプローチ）</p> <p>定期試験</p>
テキスト	テキストは使用しない。授業に必要な資料はその都度配布する。
参考文献	必要に応じて授業の中で紹介する。
評価方法	成績は、期末試験（70%）、毎回の小テスト等（30%）を基本として総合的に評価する。
自己学習に関する指針	配布資料を用いて予習・復習を行うとともに、理解を深めるため、積極的に授業中に紹介する参考文献を読むこと。
履修上の指導・留意点	

授業科目	家庭支援論						
担当教員	藤原映久 石倉優子						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	4	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020660
免許資格 関連事項	○保育士資格						

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい] 現在の子育て家庭を取り巻く状況を実際の・学問的に学ぶことを通じて家庭支援の必要性を理解した上で、現状の支援制度の中で保育士に求められる家庭支援に関して、実践的な知識の習得を目指す。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 家族や家族を取り巻く社会環境の変化（少子・高齢化、核家族化、男女共同参画等）を理解し、家族内の人間関係（きょうだい関係含む）、家族のダイナミズム（家族システム論）、家族や社会とジェンダー意識等を学習、家族支援に関する基本知識を修得する。また、現在の子育て支援の実態や虐待等に対する関係機関との連携、家族の福祉や支援活動について学び、保育者として家族をサポートする上での必要な知識を身に付ける。</p>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭の意義とその機能について理解できる。</li> <li>・現在の子育て家庭を取り巻く状況と支援体制を理解できる。</li> <li>・現在の子育て家庭に対する保育士としての支援のあり方が理解できる。</li> </ul>
授業計画	<p>第1回 家庭の意義と機能（担当：藤原）</p> <p>第2回 家庭支援の必要性（担当：藤原）</p> <p>第3回 家庭生活を取り巻く社会的状況の変化（担当：藤原）</p> <p>第4回 地域社会の変容と家庭支援（担当：藤原）</p> <p>第5回 現代の家庭における人間関係（担当：藤原）</p> <p>第6回 子育て家庭の福祉を図るための社会資源（担当：藤原）</p> <p>第7回 男女共同参画社会とワークライフバランス（担当：石倉）</p> <p>第8回 保育士等が行う家庭支援の原理（担当：石倉）</p> <p>第9回 子育て支援サービスの概要（担当：石倉）</p> <p>第10回 保育所入所児童の家庭への支援（担当：石倉）</p> <p>第11回 地域の子育て家庭への支援（児童館、放課後児童クラブ等）1（担当：石倉）</p> <p>第12回 地域の子育て家庭への支援（児童館、放課後児童クラブ等）2（担当：石倉）</p> <p>第13回 障がいのある児童およびその家庭に対する支援（放課後等デイサービス等）（担当：石倉）</p> <p>第14回 要保護児童およびその家庭に対する支援と機関連携（担当：藤原）</p> <p>第15回 子育て家庭への支援が抱える課題（担当：藤原）</p> <p>定期試験</p>
テキスト	新保幸男、小林理編集（2016）『基本保育士シリーズ 家庭支援論』、中央法規【2,000+税】
参考文献	必要に応じて紹介する。
評価方法	成績は、期末試験（40%）、レポート（40%）及び毎回の小テスト等（20%）により評価する。
自己学習に関する指針	テキストと配布資料で予習・復習を行うとともに、理解を深めるため、積極的に授業中に紹介する参考文献を読むこと。
履修上の指導・留意点	

授業科目	保育相談支援						
担当教員	山尾淳子						
科目分類	専門基幹	授業時間	15	配当年次	4	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2020670
免許資格 関連事項	○保育士資格						

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい] 保育現場での相談支援の専門性を身につけるために、「育てにくさ」「育ちにくさ」をもった子どもの発達を支援し、きがかかりな親子関係と保護者を支援するための、発達臨床の基礎を学ぶ。家族支援と早期対応、早期介入の必要性、福祉領域との連携、保育相談の実務と役割の理解を目指す。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 地域子育て支援の拠点として、保育所、幼稚園、及び認定こども園に期待される保護者支援としての保育相談支援者の役割と基礎的理論・技術を学ぶ。特に乳児期からの「こんにちは赤ちゃん事業」「育児支援家庭訪問事業」「子育て支援センター」などの個別相談型支援事業に対応できる支援者のあり方、保育所での困難な保育を抱える保護者の保育への介入と支援のあり方、さらに地域専門職ネットワークの中での保育専門職の役割を理解するための演習とする。</p>
授業の到達目標	<p>(1) 保育所の相談支援業務を、送迎時対応から個別相談まで、段階的に把握することができる。</p> <p>(2) 日常の保育業務の「連絡帳」「園だより」「相談記録」を、構造的に把握することができる。</p> <p>(3) 困難事例の発達の介入の時期と方法のあり方を理解することができる。</p>
授業計画	<p>第1回 保育所保育指針と保育相談支援</p> <p>第2回 困難事例の早期発見と早期対応</p> <p>第3回 日常的な支援と記録のあり方</p> <p>第4回 日常的な支援の見直し（園内の相談支援の実際）</p> <p>第5回 日常的な支援の見直し（情報共有を促す園だより・パンフレット）</p> <p>第6回 日常的な支援の見直し（連絡帳の活用・グループディスカッション）</p> <p>第7回 相談援助のための基本的技術（演習・グループディスカッション）</p> <p>第8回 相談支援のための園内連携・地域連携</p>
テキスト	テキストは使用せず、適宜プリント資料を配付する。配付された資料はファイルして毎回持参すること。
参考文献	笠師千恵・小橋明子著「相談支援 保育相談支援」中山書店 その他授業中に随時紹介する
評価方法	毎回の授業内容理解の評価・毎回提出の授業レポート課題（40%） 期末レポート課題（60%）
自己学習に関する指針	テキストや配布資料を読み、復習に役立てる
履修上の指導・留意点	毎回、授業の終わりに授業の振り返りレポートを提出する

授業科目	子どもの保健 I A						
担当教員	前林英貴						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020680
免許資格 関連事項	○保育士資格						

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい] 成人とは違う子ども特有の生理機能・運動機能・精神機能を学習しながら、子どもの健康と疾病について理解を深める。また、子どもの健康増進のために必要な知識を身に付けることで、保育者として適切な対応・支援ができる基礎を養う。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 現在の小児保健の現状と子どもの心身の健康増進を図る保健活動について学ぶ。保育専門職として、平均的な子どもの発達と評価方法を理解し、子どもの成長・発達に関する基礎的な知識について学ぶ。また、この講義では子どもの精神保健についても理解を深めていく。</p>
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの心身の健康増進を図る小児保健の意義を理解することができる</li> <li>2. 子どもの身体発育、生理機能、運動機能、精神機能の発達について理解することができる</li> <li>3. 子どもの精神保健とその課題等について理解することができる</li> </ol>
授業計画	<p>第1回 子どもの健康と保健活動の意義 第2回 母子保健からみるわが国の統計 第3回 地域における保健活動 第4回 子どもの発育とその特徴 第5回 身体発育値と計測方法 第6回 身体発育に影響を及ぼす要因 第7回 新生児の特徴 第8回 生理機能の発達 「代謝・免疫」 第9回 生理機能の発達 「呼吸・循環」 第10回 生理機能の発達 「睡眠・排泄」 第11回 運動機能の発達 第12回 精神機能の発達 第13回 子どもの食事 第14回 子どもの精神保健 生活環境と心の健康 第15回 精神保健の課題と保健活動 定期試験</p>
テキスト	「子どもの保健 第7版」 巷野悟郎編 診断と治療社
参考文献	講義に必要な資料を授業の中で紹介する
評価方法	期末試験 80%、レポート提出 20%で評価する
自己学習に関する指針	授業前にテキストの該当箇所を予習しておくこと
履修上の指導・留意点	

授業科目	子どもの保健 I B						
担当教員	前林英貴						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020690
免許資格 関連事項	○保育士資格						

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい] 子どもの健康を守るために必要な基礎的知識を習得するとともに、病気や障害、生命倫理についても理解を深め、母子保健・地域保健活動を通して、保育士の役割について考えていく。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 子どもの一般的な健康状態や様々な疾患・障害について知識を深める。また、子どもにみられる様々な疾患を取り上げ、子どもの病気に特徴的な症状と保育者としての対応について学ぶ。保育所や幼稚園などの施設のみならず、家庭や地域で起こりやすい事故の特徴や対応、予防方法についても学ぶ。</p>
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの健康状態の把握と疾患の特徴や予防、適切な対応について理解することができる</li> <li>2. 家庭や保育現場における事故防止および安全対策、危機管理について理解することができる</li> <li>3. 保健活動における地域連携と、多職種間の協働について理解することができる</li> </ol>
授業計画	<p>第1回 子どもの健康状態の評価と健康作り</p> <p>第2回 予防接種について</p> <p>第3回 子どもの疾患の症状とその対応 (その① 発熱)</p> <p>第4回 子どもの疾患の症状とその対応 (その② 消化器症状)</p> <p>第5回 子どもの疾患の症状とその対応 (その③ その他の症状)</p> <p>第6回 子どもに多くみられる疾患「先天性疾患、新生児の疾患、感染症」</p> <p>第7回 子どもに多くみられる疾患「心臓疾患、呼吸器疾患」</p> <p>第8回 子どもに多くみられる疾患「血液疾患、腎疾患、内分泌疾患」</p> <p>第9回 子どもに多くみられる疾患「神経系疾患、その他」</p> <p>第10回 心身障害児について</p> <p>第11回 児童虐待について</p> <p>第12回 子どもの事故と安全対策</p> <p>第13回 児童福祉施設における保健活動</p> <p>第14回 保健活動における連携</p> <p>第15回 地域連携の取り組み</p> <p>定期試験</p>
テキスト	「子どもの保健 第7版」 巷野悟郎編 診断と治療社
参考文献	講義に必要な資料を授業の中で紹介する
評価方法	期末試験 80%、レポート提出 20%で評価する
自己学習に関する指針	授業前にテキストの該当箇所を予習しておくこと
履修上の指導・留意点	



授業科目	子どもの保健Ⅱ						
担当教員	前林英貴						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2020700
免許資格 関連事項	○保育士資格						

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい] 子どもの疾病や事故の特徴とその予防についての基礎知識をもとに適切に対応するための技術を習得し、保健活動の計画及び評価、子どもの心とからだの健康問題や地域保健活動等についてグループワークを通して理解できるよう演習を行う。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 子どもの保健ⅠA・ⅠBで学習した知識や理論を踏まえ、実際の保育現場や保健活動の場において活用するための基礎的知識と技術を習得する。また、乳幼児の基本的な健康及び成長発達の観察方法と評価方法についても習得する。</p>
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの健康及び安全に係る保健活動の計画及び評価することができる</li> <li>2. 子どもの健康や心身の発育・発達を促す保健活動や環境について説明することができる</li> <li>3. 子どもの疾病とその予防及び適切な対処方法やアセスメント方法を実施することができる</li> <li>4. 保育現場における救急時の対応や事故防止、安全管理について説明することができる</li> <li>5. 現代社会における心の健康問題や地域保健活動について理解することができる</li> </ol>
授業計画	<p>第1回 保育における保健活動 (1) 保健計画と評価、安全・衛生管理</p> <p>第2回 保育における保健活動 (2) 健康診断、身体計測と発達評価</p> <p>第3回 保育における保健活動 (3) バイタルサインの測定と健康状態の観察・評価</p> <p>第4回 生活習慣と養護 (1) 抱き方、衣服の着せ方、寝かせ方、排泄方法等</p> <p>第5回 生活習慣と養護 (2) 乳首の選び方、調乳と授乳、排気、離乳食の進め方</p> <p>第6回 生活習慣と養護 (3) 沐浴、保清、スキンケア、口腔ケア</p> <p>第7回 実技評価 (前半)</p> <p>第8回 子どもの疾病とその対応 (1) 感染症の予防と対応</p> <p>第9回 子どもの疾病とその対応 (2) 保育における看護、薬の投与方法</p> <p>第10回 子どもの疾病とその対応 (3) 個別に配慮を必要とする子どもへの対応</p> <p>第11回 子どもの事故防止と応急処置 (1) 子どもの応急処置における対応 (事故防止、救急への要請)</p> <p>第12回 子どもの事故防止と応急処置 (2) 子どもの応急処置における対応 (心肺蘇生法とAED)</p> <p>第13回 子どもの事故防止と応急処置 (3) 傷害時の応急処置</p> <p>第14回 実技評価 (後半)</p> <p>第15回 地域保健活動 (グループワーク)</p> <p>定期試験</p>
テキスト	「これならわかる！子どもの保健演習ノート 改訂第3版」 榎原 洋一 診断と治療社
参考文献	演習に必要な資料を授業の中で紹介する
評価方法	期末試験 60%、実技テスト 20%、課題レポート 20%で評価する
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	演習が中心となる科目のため、主体的に技術習得できるよう心掛ける。動きやすく清潔な服装、身だしなみ (髪型、服装、化粧、爪等) に配慮して参加すること。備品の取り扱いに注意し、汚したり破損しないようにする。準備、洗浄、後片付けは各自責任を持って行うこと。

授業科目	救命救急法・応急手当法						
担当教員	前林英貴、手島由美子						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	4	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2020710
免許資格 関連事項	○保育士資格						

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい] 突発的に起こる不慮の事故や急病に遭遇した場合は、医療機関に着くまでの「救命の連鎖」が必要である。一次救命処置や各種の応急手当に関する基本的な知識・技術・態度を身につけることは、傷病者を社会復帰に導く重要な市民の役割となる。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 特に小児に焦点をあて、学校や幼稚園、保育所、児童養護施設、家庭など、小児の救急場面のなかで起こりやすい傷病・症候の応急処置について学ぶ。また、災害発生時の対応やトリアージ方法についても教授する。</p>
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 傷病者に対する生命徴候の観察ができ、一次救命処置の基本的な知識や技術を習得することができる</li> <li>2. 傷病・症候（傷害、熱傷、熱中症、急性中毒、異物、発熱）に対する応急手当について説明することができる</li> </ol>
授業計画	<p>第1回 子どもに多い事故の種類やその特徴（担当：前林） 第2回 救命の連鎖と応急処置の基本（担当：手島） 第3回 呼吸・循環と心肺停止（担当：手島） 第4回 一次救命処置法—人工呼吸（担当：手島） 第5回 一次救命処置法—心肺蘇生法（担当：手島） 第6回 一次救命処置法—AEDの使い方（担当：手島） 第7回 傷病者の管理法—体位と搬送法（担当：手島） 第8回 傷病に対する応急処置—外傷、骨折等（担当：手島） 第9回 傷病に対する応急処置—出血の管理（担当：手島） 第10回 傷病に対する応急処置—異物、溺水（担当：手島） 第11回 傷病に対する応急処置—急性中毒、アレルギー（担当：手島） 第12回 傷病に対する応急処置—発熱、けいれん、てんかん（担当：手島） 第13回 傷病に対する応急処置—熱中症、低体温症（担当：手島） 第14回 乳児に対する一次救命処置（担当：前林） 第15回 災害発生時の対応—トリアージ（担当：前林） 定期試験</p>
テキスト	「改訂5版 救急蘇生法の指針2015 市民用」 日本救急医療財団心肺蘇生法委員会監修 へるす出版
参考文献	「熱性けいれん 診療ガイドライン2015」 日本小児神経学会 診断と治療社 「災害現場でのトリアージと応急処置」 山崎達枝 日本看護協会出版会
評価方法	期末試験 70%、演習への取り組み 30%で評価する
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	演習が中心となる科目のため、主体的に技術習得できるよう心掛ける。動きやすく清潔な服装、身だしなみ（髪型、服装、化粧、爪等）に配慮して参加すること。備品の取り扱いに注意し、汚したり破損しないようにする。準備、洗浄、後片付けは各自責任を持って行うこと。

授業科目	子どもの食と栄養						
担当教員	長島美保子						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	4	配当期	秋学期
授業形態	講義・演習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020720
免許資格 関連事項	○保育士資格						

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい] 子どもの健康な生活と食生活の意義や栄養に関する基本的知識を理解する。もって、それぞれの発育発達の時期における特性を理解し、適切な食事支援や食育を行うことができるための方法を実践的に学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 保育所・幼稚園・認定こども園における生涯にわたる健康と生活の基礎として、成長に必要な栄養素とその消化・吸収、胎児・母体・小児の生理的特徴など栄養学や生理学の基礎を理解し、その基盤に立った食事のあり方と児童福祉施設での給食管理の基本である給与栄養量や食品構成等を習得する。また、離乳食や幼児食の献立作成や調理を経験し、栄養のみならず、食品、調理、盛りつけ、食卓構成等の視点からも、食事の保育・教育的意義を考える手立てとする。</p>
授業の到達目標	乳幼児期の発育発達段階における栄養の意義と食生活の果たす役割を理解し、食生活の問題や障がいを持つ子への対処方法を学び、現場で子どもや保護者・保育者に適切に対応するための能力を習得する。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション・子どもの健康と食生活の意義 (講義)</p> <p>第2回 小児の発育・発達と食生活 (講義・演習)</p> <p>第3回 栄養に関する基礎知識 (基本的概念・栄養素・代謝) (講義・演習)</p> <p>第4回 栄養に関する基礎知識 (食事摂取基準・献立作成・調理の基本) (講義・演習)</p> <p>第5回 妊娠期・授乳期の食生活 (講義・演習)</p> <p>第6回 乳児期の食生活 (乳児期の栄養・離乳・食生活) (講義)</p> <p>第7回 幼児期の食生活 (幼児期の栄養・食生活のあり方) (講義)</p> <p>第8回 学童期・思春期の心身の発達と食生活 (講義)</p> <p>第9回 食育の基本と内容 (1) 課題の把握と食育媒体作成 (演習)</p> <p>第10回 食育の基本と内容 (2) 食育媒体の作成 (演習)</p> <p>第11回 幼児期の食生活の問題への対応 (食育の実際・演習) (演習)</p> <p>第12回 幼児期の食生活の問題への対応 (食育の実際・演習) (演習)</p> <p>第13回 家庭や児童福祉施設における食事と栄養 (1) 保育所給食・おやつ・弁当等 (講義)</p> <p>第14回 家庭や児童福祉施設における食事と栄養 (2) 各自実習を発表・評価 (演習)</p> <p>第15回 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 (講義)</p> <p>定期試験</p>
テキスト	最新 子どもの食と栄養 出版社 学建書院 価格 2,400円+税 編集 飯塚美和子・瀬尾弘子・曾根眞理枝・濱谷亮子
参考文献	<p>必要に応じてプリントなどを配布する。</p> <p>・保育所における食事の提供ガイドライン (厚労省)・保育所におけるアレルギー対応ガイドライン (厚労省)</p>
評価方法	ミニレポート (5回) ワークシート (5回) で50%, 定期期末試験 50%で総合評価する。
自己学習に関する指針	テキスト・配布資料を読み、学習内容を実生活に生かす。(授業内容を踏まえ、自らの生活習慣と食生活等を振り返り、健康的な生活の実践につなげる)
履修上の指導・留意点	学習内容の理解度を確認するため、ミニレポートの提出を求めるので、常に復習をしておく。食育指導教材を作成して模擬食育演習を行う。簡単な調理を家庭で実習し、レポートを提出する。

授業科目	乳児保育						
担当教員	前林英貴						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020730
免許資格 関連事項	○保育士資格						

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい] 乳児期は、人間形成の基礎ができる重要な時期である。乳児を取り巻く環境を踏まえ、乳児期（3歳未満児）の成長や発達、生活、遊び、環境、保健等についての基本的な知識を身に付けるとともに、乳児保育の歴史の変遷や母子保健の統計から現状を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 保育所や乳児院で乳児保育（3歳未満児）を担当する保育士として、必要な保育の理論や知識、技術的な基本スキルについて学ぶ。低年齢児の保育の概念と意義、保育者としての関わりについて講義や演習を通して学ぶ。</p>
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 乳児保育の理念と変遷及び役割について理解することができる</li> <li>2. 保育所、乳児院等における乳児保育の現状と課題について理解することができる</li> <li>3. 3歳未満児の発育・発達について学び、3歳未満児の生活や遊びについて理解することができる</li> <li>4. 乳児保育の計画を作成し、保育の内容や方法、観察や記録について理解することができる</li> <li>5. 乳児保育における保護者や関係機関との連携について理解することができる</li> </ol>
授業計画	<p>第1回 乳児保育の理念と歴史の変遷及び役割</p> <p>第2回 乳児保育の現状と課題</p> <p>第3回 家庭における子育て</p> <p>第4回 おおむね6ヵ月未満の保育</p> <p>第5回 おおむね6ヵ月から1歳3ヵ月未満の保育</p> <p>第6回 おおむね1歳3ヵ月から2歳未満の保育</p> <p>第7回 おおむね2歳の保育</p> <p>第8回 保育の計画</p> <p>第9回 乳児保育における保健活動（健康状態の把握）</p> <p>第10回 乳児保育における保健活動（乳児の病気と事故）</p> <p>第11回 乳児保育の環境（乳児院について）</p> <p>第12回 乳児保育と連携</p> <p>第13回 乳児保育の未来</p> <p>第14回 乳児の保育（グループワーク1 手作りおもちゃの企画）</p> <p>第15回 乳児の保育（グループワーク2 手作りおもちゃの作成）</p> <p>定期試験</p>
テキスト	「やさしい乳児保育」 早川悦子・池田りな・伊藤輝子編 青踏社
参考文献	「保育所保育指針」 その他、適宜プリントや資料を配布
評価方法	期末試験 80%、グループワーク 20%で評価する
自己学習に関する指針	授業前にテキストの該当箇所を予習しておくこと。
履修上の指導・留意点	演習時は、動きやすく清潔な服装、身だしなみ（髪型、服装、化粧、爪等）に配慮して参加すること。備品の取り扱いに注意し、汚したり破損しないようにする。準備、洗浄、後片付けは各自責任を持って行うこと。

授業科目	障害児保育						
担当教員	園山繁樹 西村健一						
科目分類	専門基幹	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020740
免許資格 関連事項	○保育士資格						

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 障害児保育の理念や歴史的変遷、及び制度について学び、障害児及びその保育について理解する。</li> <li>2. 様々な障害について理解し、保育における援助の方法や環境構成等について学ぶ。</li> <li>3. 障害のある子どもの保育の計画を学び、個別支援及び他の子どもとのかかわりのなかで育ち合う保育実践について理解を深める。</li> <li>4. 障害のある子どもの保護者への支援や小学校等の関係機関との連携について理解する。</li> <li>5. 障害のある子どもの保育の現状と課題について、保健・医療・福祉・教育等の広い視野から理解する。</li> </ol> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>保育所・療育機関・認定こども園等における障害児保育について、その理念や制度、障害特性の理解と発達の援助の基本について講義する。保育における障害児への具体的支援方法、保育計画、関係機関との連携、家庭・保護者への援助等について、具体的な方法・事例・現状を提示するとともに、受講生が事前に調べたことを踏まえた演習も行う。主に地域の多職種のネットワークにより、障害児の療育が段階的に学校教育へ引き継がれていく過程を学修する演習とする。</p>
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 障害児保育の理念や制度について説明できる。</li> <li>2. 様々な障害特性について説明できる。</li> <li>3. 障害特性に応じた保育上の留意点と具体的な支援方法を説明できる。</li> <li>4. 家庭・保護者への援助の基本的な方法について説明できる。</li> <li>5. 関連する療育・相談機関等の種類・内容、及び連携協力の在り方を説明できる。</li> <li>6. 就学に向けての移行支援の在り方について説明できる。</li> </ol>
授業計画	<p>第1回 わが国における障害児保育の歴史・理念・制度（講義）（担当：園山）</p> <p>第2回 障害特性の理解と保育上の留意点(1)－知的障害（講義と演習）（担当：園山）</p> <p>第3回 障害特性の理解と保育上の留意点(2)－聴覚障害・視覚障害（講義と演習）（担当：西村）</p> <p>第4回 障害特性の理解と保育上の留意点(3)－肢体不自由（講義と演習）（担当：西村）</p> <p>第5回 障害特性の理解と保育上の留意点(4)－重度重複障害（講義と演習）（担当：西村）</p> <p>第6回 障害特性の理解と保育上の留意点(5)－言語障害（講義と演習）（担当：園山）</p> <p>第7回 障害特性の理解と保育上の留意点(6)－発達障害（講義と演習）（担当：西村）</p> <p>第8回 障害特性の理解と保育上の留意点(7)－情緒障害（講義と演習）（担当：園山）</p> <p>第9回 困った行動の理解と支援の方法（講義と演習）（担当：園山）</p> <p>第10回 生活場面と遊び場面における困難と支援の方法（演習）（担当：園山）</p> <p>第11回 園行事等における困難と支援の方法（演習）（担当：西村）</p> <p>第12回 家庭・保護者への援助（講義と演習）（担当：園山）</p> <p>第13回 関連機関との連携協力（講義と演習）（担当：西村）</p> <p>第14回 就学に向けての移行支援（講義と演習）（担当：西村）</p> <p>第15回 総括：幼児期における障害のある子どもの支援の課題と展開（演習）（担当：園山）</p> <p>定期試験</p>
テキスト	・伊藤健次編「新・障害のある子どもの保育（第3版）」みらい
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所保育指針</li> <li>・幼保連携型認定こども園教育・保育要領</li> <li>・Pretti - Frontczak, K. 他著、七木田敦・山根正夫監訳「子どものニーズに応じた保育―活動に根ざした介入―」二瓶社</li> <li>・宮本信也監修「発達障害のある子の理解と支援（第3版）」母子保健事業団</li> <li>・園山繁樹「統合保育の方法論」相川書房</li> </ul>

評価方法	<ul style="list-style-type: none"><li>・レポート (3 回分) =30%</li><li>・定期試験=60%</li></ul>
自己学習に関する指針	<ul style="list-style-type: none"><li>・参考文献に記載した図書・資料を積極的に読むこと。</li></ul>
履修上の指導・留意点	<ul style="list-style-type: none"><li>・テキストを中心に授業を進め、随時、資料を配布します。</li></ul>

授業科目	音楽療法論						
担当教員	武田千代美						
科目分類	専門基幹	授業時間	15	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2020750
免許資格 関連事項	○保育士資格						

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい] 人間にとって音楽とはどのような存在であるのか改めて考えつつ、音楽を対人援助として用いる音楽療法の理論と技法論について学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 音楽療法の理論と技法論について学び、「音楽療法を生かす保育教育のあり方」を検討する。具体的には、音楽療法の領域とその対象について学び、障害をもった子どもたちや大人の可能性や限界、問題を理解する。また、音楽療法の実際について臨床事例から学ぶ。なぜ音楽を用いるのか、音楽を用いることの特徴について考えを深めてまとめていく。そのために、音楽の機能、治療的作用、臨床における音の使い方などの技法論とその背景にある理論について学ぶ。</p>
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 音楽療法の概念について説明できる。</li> <li>2. 音楽療法のプロセスについて説明できる。</li> <li>3. 音楽療法の技法について説明できる。</li> </ol>
授業計画	<p>第1回 「音楽」について考える 音楽療法の歴史 音楽療法の現状</p> <p>第2回 音楽療法の定義 音楽の機能</p> <p>第3回 音楽療法のプロセス</p> <p>第4回 子どものための音楽療法</p> <p>第5回 その他の領域の音楽療法</p> <p>第6回 音楽療法の実践例(1) ～楽器・道具について～</p> <p>第7回 音楽療法の実践例(2) ～指揮・即興演奏・伴奏付け～</p> <p>第8回 音楽療法の実践例(3) ～合奏・合唱～</p> <p>定期試験</p>
テキスト	プリント資料を配布する
参考文献	村井靖児著「音楽療法の基礎」音楽之友社
評価方法	定期試験(60%) レポート(40%)
自己学習に関する指針	<p>配布資料を読み、復習に役立てる。</p> <p>身の回りに流れる音楽について、それらが及ぼす影響について考える。</p>
履修上の指導・留意点	<p>授業時間中、色々な楽器を紹介し、鳴らしてみるワークを実施します。</p> <p>積極的に参加してください。</p> <p>質問は、e-mailにて対応します。</p>

授業科目	保育実習 I (保育所) 指導						
担当教員	山田洋平 青山啓子						
科目分類	専門基幹	授業時間	15	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2020760
免許資格 関連事項	○保育士資格						

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい] 保育実習 I (保育所) は 1 年秋学期試験終了後に実施する保育所での実習である。この実習を通して、保育士の職務、保育所・施設の生活の流れや機能について理解し、保育士として必要とされる態度・知識・技能を習得することを目的としている。また、児童福祉に対するニーズの理解や判断のための力量を向上させることを目標としている。保育実習 I (保育所) 指導は、この実習を実施するための事前指導と事後指導である。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 指定保育士養成施設指定基準の実習の基準に基づき、保育実習指導委員会を構成し、保育所での実習について、実習を円滑に進めるために必要な知識・技術の習得、学習内容・課題の明確化を行うための「事前指導」と、実習体験を深化させるための「事後指導」を行う。具体的には、保育実習の意義や目的の理解、保育実習の方法の理解、保育実習にあたっての心構えや留意事項の確認、実習課題の明確化、実習記録の意義と方法の理解、などについて学習を行う。</p>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育実習 I (保育所) のための諸手続き・検査を主体的に実施する。</li> <li>・ 実習生としての心構え、態度について明確な自己認識を持ち、実習保育所に伝える。</li> <li>・ 2 年春学期以降の学びの基盤としての実習課題を、具体的に見出す。</li> </ul>
授業計画	<p>第 1 回 保育教育学科教育課程のステップ 第 2 回 保育所実習とは 第 3 回 実習までにしておくこと(1) 第 4 回 保育所の 1 日、1 ヶ月、1 年 第 5 回 実習までにしておくこと(2) 第 6 回 実習日誌の書き方 第 7 回 実習が始まったら 第 8 回 実習が終わったら</p>
テキスト	指定しない。適宜資料を配布する。
参考文献	指定しない。適宜紹介する。
評価方法	提出書類および提出資料などを総合的に評価する
自己学習に関する指針	・ 配布資料および記載された参考文献を読み、復習に役立てる。
履修上の指導・留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 質問は、その内容に応じて、研究室・e-mail で対応する。</li> <li>・ 欠席する場合、必ず事前に連絡をすること。</li> </ul>



授業科目	保育実習Ⅰ(保育所)						
担当教員	山田洋平 青山啓子						
科目分類	専門基幹	授業時間	90	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	実習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020770
免許資格 関連事項	○保育士資格						

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい] 保育所での実習を通して、保育士の職務、保育所・施設の生活の流れや機能について理解し、保育士として必要とされる態度・知識・技能を習得させることを目的としている。また、児童福祉に対するニーズの理解や判断のための力量を向上させる。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 指定保育士養成施設指定基準の実習の基準に基づき、保育実習指導委員会を構成する認可保育所あるいは幼保連携型認定こども園において実施される保育実習を通して、子どもの生活実態や援助のポイント、保育士の職務、保育所・施設の生活の流れや機能について理解し、実習までに学んだ授業で得られた各種成果を保育現場のなかで再確認するとともに、保育士として必要とされる態度・知識・技能を習得させる。また、家庭と地域の生活実態に触れて、支援ニーズの理解や判断のための力量を向上させる。</p>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童福祉施設の一つである保育所の組織や運営を理解し、保育の知識や技能を体験的に学ぶ。</li> <li>・保育士としての自覚や態度を身につけ、問題意識をもつ。</li> <li>・実習中の日誌記録によって体験的な気づきを明確にし、自己学習の基盤とする。</li> </ul>
授業計画	<p>保育実習Ⅰ(保育所)は、「保育実習Ⅰ(保育所)指導」において事前指導を受けた上で、実習指導委員会に参加する保育所において、10日間の実習を経験する。実習時間は90時間。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習先の保育所における保育方針、物的/人的環境、一日の保育の流れの理解</li> <li>・保育活動の内容や形態の理解</li> <li>・保育者の役割と援助の方法の理解</li> <li>・子どもの理解にもとづく部分指導/全日指導の計画立案および実践</li> <li>・実習の省察と自己評価</li> </ul> <p>実習終了後は、事後指導によって実習をふり返り、自身の実習経験に対する理解を深め、次の課題や目標を設定する。</p>
テキスト	指定しない。適宜資料を配布する。
参考文献	指定しない。適宜紹介する。
評価方法	実習先からの実習評価、実習中の状況、実習日誌等の提出状況などを総合的に評価する
自己学習に関する指針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次回の実習に活かせるように、1日ごとに実習での出来事を必ず振り返る。</li> </ul>
履修上の指導・留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習に関する質問は、その内容に応じて、研究室・電話・e-mailで対応する。</li> <li>・実習に欠席する場合、必ず事前に連絡をすること。</li> </ul>

授業科目	保育実習Ⅰ（施設）指導						
担当教員	藤原映久 宮下裕一						
科目分類	専門基幹	授業時間	15	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2020780
免許資格 関連事項	○保育士資格						

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい] 保育実習Ⅰ（施設）では、児童福祉施設等（保育所を除く）での実習を通じて、施設へ通所・入所する児童や利用者の実態を知ることにより、施設支援の実際を学ぶ。そこで、本科目では、児童福祉施設等で生活する児童や利用者の特徴を学んだ上、施設種別ごとの役割や機能、施設職員の職務内容等について理解することを目的とする。また、実習への心構え、実習先で必要とされる礼儀等について学び、保育業務・養護業務に携わる者としての自覚を高めることも目的とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 保育実習Ⅰ（施設）では、児童福祉施設等（保育所を除く）での実習を通じて、施設へ通所・入所する児童や利用者の実態を知ることにより、施設支援におけるケアワークの実際を学ぶ。本科目では、児童福祉施設等で生活する児童や利用者の特徴や入所の背景を学んだ上、施設種別ごとの役割や機能、施設職員の職務内容等について理解する。また、実習への心構え、実習先で必要とされる礼儀等について学び、保育業務に携わる者としての自覚を高める。</p>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童福祉施設等で生活する児童や利用者の特徴について説明できる。</li> <li>・施設種別ごとの役割や機能、施設職員の職務内容等について説明できる。</li> <li>・実習への心構え、実習先で必要とされる礼儀等に関する知識を習得する。</li> </ul>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 保育実習Ⅰ（施設）について</li> <li>2 保育実習Ⅰ（施設）指導の意義 / 児童福祉施設で生活する子どもと職員の職務</li> <li>3 障がい系施設実習の実際（福祉型・医療型障がい児入所施設、障がい者支援施設）</li> <li>4 養護系施設実習の実際（乳児院、児童養護施設、母子生活支援施設）</li> <li>5 治療系施設及び児童相談所一時保護所実習の実際（児童自立支援施設、児童心理治療施設、児童相談所一時保護所）</li> <li>6 実習で使用する各種様式の説明 / 実習日誌の書き方</li> <li>7 評価のポイント、注意点、確認事項</li> <li>8 実習生オリエンテーション</li> <li>9 ワーク（どんな時に困りそうか） / お礼状の書き方</li> <li>10 事後指導（実習体験発表）</li> </ol> <p>※第3、4、5講義については、自らに該当する実習施設種別の講義を1つ受講すること。 ※第8講義は、実習指導委員会の後に開催され、実習施設職員よりオリエンテーションが実施される。</p>
テキスト	守巧・小櫃智子・二宮祐子・佐藤恵『施設実習パーフェクトガイド』、わかば社【1400円+税】
参考文献	必要に応じて紹介する。
評価方法	授業に対する意欲・態度、実習に対する振り返りの内容等から総合的に判断する。
自己学習に関する指針	実習に赴く施設種別の役割や機能、施設職員の職務内容等について、参考文献等を活用しながら積極的に自己学習すること。
履修上の指導・留意点	

授業科目	保育実習Ⅰ（施設）						
担当教員	藤原映久 宮下裕一						
科目分類	専門基幹	授業時間	90	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	実習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020790
免許資格 関連事項	○保育士資格						

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい] 実習生として児童福祉施設等（保育所を除く）における実際の活動に参加することにより、「子どもや利用者の生活実態や施設の役割・機能」、「子どもや利用者の理解と援助のポイント」、「保育士の職務や役割と職業倫理」等について学ぶ。また、保育実習Ⅰ（施設）指導等を通じて実習までに学んだ知識や技能に関して、実習を通じて再確認するとともに、その実践的理解を目指す。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 通所または入所型の児童福祉施設、障害者支援施設等で10日間の実習を経験する。児童福祉施設等（保育所を除く）における実際のケアワークや活動に参加することにより、子どもや利用者の生活実態や支援のポイント、保育士の職務と役割、施設生活の流れやその機能について体験的に学ぶ。また、保育実習Ⅰ（施設）指導等を通して実習までに学んだ知識や技能に関して、実習を通じて再確認するとともに、その実践的理解を促し、深める。</p>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童福祉施設等における「子どもや利用者の生活実態や施設の役割・機能」、「子どもや利用者の理解と援助のポイント」、「保育士の職務や役割と職業倫理」等について体験的に理解し、理解から得た気づきを実習日誌に記した上で、実践に繋げる努力ができる。また、努力の内容が具体的に説明できる。</li> <li>・実習までに学んだ知識や技能を再確認し、実践に生かす努力ができるとともに、その内容が説明できる。</li> </ul>
授業計画	<p>実習を通じて以下の事柄を学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設における児童及び利用者の生活の実際</li> <li>・施設の役割と機能</li> <li>・子ども及び利用者の観察とそれに基づく考察及び記録</li> <li>・児童及び利用者の理解</li> <li>・児童及び利用者への援助（環境設定、養護技術等）</li> <li>・施設における保育士の業務・役割と職業倫理</li> </ul>
テキスト	守巧・小櫃智子・二宮祐子・佐藤恵『施設実習パーフェクトガイド』、わかば社【1400円+税】
参考文献	
評価方法	成績は、実習日誌、実習評価票、巡回指導時の聴取などから総合的に評価する。
自己学習に関する指針	実習先施設に関して、その沿革や基本理念、事業内容等を調べておくこと。
履修上の指導・留意点	

授業科目	保育実習Ⅱ（保育所）指導						
担当教員	矢島毅昌 青山啓子						
科目分類	専門基幹	授業時間	15	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2020800
免許資格 関連事項	○保育士資格						

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい] 「保育実習Ⅰ（保育所）」の実習経験や他教科における学びをもとに、自らの目標と課題をより明確にしながら、保育実践力を培うとともに、保育者としての高い資質を育成することを目指す。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 「保育実習Ⅱ（保育所）」の実施に向けて、観察・記録及び指導計画の重要性について学び、保育活動の計画・展開・評価の方法について理解を深める。最初に、「保育実習Ⅰ（保育所）」の日記をもとに自身の経験を振り返り、あらためて日記の書き方と保育を見る視点について理解を深める。次に、振り返りを通じて「保育実習Ⅱ」への課題を明確にする。そして、各自の設定した課題を踏まえ、指導計画の書き方を身に付ける。これらの学びを通じて、保育実践力と保育者としての高い資質を育成する。</p>
授業の到達目標	<p>(1) 「保育実習Ⅰ（保育所）」の日記をもとに自身の経験を振り返りながら、あらためて日記の書き方について理解を深める。</p> <p>(2) 振り返りを通じて「保育実習Ⅱ」への課題を明確にする。</p> <p>(3) 各自の設定した課題を踏まえ、指導案の書き方を身につける。</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 保育実習を振り返るための「記録」と「評価」について</p> <p>第3回 「保育実習Ⅰ（保育所）」の自己評価および課題の発見① 実習日記について</p> <p>第4回 「保育実習Ⅰ（保育所）」の自己評価および課題の発見② 実習課題とその立て方</p> <p>第5回 指導案の書き方について（概説、3歳未満児の指導案）</p> <p>第6回 指導案の書き方について（3・4・5歳児の指導案）</p> <p>第7回 指導案の書き方について（実践と課題）</p> <p>第8回 まとめ・総括</p>
テキスト	<p>太田光洋 2015, 『幼稚園・保育所・施設実習完全ガイド [第2版]』 ミネルヴァ書房。</p> <p>厚生労働省『保育所保育指針』。</p> <p>また、本学科編『実習の手引き』を使用。</p>
参考文献	
評価方法	<p>期末試験は実施しない。</p> <p>達成目標ごとの演習課題の内容と取り組む姿勢（達成目標(1)：25%、(2)：35%、(3)：40%）により、総合的に評価する。</p>
自己学習に関する指針	<p>指導案の「中心となる活動」を構想するために必要な題材を、自主的に探求しておくこと。</p>
履修上の指導・留意点	<p>「保育実習Ⅱ（保育所）」を履修するために必要な科目である。</p>

授業科目	保育実習Ⅱ（保育所）						
担当教員	矢島毅昌 青山啓子						
科目分類	専門基幹	授業時間	90	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	実習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020810
免許資格 関連事項	○保育士資格						

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい] 「保育実習Ⅱ（保育所）指導」「保育実習Ⅰ（保育所）」及び専門必修科目での学びを生かした実習の計画と実践を通じて、保育者として実践力と資質を身に付ける。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 「保育実習Ⅱ（保育所）指導」「保育実習Ⅰ（保育所）」及び専門必修科目の単位を取得したうえで、10日間にわたる保育所での実習に臨み、それまでに学修した知識を基礎とする保育実践力を培うとともに、保育者として相応しい態度や責任感など、より高い資質を育成することを目指す。特に、子どもの実態の理解にもとづく部分指導／全日指導の計画立案・実践・反省を通して、保育所における保育内容と指導計画についての理解を深め、より高度な保育実践力を身に付けることを重視する。</p>
授業の到達目標	<p>(1) 保育所の組織や運営のあり方を理解し、体験を通じて保育の知識や技能を実践的に学ぶ。</p> <p>(2) 保育士としての自覚や態度を身につけ、乳幼児の理解や保育者による援助の方法など、専門科目で学んだ知識や理論を実習の場で具体的に実践する。</p> <p>(3) 実習中の指導案作成によって、保育所における保育計画と保育内容についての理解を深める。</p> <p>(4) 実習中の日誌記録によって、観察・記録の方法を実践的に学びながら体験的な気づきを明確にし、自己学習の基盤とする。</p>
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習先の保育所における保育方針、物的／人的環境、一日の保育の流れの理解</li> <li>・保育活動の内容や形態の理解</li> <li>・保育者の役割と援助の方法の理解</li> <li>・子どもの理解にもとづく部分指導／全日指導の計画立案および実践</li> <li>・実習の省察と自己評価</li> </ul>
テキスト	「保育実習Ⅱ（保育所）指導」テキストおよび『実習の手引き』のほか、「実習日程表」「実習先概要」「実習日誌」を使用する。
参考文献	
評価方法	実習録、出勤状況、事後指導の課題に基づく短大の担当教員による成績評価を中心に、実習先の保育所による成績評価を併せ、各達成目標の到達度を総合的に評価する。
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	「保育実習Ⅱ（保育所）指導」を履修しておくことが必要である。

授業科目	保育実習Ⅲ(施設) 指導						
担当教員	藤原映久 宮下裕一						
科目分類	専門基幹	授業時間	15	配当年次	4	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2020820
免許資格 関連事項	○保育士資格						

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい]          保育実習Ⅲ(施設)は児童福祉施設等(保育所を除く)における2度目の実習であり、児童福祉施設等における支援の実践をより深く理解するとともに、2年次の保育実習Ⅰ(施設)を通じて明らかになった自らの課題に取り組むことが求められる。そこで、本科目では児童福祉施設等の役割と機能を再確認した上で、施設における支援のあり方(知識、技術、判断・思考)に関する理解を高めることと、保育士としての自らの課題及びその課題に対する取り組みの方向性を明確にすることを目的とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要]          保育実習Ⅲ(施設)における体験と学びをより確かなものとするため、実習対象となる各施設種別について、施設を利用する子どもや障がい者の背景や特徴、各施設の役割と機能、施設職員の職務内容、保育士に求められる役割や実際のケアワーク等について再確認する。また、被虐待児童、非行児、障がい児・者など、その理解と支援に高い専門性を要する児童や利用者の特性と施設における具体的な支援方法についての学びを促し、深める。</p>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童福祉施設等の役割と機能に関する理解を深めるとともに、その内容が説明できる。</li> <li>・児童福祉施設等の支援で必要とされる知識、技術、判断力・思考力を養うとともに、その内容が説明できる。</li> <li>・保育士としての自己の課題を明確化するとともに、その内容が説明できる。</li> </ul>
授業計画	<p>第1回 保育実習Ⅲ(施設)の意義          第2回 児童福祉施設等(保育所以外)の役割と機能          第3回 保育実習Ⅰ(施設)の振り返りと課題の確認          第4回 実習対象施設に関する調べ学習①          第5回 実習対象施設に関する調べ学習②          第6回 実習で使用する様式の説明と日誌の書き方について          第7回 実習にあたっての注意点、確認事項          第8回 事後指導(実習体験発表)</p>
テキスト	守巧・小櫃智子・二宮祐子・佐藤恵『施設実習パーフェクトガイド』、わかば社【1400円+税】
参考文献	必要に応じて紹介する。
評価方法	授業に対する意欲・態度、実習に対する振り返りの内容等から総合的に判断する。
自己学習に関する指針	実習に赴く施設種別の役割や機能、施設職員の職務内容等について、参考文献等を活用しながら積極的に自己学習すること。
履修上の指導・留意点	

授業科目	保育実習Ⅲ (施設)						
担当教員	藤原映久 宮下裕一						
科目分類	専門基幹	授業時間	90	配当年次	4	配当期	春学期
授業形態	実習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020830
免許資格 関連事項	○保育士資格						

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい] 保育実習Ⅰ(施設)の体験を下地として、「子どもや利用者の生活実態や施設の役割・機能」、「子どもや利用者の理解と援助のポイント」、「保育士の職務や役割と職業倫理」等に関する理解を更に深めるとともに、保育士としての自らの課題を明確化し、実践を通じてその課題に取り組む。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 各種施設の役割と機能、保育士の職務と役割をより深く・広く理解することを目的として、通所または入所型の児童福祉施設、障害者支援施設等で10日間の実習を行う。特に、社会的養護を担う施設においては、社会的養護の意義、被虐待児童への支援、保護者支援、家庭支援等を含め、これまでの学びを実習体験と繋げながら包括的に学ぶ。また、地域における施設の役割についても、地域福祉の視点から理解するとともに、体験的な理解を促す。</p>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童福祉施設等における「子どもや利用者の生活実態や施設の役割・機能」、「子どもや利用者の理解と援助のポイント」、「保育士の職務や役割と職業倫理」等に関して深めた理解内容を具体的に説明できる。</li> <li>・ 明確化した自己の課題及び、実践を通じてその課題取り組んだ内容と成果について説明できる。</li> </ul>
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育実習Ⅰ(施設)における以下の学びを深めるとともに、保育実習Ⅰの振り返りと本実習を通じて自らの課題を明確化し、その課題に取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> <li>* 施設における児童及び利用者の生活の実際</li> <li>* 施設の役割と機能</li> <li>* 子ども及び利用者の観察とそれに基づく考察及び記録</li> <li>* 児童及び利用者の理解</li> <li>* 児童及び利用者への援助(環境設定、養護技術等)</li> <li>* 施設における保育士の業務・役割と職業倫理</li> </ul> </li> </ul>
テキスト	守巧・小櫃智子・二宮祐子・佐藤恵 『施設実習パーフェクトガイド』、わかば社【1400円+税】
参考文献	
評価方法	成績は、実習日誌、実習評価票、巡回指導時の聴取などから総合的に評価する。
自己学習に関する指針	実習先施設に関して、その沿革や基本理念、事業内容等を調べておくこと。
履修上の指導・留意点	

# 【保 育 教 育 展 展 学 科 科 目】



授業科目	教育史						
担当教員	廣田佳彦						
科目分類	専門発展	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020840
免許資格 関連事項	<p>○幼稚園教諭一種免許状《教職に関する科目》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育の基礎理論に関する科目</li> <li>〔教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想〕</li> </ul> <p>○小学校教諭一種免許状《教職に関する科目》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育の基礎理論に関する科目</li> <li>〔教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想〕</li> </ul> <p>○保育士資格</p>						

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>西洋教育思想のながれをふまえ、そして近代にはじまる公教育についての理解をふかめ、教育の本質探究をめざす。</p> <p>また、古代ギリシャ時代ソクラテスにはじまる教育観・子ども観の変遷を検討し、このことをふまえて近代日本の教育思想を考察するなかで、現代日本の教育の問題の解明のてがかりを探していく。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>西洋教育思想を丹念にたどりつつ、教育とは何かを考えていく。また、近代公教育制度についてその歴史的経緯を検討し、現代社会における学校とは何かについても考えていく。さらに、これらのことをふまえて現在の教育にかかわる問題を、具体例をあげつつ学生諸氏とともに考えていく。</p>	
授業の到達目標	<p>西洋教育思想史を概観し、その意味するところを深く理解することができる。そして、このことをふまえて、日本教育思想史の本質をたどることにより、現代の日本のさまざまな教育の問題について、自らの考えをまとめることができる。</p>	
授業計画	第1回 人間観と教育観のはじまり1	古代ギリシャ
	第2回 人間観と教育観のはじまり2	中世・ルネッサンス
	第3回 近代社会の形成と公教育思想1	人権思想
	第4回 近代社会の形成と公教育思想2	自然主義教育思想
	第5回 近代社会の形成と公教育思想3	近代公教育思想
	第6回 近代社会の形成と公教育思想4	新教育運動
	第7回 子どもの発見と近代子ども観の形成1	子どもの発見
	第8回 子どもの発見と近代子ども観の形成2	近代子ども観
	第9回 子どもの発見と近代子ども観の形成3	児童の世紀
	第10回 子どもの発見と近代子ども観の形成4	子どもの権利
	第11回 日本の子ども観1	子宝思想
	第12回 日本の子ども観2	近代化と子ども観
	第13回 近代日本の公教育思想1	学制・教育二関スル勅語
	第14回 近代日本の公教育思想2	教育基本法・学校教育法
	第15回 近代日本の公教育思想3	教育改革
	定期試験	
テキスト	プリント資料	
参考文献	<p>教育思想の古典（プラトン『国家』、ルソー『エミール』、ペスタロッチ『隠者の夕暮』など）</p> <p>E. H. カー『歴史とは何か』（清水幾多郎訳）岩波新書</p>	
評価方法	学期末試験（60%）、レポート（30%）、小作文（10%）	
自己学習に関する指針	<p>教育史に関するプリント資料を復習し、次の講義に備える。</p> <p>「歴史とは現在と過去の対話である」（E. H. カー『歴史とは何か』）、この言葉について自らの考えを整理していく。</p>	

履修上の 指導・留意点	教育の歴史の本質について、自らの考えを整理しまとめる。
----------------	-----------------------------

授業科目	最新教育課題						
担当教員	廣田佳彦 渡辺一弘						
科目分類	専門発展	授業時間	15	配当年次	4	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2020850
免許資格 関連事項	<p>○幼稚園教諭一種免許状≪教職に関する科目≫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育の基礎理論に関する科目</li> <li>〔教育に関する社会的、制度的又は経営的事項〕</li> </ul> <p>○小学校教諭一種免許状≪教職に関する科目≫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育の基礎理論に関する科目</li> <li>〔教育に関する社会的、制度的又は経営的事項〕</li> </ul>						

授業の概要	<p>教育の基礎理論の発展科目として、わが国における最新の教育制度改革の実際のあり方、国際的な教育政策の最新のあり方を学び、卒業後の社会で遭遇することが予想できる教育制度改革の動向を学ぶ。また、学習指導要領の改訂の中で、教育内容として新たに加えられる可能性のある要素、教員の資質として新たに求められる要素等の教育の最新事情についても学修し、専門職としての準備教育を行う。1年前期の「教職論(小・幼)」がいわば教職課程のガイダンスに相当し、この「最新教育課題」が卒業後の教職へのガイダンスに相当する。</p>
授業の到達目標	<p>(1) 学習指導要領、幼稚園教育要領の本質を確認する。</p> <p>(2) 教育制度改革の動向を理解する。</p> <p>(3) 幼児教育・保育に関する国の政策や世界の動向を把握し、それらを踏まえて、実践において教員・保育者として、省察することができる。</p> <p>(4) 子どもの発達に関する最新の知見の概要を理解し、同時に子ども生活の変化を踏まえた現状を理解することができる。</p>
授業計画	<p>第1回 小学校学習指導要領、幼稚園教育要領 (担当：廣田)</p> <p>第2回 教育方法、教授・学習の理論 (担当：廣田)</p> <p>第3回 教育制度・行政、教育史 (担当：廣田)</p> <p>第4回 教育時事、教育法規 (担当：廣田)</p> <p>第5回 幼児教育・保育に関する国の政策や世界の動向 (担当：渡辺)</p> <p>第6回 教員・保育者としての子ども観、保育観などについての省察 (担当：渡辺)</p> <p>第7回 子どもの発達に関する最新の知見 (担当：渡辺)</p> <p>第8回 子どもの現状と課題 (担当：渡辺)</p>
テキスト	<p>授業の中で必要に応じてプリントなどを配布する。</p>
参考文献	<p>「教育法規便覧」(最新版)</p> <p>「教育小六法」(最新版)</p> <p>文部科学省ホームページ</p> <p>「教育」(<a href="http://www.mext.go.jp/a_menu/a002.htm">http://www.mext.go.jp/a_menu/a002.htm</a>)</p> <p>「現行学習指導要領」(<a href="http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/index.htm">http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/index.htm</a>)</p>
評価方法	<p>第1回から第4回までの成績(確認テスト70%、小レポート30%)と第5回から第8回までの成績(確認テスト60%、演習課題40%)をあわせて総合的に評価する。</p>
自己学習に関する指針	<p>教育の最新課題に関するプリント資料を復習し、次の講義に備える。</p>
履修上の指導・留意点	<p>教育の最新課題について、自らの考えを整理しまとめる。</p>

授業科目	学校教育と文化・社会						
担当教員	矢島毅昌						
科目分類	専門発展	授業時間	30	配当年次	4	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020860
免許資格 関連事項	<p>○幼稚園教諭一種免許状《教職に関する科目》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育の基礎理論に関する科目</li> <li>〔教育に関する社会的、制度的又は経営的事項〕</li> </ul> <p>○小学校教諭一種免許状《教職に関する科目》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育の基礎理論に関する科目</li> <li>〔教育に関する社会的、制度的又は経営的事項〕</li> </ul>						

授業の概要	<p>学校教育を文化研究・社会研究のアプローチから学ぶことを通じて、教育の基礎理論を発展的に学ぶ。具体的には、学校教育の文化的な特徴や社会的な課題について、「保幼小接続」「地域資源」「人・物・環境の関係」を手がかりに、理論的な理解にもとづく事例検討とディスカッションを通じて学びを深める。そして、自ら設定したテーマ企画の発表を通じて、学校教育をめぐる文化的な特徴や社会的な課題について、これまでに培った知識・思考・表現・関心を総合的に運用しながら探求する力を身につける。</p>
授業の到達目標	<p>(1) 教育の基礎理論を、学校教育の文化的・社会的側面に着目しながら、発展的に理解する。</p> <p>(2) これまでの「初等教育」「幼児教育・保育」「特別支援教育」についての学びを領域横断的に活用し、広い視野で学校教育を考察する力を培う。</p> <p>(3) 学生同士によるディスカッションを通じて、学校教育の文化研究・社会研究の知見を実践的な課題の検討で活用できるようになる。</p> <p>(4) 学校教育の文化的・社会的側面に関する研究課題を主体的に設定し、その探求の成果を発表することを通じて、調査・分析する力を身につける。</p>
授業計画	<p>第1回 イン트로ダクション</p> <p>第2回 保幼小接続をめぐる文化的・社会的な問題①(理論)</p> <p>第3回 保幼小接続をめぐる文化的・社会的な問題②(事例検討)</p> <p>第4回 保幼小接続をめぐる文化的・社会的な問題③(総括+ディスカッション)</p> <p>第5回 地域資源から考える学校教育と文化・社会①(理論)</p> <p>第6回 地域資源から考える学校教育と文化・社会②(事例検討)</p> <p>第7回 地域資源から考える学校教育と文化・社会③(総括+ディスカッション)</p> <p>第8回 人・物・環境の関係から考える学校教育と文化・社会①(理論)</p> <p>第9回 人・物・環境の関係から考える学校教育と文化・社会②(事例検討)</p> <p>第10回 人・物・環境の関係から考える学校教育と文化・社会③(総括+ディスカッション)</p> <p>第11回 自主テーマ企画のための準備指導①(テーマの設定と資料の収集)</p> <p>第12回 自主テーマ企画のための準備指導②(発表内容の構成)</p> <p>第13回 自主テーマ企画の発表と講評①(文化編)</p> <p>第14回 自主テーマ企画の発表と講評②(社会編)</p> <p>第15回 自主テーマ企画の総括/授業のまとめ</p>
テキスト	テキストは使用しない。授業中に資料を配付する。
参考文献	<p>酒井朗・横井紘子 2011, 『保幼小連携の原理と実践：移行期の子どもへの支援』 ミネルヴァ書房。</p> <p>岩崎正弥・高野孝子 2010, 『場の教育：「土地に根ざす学び」の水脈』 農山漁村文化協会。</p> <p>福島真人 2010, 『学習の生態学』 東京大学出版会。</p> <p>その他、授業時に随時紹介する。</p>
評価方法	<p>到達目標(1)の評価：小レポート(10%)</p> <p>到達目標(2)の評価：小レポート(10%)、ディスカッション/自主テーマ企画の内容及び報告書(10%)</p> <p>到達目標(3)の評価：ディスカッションの参加姿勢、内容及び報告書(20%)</p> <p>到達目標(4)の評価：自主テーマ企画の参加姿勢、内容及び報告書(30%)</p>

	+期末レポート(20%)
自己学習に関する指針	学校教育を分析的に捉える視点が必要になるため、テーマに関連した参考文献を積極的に読み、自分なりの問題意識を持って取り組むこと。
履修上の指導・留意点	

授業科目	保育内容総論Ⅱ						
担当教員	小山優子						
科目分類	専門発展	授業時間	15	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2020870
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭一種免許状《教職に関する科目》 ・教育課程及び指導法に関する科目 [保育内容の指導法] ○保育士資格						

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい]          幼稚園の教員免許取得に必要な「教育課程及び指導法に関する科目」及び保育士資格の取得に必要な「保育の内容・方法に関する科目」に対応する科目である。幼稚園・保育所における5領域の保育内容を総合的に理解し、保育の実際に活かせる学級経営案、年間計画、期間計画、月案、週案、日案などの指導計画を立案する能力を身につけることを目的とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要]          幼稚園実習・保育所実習での子どもの発達や育ちを踏まえた上で保育内容を捉え、実際に保育内容をカリキュラムの中で展開するための構想力を身につける。また保育者に必要な、子どもの育ちの評価や保育者自身の保育実践の評価を行う視点を身につけ、保育内容の省察につながる保育記録の書き方を理解する。</p>
授業の到達目標	<p>(1) 幼稚園や保育所、認定こども園における保育内容を総合的に捉え、保育内容を教育課程・保育課程や指導計画に反映させる視点を身につける。</p> <p>(2) 年齢に応じた指導計画の書き方や長期的・短期的な指導計画の書き方を保育内容との関連から理解し、様々な指導計画を実際に作成することができる。</p> <p>(3) 具体的な保育内容の展開について、保育記録により反省・省察する過程を通して子どもの育ちの評価や保育者の自己評価を行い、保育内容を評価する力を身につける。</p>
授業計画	<p>毎回、以下のテーマに沿って講義、または学生のグループ討議による演習により授業を進行する。</p> <p>第1回 保育内容とカリキュラム（教育課程・保育課程、指導計画）の関連の理解          第2回 3歳未満児の保育内容と指導計画          第3回 3歳以上児の保育内容と指導計画          第4回 園内研修のための日案の書き方と保育内容の展開          第5回 週案、月案の書き方と保育内容の展開          第6回 保育内容と子どもの育ちの評価          第7回 保育内容の展開と保育者の自己評価          第8回 保育内容と指導要録・保育要録・こども要録の書き方</p>
テキスト	<p>厚生労働省『保育所保育指針（平成29年告示）』フレーベル館、160円          文部科学省『幼稚園教育要領（平成29年告示）』フレーベル館、160円          内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年告示）』フレーベル館、160円</p>
参考文献	参考文献などは授業の中で適宜提示するとともに、必要に応じてプリントなどを配布する。
評価方法	成績は期末試験を実施せず、日案、要録、月案の3種類の課題レポート(25%、25%、50%)等を考慮して、総合的に評価する。
自己学習に関する指針	保育所実習・幼稚園実習を終えた上で、保育現場に就職する前に保育士・幼稚園教諭として必要な実践的な力を身につける授業であるため、課題レポートを自分なりにしっかりと取り組むこと。
履修上の指導・留意点	授業時間内に仕上がらない課題は次の授業までに宿題として仕上げてくること。

授業科目	保育内容 表現Ⅱ						
担当教員	福井一尊						
科目分類	専門発展	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2020880
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭一種免許状《教職に関する科目》 ・教育課程及び指導法に関する科目 [保育内容の指導法] ○保育士資格						

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>(1) 保育指針、教育要領の中の表現（造形）について理解し、実践する力をつける。          (2) 絵本の特徴や役割を理解し、制作を通して画材使用の応用力を身に付ける。          (3) 保育教材の適切な扱い方、与え方を体験的に修得する。          (4) 身近なものを用いて、季節に合った造形活動を行う楽しさや、意義を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>乳幼児の造形表現に対する見識をさらに深め、その指導・援助の重要性を具体的な事例をもとに認識するとともに、引き続き自ら創造活動を行うことによって造形表現の力量を高める。中でも「絵本」に深くアプローチする。具体的には、絵本とは何か、絵本のよさ・意義、構造などを理解し、絵本モニタージュなど視覚的効果を高める技法について、実際の絵本を数多く取り上げ、そのよさや魅力を判断できる鑑賞力を養う。併せて多様な素材による造形活動を経験する。</p>
授業の到達目標	「授業の目的・ねらい」の(1)から(4)について全てを習得することを到達目標とする。
授業計画	第1回 保育内容表現（造形）について 第2回 絵本モニタージュについて 第3回 描画技法研究 第4回 絵本の画面制作（構成） 第5回 絵本の画面制作（着彩） 第6回 季節の装飾（立体造形） 第7回 季節の装飾（色彩表現） 第8回 生活環境における空間装飾 第9回 本の装丁 第10回 マイナスの立体造形 第11回 用具を使った粘土造形（焼き物1） 第12回 立体物への彩色（焼き物2） 第13回 感触遊びの実際 第14回 粘土素材の焼成 第15回 子どもの表現へのアプローチ 定期試験
テキスト	無し 適宜資料を配布するので、保存用A4クリアファイルを準備すること。
参考文献	・文部科学省『幼稚園教育要領』 ・厚生労働省『保育所保育指針』 ・内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 ・平田智久他編著『保育内容「表現」』ミネルヴァ書房 他授業の中で適宜紹介する。
評価方法	到達目標について、授業レポート40%、提出作品40%、定期試験20%を総合して評価する。
自己学習に関する指針	

履修上の 指導・留意点	
----------------	--



授業科目	保育内容 表現Ⅳ						
担当教員	梶間奈保 渡邊寛智						
科目分類	専門発展	授業時間	30	配当年次	4	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2020890
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭一種免許状《教職に関する科目》 ・教育課程及び指導法に関する科目 [保育内容の指導法] ○保育士資格						

授業の概要	<p>この授業では子どもの音楽表現を引き出すために、歌うことと音楽以外の他分野との総合的な表現活動を取り上げて実践活動を行う。歌う活動では、美しい歌声を意識しながら子どもたちの歌声について実践を交えながら考えていく。また、音楽活動以外の分野と融合したあそびを意識した音の絵本では、音楽創作や絵本と音楽との兼ね合いについてグループで取り組んでいく。これらを通して、音楽教材について理解を深め、子どもたちと多様な音楽表現ができるよう活動の展開について考えていく。</p>
授業の 到達目標	<p>保育内容「表現」の内容に基づき、保育士・幼稚園教諭として必要な音楽の表現方法について実践を通して学ことを目的とする。</p> <p>(1) 表現活動の教材研究(歌う・総合表現)について実践を通して考えることができる          (2) 音楽表現活動を実践的に展開し考察することができる          (3) 他分野との総合的な表現活動について深めていくことができる</p>
授業計画	<p>第1回 子どもの音楽表現の育ちと教材研究について (担当: 梶間)          第2回 発声の基本と子どもの発声の考え方について ~美しく響く歌声とは~ (担当: 渡邊)          第3回 日本の歌を歌う (担当: 渡邊)          第4回 世界の歌を歌う (担当: 渡邊)          第5回 オペレッタとミュージカル①題材研究 (担当: 渡邊)          第6回 オペレッタとミュージカル②歌の構造と理解 (担当: 渡邊)          第7回 オペレッタとミュージカル③歌唱表現と身体表現の方法ス (担当: 渡邊)          第8回 グループ発表 (担当: 渡邊)          第9回 音の絵本について (担当: 梶間)          第10回 音の絵本の題材選択と方法 (担当: 梶間)          第11回 音の絵本 — グループワーク①担当分けと練習 (担当: 梶間)          第12回 音の絵本 — グループワーク②練習          第13回 音の絵本の模擬発表 (担当: 梶間)          第14回 発表に関するグループディスカッション (担当: 梶間)          第15回 音の絵本 本発表(学外での実演発表含む) (担当: 梶間)          定期試験</p>
テキスト	テキストは使用せず、適宜資料プリントを配布
参考文献	文部科学省『幼稚園教育要領』、厚生労働省『保育所保育指針』、内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』
評価方法	授業課題の取り組み状況(50%)、試験成績(50%)により評価する
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	

授業科目	初等国語科授業研究						
担当教員	中井悠加						
科目分類	専門発展	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020900
免許資格 関連事項	○小学校教諭一種免許状《教職に関する科目》 ・教育課程及び指導法に関する科目 〔各教科の指導法〕						

授業の概要	小学校国語科教育について、国語科の目標及び内容を第1学年から第6学年まで学修し、小学校における各学年の目標と内容を理解した上で、学習指導案の形式、内容、作成手順を学ぶ。その後、教材研究と指導案作成、授業分析までを実践的に学び、実践に即した学習指導案を作成し、授業力の分析観点をいながら、「話すこと」「聞くこと」「書くこと」「読むこと」の模擬授業を実施・観察することで、授業の態度・話法・板書・発問などの教室における授業技術の基礎を習得する。
授業の到達目標	(1) 小学校における国語科の目標、単元・授業構成、実施、評価についての理解を深める。 (2) 児童の実態を踏まえた学習指導案を設計し、実践的学習指導力の基礎を養う。 (3) 模擬授業の相互分析と振り返りを通して、自らの教育実践への心構えを培う。
授業計画	第1回 小学校国語科教育について：国語科の目標及び内容 第2回 小学校国語科各学年の目標と内容：第1学年から第6学年まで 第3回 教材研究(1)：教材の選択と解釈 第4回 教材研究(2)：授業デザイン 第5回 教材研究(3)：発問・板書計画 第6回 学習指導案作成(1)：作成手順 第7回 学習指導案作成(2)：略案と細案 第8回 授業力の分析と自己評価：授業力分析・自己評価方法を学ぶ 第9回 単元計画の発表(1)：「話すこと・聞くこと」の単元計画 第10回 模擬授業実践(1)：「話すこと・聞くこと」の模擬授業と授業分析 第11回 単元計画の発表(2)：「書くこと」の単元計画 第12回 模擬授業実践(2)：「書くこと」の模擬授業と授業分析 第13回 単元計画の発表(3)：「読むこと」の単元計画 第14回 模擬授業実践(3)：「読むこと」の模擬授業と授業分析 ※第9回～第14回はグループごとに模擬授業プランのプレゼンテーションと実際の模擬授業、それらを踏まえた授業評価・事後協議実践を行う。 第15回 学びの振り返り・教育実習の心得 定期試験
テキスト	文部科学省『小学校学習指導要領解説 国語編』東洋館出版社
参考文献	全国大学国語教育学会『新たな時代を拓く小学校国語科教育研究』学芸図書株式会社
評価方法	各模擬授業における授業分析・自己評価レポート(30%)、 定期試験(国語科授業研究の基礎理論、学習指導要領を踏まえた単元計画作成：60%) 毎回の授業に関するコメントカードの内容(10%)
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	

授業科目	初等算数科授業研究						
担当教員	齊藤一弥						
科目分類	専門発展	授業時間	30	配当年次	4	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020910
免許資格 関連事項	○小学校教諭一種免許状《教職に関する科目》 ・教育課程及び指導法に関する科目 〔各教科の指導法〕						

授業の概要	「初等算数科教育法」の学修に基づき、小学校学習指導要領における算数科について、授業内容を教材化する視点と方法を理解し、実践する力を養うことを目的とする。小学校の算数の教材開発を具体的に行い、授業内容と指導方法を検討・実践する過程を通じて、授業実践力の向上を目指す。小学校1年生から6年生までの算数において、実際の授業案を学生自身が考え、学習指導案を作成し、模擬授業案の一部を発表することを通じて小学校教員としての実践力を高める。学生・教員による授業反省会・討議を行い、今後の教材研究と授業研究に活かす。
授業の到達目標	授業のテーマ：「小学校算数科の授業実践に関する基礎的・基本的知識・技能の修得」 (1) 算数に関する教材研究・教材開発を行う。 (2) 算数教育の方法及び技術を身につける。 (3) 学習指導案を作成し、授業実践を行い、自己評価・他者評価を行う。
授業計画	第1回 各領域のねらい及び各学年の目標の考察 第2回 目標および指導内容と教材・教具 第3回 教師としての基礎・基本①—学習指導案の目的— 第4回 教師としての基礎・基本②—学習指導案の書き方— 第5回 教師としての基礎・基本③—発問・板書— 第6回 教材研究と指導計画作成①—教材研究と学習指導案の「指導に当たって」の作成— 第7回 教材研究と指導計画作成②—教材研究と学習指導案の「観点別評価規準」及び「全体指導計画」の作成— 第8回 教材研究と指導計画作成③—教材研究と「本時の学習展開」及び「発問・板書」の作成— 第9回 模擬授業—「数と計算」領域を中心とした低・中・高学年の発表と評価— 第10回 模擬授業—「図形」領域を中心とした低・中・高学年の発表と評価— 第11回 模擬授業—「測定」領域を中心とした低・中・高学年の発表と評価— 第12回 模擬授業—「変化と関係」領域を中心とした低・中・高学年の発表と評価— 第13回 模擬授業—「データの活用」領域を中心とした低・中・高学年の発表と評価— 第14回 講評を踏まえた反省と授業実践力の自己評価 第15回 小学校算数科の授業研究の課題と在り方
テキスト	「小学校学習指導要領解説 算数編」文部科学省
参考文献	授業中、随時、適切な資料を配布したり、紹介したりする。
評価方法	課題レポートの提出(50%)、模擬授業への取組(50%)を総合的に評価する。
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	

授業科目	初等理科授業研究						
担当教員	高橋泰道						
科目分類	専門発展	授業時間	30	配当年次	4	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020920
免許資格 関連事項	○小学校教諭一種免許状《教職に関する科目》 ・教育課程及び指導法に関する科目 〔各教科の指導法〕						

授業の概要	<p>「初等理科教育法」の学修に基づき、小学校学習指導要領における理科について、授業内容を教材化する視点と方法を理解し、実践する力を養うことを目的とする。小学校の理科の教材研究を具体的にを行い、授業内容と指導方法を検討・実践する過程を通じて、授業実践力の向上を目指す。</p> <p>具体的には、小学校3年生から6年生までの理科において、学生自身が単元を決め、教材研究を行い、実際の学習指導案を作成し、模擬授業案の一部を発表し、学生・教員間による授業反省会・討議を行うことを通じて、小学校理科を担当する教員としての実践的能力・技能を養うことを目指す。</p>
授業の到達目標	<p>(1) 理科教育に関する教材研究・教材開発・事例研究を行う。</p> <p>(2) 理科教育の方法及び技術を身につける。</p> <p>(3) 学習指導案を作成し、授業実践を行い、自己評価・他者評価を行う。</p>
授業計画	<p>第1回 授業の概要と課題の設定</p> <p>第2回 授業構成の方法～導入・展開・まとめ～問題解決過程</p> <p>第3回 教材研究①課題の検討と設定</p> <p>第4回 教材研究②理科の教科書の調査・研究（収集）</p> <p>第5回 教材研究③理科の教科書の調査・研究（分析・整理）</p> <p>第6回 教材研究④観察・実験の実施</p> <p>第7回 教材研究⑤観察・実験の考察・まとめ</p> <p>第8回 事例研究①理科の事例研究の整理</p> <p>第9回 事例研究②理科の事例研究の分析・まとめ</p> <p>第10回 理科の学習指導案の発表と相互評価</p> <p>第11回 理科の模擬授業の実施と省察</p> <p>第12回 理科の学習指導案の修正</p> <p>第13回 理科の模擬授業の実施と相互評価</p> <p>第14回 理科の模擬授業の実施と自己評価</p> <p>第15回 授業研究のまとめ</p>
テキスト	和泉浩行・島根理科授業研究会編著（2015）第6学年『活用問題事例集』今井出版 プリントも随時配布する。
参考文献	<p>文部科学省（2017）『小学校学習指導要領 理科編』 (<a href="http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/10/13/1387017_5.pdf">http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/10/13/1387017_5.pdf</a>)</p> <p>その他、授業の中で必要に応じて紹介する。</p>
評価方法	調査研究の発表内容（20%）、学習指導案の内容（20%）、模擬授業（20%）と授業反省会や討議についてのレポート（20%）、全授業を通じてのまとめレポート（20%）により評価する。
自己学習に関する指針	テキストや配布資料、およびレジュメに記載された参考文献を読み、事前学修・事後学修に役立てる。
履修上の指導・留意点	質問は、その内容に応じて、授業時間中・オフィスアワー・e-mail に対応します。

授業科目	初等体育科授業研究						
担当教員	梶谷朱美						
科目分類	専門発展	授業時間	30	配当年次	4	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020930
免許資格 関連事項	○小学校教諭一種免許状《教職に関する科目》 ・教育課程及び指導法に関する科目 〔各教科の指導法〕						

授業の概要	<p>小学校1年生から6年生までの体育科において、実際の授業案を学生自身が考え、学習指導案を作成し、模擬授業案の一部を発表することを通じて小学校教員としての実践的指導力を高める。学生間・教員による授業反省会・討議を行い、今後の教材研究と授業研究に活かす。</p>
授業の 到達目標	<p>(1) 学習指導要領体育科の各学年の目標や児童の発達段階、運動の特性に応じた学習指導案の作成ができる。</p> <p>(2) 教材研究や模擬授業を通して、体育授業の環境構成（場づくり・教材づくり）や教師の支援等についての知識を深め、実践的な指導力を高めることができる。</p> <p>(3) 擬授業等、体育授業の様々な事例をもとに討論や発表を行い、体育科の目標や内容に関する実践的な知識を身につけるとともに、授業分析や授業観察の視点についても理解する。</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 学習指導要領体育科の改訂と目標や内容の変遷</p> <p>第3回 体育科の各学年の目標と内容</p> <p>第4回 小学校体育科における教師の役割</p> <p>第5回 教材研究(模擬授業で指導する内容決定、指導案作成)</p> <p>第6回 教材研究(模擬授業で指導する指導案の作成)</p> <p>第7回 教材研究(模擬授業で指導する実技練習)</p> <p>第8回 模擬授業(導入：追究力を引き出す単元との出合わせ方の工夫)と討議、次時の検討修正</p> <p>第9回 模擬授業(第1次：各運動領域の基礎基本の習得)と討議、次時の検討修正</p> <p>第10回 模擬授業(第2次：活用、探究できる環境構成と教師の支援)と討議、次時の検討修正</p> <p>第11回 模擬授業(終末 第3次：単元のふりかえりと内容の生活化)と討議、まとめ</p> <p>第12回 授業観察及び授業分析の視点</p> <p>第13回 基礎見学の留意点と課題</p> <p>第14回 基礎見学：公立小学校の低学年・中学年・高学年(予定)</p> <p>第15回 演習：基礎見学の授業内容に関する発表・討議、まとめ</p>
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文部科学省『小学校学習指導要領』第9節体育 (<a href="http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/syo/tai.htm">http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/syo/tai.htm</a>)</li> <li>・文部科学省『小学校学習指導要領解説 体育編』 (<a href="http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/syokaisetsu/index.htm">http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/syokaisetsu/index.htm</a>)</li> </ul>
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文部科学省「中学校学習指導要領解説-保健体育編-」</li> <li>・文部科学省「高等学校学習指導要領解説-保健体育編-」</li> <li>・「幼稚園教育要領解説」</li> <li>・「保育所保育指針」</li> </ul>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導案作成：指導案作成に関わる教材研究や実技練習の取組の姿から総合的に評価(25%)</li> <li>・模擬授業：模擬授業での発表や討議、模擬授業に関わるレポートを総合的に評価(50%)</li> <li>・基礎見学：授業見学の授業内容に関する発表、討議、およびレポートを総合的に評価(25%)</li> </ul>

自己学習に 関する指針	1回の授業ごとに予め課題をだし、課題解決型の授業を行う。
履修上の 指導・留意点	運動のできる服装、シューズを準備すること。

授業科目	小学算数						
担当教員	齊藤一弥						
科目分類	専門発展	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020940
免許資格 関連事項	○小学校教諭一種免許状《教科に関する科目》 ・算数						

授業の概要	小学校算数科の在り方について、数学的な見方・考え方を働かせた数学的活動を通して数学的に考える資質・能力の育成に向けて、小学校算数科における「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」領域と中学校数学科における「数と式」「図形」「関数」「データの活用」の関連を取り上げた講義と演習を行う。
授業の 到達目標	授業のテーマ：「小学校算数科と中学校数学科との関連の理解」 (1) 小学校算数科と中学校数学科との関連深い内容について理解する。 (2) 中学校への教育的一貫性を意識した小学校算数科の在り方を理解する。
授業計画	第1回 数の拡張—正の数と負の数の加減— 第2回 □や△を用いた式と文字を用いた式 第3回 未知数としての□を使った式と一元一次方程式 第4回 「同じものに目をつけて」という考え方と連立二元一次方程式 第5回 素数と素因数分解 第6回 平面図形 第7回 基本的な平面図形と平行線の性質 第8回 空間図形 第9回 図形の合同 第10回 図形の相似 第11回 比例・反比例 第12回 一次関数 第13回 資料の散らばりと代表値及び標本調査 第14回 割合と確率①—小学校における割合— 第15回 割合と確率②—高等学校における確率を踏まえた中学校における確率— 定期試験
テキスト	「小学校学習指導要領解説 算数編」文部科学省 「中学校学習指導要領解説 数学編」文部科学省
参考文献	授業中、随時、適切な資料を配布したり、紹介したりする。
評価方法	小テスト・定期試験：80%、レポート等：20%
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	

授業科目	小学理科						
担当教員	高橋泰道						
科目分類	専門発展	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020950
免許資格 関連事項	○小学校教諭一種免許状《教科に関する科目》 ・理科						

授業の概要	教科に関する科目の発展科目として、中学校への教育的一貫性を意識した高学年から中学校にいたる「理科」のあり方を理解する。具体的には、「理科」で学修したことを受けて、物理・化学・生物・地学の各領域において、小学校5・6年理科に出てくる実験や観察を、将来児童に指導するという観点から学び、初等理科教育に必要な基礎的・基本的な知識と技能を養う。「物質・エネルギー」では、物の溶け方、振り子の運動、電流の働き、燃焼の仕組み、てこの規則性等を学び、「生命・地球」では、植物の発芽、成長、結実、動物の誕生、人の体のつくりと働き、生物と環境、土地のつくりと変化、天気の変化、天体の基礎を学ぶ。
授業の到達目標	①小学校で必要な学習内容に関わる実験・観察について理解し、安全に配慮して行うことができる。 ②科学的に自然の事物・現象を認識できる。 ③科学的思考、方法を修得し、自然の事物・現象についての解説や、応用ができる。
授業計画	第1回 オリエンテーション、植物の発芽、成長、結実 第2回 動物の誕生 第3回 人の体のつくりと働き 第4回 生物と環境 第5回 土地のつくりと変化 第6回 天気の変化 第7回 月と星 第8回 物の溶け方 第9回 水溶液の性質 第10回 振り子 第11回 電流の働き 第12回 燃焼の仕組み 第13回 ロウソクの化学 第14回 てこの働き 第15回 電気の利用 定期試験は行わない。
テキスト	和泉浩行・島根理科授業研究会編著(2015)第5学年『活用問題事例集』今井出版 プリントも随時配布する。
参考文献	文部科学省(2017)『小学校学習指導要領 理科編』 ( <a href="http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/10/13/1387017_5.pdf">http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/10/13/1387017_5.pdf</a> ) その他、授業の中で必要に応じて紹介する。
評価方法	授業レポート(40%)、提出物(スケッチやレポート)(60%)などで総合的に判断して全体評価を決める。
自己学習に関する指針	テキストや配布資料、およびレジュメに記載された参考文献を読み、事前学修・事後学修に役立てる。
履修上の指導・留意点	質問は、その内容に応じて、授業時間中・オフィスアワー・e-mailで対応します。



授業科目	音楽Ⅲ						
担当教員	梶間奈保 渡邊寛智 代香織						
科目分類	専門発展	授業時間	30	配当年次	3	配当期	通年
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2020960
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭一種免許状《教科に関する科目》 ・音楽 ○小学校教諭一種免許状《教科に関する科目》 ・音楽 ○保育士資格						

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい] この授業では音楽表現に関する技術および演奏表現の向上を目指す。演奏の技術向上のみならず、教育現場での音楽指導ができるよう模擬指導や実践練習を行い、音楽指導の指導力を養っていく。</p> <p>[授業全体の内容の概要] この授業ではピアノ演奏・歌唱・器楽合奏に各受講者が分かれ、それぞれの音楽表現に関する技術および演奏表現を授業での練習を通して深めていく。授業内では、演奏する楽曲分析の視点を理解した演奏やそれぞれの音楽表現を活かして教育現場での音楽指導ができるように、グループ内での模擬指導や実践練習を行う。また、音楽技能習得の成果として行う発表会では、各個人が演奏を行うとともに、受講者自身で発表会の計画や運営に取り組むこととする。</p>
授業の 到達目標	<p>ピアノ演奏、歌唱、器楽合奏の3つの形態に分かれ、自身の選択した音楽技能および音楽表現の向上に努めることを目的とする科目である。</p> <p>(1) 自身の音楽技能および音楽表現の向上に努める (2) 演奏方法を学び楽曲への理解を深め、音楽指導へとつなげる (3) 演奏発表を通して、音楽会の計画および運営について学ぶ</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション—授業方法についてのガイダンスとグループ分け 第2回 グループに分かれて課題の演奏練習①課題曲の選曲と基礎練習の取り組み 第3回 グループに分かれて課題の演奏練習②課題曲の練習と楽曲の理解について 第4回 グループに分かれて課題の演奏練習③課題曲の練習と演奏表現について 第5回 グループに分かれて課題の演奏練習④課題曲の練習と模擬発表 第6回 グループ内での模擬発表 第7回 音楽会の実践について（ガイダンス、担当割り当て） 第8回 グループに分かれての練習①曲の選曲と楽曲の理解について 第9回 グループに分かれての練習②曲の練習と演奏指導の視点について 第10回 グループに分かれての練習③曲の練習と模擬演奏指導（グループ1） 第11回 グループに分かれての練習④曲の練習と模擬演奏指導（グループ2） 第12回 グループに分かれての練習⑤曲の練習 第13回 グループに分かれての練習⑥曲の練習と音楽会の準備 第14回 音楽会の実践（リハーサル） 第15回 音楽会の実践 定期試験</p>
テキスト	テキストは使用せず、適宜プリント・教材を配布する。
参考文献	<p>文部科学省『小学校学習指導要領』第6節音楽 (<a href="http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/syo/on.htm">http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/syo/on.htm</a>) 文部科学省『幼稚園教育要領』厚生労働省『保育所保育指針』内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』</p>
評価方法	授業課題の取り組み状況（40%）、演奏発表（模擬及び音楽会実践）（30%）試験成績（30%）により評価する

自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	

授業科目	音楽Ⅳ						
担当教員	渡邊寛智						
科目分類	専門発展	授業時間	30	配当年次	4	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2020970
免許資格 関連事項	○幼稚園教諭一種免許状《教科に関する科目》 ・音楽 ○小学校教諭一種免許状《教科に関する科目》 ・音楽						

授業の概要	初等歌唱教材や幼児教育に適した歌曲教材を扱いながら、基礎的な歌唱方法を学び歌唱技能の向上と歌唱表現を高めることを目的とする。また、歌唱に伴う音楽理論、知識を高めると共に、楽曲に対する分析や表現方法を深め、音楽に対するより豊かな表現力を目指す。
授業の到達目標	(1) 初等歌唱教材、幼児教育で用いる楽曲の歌唱表現を高める (2) 歌唱の基礎的な理解及び歌唱指導法の知識を習得する (3) 楽曲の分析的視点を深め、多様な音楽表現の向上に努める
授業計画	第1回 オリエンテーション (担当：授業方法についてのガイダンスと課題曲の提示) 第2回 「春がきた」(斉唱)を用いた歌唱(発声法—姿勢・呼吸) 第3回 「うみ」(斉唱)を用いた歌唱(発声法—ブレス・共鳴) 第4回 「もみじ」(斉唱)を用いた歌唱(歌唱法—音程・発語) 第5回 任意の楽曲での歌唱(歌唱法—レガート・フレーズ) 第6回 輪唱「静かな湖畔」を用いた音楽あそび 第7回 「ふるさと」を用いた重唱 第8回 「エーデルワイス」を用いた重唱 第9回 学校指導要領における歌唱の領域について 第10回 選曲およびねらいの設定について 第11回 グループワーク(テーマ：斉唱と独唱の違い) 第12回 グループワーク(テーマ：歌唱と伴奏の関係性①)共鳴と音響 第13回 グループワーク(テーマ：歌唱と伴奏の関係性②)音響と空間構成 第14回 実践的な歌唱① 歌うことを楽しむ 第15回 実践的な歌唱② 発達段階における歌唱の理解 定期試験 実技試験(独唱)、授業に関するレポート試験
テキスト	特に使用しない。適宜プリント資料等を配布する。
参考文献	文部科学省『小学校学習指導要領』第6節音楽 ( <a href="http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/syo/on.htm">http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/syo/on.htm</a> ) 文部科学省『幼稚園教育要領』厚生労働省『保育所保育指針』内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』
評価方法	実技試験(独唱)(50%)、レポート試験(50%)により評価する
自己学習に関する指針	テキスト、配布プリントを復習に役立てる。
履修上の指導・留意点	動きやすい服装で出席すること。

授業科目	学校図書館論						
担当教員	木内公一郎						
科目分類	専門発展	授業時間	30	配当年次	4	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M1020020
免許資格 関連事項	○司書教諭免許状						

授業の概要	<p>教師が学校図書館活用教育を展開するために必要な知識・技能として、学校図書館の教育的意義や経営など全般的事項について理解することを目標とする。学校図書館の理念と教育的意義、学校図書館の発展と課題、教育行政と学校図書館、学校図書館の経営（人、施設、資料、予算、評価等）、司書教諭の役割と校内の協力体制と研修、学校図書館メディアの選択と管理、提供、学校図書館活動、図書館の相互協力とネットワーク等について解説する。</p>
授業の到達目標	<p>学校教育と学校図書館の関係、組織、サービス、人的資源などを広範囲にわたる学校図書館の課題を理解することができるようになる。(知識)</p> <p>学校教育における学校図書館のあるべき姿を理解し、司書教諭として学校図書館運営の中核を担う意識が醸成されるようになる。(態度)</p>
授業計画	<p>第1回 学校教育と学校図書館：学校図書館の目的と役割について説明する。</p> <p>第2回 学校図書館の歴史1：学校図書館の概念と機能形成のはじまりを説明する。</p> <p>第3回 学校図書館の歴史2：昭和前期から戦後の法制化までを説明する。</p> <p>第4回 教育行政と学校図書館経営：教育行政と学校図書館との関係について説明する。</p> <p>第5回 学校図書館職員と経営組織：司書教諭と学校司書の役割と組織について説明する。</p> <p>第6回 学校図書館メディア：メディアの類別と収集、組織化について説明する。</p> <p>第7回 学校図書館の設備と会計：学校図書館基準を基に設備と会計について説明する。</p> <p>第8回 学校図書館の教育活動：学校図書館が行うべき教育活動について説明する。</p> <p>第9回 学校図書館経営計画：経営計画の立案について説明する。</p> <p>第10回 学校図書館活動の実際1：学校図書館活動を行う際の留意点と意義を説明する。</p> <p>第11回 学校図書館活動の実際2：資料提供活動の目的と方法を説明する。</p> <p>第12回 学校図書館活動の実際3：情報提供活動と広報活動について説明する。</p> <p>第13回 学校図書館活動の実際4：行事・集会活動とネットワークについて説明する。</p> <p>第14回 学校図書館の評価と改善：評価の必要性和、評価の方法について説明する。</p> <p>第15回 まとめ：学校経営における司書教諭の役割と職責を説明する。</p>
テキスト	『改訂学校経営と学校図書館』学校図書館実践テキストシリーズ3／樹村房
参考文献	授業中に指示する。
評価方法	授業中の課題（40%）、レポート（60%）
自己学習に関する指針	・授業中に紹介した参考文献を、積極的に読むこと。・予習としてテキストの該当箇所を読んでおくこと。
履修上の指導・留意点	質問はいつでも受け付けます。オフィスアワーを十分に活用してください。またリアクションペーパーを毎回配布しますので、質問や意見を積極的に書いてください。

授業科目	学習指導と学校図書館						
担当教員	木内公一郎						
科目分類	専門発展	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M1020030
免許資格 関連事項	○司書教諭免許状						

授業の概要	<p>受講者が学校図書館活用教育を展開するために必要な知識・技能として、学習指導における学校図書館メディア活用について理解することを目標とする。教育課程と学校図書館、発達段階に応じた学校図書館メディアの選択、児童生徒の学校図書館メディア活用能力の育成、学習過程における学校図書館メディア活用の実際、学習指導における学校図書館の活用、情報サービス（レファレンスサービス等）など、教員への支援と働きかけ等について解説する。</p>
授業の到達目標	<p>受講生は以下の項目ができるようになる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校図書館に求められている読書センター、学習・情報センターとしての機能のうち、学習・情報センターの機能についての基本的理解。(知識)</li> <li>2. 学校図書館が児童生徒の情報活用能力を育む役割を持つことを踏まえ、情報活用能力の育成について理論として理解する。(知識)</li> <li>3. 情報活用能力の育成の内容と方法を理解し、実践できるようになる。(技能)</li> <li>4. 情報教育を担う司書教諭の役割を自覚できるようになる。(態度)</li> </ol>
授業計画	<p>第1回 教育課程と学校図書館：学校図書館と学習指導の展開の関わりを説明する。          第2回 学校図書館メディアの特徴：発達段階を踏まえ、どのような特徴があるかを説明する。          第3回 学校図書館メディア活用能力育成(1)：メディア活用能力の意義と目的について説明する。第          4回 学校図書館メディア活用能力育成(2)：児童生徒のメディア活用能力育成の内容を説明する。          第5回 学校図書館メディア活用能力育成(3)：メディア活用能力育成の指導方法を説明する。          第6回 学校図書館メディア活用能力育成(4)：メディア活用能力育成の計画と作成手順を説明する。          第7回 学校図書館メディア活用能力育成(5)：メディア活用能力育成教育の評価と改善を説明する。          第8回 学校図書館メディア活用の実際：学習過程と図書館メディアの関わりを説明する。          第9回 学習指導における学校図書館の活用(1)：科における学校図書館の活用を説明する。          第10回 学習指導における学校図書館の活用(2)：総合的学習の時間における学校図書館の活用を説明する。          第11回 学校図書館における情報サービス(1)：情報サービスの意義と情報サービスの実際          第12回 学校図書館における情報サービス(2)：児童生徒に対する情報サービスについて説明する。          第13回 学校図書館における情報サービス(3)：教職員に対する情報サービスと教育活動への支援について説明する。          第14回 教師への支援と働きかけ：学校図書館と教職員との関わり方を説明する。          第15回 まとめ：いままでの授業を踏まえ、メディア教育を進める上での司書教諭のあり方を議論する。</p>
テキスト	朝比奈大作編『学習指導と学校図書館』樹村房、2008（学校図書館実践テキストシリーズ 4）
参考文献	授業中に指示する
評価方法	レポート（70%）授業中の演習課題（30%）
自己学習に関する指針	・授業中に紹介した参考文献を、積極的に読むこと。・予習としてテキストの該当箇所を読んでおくこと。
履修上の指導・留意点	質問はいつでも受け付けます。E-mail、オフィスアワーを十分に活用してください。またリアクションペーパーを毎回配布しますので、質問や意見を積極的に書いてください。

授業科目	学校図書館メディアの構成						
担当教員	木内公一郎						
科目分類	専門発展	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M1020040
免許資格 関連事項	○司書教諭免許状						

授業の概要	<p>学校図書館活用教育を展開するために必要な知識・技能として、学校図書館メディアの構成に関する理解及び実務能力の育成を目標とする。学校図書館メディアの種類と特性、学校図書館メディアの選択と構成、学校図書館メディアの組織化（分類の意義と機能、日本十進分類法等の解説、件名標目表の解説、目録の意義と機能、日本目録規則の解説、目録の機械化）など、多様な学習環境と学校図書館メディアの配置等について解説するとともに、主要単元毎にケースメソッドを導入し、知識の応用と実践能力の育成を図る。</p>
授業の到達目標	<p>学校図書館メディアの全体像を理解するとともに、メディアの収集から利用までの実務を理解することができるようになる。(知識) さらに学校図書館メディアに関する知識と技術が身につく、学校図書館の現場で実践できるようになる。(技能)</p>
授業計画	<p>第1回 学校図書館メディアの意義：学校教育におけるメディアのはたらきを解説する。          第2回 メディア構成の要点：メディアを構築していくプロセスについて解説する。          第3回 メディア構成の知識と技術：司書教諭に必要とされる役割と知識について解説する。          第4回 学校図書館メディアの種類：印刷、視聴覚、電子資料などの各メディアについて解説する。          第5回 印刷・視聴覚メディアの選択と収集：選書のための方法と情報源を解説し、ケースメソッドによる演習を行う。          第6回 電子メディア利用の環境整備：コンピュータシステム、ネットワーク環境について解説する。          第7回 コレクション形成の意義：学校図書館コレクションの意義と形成のあり方について解説する。          第8回 コレクション形成の実際：コレクション形成の実務とケースメソッドによる演習を行う。          第9回 コレクション評価の手法：評価の基準とその方法について解説する。          第10回 メディアへの物理的アクセス支援：印刷、ファイル資料、電子メディアの取り扱いについて学ぶ。          第11回 メディアへの知的アクセス支援：メディアへアクセスする方法としてコンピュータ目録を中心に解説する。          第12回 分類法を用いたメディアの組織化：主題組織法、特に日本十進分類法を中心に解説する。          第13回 目録法を用いたメディアの組織化：日本目録規則、メタデータについて解説する。          第14回 件名法を用いたメディアの組織化：基本件名標目法を中心に解説する。          第15回 学校図書館メディアの構成における課題：学校教育への貢献と司書教諭、学校司書の協働について解説し、まとめとしてケースメソッドによる演習を行う。</p>
テキスト	小田光宏『学校図書館メディアの構成』樹村房, 2016(司書教諭テキストシリーズII 2)
参考文献	授業中に指示する。
評価方法	筆記試験(60%)、授業中の課題および演習(40%)
自己学習に関する指針	・授業中に紹介した参考文献を、積極的に読むこと。・予習としてテキストの該当箇所を読んでおくこと。
履修上の指導・留意点	質問はいつでも受け付けます。オフィスアワーを十分に活用してください。またリアクションペーパーを毎回配布しますので、質問や意見を積極的に書いてください。

授業科目	情報メディアの活用						
担当教員	石井大輔						
科目分類	専門発展	授業時間	30	配当年次	4	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M1030030
免許資格 関連事項	○司書教諭免許状						

授業の概要	<p>日常生活(大学での学習を含む)において、「思った」または「感じた」ことを多様な情報メディアの中からその時に最適なものを選び、創作的に表現できるスキルを修得することを目的とする。また、司書教諭となるものが学校教育において学校図書館における多様な情報メディアの特性を熟知した上で活用できるようになることを目指す。「高度情報社会と人間(情報メディアの発達と変化を含む)」「情報メディアの特性と選択」「視聴覚メディアの活用、コンピュータの活用(教育用ソフトウェアの活用、データベースと情報検索、インターネットによる情報検索と発信)」「情報メディアと著作権」などについて解説する。</p>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日常の課題解決において、必要な情報を多様な情報メディアの中からその時に最適なものを選ぶために必要な知識とスキルを修得し、得られた知見をもとに着想した事柄を、情報メディアや ICT を活用しながら創作的に表現、発信できるスキルを修得する。</li> <li>・ 司書教諭となるものに求められる伝統的メディアである図書や雑誌等を取扱う技術に加え、情報ネットワーク環境のもとで基本的に求められる知識とスキル、方向感覚を修得する。</li> <li>・ 情報メディアの活用に欠かせない情報倫理や知的財産権に関する本質的認識を身につける。</li> </ul>
授業計画	<p>第1回 情報メディアの現状 第2回 情報メディアの歴史 第3回 情報ネットワークの技術的背景 第4回 情報メディアの特性と選択 第5回 学校教育と情報リテラシー 第6回 インターネット情報資源 第7回 アナログ情報の電子化および活用 第8回 文献管理と発想法：紙媒体 第9回 文献管理と発想法：電子媒体 第10回 文献管理と発想法：スマートフォンの活用 第11回 知的創造と著作権 (1)：情報メディアの利用と知的財産制度 第12回 知的創造と著作権 (2)：情報メディアと著作権 第13回 知的創造と著作権 (3)：学校教育と著作権 第14回 情報メディアとアクセシビリティ 第15回 学校教育における情報メディアの展望と課題 定期試験</p>
テキスト	なし
参考文献	山本順一、気谷陽子編著『情報メディアの活用』三訂版、放送大学教育振興会 (2016年)
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平常点 (40%)、レポート (30%)、試験 (30%)</li> <li>・ 平常点では①オピニオンペーパーの記述 (毎時出題するクイズの回答等)、②授業への参加を評価する。授業への参加とは授業内での教員からの問いかけに対する発言のほか、挙手による回答の回数をカウントする。</li> </ul>
自己学習に関する指針	日常的にコンピュータやスマートフォン等の情報機器の扱いに慣れておくことが必要です。授業の内容をよく理解し、積極的にインターネットを用いた情報発信を実践してください。
履修上の指導・留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業はコンピュータを使用できる環境で行いますが、受講生所有のコンピュータやスマートフォン等を適宜使用します。</li> <li>・ 司書教諭資格の取得に必要な科目です。</li> </ul>

授業科目	知的障害児の心理						
担当教員	園山繁樹 内山仁志						
科目分類	専門発展	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020980
免許資格 関連事項	○特別支援学校教諭一種免許状《特別支援教育に関する科目》 ・特別支援教育領域に関する科目 〔心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目〕						

授業の概要	乳幼児期から学齢期に至る発達過程での知的障害児のアセスメントとその結果に基づく実態把握、発達段階別の早期発見の指標についての理解を深めるとともに、知覚、学習、言語発達、概念形成、数概念、記憶、問題解決、動機づけ、姿勢運動の発達、及び他の障害を併せ持つ知的障害の特徴、問題行動の背景等について、知的障害の心理的特徴を解説する。知的障害児の問題行動の発生機序、問題行動への支援のあり方を検討する。
授業の 到達目標	(1) 知的障害の定義と歴史の変遷について説明できる。 (2) 知的障害の心理機能の特徴と発達について説明できる。 (3) 重複障害の特徴や問題行動の発生機序について説明できる。
授業計画	第1回 知的障害の定義と歴史の変遷 (担当：園山) 第2回 知的障害の分類 (担当：内山) 第3回 知的障害のアセスメントと早期発見 (担当：内山) 第4回 知的障害の知覚の特徴と発達 (担当：内山) 第5回 知的障害の学習の特徴と発達 (担当：園山) 第6回 知的障害の言語の特徴と発達 (担当：園山) 第7回 知的障害の概念形成の特徴と発達 (担当：園山) 第8回 知的障害の数概念の特徴と発達 (担当：園山) 第9回 知的障害の記憶の特徴と発達 (担当：園山) 第10回 知的障害の問題解決の特徴と発達 (担当：園山) 第11回 知的障害の動機づけの特徴と発達 (担当：園山) 第12回 知的障害の姿勢運動の特徴と発達 (担当：内山) 第13回 他の障害を併せ持つ知的障害の特徴 (担当：内山) 第14回 知的障害児の問題行動の発生機序 (担当：園山) 第15回 知的障害児の問題行動への支援 (担当：園山) 定期試験
テキスト	・「知的障害の心理学—発達支援からの理解」、小池敏英・北島善夫編著、北大路書房
参考文献	・特別支援学校幼稚部教育要領、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領、特別支援学校高等部学習指導要領 (文部科学省 HP <a href="http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/tokushi/1284518.htm">http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/tokushi/1284518.htm</a> ) ・特別支援学校学習指導要領解説 (文部科学省 HP <a href="http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/1278527.htm">http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/1278527.htm</a> ) ・「知的障害のことがよくわかる本 (健康ライブラリーイラスト版)」、有馬 正高、講談社 ・糸賀一雄著『復刊 この子らを世の光に—近江学園二十年の願い』NHK 出版
評価方法	・小テスト (5回分) =50% ・定期試験=50%
自己学習に 関する指針	・参考文献に記載した図書・資料を積極的に読むこと。 ・適宜、資料を配布。
履修上の 指導・留意点	・質問は受講生全員で共有するために、できるだけ授業中にしてください。



授業科目	知的障害児の生理・病理						
担当教員	石井尚吾						
科目分類	専門発展	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2020990
免許資格 関連事項	○特別支援学校教諭一種免許状《特別支援教育に関する科目》 ・特別支援教育領域に関する科目 [心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目]						

授業の概要	知的障害児の理解に関して、医学・心理学的にそのメカニズムを知ることにより、科学的な指導力を身に付ける。健康観、障害概念、知的障害についての考え方とともに、知的障害児の遺伝学的・周産期医学的・小児神経医学的基礎について学ぶ。知的障害を考える上で、神経系の働きや知的障害の子どもがもちやすい症状、各身体器官の働きとの繋がりを理解する。
授業の到達目標	(1) 知的障害に関して、医学的背景を理解できる。 (2) 生理的・病理的特徴を理解した支援方法を考えることができる。
授業計画	第1回 知的障害の定義 第2回 知的障害の分類 第3回 知的障害の解剖学的特徴 第4回 知的障害の原因となる疾患1～染色体異常等先天性疾患 第5回 知的障害の原因となる疾患2～胎児期・周産期の障害 第6回 知的障害の原因となる疾患3～病的な障害 第7回 知的障害の原因となる疾患4～他の精神疾患との合併症 第8回 知的障害のアセスメント 第9回 知的障害の早期発見 第10回 知的障害の認知特性 第11回 知的障害の運動特性 第12回 知的障害の合併症1～自閉症スペクトラムと知的障害 第13回 知的障害の合併症2～てんかんと知的障害 第14回 知的障害児の問題行動 第15回 知的障害児の問題行動の治療 定期試験
テキスト	テキストは使用せず、適宜プリント資料等を配布する。
参考文献	なし
評価方法	・小テスト (20%) 定期試験 (80%)
自己学習に関する指針	・テキストや配布資料を読み、復習に役立てる。 ・施設実習などを通じて子どもたちの実態に触れるよう努める。
履修上の指導・留意点	・毎回、小テストを行う。

授業科目	肢体不自由児の心理・生理・病理						
担当教員	平岩里佳						
科目分類	専門発展	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2021000
免許資格 関連事項	○特別支援学校教諭一種免許状《特別支援教育に関する科目》 ・特別支援教育領域に関する科目 [心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目]						

授業の概要	肢体不自由児を指導する際に必要となる心理的特性及び生理・病理に関する基本的な知識を身に付ける。肢体不自由に関する心理的研究と生理・病理的研究を踏まえて、肢体不自由のある児童・生徒の心理・生理・病理について基礎を学ぶ。また、肢体不自由児に対する教育を行う上で考慮すべき随伴障害についても理解を深める。
授業の 到達目標	1. 肢体不自由の起因疾患とその特徴について理解する。 2. 肢体不自由児の教育をする上で配慮すべき随伴障害、重度・重複障害と医療的ケアについて理解する。 3. 肢体不自由児の主体的に生きる力や自己肯定感を育み、自立と社会参加に向けて教育的支援ができる力を養う。
授業計画	第1回 肢体不自由の定義と起因疾患 第2回 肢体不自由教育の歴史的経緯 第3回 運動発達の道筋 第4回 肢体不自由児の心理発達 第5回 起因疾患①脳性麻痺の生理・病理と心理発達の特性 第6回 起因疾患②二分脊椎・筋ジストロフィーの生理・病理と心理発達の特性 第7回 起因疾患③骨系統疾患・先天性多発性関節拘縮症・ダウン症の生理・病理と心理発達の特性第 8回 肢体不自由児の随伴障害、重度・重複障害と医療的ケア 第9回 肢体不自由児のリハビリテーション 第10回 随伴障害①てんかんの生理・病理 第11回 てんかんをもつ児の心理発達の特性、てんかん発作への対応 第12回 随伴障害②呼吸障害・筋緊張亢進の生理・病理と医療的ケア 第13回 随伴障害③摂食嚥下障害・胃食道逆流・排泄障害の生理・病理と医療的ケア 第14回 肢体不自由児の生理・病理・心理とコミュニケーションの支援 第15回 まとめ 肢体不自由児教育、インクルーシブ教育の在り方 定期試験
テキスト	肢体不自由児の医療・療育・教育 改訂3版 篠田達明監修 金芳堂
参考文献	よくわかる肢体不自由教育 安藤隆男・藤田継道 編著 ミネルヴァ書房 肢体不自由児の教育 川間健之介・西川公司 著 放送大学教育振興会 テキスト肢体不自由教育 子ども理解と教育実践 猪狩恵美子・河合隆平・櫻井宏明 編 全障研出版部
評価方法	小テスト(20%)、試験・レポート評価(80%)の割合で総合的に評価する
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	

授業科目	病弱児の心理・生理・病理						
担当教員	瀬島齊						
科目分類	専門発展	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2021010
免許資格 関連事項	○特別支援学校教諭一種免許状《特別支援教育に関する科目》 ・特別支援教育領域に関する科目 [心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目]						

授業の概要	<p>医学、医療、社会心理的側面から病弱児、障害児を理解し、子どもたちに適切な教育対応と支援ができるようになることを目的とする。小児期に発症する様々な疾患や障害の病態と治療、また、疾患や障害をもつ子どもの心理的特性について学び、病弱児、障害児に対する適切な教育対応、支援方法を理解する。合わせて、家族支援についても理解する。</p>
授業の 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児保健や健康増進活動の歴史や現状を学び、同時に子どもの発育や発達について理解する。</li> <li>2. 代表的な小児疾患の病態や治療を学び、病弱児の身体的、心理的特性を理解する。</li> <li>3. 病弱児の特性や個々の状態に応じた教育目標設定や指導について学び、理解する。</li> <li>4. 病弱支援教育を取り巻く社会・経済情勢にも目を向け、今後の支援を展望する。</li> </ol>
授業計画	<p>第1回 小児保健—子どもの健康を守り、増進させる支援と取り組み          第2回 小児の発育と発達          第3回 未熟児、新生児の疾患とその後の発達支援、母児相互関係の構築          第4回 先天性心疾患、消化器病の病態・治療と心理的特性          第5回 呼吸器疾患、アレルギー疾患の病態・治療と心理的特性          第6回 内分泌疾患、免疫疾患、腎疾患の病態・治療と心理的特性          第7回 血液疾患、小児がんの病態・治療と心理的特性          第8回 先天異常、染色体異常の病態・治療と心理的特性          第9回 先天代謝異常症、神経疾患の病態・治療と心理的特性          第10回 てんかん、発作性疾患の病態・治療と心理的特性          第11回 筋骨格器疾患の病態・治療と心理的特性          第12回 不登校、摂食障害、発達障害の病態・治療と心理的特性          第13回 病弱児と医療現場での支援、教育と医療の連携          第14回 現代の社会潮流と病弱児支援教育の意義          第15回 病弱児支援教育—総括と今後の展望          定期試験</p>
テキスト	<p>スライドを用いて講義を行うためテキストは使用せず、適宜プリント資料等を配布する。</p>
参考文献	<p>奈良勲・鎌田矩子監修、富田豊編「標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 小児科学」第4版          医学書院 (2013)</p>
評価方法	<p>レポート (30%)、筆記試験 (70%) で評価する。</p>
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	

授業科目	知的障害児指導論						
担当教員	西村健一						
科目分類	専門発展	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2021020
免許資格 関連事項	○特別支援学校教諭一種免許状《特別支援教育に関する科目》 ・特別支援教育領域に関する科目 [心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目]						

授業の概要	<p>知的障害児の通園施設・特別支援学校等における教育現場の様子について知るとともに、各教育課程・指導法について学修する。知的障害児の各ライフステージにおける教育の実際を学ぶとともに、教材作成の方法についても修得する。あわせて通常クラスに在籍する幼児期・児童期の知的障害児の指導について理解を深める。知的障害とその周辺領域にいる幼児・児童・生徒の教育とその実際について、最新の情報に基づき課題を探る。</p>
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 知的障害児の教育に関する制度や教育課程、保育と教育の実際について説明できる</li> <li>2. 討議を通じて知的障害児に対する個に応じた指導を立案できる</li> </ol>
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 知的障害とは          第2回 知的障害児の学校教育～教育課程と指導計画～          第3回 知的障害児の学校教育～ライフステージを中心に～          第4回 特別支援教育における自立活動1～教育課程における位置づけ～          第5回 特別支援教育における自立活動2～健康の保持・心理的な安定～          第6回 特別支援教育における自立活動3～人間関係の形成～          第7回 特別支援教育における自立活動4～環境の把握・身体の動き～          第8回 特別支援教育における自立活動5～コミュニケーション～          第9回 ICTを活用した自立活動の実際について          第10回 問題行動のとらえ方1～冰山モデルを活用して～          第11回 問題行動への支援1～事前の評価～          第12回 問題行動への支援2～介入時の評価～          第13回 教材作成、模擬指導1～構造化のアイデアを用いて～          第14回 教材作成、模擬指導2～ワークシステムの理解～          第15回 教材作成、模擬指導3～ワークシステムを活用して～          定期試験</p>
テキスト	<p>テキストは使用せず、適宜プリント資料等を配布する。</p>
参考文献	<p>特別支援学校幼稚園部教育要領、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領、特別支援学校高等部学習指導要領          (文部科学省 HP <a href="http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/tokushi/1284518.htm">http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/tokushi/1284518.htm</a>)          特別支援学校学習指導要領解説(自立活動編・総則編)          (文部科学省 HP <a href="http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/1278527.htm">http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/1278527.htm</a>)</p>
評価方法	<p>毎回提出の授業レポート(40点)、期末試験(60点)</p>
自己学習に関する指針	<p>・授業中に紹介した参考文献を、積極的に読むことが望ましい。</p>
履修上の指導・留意点	<p>・質問は、その内容に応じて、授業時間中・研究室で対応する。</p>

授業科目	肢体不自由児指導論						
担当教員	西村健一						
科目分類	専門発展	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2021030
免許資格 関連事項	○特別支援学校教諭一種免許状《特別支援教育に関する科目》 ・特別支援教育領域に関する科目 〔心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目〕						

授業の概要	<p>肢体不自由児の通園施設・特別支援学校等においては、障害の重度・重複化、多様化の傾向が顕著になってきており、幼児・児童・生徒一人一人の実態に即した、個別の指導上の創意工夫がより一層求められている。本科目では、肢体不自由児の教育に必要な基礎的・基本的事項について、肢体不自由児の通園施設・特別支援学校等における保育と教育の実際を踏まえて学修するとともに、肢体不自由児の教育課程、指導法等について修得する。</p>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肢体不自由児の教育に関する制度や教育課程、保育と教育の実際について説明できる</li> <li>・討議を通じて肢体不自由児に対する個に応じた指導を立案できる</li> </ul>
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 肢体不自由教育とは          第2回 肢体不自由の概念と歴史          第3回 肢体不自由特別支援学校の教育課程編成と指導計画          第4回 肢体不自由特別支援学校の授業 1 ～授業づくりについて～          第5回 肢体不自由特別支援学校の授業 2 ～支援具の活用を中心に～          第6回 肢体不自由教育の実際～教科学習を中心に～          第7回 肢体不自由教育の実際～自立活動を中心に～          第8回 肢体不自由児の社会参加1～外出活動を中心に～          第9回 肢体不自由児の社会参加2～就労を中心に～          第10回 自立活動の指導1 ～タブレットPC(カメラ機能)を活用して～          第11回 教材作成、模擬指導 ～タブレットPC(カメラ機能)を活用して～          第12回 自立活動の指導2 ～タブレットPC(アプリ)を活用して～          第13回 教材作成、模擬指導 ～タブレットPC(アプリ)を活用して～          第14回 自立活動の指導3 ～タブレットPC(アプリ)を活用して～          第15回 教材作成、模擬指導 ～タブレットPC(アプリ)を活用して～          定期試験</p>
テキスト	<p>特別支援学校幼稚部教育要領、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領、特別支援学校高等部学習指導要領          (文部科学省 HP <a href="http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/tokushi/1284518.htm">http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/tokushi/1284518.htm</a>)</p>
参考文献	<p>特別支援学校学習指導要領解説(自立活動編・総則編)          (文部科学省 HP <a href="http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/1278527.htm">http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/1278527.htm</a>)</p>
評価方法	<p>毎回提出の授業レポート(40点)、期末試験(60点)</p>
自己学習に関する指針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中に紹介した参考文献を、積極的に読むことが望ましい。</li> </ul>
履修上の指導・留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・質問は、その内容に応じて、授業時間中・研究室で対応する。</li> </ul>

授業科目	病弱児指導論						
担当教員	園山繁樹 前林英貴 高田哲 佐々木章友						
科目分類	専門発展	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2021040
免許資格 関連事項	○特別支援学校教諭一種免許状《特別支援教育に関する科目》 ・特別支援教育領域に関する科目 〔心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目〕						

授業の概要	「病弱児の心理・生理・病理」で学んだ病弱虚弱児・障害児の心理学的基礎、医学的基礎を踏まえて、「病弱児指導論」では、特別支援教育における病弱児教育の意義と歴史・制度、並びに今日の病弱児教育の対象や場の特徴を解説する。次に、特別支援学校における病弱児教育の教育課程や教育内容・教育方法の実際を解説する。そして、特別支援学校における医療的ケアのあり方、保健管理、並びに病弱児の入院生活における対応について解説する。
授業の 到達目標	1. 病弱児教育の意義と歴史・制度を説明できる。 2. 病弱児教育の対象と場を理解し、病弱児の実態に即した指導方法とその実際を理解する。 3. 医療的ケアのあり方や入院生活における基本的対応について説明できる。
授業計画	第1回 特別支援教育と病弱児教育の意義 (担当: 園山) 第2回 病弱児教育の歴史と制度 (担当: 園山) 第3回 病弱児教育の対象と場 (担当: 園山) 第4回 特別支援学校における病弱児教育と発達障害・情緒障害 (担当: 園山) 第5回 特別支援学校における病弱児教育の教育課程と個別の指導計画 (担当: 佐々木) 第6回 特別支援学校における病弱児指導の実際—児童期・思春期 (担当: 佐々木) 第7回 特別支援学校における医療的ケアのあり方(1)—医療的ケアネットワーク (担当: 高田) 第8回 特別支援学校における医療的ケアのあり方(2)—指導医の役割 (担当: 高田) 第9回 特別支援学校における医療的ケアのあり方(3)—学校看護師の役割 (担当: 高田) 第10回 特別支援学校における保健管理 (担当: 前林) 第11回 特別支援学校における救急・救助 (担当: 前林) 第12回 病弱児の入院生活の実際と対応(1)—入院生活と家族支援 (担当: 前林) 第13回 病弱児の入院生活の実際と対応(2)—医療との連携・協働 (担当: 前林) 第14回 ターミナルケアとグリーフケア (担当: 前林) 第15回 特別支援教育における病弱児指導の課題 (担当: 園山) 定期試験
テキスト	・全国病弱教育研究会編著「病気の子どもへの教育入門」クリエイツかもがわ (2013)
参考文献	・全国特別支援学校病弱教育校長会編著「特別支援学校の学習指導要領を踏まえた病気の子どもへのガイドブック」ジヤース教育新社 (2012) ・宮本信也、土橋圭子編「病弱・虚弱児の医療・療育・教育 改訂2版」金芳堂 (2010) ・小野次朗、西牧謙吾、榎原洋一編著「特別支援教育に生かす病弱児の生理・病理・心理」ミネルヴァ書房 (2011) ・小西行郎・杉本健郎・高田哲著「医療的ケアネットワーク—学齢期の療育と支援」クリエイツかもがわ (2001) ・船戸正久・高田哲 編著 医療従事者と家族のための小児在宅医療支援マニュアル (改訂2版) メディカ出版 2010 ・丹羽登監修「病弱教育における各教科等の指導」ジヤース教育新社 (2015) ・特別支援学校幼稚部教育要領、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領、特別支援学校高等部学習指導要領 (文部科学省HP <a href="http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/tokushi/1284518.htm">http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/tokushi/1284518.htm</a> ) ・特別支援学校学習指導要領解説(自立活動編・総則編) (文部科学省HP <a href="http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/1278527.htm">http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/1278527.htm</a> )

評価方法	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 定期試験=60%</li><li>・ レポート=40%</li></ul>
自己学習に関する指針	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 参考文献に記載した図書・資料を積極的に読んでおくこと。</li></ul>
履修上の指導・留意点	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 質問は受講生全員で共有するために、できるだけ授業中にしてください。</li></ul>

授業科目	知的障害児教育演習						
担当教員	西村健一						
科目分類	専門発展	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2021050
免許資格 関連事項	○特別支援学校教諭一種免許状《特別支援教育に関する科目》 ・特別支援教育領域に関する科目 [心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目]						

授業の概要	<p>事例研究をもとに、知的障害児の支援方法について心理学の知見を踏まえて学ぶ。知的障害児に関する心理学的研究を踏まえて、知的障害児への理解を促し、知的障害児に対する関わり方を学修する。また、教材作成や模擬指導を通じて、効果的な指導の在り方を修得する。知的障害の概念（定義・原因・分類・心理特性）や知的障害の知覚や学習、認知、記憶等の主な仕組みなどについて学び、さらに知的障害の近接領域である学習障害、重度重複障害等の心理と支援についても学ぶ。</p>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知的障害に関して、心理学的研究の概要が理解できる。</li> <li>・知的障害に関して、具体的な支援方法を考えることができる。</li> </ul>
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 知的障害の概念と特性～ICFを中心に～          第2回 知的障害児の心理1          第3回 知的障害の心理2          第4回 知的障害の医学と病理          第5回 重度重複障害の指導と留意点          第6回 知的障害のある人への理解と支援1～環境の構造化～          第7回 知的障害のある人への理解と支援2～コミュニケーション支援～          第8回 教材作成、模擬指導1～紙を使った支援～          第9回 教材作成、模擬指導2～ホワイトボードを使った支援～          第10回 発達障害のある人の理解          第11回 発達障害のある人への支援          第12回 教材作成、模擬指導1          第13回 事例研究1～コミュニケーション～          第14回 事例研究2～問題行動～          第15回 事例研究3～自立と社会参加～          定期試験</p>
テキスト	授業中、適宜印刷資料等を配布する。
参考文献	<p>特別支援学校幼稚部教育要領、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領、特別支援学校高等部学習指導要領          (文部科学省 HP <a href="http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/tokushi/1284518.htm">http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/tokushi/1284518.htm</a>)          特別支援学校学習指導要領解説(自立活動編・総則編)          (文部科学省 HP <a href="http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/1278527.htm">http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/1278527.htm</a>)</p>
評価方法	毎回提出の授業レポート(40点)、期末試験(60点)
自己学習に関する指針	・授業中に紹介した参考文献を、積極的に読むことが望ましい。
履修上の指導・留意点	・質問は、その内容に応じて、授業時間中・研究室で対応する。



授業科目	重複・LD・ADHD等の心理・生理・病理						
担当教員	西村健一 内山仁志 石井尚吾						
科目分類	専門発展	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2021060
免許資格 関連事項	○特別支援学校教諭一種免許状《特別支援教育に関する科目》 ・免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 [心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理、病理に関する科目]						

授業の概要	学習障害(LD)、注意欠如多動症(ADHD)、自閉症スペクトラム(ASD)を中心に、ICD-10ならびにDSM-5の診断基準に基づく重複障害、発達障害とは何かを医学・心理学領域の知見をもとに学修する。発達障害についての生理・病理学的基础知識を踏まえて、さらにその多様な実態について学修し、乳幼児期、児童期をへて成人に至る段階までの発達と認知・行動特性について理解する。
授業の 到達目標	1. 障害の基本的概念について説明できる 2. 発達障害を生理・病理学的観点から説明できる 3. 発達障害の認知・行動特性とその発達を説明できる 4. 発達障害の薬物治療について説明できる
授業計画	第1回 発達障害概論(担当:内山) 第2回 乳児期、幼児期、児童期、成人期の発達(担当:内山) 第3回 障害を理解するために必要な脳・神経の構造と機能(担当:内山) 第4回 LD・ADHDの生理と病理(担当:内山) 第5回 LD・ADHDの心理と発達(担当:内山) 第6回 ASDの生理と病理(担当:内山) 第7回 ASDの心理と発達(担当:内山) 第8回 重複障害の生理と病理(担当:内山) 第9回 重複障害の心理と発達(担当:内山) 第10回 解剖学的異常について(担当:石井) 第11回 認知的異常について(担当:石井) 第12回 薬物治療1-治療の目標(担当:石井) 第13回 薬物治療2-治療の実際(担当:石井) 第14回 薬物治療3-環境調整、療育と薬物治療(担当:石井) 第15回 教育課程と指導法(特にICTを活用した指導について)(担当:西村) 定期試験
テキスト	・「よくわかる障害児教育 [第3版]」、石部元雄他編、ミネルヴァ書房
参考文献	・特別支援学校幼稚部教育要領、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領、特別支援学校高等部学習指導要領 (文部科学省HP <a href="http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/tokushi/1284518.htm">http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/tokushi/1284518.htm</a> ) ・特別支援学校学習指導要領解説 (文部科学省HP <a href="http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/1278527.htm">http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/1278527.htm</a> ) ・「発達科学ハンドブック 8 脳の発達科学」、榊原洋一他編、新曜社 ・「病気が見える vol.7 脳・神経」、医療情報科学研究所編、メディックメディア
評価方法	定期試験 80%, レポート 20%
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	

授業科目	視覚障害児教育総論						
担当教員	内山仁志						
科目分類	専門発展	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2021070
免許資格 関連事項	○特別支援学校教諭一種免許状《特別支援教育に関する科目》 ・免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 [心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目] [心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目]						

授業の概要	<p>視覚障害の定義、視覚障害児教育の歴史と現状の制度について理解する。さらに教材・教具を活用した全盲・弱視児への具体的な教育内容とその方法、自立活動へ向けた指導法、歩行支援法（同行援護）の基礎や読書時における視覚的補助具の使用法などの視覚リハビリテーション（ロービジョンサービス）による支援方法を学修する。実際に視覚障害シミュレーション体験や視線計測を行い、晴眼児・者と視覚障害児・者の認知・行動特性の違いを実践的に理解し、適切な教育的配慮のあり方を学ぶ。</p>
授業の 到達目標	<p>(1) 視覚障害の定義、視覚障害児教育の歴史と現状について説明できる          (2) 視覚障害児・者が自立して日常生活を送るために必要となる事項について説明できる          (3) 視覚障害児・者の支援と対応方法について説明できる</p>
授業計画	<p>第1回 視覚障害の概念（定義、視覚の生理と病理）          第2回 視覚障害児・者に関わる職業と教育・福祉制度の概要          第3回 視覚障害児・者教育の歴史と現状          第4回 視覚障害児・者の心理          第5回 視覚障害児・者の見え方・見えにくさの理解（視覚障害シミュレーション体験）          第6回 視覚リハビリテーション（視覚的補助具とその活用方法）          第7回 自立活動と生活訓練の概要          第8回 コミュニケーション・日常生活動作とその指導1（全盲児・者への教育と指導法）          第9回 コミュニケーション・日常生活動作とその指導2（弱視児・者への教育と指導法）          第10回 視覚障害児・者の歩行とその指導・支援          第11回 自立支援指導計画の作成と指導における配慮事項、指導評価          第12回 視覚障害児・者への教育相談と就労支援          第13回 歩行支援法（同行援護）の基礎知識          第14回 歩行支援法（同行援護）の実践          第15回 障害理解と社会          定期試験</p>
テキスト	<p>テキストは使用せず、適宜プリント資料等を配布する。</p>
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学校幼稚部教育要領、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領、特別支援学校高等部学習指導要領          (文部科学省 HP <a href="http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/tokushi/1284518.htm">http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/tokushi/1284518.htm</a>)</li> <li>・特別支援学校学習指導要領解説          (文部科学省 HP <a href="http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/1278527.htm">http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/1278527.htm</a>)</li> <li>・「視覚障害児・者の理解と支援 [新版]」、芝田裕一著、北大路書房</li> <li>・「視覚障害教育に携わる方のために」、香川邦夫他著、慶應義塾大学出版会</li> </ul>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート（3回分）＝30%</li> <li>・定期試験＝70%</li> </ul>
自己学習に 関する指針	

履修上の 指導・留意点	
----------------	--

授業科目	聴覚障害児教育総論						
担当教員	原島恒夫 福島朗博						
科目分類	専門発展	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2021080
免許資格 関連事項	○特別支援学校教諭一種免許状《特別支援教育に関する科目》 ・免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 [心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目] [心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目]						

授業の概要	聴覚障害に関する心理・生理・病理、及びアセスメント方法、音の処理過程、補聴器と人工内耳に関する基礎的事項を講義する。また特別支援学校における教育課程の編成や指導法の実際について講義等を行い、基本的な知識を習得させる。
授業の 到達目標	(1) 聴覚障害の心理・生理・病理、聴覚障害児教育の歴史と現状について説明できる (2) 聴覚障害児・者が自立して日常生活を送るために必要となる事項について説明できる (3) 聴覚障害児・者の教育課程、社会的支援と対応方法について説明できる
授業計画	第1回 聴覚障害教育の歴史と今日的課題 (担当：原島) 第2回 聴覚障害の生理・病理と聴覚心理 (担当：原島) 第3回 聴覚障害のアセスメント (担当：原島) 第4回 補聴器と人工内耳による聴覚活用 (担当：原島) 第5回 発声発語の基礎と音韻発達 (担当：原島) 第6回 聴覚口話法におけるキューサインの活用 (担当：原島) 第7回 聴覚障害者の言語発達と心理 (担当：原島) 第8回 聴覚障害の疑似体験 (担当：福島) 第9回 聴覚障害者における手話・指文字の活用と指導法の実際 (担当：福島) 第10回 特別支援学校(聴覚障害)における教育課程：「自立活動」 (担当：福島) 第11回 聴覚障害の受容と障害の認識 (担当：福島) 第12回 聴覚障害者の前言語期コミュニケーション及び生活言語と学習言語の指導法の実際 (担当：福島) 第13回 聴力検査演習：松江ろう学校における聴力検査演習 (担当：福島) 第14回 聴覚障害教育の実際：松江ろう学校の教育課程と指導の実際 (担当：福島) 第15回 聴覚障害の理解と社会 (担当：福島)
テキスト	・宮本信也・竹田一則編著「障害理解のための医学・生理学」明石書店 ・全国早期支援研究協議会編「お子さんの耳がきこえないと言われたら」難聴児支援教材研究会 ・木島照夫・菅原仙子・岡野敦子編著「難聴児はどんなことで困るのか」難聴児支援教材研究会
参考文献	・P. H. リンゼイ・D. A. ノーマン共著(中溝幸夫訳)「情報処理心理学入門 I 感覚と知覚」サイエンス社 ・小淵千絵・原島恒夫著「きこえているのにわからない APD[聴覚情報処理障害]の理解と支援」学苑社 ・特別支援学校幼稚部教育要領、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領、特別支援学校高等部学習指導要領 (文部科学省HP <a href="http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/tokushi/1284518.htm">http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/tokushi/1284518.htm</a> ) ・特別支援学校学習指導要領解説 (文部科学省HP <a href="http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/1278527.htm">http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/1278527.htm</a> )
評価方法	・レポート(前半7回分) =50% ・レポート(後半8回分) =50%

自己学習に関する指針	・テキストや配布資料を読み、復習に役立てる。
履修上の指導・留意点	・難聴の擬似体験や聴力検査などの演習を行う。また聴力検査の実技や聴覚障害教育の実際として、ろう学校の授業見学を行う予定である。

授業科目	発達障害児教育総論						
担当教員	園山繁樹 西村健一 内山仁志						
科目分類	専門発展	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2021090
免許資格 関連事項	<p>○特別支援学校教諭一種免許状《特別支援教育に関する科目》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目</li> <li>〔心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目〕</li> <li>〔心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目〕</li> </ul>						

授業の概要	<p>自閉症スペクトラム (ASD)、学習障害 (LD)、注意欠如多動症 (ADHD) を中心に、発達障害のある子どもに対する指導・支援に必要な基本的事項について理解する。重複障害児や発達障害児における教育的対応の歴史の変遷や、特別支援教育における指導の実際から、それぞれの障害のある子どもに対する教育の現状と課題について理解し、就学前から学齢期に至る特別支援教育における教育課程の編成、指導・支援の基本について学ぶ。</p>
授業の 到達目標	<p>(1) 発達障害の障害概念の歴史の変遷について説明できる。</p> <p>(2) 自閉症スペクトラム (ASD)、学習障害 (LD)、注意欠如多動症 (ADHD) の障害特性と生理・心理的特徴について説明できる。</p> <p>(3) 自閉症スペクトラム (ASD)、学習障害 (LD)、注意欠如多動症 (ADHD) の教育課程の編成と基本的な指導方法について説明できる。</p>
授業計画	<p>第1回 発達障害に含まれる障害と発達障害概念の歴史の変遷 (担当：園山)</p> <p>第2回 自閉症スペクトラムの心理・生理・病理から見た障害特性と教育課程の編成 (担当：園山)</p> <p>第3回 自閉症スペクトラムのアセスメントと個別の指導計画・個別の教育支援計画 (担当：園山)</p> <p>第4回 知的障害を伴わない自閉症スペクトラム児の指導法 (担当：園山)</p> <p>第5回 知的障害を伴う自閉症スペクトラム児の指導法 (担当：園山)</p> <p>第6回 学習障害 (LD) の心理・生理・病理から見た障害特性と教育課程の編成 (担当：内山)</p> <p>第7回 注意欠如多動症 (ADHD) の心理・生理・病理から見た障害特性と教育課程の編成 (担当：内山)</p> <p>第8回 学習障害 (LD)、注意欠如多動症 (ADHD) のアセスメントと個別の指導計画・個別の教育支援計画 (担当：内山)</p> <p>第9回 学習障害 (LD) の指導法 (担当：内山)</p> <p>第10回 注意欠如多動症 (ADHD) の指導法 (担当：内山)</p> <p>第11回 発達障害児の社会性の指導 1：ソーシャルスキルトレーニングの理論と技法 (担当：西村)</p> <p>第12回 発達障害児の社会性の指導 2：ソーシャルスキルトレーニングの実際 (担当：西村)</p> <p>第13回 障害がある人の自己選択・自己決定～発達障害～ (担当：西村)</p> <p>第14回 障害がある人の自己選択・自己決定～重度重複障害～ (担当：西村)</p> <p>第15回 障害がある人の自己選択・自己決定の指導法 (担当：西村)</p> <p>定期試験</p>
テキスト	<p>・「イラスト図解・発達障害の子どもの心と行動がわかる本」、田中康雄監修、西東社</p>
参考文献	<p>・「神経発達症群 (DSM-5 セレクションズ)」高橋三郎、医学書院</p> <p>・「自閉症の正しい理解と最新知識」榊原 洋一、日東書院本社</p> <p>・「特異的発達障害診断・治療のための実践ガイドライン—わかりやすい診断手順と支援の実際」 稲垣真澄編、診断と治療社</p> <p>・「注意欠如・多動症-ADHD-の診断・治療ガイドライン (第4版)」齊藤万比古、じほう</p> <p>・「LD 学習症(学習障害)の本」宮本信也、主婦の友社</p> <p>・特別支援学校幼稚部教育要領、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領、特別支援学校高等部学習指導要領</p> <p>(文部科学省 HP <a href="http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/tokushi/1284518.htm">http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/tokushi/1284518.htm</a>)</p> <p>・特別支援学校学習指導要領解説</p>

	(文部科学省 HP <a href="http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/1278527.htm">http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/1278527.htm</a> )
評価方法	<ul style="list-style-type: none"><li>・小テスト(3回分)=30%</li><li>・定期試験=70%</li></ul>
自己学習に関する指針	<ul style="list-style-type: none"><li>・授業中に配布した資料を用いて、予習と復習をしてください。</li></ul>
履修上の指導・留意点	<ul style="list-style-type: none"><li>・授業中にも適宜、資料を配布します。</li><li>・質問は受講生全員で共有するために、できるだけ授業中にしてください。</li></ul>

授業科目	発達障害児教育演習						
担当教員	内山仁志						
科目分類	専門発展	授業時間	30	配当年次	4	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2021100
免許資格 関連事項	<p>○特別支援学校教諭一種免許状《特別支援教育に関する科目》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目</li> <li>〔心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目〕</li> <li>〔心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目〕</li> </ul>						

授業の概要	「重複・LD・ADHD等の心理・生理・病理」「発達障害児教育総論」の学修を踏まえて、自閉症・LD・ADHD等の発達障害児の理解を深める。英文論文を含め過去の代表的文献や最新の学術雑誌を題材にしたグループ講読を通して、これからの発達障害研究のための課題探究を行う。特に卒業研究で特別支援教育と発達障害児の評価法や支援法を研究する学生のための課題探究授業とする。
授業の 到達目標	<p>(1)学術雑誌の読み解き方のポイントを説明できる</p> <p>(2)発達障害に関する学術文献を読み解き、その内容について説明できる</p> <p>(3)文献講読、討議を踏まえて自身の興味あるテーマを見つけることができる</p>
授業計画	<p>第1回 発達障害に関する学術文献の読み解き方1(情報収集力、情報整理力)</p> <p>第2回 発達障害に関する学術文献の読み解き方2(読む力、書く力、データ分析力)</p> <p>第3回 発達障害に関する学術文献講読の実際(まとめ方、プレゼンテーション方法の実際)</p> <p>第4回 グループ講読1(自閉症スペクトラムの認知行動特性、評価法に関する研究論文)</p> <p>第5回 グループ講読2(自閉症スペクトラムの指導法・支援法・教育行政に関する研究論文)</p> <p>第6回 グループ講読3(LDの認知行動特性、評価法に関する研究論文)</p> <p>第7回 グループ講読4(LDの指導法・支援法・教育行政に関する研究論文)</p> <p>第8回 グループ講読5(ADHDの認知行動特性、評価法に関する研究論文)</p> <p>第9回 グループ講読6(ADHDの指導法・支援法・教育行政に関する研究論文)</p> <p>第10回 グループ講読7(重複障害に関する研究論文)</p> <p>第11回 グループ討議1(講読1~7を踏まえた総合討論)</p> <p>第12回 グループ講読8(自閉症スペクトラムに関する代表的英文論文)</p> <p>第13回 グループ講読9(LDに関する代表的英文論文)</p> <p>第14回 グループ講読10(ADHDに関する代表的英文論文)</p> <p>第15回 グループ討議2(講読8~10を踏まえた総合討論)</p>
テキスト	テキストは使用せず、適宜プリント資料等を配布する。講読する論文については事前に指定する。
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学校幼稚部教育要領、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領、特別支援学校高等部学習指導要領 (文部科学省HP <a href="http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/tokushi/1284518.htm">http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/tokushi/1284518.htm</a>)</li> <li>・特別支援学校学習指導要領解説 (文部科学省HP <a href="http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/1278527.htm">http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/1278527.htm</a>)</li> <li>・「大学生のためのリサーチリテラシー入門」、山田剛史他著、ミネルヴァ書房</li> </ul>
評価方法	・小レポート(15回分)=100%
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	



授業科目	情緒障害児教育総論						
担当教員	園山繁樹						
科目分類	専門発展	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2021110
免許資格 関連事項	○特別支援学校教諭一種免許状《特別支援教育に関する科目》 ・免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 [心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目] [心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目]						

授業の概要	<p>不登校、選択性緘黙などの行動・情緒の障害を持つ児童生徒に対する教育課程と指導法について学ぶ。主に、情緒障害の概念とその分類、出現メカニズム、個別の指導計画・個別の教育支援計画、指導の基礎と方法論を学び、不登校児童生徒の指導の実際と選択性緘黙児童生徒の指導の実際を通して、学校でのアセスメントと指導の方法を学ぶ。また特別支援学校における行動障害、不登校、ダウン症の青年期急激退行等の情緒的問題の指導法の学修を通して、特別支援教育における情緒障害教育の現状を理解する。</p>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情緒障害教育の対象・現状・教育課程の編成について理解する。</li> <li>・不登校、選択性緘黙の心理・生理・病理の基本と多様な状態像について理解する。</li> <li>・不登校、選択性緘黙に対する基本的な指導方法について説明できる。</li> <li>・特別支援学校における情緒的問題に対する対応について説明できる。</li> </ul>
授業計画	<p>第1回 特別支援教育における情緒障害教育の対象・現状・教育課程の編成          第2回 不登校の心理・生理・病理          第3回 不登校のアセスメントと個別の指導計画・個別の教育支援計画の作成          第4回 不登校児童生徒の指導法          第5回 不登校児童生徒の指導の実際1（アセスメントに基づく指導）          第6回 不登校児童生徒の指導の実際2（発達障害を伴う児童生徒の指導）          第7回 選択性緘黙の心理・生理・病理          第8回 選択性緘黙のアセスメントと個別の指導計画・個別の教育支援計画の作成          第9回 選択性緘黙児童生徒の指導法          第10回 選択性緘黙児童生徒の指導の実際1（幼稚園から小学校低学年幼児児童の指導）          第11回 選択性緘黙児童生徒の指導の実際2（小学校高学年以上の児童生徒の指導）          第12回 通級指導教室における情緒障害児の指導          第13回 特別支援学校における情緒的問題の理解と指導1（行動障害）          第14回 特別支援学校における情緒的問題の理解と指導2（不登校）          第15回 特別支援学校における情緒的問題の理解と指導3（ダウン症の青年期急激退行）          定期試験</p>
テキスト	<p>テキストは使用せず、適宜プリント資料等を配布する。</p>
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「当事者の生の声から学ぶ：教師と保護者の協働による不登校支援」、小野昌彦、東洋館出版社</li> <li>・「場面緘黙児への支援—学校で話せない子を助けるために」、A. E. McHolm 他著、河井英子・吉原桂子訳、田研出版</li> <li>・「行動障害の理解と援助」、長畑正道他著、コレール社</li> <li>・「行動障害の理解と適切行動支援」、英国行動障害支援協会編著、清水直治監訳、ジアース教育新社</li> </ul>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート（2回分）＝20%</li> <li>・定期試験＝80%</li> </ul>
自己学習に関する指針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参考文献に記載した図書・資料を積極的に読むこと。</li> </ul>

履修上の 指導・留意点	・質問は受講生全員で共有するために、できるだけ授業中にしてください。
----------------	------------------------------------

授業科目	発達アセスメント						
担当教員	園山繁樹 菊野雄一郎						
科目分類	専門発展	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2021120
免許資格 関連事項	○特別支援学校教諭一種免許状《特別支援教育に関する科目》 ・免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 [心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目] [心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目]						

授業の概要	乳幼児期の発達を評価する視点と基礎的な発達アセスメント法を理解し、障害の早期発見・早期支援につなげられる知識・技能の習得を目的とする。まず、乳幼児期の発達・障害兆候における心理・生理・病理的機序に関する基礎的知識を解説した上で、見え、聞こえ、知能、運動の評価法と障害兆候について解説する。次に、乳幼児期の発達アセスメントとして使用される機会の多い「グッドイナフ人物画検査」「絵画語い検査」「乳幼児精神発達診断法」「新版K式発達検査」について実施方法と結果分析までを解説し、個人差や発達・障害の実態に応じた個別の指導計画の立案までを学修させる。
授業の到達目標	(1) 特別支援教育における発達アセスメントの意義、発達における個人差、障害の兆候、及び心理・生理・病理的機序について説明できる。 (2) 乳幼児期の主な発達アセスメント法を実施し、結果を解釈することができる。 (3) 発達アセスメントの結果に基づいて個別の指導計画を立案できる。
授業計画	第1回 特別支援教育における発達アセスメントの意義 (担当：園山) 第2回 乳幼児期の発達における個人差と心理・生理的機序 (担当：菊野) 第3回 乳幼児期の障害兆候における心理・生理・病理的機序 (担当：菊野) 第4回 乳幼児の見えの発達の評価と視覚障害の兆候 (担当：菊野) 第5回 乳幼児期の聞こえの発達の評価と聴覚障害の兆候 (担当：菊野) 第6回 乳幼児期の知能の発達の評価と知的障害の兆候 (担当：園山) 第7回 乳幼児期の運動の発達の評価と知的障害・肢体不自由の兆候 (担当：園山) 第8回 乳幼児期の社会的能力の発達の評価と対人関係性障害の兆候 (担当：菊野) 第9回 幼児期の発達アセスメント1：グッドイナフ人物画検査：概説と演習 (担当：園山) 第10回 幼児期の発達アセスメント2：絵画語い発達検査：概説と演習 (担当：園山) 第11回 幼児期の発達アセスメント3：乳幼児精神発達診断法：概説と演習 (担当：菊野) 第12回 幼児期の発達アセスメント4 (1)：新版K式発達検査：概説 (担当：菊野) 第13回 幼児期の発達アセスメント4 (2)：新版K式発達検査：演習 (担当：菊野) 第14回 発達アセスメントに基づく個別の指導計画の作成 (担当：園山) 第15回 発達アセスメントに基づく個別の指導計画のPDCA サイクル (担当：園山) 定期試験
テキスト	テキストは使用せず、適宜プリント資料等を配布する。
参考文献	・「臨床心理学 第16巻第2号：発達支援のアセスメント」、金剛出版 ・「発達障害の早期発見・早期療育・親支援」、柘植雅義監修、本田秀夫編著、金剛出版 ・「子どもの理解と支援のための発達アセスメント」、本郷一夫、有斐閣
評価方法	・レポート (5回分) =50% ・定期試験=50%
自己学習に関する指針	・参考文献に記載した図書・資料を積極的に読んでおくこと。 ・授業中に配布した資料を用いて、予習と復習をしておくこと。
履修上の指導・留意点	・質問は受講生全員で共有するために、授業中に行うことを原則とする。

授業科目	特別支援教育アセスメント						
担当教員	園山繁樹 西村健一 内山仁志						
科目分類	専門発展	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2021130
免許資格 関連事項	<p>○特別支援学校教諭一種免許状《特別支援教育に関する科目》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目</li> <li>〔心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目〕</li> <li>〔心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目〕</li> </ul>						

授業の概要	<p>特別支援教育の学校現場で子どもの実態把握及び具体的な手立てを見出すために役立つアセスメントの方法について学ぶ。子ども自身の様々な能力やスキル、子どもを取り巻く環境、地域社会における関連資源とその利用等に関するアセスメントの方法について理解し、それらの結果を個別の指導計画や個別の教育支援計画の作成、及び日々の具体的な指導・支援にどのように活用するかについての知識と技術を習得する。</p>
授業の到達目標	<p>(1) 特別支援教育におけるアセスメントの必要性について説明できる。 (2) 特別支援教育における主なアセスメント法を実施することができる。 (3) 個々の児童生徒の実態把握に基づいた個別の指導計画や個別の教育支援計画の作成について説明できる。</p>
授業計画	<p>第1回 特別支援教育におけるアセスメント (担当：園山) 第2回 田中ビネー知能検査Ⅴによる知的発達のアセスメント (担当：西村) 第3回 田中ビネー知能検査Ⅴに基づく指導計画の作成 (担当：西村) 第4回 K-ABCⅡ・WISC-Ⅳによるアセスメント (担当：内山) 第5回 脳科学的視点からみた重複・LD・ADHD等の心理教育アセスメントの意義 (担当：内山) 第6回 ICFに基づく評価と指導計画の作成 (担当：内山) 第7回 重複・LD・ADHDに関するアセスメント (担当：内山) 第8回 重複・LD・ADHDに関するアセスメントに基づく指導計画の作成 (担当：内山) 第9回 言語障害のある児童生徒を対象としたコミュニケーション評価方法 (担当：西村) 第10回 言語障害のある児童生徒を対象としたコミュニケーションサンプルの実際 (担当：西村) 第11回 コミュニケーションサンプルに基づく指導計画の作成 (担当：西村) 第12回 知的障害・自閉症児の行動障害に関する心理・生理・病理・環境要因 (担当：園山) 第13回 知的障害・自閉症児の行動障害の機能的アセスメント (担当：園山) 第14回 知的障害・自閉症児の行動障害の機能的アセスメントに基づく指導計画 (担当：園山) 第15回 児童生徒の実態把握に基づいた指導計画の作成、実施、評価 (担当：園山) 定期試験</p>
テキスト	<p>テキストは使用せず、適宜プリント資料等を配布する。</p>
参考文献	<p>・「問題行動解決支援ハンドブック—子どもの視点で考える」R・E. オニール他著、茨木俊夫監修、学苑社</p>
評価方法	<p>・レポート (3回分) =30% ・小テスト (3回分) =15% ・定期試験=55%</p>
自己学習に関する指針	<p>・実践的な内容であるため、授業中に配布した資料を用いて復習をすること。</p>
履修上の指導・留意点	<p>・質問は受講生全員で共有するために、できるだけ授業中にしてください。</p>

授業科目	特別支援学校教育実習 A 指導						
担当教員	西村健一 内山仁志						
科目分類	専門発展	授業時間	15	配当年次	4	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2021140
免許資格 関連事項	○特別支援学校教諭一種免許状《特別支援教育に関する科目》 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育実習						

授業の概要	<p>・実習前の指導では、「特別支援学校教育実習 A 指導」「特別支援学校教育実習 A」「特別支援学校教育実習 B 指導」「特別支援学校教育実習 B」を担当する専任教員（以下、「実習担当教員」）により、教育実習の心構え（実習の始まる前の準備、一日の流れ、期間中の流れ）、児童指導（児童指導・児童理解）、学習（授業実践の心構え、発問・板書・机間巡視／指導の方法）を学ばせる。</p> <p>・実習終了後は、実習体験を踏まえた、実習の反省や自己評価、地域教育課題と特別支援学校の役割、特別支援コーディネータの役割等についてのグループワークを行い、実習担当教員による事後指導を行う。</p>
授業の到達目標	
授業計画	<p>（事前指導）</p> <p>第 1 回 特別支援学校教育実習の概要</p> <p>第 2 回 特別支援教育の現状と教師の役割</p> <p>第 3 回 アセスメントを理解・活用した授業の設計</p> <p>第 4 回 適切な指導・支援の方法と学習指導案の作成</p> <p>第 5 回 模擬授業の実践</p> <p>第 6 回 模擬授業の検討と学習指導案の修正</p> <p>第 7 回 実習に向けての最終指導</p> <p>（事後指導）</p> <p>第 8 回 実習の報告と事後指導</p>
テキスト	
参考文献	
評価方法	
自己学習に関する指針	・授業で学んだ専門用語については、自分でも積極的に調べてみてください。
履修上の指導・留意点	・教育実習に参加する学生は出席してください。

授業科目	特別支援学校教育実習 A						
担当教員	西村健一 内山仁志						
科目分類	専門発展	授業時間	90	配当年次	4	配当期	春学期
授業形態	実習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2021150
免許資格 関連事項	○特別支援学校教諭一種免許状《特別支援教育に関する科目》 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育実習						

授業の概要	<p>・実習先では、現職教師の援助を受けながら、特別支援学校教諭をめざすものとして必要な、知識・技能、意欲・態度、問題解決能力等の指導力を身につける。そして、児童・生徒の発達的变化の理解を踏まえて直接ふれ合い、指導教員の指導を受けながら教育者に求められる知識、技能、態度を修得し、自立活動指導や生徒指導などの教育実践を通して、児童・生徒理解、人間尊重の精神及び教育者としての使命感を養う。</p> <p>・実習担当教員が中心となり、実習期間中に実習先を訪問し、実習生の様子を観察するとともに、特別支援学校の指導教員と情報交換を行い実習生に対し助言・指導を行う。</p>
授業の到達目標	
授業計画	<p>特別学校の組織、運営、活動の実際を理解する。特別支援学校教諭に求められる知識、技能、態度を修得し、教科指導や生徒指導などの実践を通して、児童理解、人間尊重の精神及び教育者としての使命感を養う。特に中山間地域や離島などの、医療・教育専門機関から離れた過疎地域で育つ子どもたちの特別支援教育の実態と課題を学ぶ。</p>
テキスト	
参考文献	
評価方法	<p>大学の実習担当教員が、以下の観点などについて、実習日誌等の文書、巡回指導時の状況、学生による実習の省察、実習協力校の指導教諭・教頭・校長などの評価を踏まえ、総合的に成績評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習を通じた職務内容・専門性の理解</li> <li>・支援を必要とする児童への理解や指導</li> <li>・特性に応じた教材の研究や単元指導計画の作成</li> <li>・特性に応じた学習指導案の立案と実践的な指導技術</li> <li>・実習に対する意欲・態度</li> <li>・実習中の出勤状況や勤務態度</li> </ul> <p>最終的には、保育教育学科会議で協議の上、実習担当教員が成績評価を確定する。</p>
自己学習に関する指針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習先において積極的に教育実践を行ってください。</li> </ul>
履修上の指導・留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・質問は、その内容に応じて対応します。</li> </ul>

授業科目	特別支援学校教育実習B指導						
担当教員	西村健一 内山仁志						
科目分類	特別支援学校 教育実習B	授業時間	15	配当年次	4	配当期	秋学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M2021160
免許資格 関連事項	○特別支援学校教諭一種免許状<<特別支援教育に関する科目>> ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育実習						

授業の概要	<p>・実習前の指導では、「特別支援学校教育実習A指導」「特別支援学校教育実習A」「特別支援学校教育実習B指導」「特別支援学校教育実習B」を担当する専任教員（以下、「実習担当教員」）により、教育実習の心構え（実習の始まる前の準備、一日の流れ、期間中の流れ）、児童指導（児童指導・児童理解）、学習（授業実践の心構え、発問・板書・机間巡視／指導の方法）を学ばせる。</p> <p>・実習終了後は、実習体験を踏まえた、実習の反省や自己評価、地域教育課題と特別支援学校の役割、特別支援コーディネータの役割等についてのグループワークを行い、実習担当教員による事後指導を行う。</p>
授業の 到達目標	
授業計画	<p>（事前指導）</p> <p>第1回 特別支援学校教育実習の概要 第2回 特別支援教育の現状と教師の役割 第3回 アセスメントを理解・活用した授業の設計 第4回 適切な指導・支援の方法と学習指導案の作成 第5回 模擬授業の実践 第6回 模擬授業の検討と学習指導案の修正 第7回 実習に向けての最終指導</p> <p>（事後指導）</p> <p>第8回 実習の報告と事後指導</p>
テキスト	
参考文献	
評価方法	
自己学習に 関する指針	・授業で学んだ専門用語については、自分でも積極的に調べてみてください。
履修上の 指導・留意点	・教育実習に参加する学生は出席してください。

授業科目	特別支援学校教育実習B						
担当教員	西村健一 内山仁志						
科目分類	専門発展	授業時間	90	配当年次	4	配当期	秋学期
授業形態	実習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M2021170
免許資格 関連事項	○特別支援学校教諭一種免許状《特別支援教育に関する科目》 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育実習						

授業の概要	<p>・実習先では、現職教師の援助を受けながら、特別支援学校教諭をめざすものとして必要な、知識・技能、意欲・態度、問題解決能力等の指導力を身につける。そして、児童・生徒の発達的变化の理解を踏まえて直接ふれ合い、指導教員の指導を受けながら教育者に求められる知識、技能、態度を修得し、自立活動指導や生徒指導などの教育実践を通して、児童・生徒理解、人間尊重の精神及び教育者としての使命感を養う。</p> <p>・実習担当教員が中心となり、実習期間中に実習先を訪問し、実習生の様子を観察するとともに、特別支援学校の指導教員と情報交換を行い実習生に対し助言・指導を行う。</p>
授業の到達目標	
授業計画	<p>特別学校の組織、運営、活動の実際を理解する。特別支援学校教諭に求められる知識、技能、態度を修得し、教科指導や生徒指導などの実践を通して、児童理解、人間尊重の精神及び教育者としての使命感を養う。特に中山間地域や離島などの、医療・教育専門機関から離れた過疎地域で育つ子どもたちの特別支援教育の実態と課題を学ぶ。</p>
テキスト	
参考文献	
評価方法	<p>大学の実習担当教員が、以下の観点などについて、実習日誌等の文書、巡回指導時の状況、学生による実習の省察、実習協力校の指導教諭・教頭・校長などの評価を踏まえ、総合的に成績評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習を通じた職務内容・専門性の理解</li> <li>・支援を必要とする児童への理解や指導</li> <li>・特性に応じた教材の研究や単元指導計画の作成</li> <li>・特性に応じた学習指導案の立案と実践的な指導技術</li> <li>・実習に対する意欲・態度</li> <li>・実習中の出勤状況や勤務態度</li> </ul> <p>最終的には、保育教育学科会議で協議の上、実習担当教員が成績評価を確定する。</p>
自己学習に関する指針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習先において積極的に教育実践を行ってください。</li> </ul>
履修上の指導・留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・質問は、その内容に応じて対応します。</li> </ul>